令和元年度　人材力活性化に関する
調査研究事業

報告書

令和２年３月

総務省地域力創造グループ地域自立応援課

人材力活性化・連携交流室

<<　目　次　>>

序章　調査の目的 1
１．調査の目的 1
２．調査研究事業 1
第Ⅰ章　全国地域づくり人財塾 2
１．全国地域づくり人財塾とは 2
２．本年度の実施状況 4
３．全国地域づくり人財塾フォローアップ研修 34
第Ⅱ章　全国地域づくり人財塾修了生地域づくり活動調査 40
１．全国地域づくり人財塾修了生地域づくり活動調査 40
２．全国地域づくり人財塾事例報告者の地域づくり活動事例調査報告 61
第Ⅲ章　人材力活性化研究会 138
１．人材力活性化研究会とは 138
２．第 24 回研究会 139
第Ⅳ章　本年度の調査研究事業の成果と今後の方向性 142
１．本年度の調査研究事業の成果と課題の確認 142
２．次年度の展開と今後の方向性 148

参考資料１．全国地域づくり人財塾　受講者アンケート等 151
１．全国市町村国際文化研修所（JIAM）編 151
２．地方開催（in 金沢）編 187
３．市町村職員中央研修所（JAMP）編 221
４．自治大学校編 276
参考資料２．全国地域づくり人財塾　フォローアップ研修 309
１．これまで開催されたフォローアップ研修の活動概要 309
２．北海道フォローアップ研修しおり 311
３．北陸フォローアップ研修リーフレット 314
４．中部フォローアップ研修リーフレット 315
５．西日本フォローアップ研修リーフレット 317
参考資料３．全国地域づくり人財塾修了生地域づくり活動調査 318
１．全国地域づくり人財塾修了生地域づくり活動調査アンケート票 318
２．修了生が人財塾の成果を活かして取り組む地域活動（問８、問９） 322
参考資料４．人材力活性化研究会 345
１．第 24 回人材力活性化研究会 345

序章　調査の目的

１．調査の目的

総務省では、地域活性化の基本的な要素である人材力の強化を図るため、NPO・企業等の「民」と国・地方公共団体等の「官」の連携方策も含めた課題を抽出した上で、地方公共団体や地域活性化に関わる団体等が、人材力の活性化に取り組む場合の参考として用いることを想定して「地域づくり人」を育成するために３つのテキスト（「人材力活性化プログラム」「地域づくり活動のリーダー育成のためのカリキュラム」及び「地域づくり人の育成に関する手引き」）を作成した。そして、これらを「地域づくり人育成ハンドブック」として取りまとめるとともに、地域づくり人育成のための研修会を開催し、地域づくり人の広がりと質の向上を図ってきたところである。

令和元年度においては、人材力活性化のための「全国地域づくり人財塾」の開催やフォローアップ研修、「全国地域づくり人財塾」修了生の地域づくり活動等の調査研究事業等を行った。

２．調査研究事業

本年度行った調査研究事業は、以下のとおり。

研修事業	調査研究事業
■全国地域づくり人財塾 ●初級編（JIAM、JAMP、地方開催（in 金沢）） ●中級編（自治大学校） ■全国地域づくり人財塾　フォローアップ研修 ●フォローアップ研修 in 東日本支部 （第 24～26 回） ●フォローアップ研修 in 北海道 （北海道旭川市・鷹栖町） ●フォローアップ研修 in 北陸 （石川県金沢市） ●フォローアップ研修 in 中部 （愛知県津島市） ●フォローアップ研修 in 西日本 （大阪府吹田市・大阪市）	■全国地域づくり人財塾修了生地域づくり活動調査 ■人材力活性化研究会

第Ⅰ章　全国地域づくり人財塾

１．全国地域づくり人財塾とは

地域活性化の取組においては、様々な知識・経験を持った人が、その知識・経験とアイデアを活かしながら、それぞれ活動に取り組み、地域で様々な活動が展開されている状況こそが大切である。

このような状況を生み出すため、地域づくりに関係する行政職員およびNPOなどの民間団体のスタッフ等を対象に、地域づくり活動を自らの手で企画し実践できる人材、すなわち「地域づくり人」を育成する「全国地域づくり人財塾」を開催している。

平成28年度からは、地方開催を併せて年4回実施している。

本年度実施した全国地域づくり人財塾

研修名	会場	開催時期
令和元年度 全国地域づくり人財塾	全国市町村国際文化研修所	R元. 5. 8 ～ 10
	地方開催（in 金沢）	R元. 7.18 ～ 20
	市町村職員中央研修所	R元. 9.18 ～ 20
	自治大学校	R2.1.17 ～ 22

これまで実施された全国地域づくり人財塾

研修名	会場	開催時期
平成23年度 地域づくり人育成講座	自治大学校	H23. 8. 8～ 9
	全国市町村国際文化研修所	H23.12.13～15
	市町村職員中央研修所	H24. 3.12～14
平成24年度 地域づくり人育成講座	自治大学校	H24. 7.26～27
	全国市町村国際文化研修所	H25. 1. 9～11
	市町村職員中央研修所	H25. 3.11～13
平成25年度 全国地域づくり人財塾	自治大学校	H25. 8. 1～ 2
	全国市町村国際文化研修所	H25. 9.25～27
	市町村職員中央研修所	H25.10.30～11.1
平成26年度 全国地域づくり人財塾	全国市町村国際文化研修所	H26. 6.18～20
	自治大学校	H26. 7.24～25
	市町村職員中央研修所	H26.10.29～31
平成27年度 全国地域づくり人財塾	全国市町村国際文化研修所	H27. 5.12～14
	自治大学校	H27. 6. 4～ 5
	市町村職員中央研修所	H27.10.28～30
平成28年度 全国地域づくり人財塾	全国市町村国際文化研修所	H28. 5.11～13
	自治大学校	H28. 6. 2～ 3
	地方開催（in 仙台）	H28. 8. 1～ 2
	市町村職員中央研修所	H28.10.26～28

研修名	会場	開催時期
平成 29 年度 全国地域づくり人財塾	全国市町村国際文化研修所	H29. 5.10 ～ 12
	自治大学校	H29. 6. 1 ～ 2
	地方開催（in 福岡）	H29. 9.21 ～ 22
	市町村職員中央研修所	H29.10.25 ～ 27
平成 30 年度 全国地域づくり人財塾	全国市町村国際文化研修所	H30. 5. 9 ～ 11
	地方開催（in 札幌）	H30. 7.19 ～ 20
	市町村職員中央研修所	H30. 9.19 ～ 21
	自治大学校	H30.10.17 ～ 19

全国地域づくり人財塾以外の人財育成事業

平成 24 年度 「域学連携」地域づくり人 育成支援事業	○最上のまちづくり地域リーダー塾（山形県最上市）12 月～1 月 ○つくば発！地域力コーディネーター養成講座（茨城県つくば市）2 月 ○近江地域づくり人交座（滋賀県彦根市）1 月～2 月 ○きくち地域づくり人育成塾（熊本県菊池市）11 月～2 月 ○やんばる地域づくり人育成講座（沖縄県浦添市）11 月～2 月
平成 25 年度 地域づくり人育成支援事業	○「たまろくと地域づくり人」育成講座（東京都多摩六市）2 月 ○平成２５年度石川地域づくり塾（石川県内） 11 月～2 月 ○愛媛県中予地域づくり人育成事業（愛媛県中予地域） 12 月～2 月 ○つくば発！地域力コーディネーター養成講座（茨城県つくば市）2 月 ○「域学連携」地域づくり人育成支援事業（沖縄県やんばる地域） 11 月～2 月

２．本年度の実施状況

（１）全国市町村国際文化研修所（JIAM）編

①開催概要

■日時：令和元年５月８日（水）～10 日（金）

■場所：全国市町村国際文化研修所（滋賀県大津市）

■参加者数：37 名（自治体職員 29 名、その他８名）

■研修概要：　地域づくりに取り組む市区町村等職員及び NPO 関係者等を対象とした２泊３日の合宿型研修。

人材力活性化研究会構成員および地域で活躍する実践者を外部講師とした座学式の講義のほか、講師との直接対話やグループトーク、人財塾修了生の事例報告を通じて、地域リーダーとして必要な心構えやノウハウ等を学習するとともに、個人ワークとして研修終了後に「自分が現場で取り組むべき具体的な行動」（行動宣言）を取りまとめた。

②カリキュラム（敬称略・役職は当時のもの）

月日	時間	講義内容
５月８日（水）	11：00～13：00	入寮受付・昼食 開講・オリエンテーション
	13：00～13：15	【講義１：導入】 「人材力の活性化について」 畑山　栄介（総務省地域力創造グループ地域自立応援課人材力活性化・連携交流室長）
	13：15～14：10	【講義２：実践事例】 「クリエイティブな地域づくり」 前神　有里 講師（一般財団法人地域活性化センター人材育成プロデューサー）
	14：25～15：35	【講義３：実践事例】 「人が幸せに生きる公園づくり」 富永　一夫 講師（特定非営利活動法人 NPO フュージョン長池会長）
	15：50～17：00	【講義４：実践事例】 「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～」 豊重　哲郎 講師（柳谷自治公民館長）
	17：00～17：30	【グループ・トーク】 本日の振り返り
	17：30～17：45	【説明】 「地方創生カレッジ」について 椎川　忍 講師（一般財団法人地域活性化センター理事長）
	18：15～	交流会

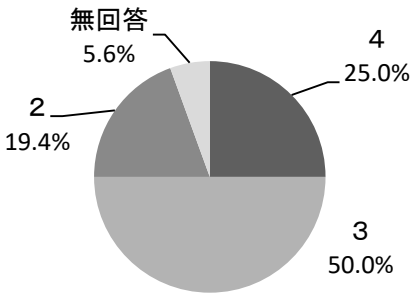
月日	時間	講義内容
5月9日（木）	9：00～9：25	【グループトーク】
	9：25～10：35	【講義５：実践事例】 「地域づくりのマネジメント ～つながりをつくり創発を生む仕組みづくり～」 飯盛　義徳 講師（慶應義塾大学総合政策学部教授（学部長補佐））
	10：50～12：00	【講義６：実践事例】 「地方はチャンス～１粒 1000 円のライチが生んだ奇跡」 齋藤　潤一 講師（一般財団法人こゆ地域づくり推進機構代表理事）
	13：00～18：25	【講師との直接対話】 飯盛　義徳 講師（慶應義塾大学総合政策学部教授（学部長補佐）） 富永　一夫 講師（特定非営利活動法人 NPO フュージョン長池会長） 豊重　哲郎 講師（柳谷自治公民館長） 前神　有里 講師（一般財団法人地域活性化センター人材育成プロデューサー） 高橋　邦男 講師（一般財団法人こゆ地域づくり推進機構事務局長）
	18：35～19：00	【グループトーク】 本日の振り返り
5月10日（金）	9：00～9：25	【グループトーク】
	9：25～10：35	【講義７：事例報告】 「地域をかきまぜる」 高瀬　浩樹 講師（北海道岩見沢市経済部商工労政課）
	10：50～12：00	【講義８：事例報告】 「ひみつにできない日々のこと～事例報告～」 伏喜　マリエ 講師（富山県氷見市産業振興部商工観光課）
	13：00～14：10	【成果発表と振り返り】
	14：10～14：40	研修アンケート記入、閉講

③受講者の評価（受講者アンケート抜粋）

- 円グラフは、当該研修の講義内容の活用度合を４段階で聞いたもの。活用度４が最も高い。
- コメントは、活用度４の記述のうち、主なものを取り上げた。

【導入】「人材力の活性化について」

総務省地域力創造グループ地域自立応援課人材力活性化・連携交流室長　畑山　栄介

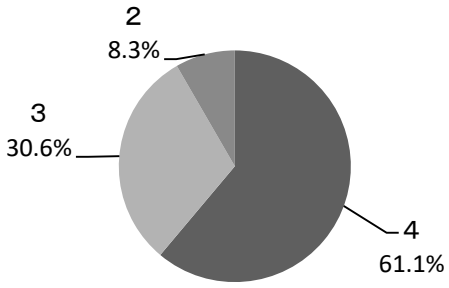


◎活用度４

- 支援について理解できた。
- 人材力の活性化の必要性について学ぶことができた。
- 支援メニューについて理解を深めた。
- 時間が少なかった。資料を読み返すと非常に興味深い内容で活用に期待が持てる。

【実践事例】「クリエイティブな地域づくり」　一般財団法人地域活性化センター

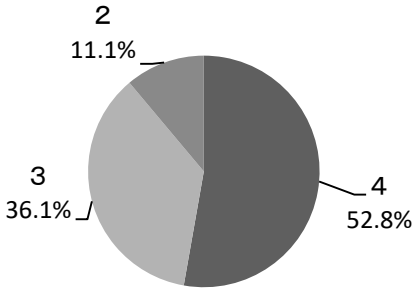
人材育成プロデューサー　前神　有里　講師



◎活用度４

- 「説得」して「納得」してもらうのではなく、「共感」を得ると自然と人は集まるということに、目からウロコでした。
- 地域に入っていく方法を知ることができ参考となった。
- 前神さんのお話を伺うと元気がもらえます。

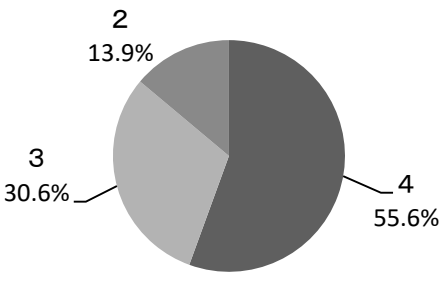
【実践事例】「人が幸せに生きる公園づくり」　NPO 法人 NPO フュージョン長池会長　富永　一夫　講師



◎活用度４

- 「難しい」という言葉は、考えることをやめるということ。これからは、「難しい」という言葉を使わないようにがんばります。
- 行政と法人の関係性のある中、新たな後継者の必要性についても考えることができた。
- 人脈の生かし方がよくわかった。

【実践事例】「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり」柳谷自治公民館館長　豊重　哲郎　講師

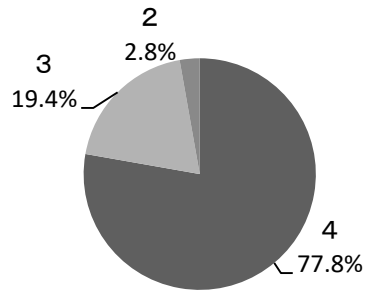


◎活用度４

- 地域づくりの心の持ちようや気構えなどを知ることができました。
- 自分たちのことは自分たちで考え実行するという信念とその熱さに感動しています。
- 自治体職員として黒子に徹しながらも本気で地域づくりを行いたい。

【実践事例】「地域づくりのマネジメントーつながりをつくり創発を生む仕組みづくりー」

慶應義塾大学総合政策学部教授（学部長補佐）　飯盛　義徳　講師

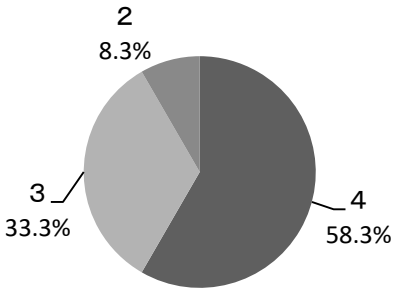


◎活用度４

・　すごくたくさんの事例等を聞けて勉強になりました。話を聞いただけでは足りないので、これから自分で勉強していきます。
・　ネットワークやプラットフォームの重要性を知ることができました。
・　資料を咀嚼して、自分たちの行動にします。

【実践事例】「地方はチャンス～１粒１０００円のライチが生んだ奇跡～」

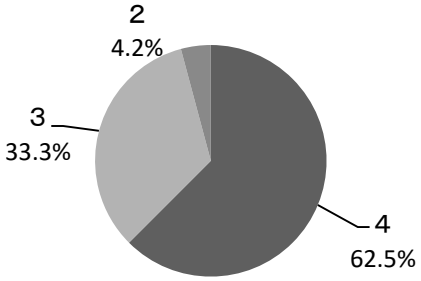
一般財団法人こゆ地域づくり推進機構代表理事　齋藤　潤一　講師



◎活用度４

・　9 割の人が行動しないという言葉にドキッとしました。1 割の人になるように、0.1、0.1 を大切に行動していきます。
・　行政はビジネス。この言葉は新鮮でしたが、話を聞く程、その通りと実感しました。本市の施策に活用できると思いました。

【講師との直接対話Ⅰ・Ⅱ】

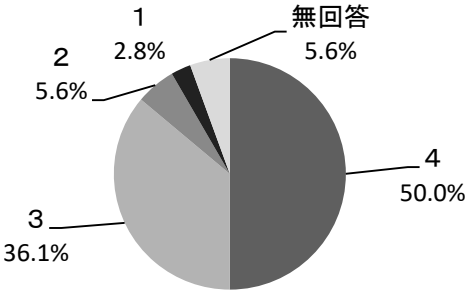


◎活用度４

・　講座だけでは抽象的だった部分も、詳しく説明していただけて、とても勉強になりました。
・　講義ではわからなかった裏側を聞けてよく理解できた。後半の質問形式で不明なことが解決した。シンプルで活用できる。
・　人の巻き込み方がよくわかった。

【事例報告】「地域をかきまぜる」

北海道岩見沢市経済部商工労政課　高瀬　浩樹　講師

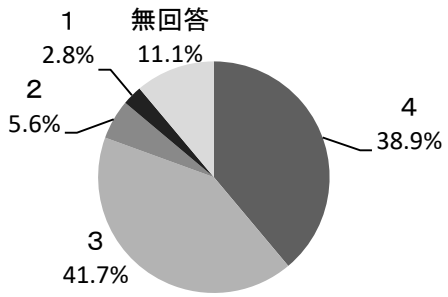


◎活用度４

・　やる気とセンスのある若い行政マンに刺激を受けました。こういう人材を庁内に育てたいと思います。
・　シティプロモーションプロジェクトチームから始まったザワトーク。ゆるいつながりの可能性を感じました。

【事例報告】「ひみつにできない日々のこと～事例報告～」

富山県氷見市産業振興部商工観光課　伏喜　マリエ　講師

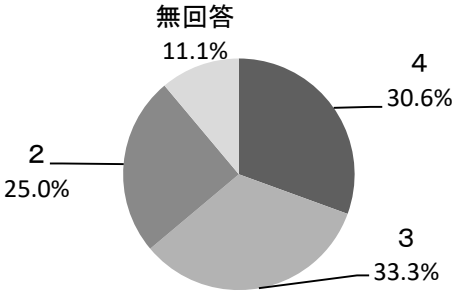


◎活用度４

- 女性ならではの視点で、都会とのコラボがエッセンスとなり、様々なかたちとなることを学んだ。
- 一個人として、ここまでのものを作り上げることができたことに驚いた。組み合わせの手法は活用できそう。

【説明】「『地方創生カレッジ』について」

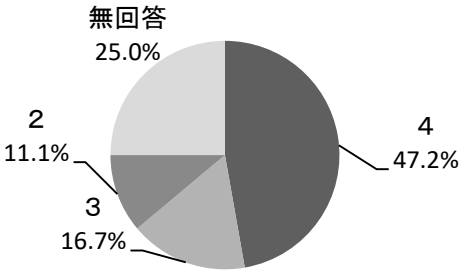
一般財団法人地域活性化センター理事長　椎川　忍　講師



◎活用度４

- 「地方創生カレッジ」の講座について、興味が湧いてきました。ぜひ、受講してみたいです。
- 良い制度をうまく活用し、今後の業務に活かしたいと思う。
- 今後ぜひ受講したい。

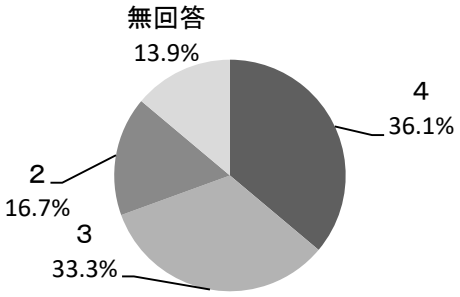
【成果発表と振り返り】



◎活用度４

- 共通の目的で来ているので、話も合い、意見交換ができた。
- 頭の整理ができました。あとは実践頑張ります！！
- より地域づくりへの意識が高まった。
- 個々の感じ方、捉え方が参考となりました。

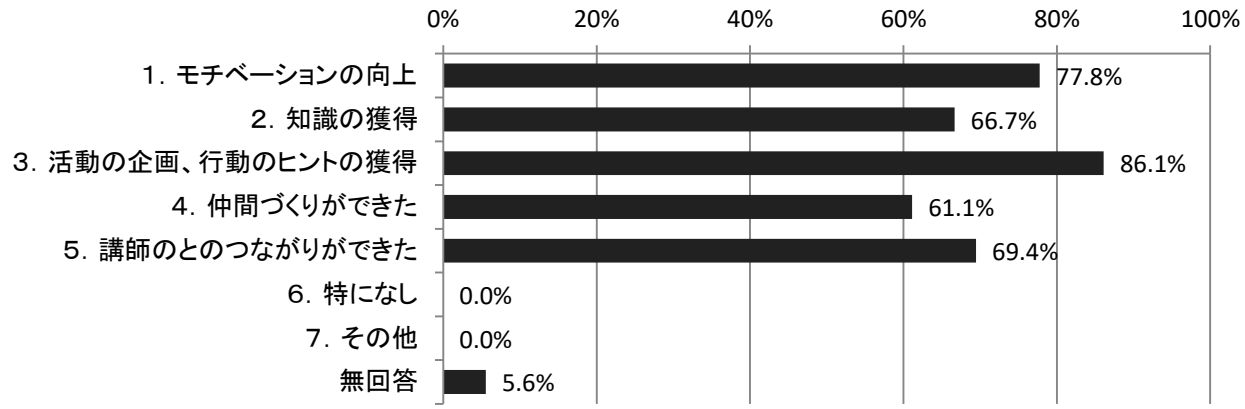
【グループトーク】



◎活用度４

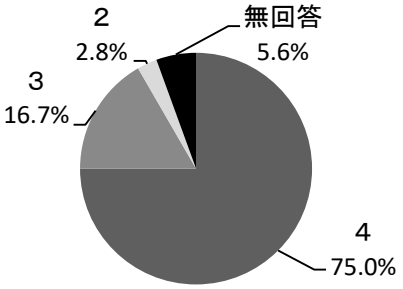
- 他の受講者の想いや、他の町の状況等を情報共有することができてとても良かったです。
- 同じ講義を受けても感じ方が違うこと、面白く感じると共に、地域でも共有して確認することが必要だと思いました。
- 有意義な時間となった。

研修全体に対する評価



人財塾受講による地域づくり活動への関わりに関する意向度合

問：人財塾を受講したことにより、今後、業務又は業務外で地域づくりに関する活動を新たに、又は、継続して行っていきたいと思うようになりましたか？



N=36

＜活用度＞		回答数	%
↑ 思った 思わない ↓	4	27	75.0%
	3．5	0	0.0%
	3	6	16.7%
	2．5	0	0.0%
	2	1	2.8%
	1．5	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	2	5.6%
	合計	36	100.0%

（自由回答）

●グループ分けが毎日異なりほぼ全員と話ができて良かった。

●既受講者からの報告が具体性が表れていて非常に良かった。

●グループトークについて。その日に学んだことはその日のうちに発表できると更に深まって良いと思った。グループで話し合う時間を設けていただいたことで、いろんな方と話すことができました。ありがとうございました。

●3 日間という期間はあまりに短く、せめて 5 日間ぐらいはほしかったです。また、ワークショップなどで受講生間のコミュニケーションを取れる仕掛けもほしかったです。

●振り返りのグループトークの時間をもう少し取っていただけたら良かったと思います。

●グループワークの時間がもう少しあってほしいです。（その日の振り返りにも＋受講生の話を聴く時間にもなるので。）

●講師の先生方のパワフルさに圧倒されながらも、皆様に共通することは場づくりであると知ることができました。3 日間ありがとうございました。

●施策に反映させるためには理論の裏付けが必要。行政側の視点も踏まえた事例紹介は参考になりました。行動宣言は、全体発表より、グループ内で発表した方が良いように思いました。

●講師の方たち、参加者も大変素晴らしく、これからの自分の考えに対して大変刺激を受けた。もう

少し講師や参加者と意見交換したかった。研修内容に対して日程が短いと感じた。このような研修を継続してほしい。

講義（富永講師）

講義（豊重講師）

講義（齋藤講師）

直接対話（前神講師）

修了生の事例報告（高瀬講師）

修了生の事例報告（伏喜講師）

■参考資料

参考資料１．全国地域づくり人財塾　受講者アンケート等

１．全国市町村国際文化研修所（JIAM）編

（２）地方開催（in 金沢）編

①開催概要

■日時：令和元年 7 月 18 日（木）～20 日（土）

■場所：金沢市文化ホール（石川県金沢市）

■参加者数：47 名（自治体職員 27 名、地域おこし協力隊等 12 名、その他 8 名）

■研修概要：　地域づくりに取り組む市区町村等職員及び NPO 関係者等を対象とした 1 泊 2 日の集合型研修。3 日目は、受講者有志（事前申込）により株式会社御祓川を視察するフィールドワークを実施した。

人材力活性化研究会構成員および地域で活躍する実践者を外部講師とした座学式の講義のほか、講師との直接対話を通じて、地域リーダーとして必要な心構えやノウハウ等を学習した。

②カリキュラム（敬称略・役職は当時のもの）

月日	時間	講義内容
7月18日（木）	12:00～12:45	受付
	12:45～13:00	開講・オリエンテーション
	13:00～13:15	【講義１：導入】 「人材力の活性化について」 目貫　誠（総務省地域力創造グループ地域自立応援課人材力活性化・連携交流室地域支援専門官）
	13:20～14:30	【講義２：実践事例】 「人が育つ、人間里山主義」 富永　一夫 講師（一般社団法人スマート代表理事）
	14:45～15:55	【講義３：実践事例】 「地域再生　～行政に頼らない地域づくり～」 豊重　哲郎 講師（柳谷自治公民館館長）
	16:10～17:20	【講義４：実践事例】 「農林漁家ではじめよう～魅力ある暮らしと地域おこし」 多田　喜一郎 講師（春蘭の里代表理事）
	17:25～17:40	振り返り
	18:00～19:30	交流会

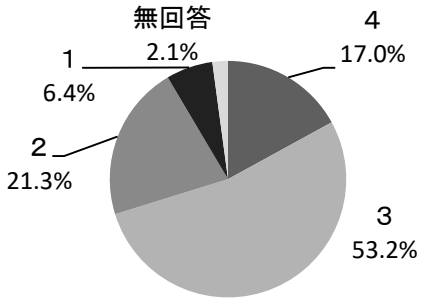
月日	時間	講義内容
7月19日（金）	9:00～10:10	【講義５：実践事例】 「地域づくりのマネジメント-つながりをつくり創発を生む仕組みづくり」 飯盛　義徳 講師（慶應義塾大学総合政策学部教授（学部長補佐））
	10:25～11:35	【講義６：実践事例】 「御祓川がつなぐ、まち、みせ、ひと～民間まちづくり会社の 20 年」 森山　奈美 講師（株式会社御祓川代表取締役）
	12:30～14:00	【講師との直接対話】 飯盛　義徳 講師（慶應義塾大学総合政策学部教授（学部長補佐）） 富永　一夫 講師（一般社団法人スマート代表理事） 豊重　哲郎 講師（柳谷自治公民館館長） 多田　喜一郎 講師（春蘭の里代表理事） 森山　奈美 講師（株式会社御祓川代表取締役）
	14:15～15:45	
	16:00～17:00	振り返り・閉講
	17:00～17:30	課外活動

③受講者の評価（受講者アンケート抜粋）

- 円グラフは、当該研修の講義内容の活用度合を４段階で聞いたもの。活用度４が最も高い。
- コメントは、活用度４の記述のうち、主なものを取り上げた。

【導入】「人材力の活性化について」

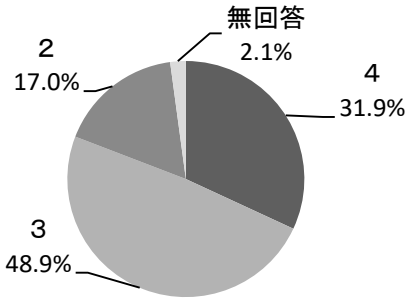
総務省地域力創造グループ地域自立応援課人材力活性化・連携交流室地域支援専門官　目貫　誠



◎活用度４

- 総括的な説明で、現在の国の制度について理解ができた。
- 外部専門家制度を自らの地域でも活用できないか検討してみたい。
- 国が行っている制度がよくわかったので、積極的な活用を検討しようと思った。

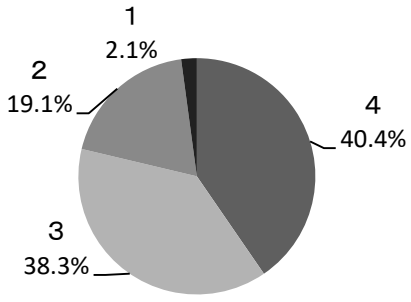
【実践事例】「人が育つ、人間里山主義」　一般社団法人スマート代表理事　富永　一夫　講師



◎活用度４

- NPO 法人のような中間支援組織の必要性を再認識できた。
- 住民の自主性を尊重して、場と環境を提供することに徹するスタンスは参考にしたい。
- 地域づくりの理念、実践、承継、役所の役割が全てつながって理解することができた。

【実践事例】「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり」柳谷自治公民館館長　豊重　哲郎　講師

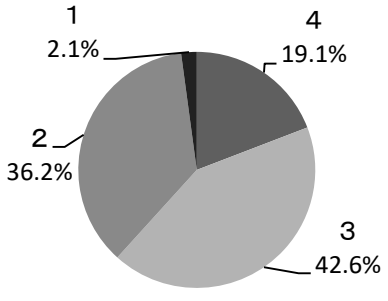


◎活用度４

- 講師の先生の熱い思いが伝わった。自分がまず行動しなければ 30 年、50 年先は変えられないと感じた。
- 「テーマ」（Ex. 子育て）を設定して、様々な人たちを巻き込むという知見が大変役に立ちそうでした。

【実践事例】「農林漁家で始めよう～魅力ある暮らしと地域おこし」

春蘭の里代表理事　多田　喜一郎　講師

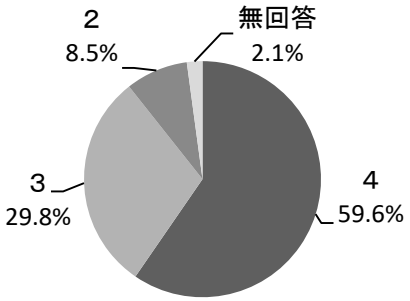


◎活用度４

- 地域内だけでなく、金沢や東京に協力者が存在する体制は、情報の交換という点でも良いことだと感じた
- 地域づくりと、お金について改めて考える機会になった。

【実践事例】「地域づくりのマネジメント―つながりをつくり創発を生む仕組みづくり」

慶應義塾大学総合政策学部教授（学部長補佐）　飯盛　義徳　講師

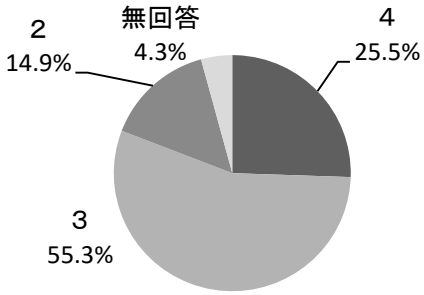


◎活用度４

・　周囲を巻き込む、未知のつながりを作る突破口に悩んでいるが、手段を見つけることができた。すぐ実践したい。
・　自地域では何がプラットフォームになり得るか。また、若手をいかに巻き込むか考えてみたい。

【実践事例】「御祓川がつなぐ、まち、みせ、ひと～民間まちづくり会社の 20 年」

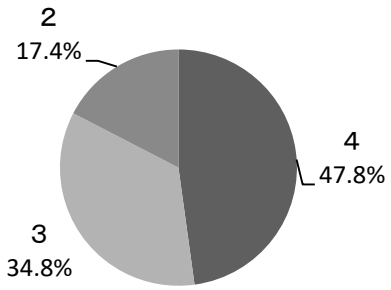
株式会社御祓川代表取締役　森山　奈美　講師



◎活用度４

・　地域づくりにおいては、住民自身が関わって解決した、という意識を持ってもらうことが、活動意欲や、持続可能な地域づくりにつながる、ということを学んだ。集落支援において「互体性」ということを意識して取り組みたい。

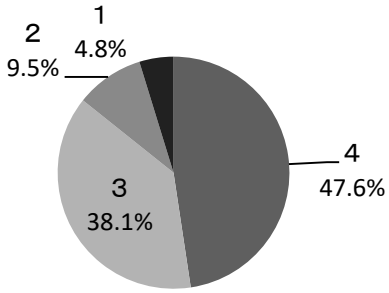
【講師との直接対話（飯盛講師）】



◎活用度４

・　今までの業務で課題になっていた所の根本的な解決策が見つかった。すぐにでも役立つ発見があってモチベーション UP につながった。
・　地域と交わる際のスタンスを聞けて良かった。今後かなり活かせそう。

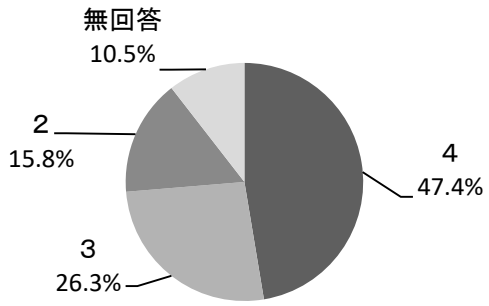
【講師との直接対話（富永講師）】



◎活用度４

・　できないことに目を向けるのではなく、今からでもできることに目を向け、危機感を持って生きていきます。
・　組織や団体、人との関わり方、考え方などが参考になった。

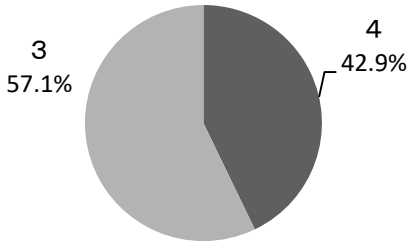
【講師との直接対話（豊重講師）】



◎活用度４

・　発想力と想定力が重要であるということを感じた。今後の仕事に大変参考になる話だった。
・　「人を動かす」ことのコツがわかっているようでわかっていなかったという認識が持てて良かった。リーダーとして働けるよう心掛けていきたい。

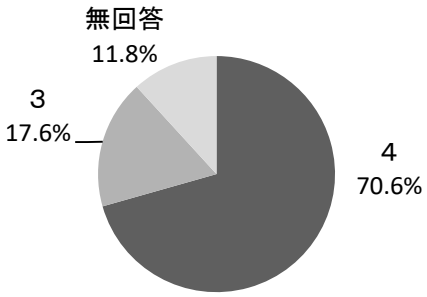
【講師との直接対話（多田講師）】



◎活用度４

・　前向き、プラス思考で、課題に対しどうしていくのか考えていきたい。
・　地元の住民がやりたいと思ったことを形にできるようにサポートすることが大切だと感じました。

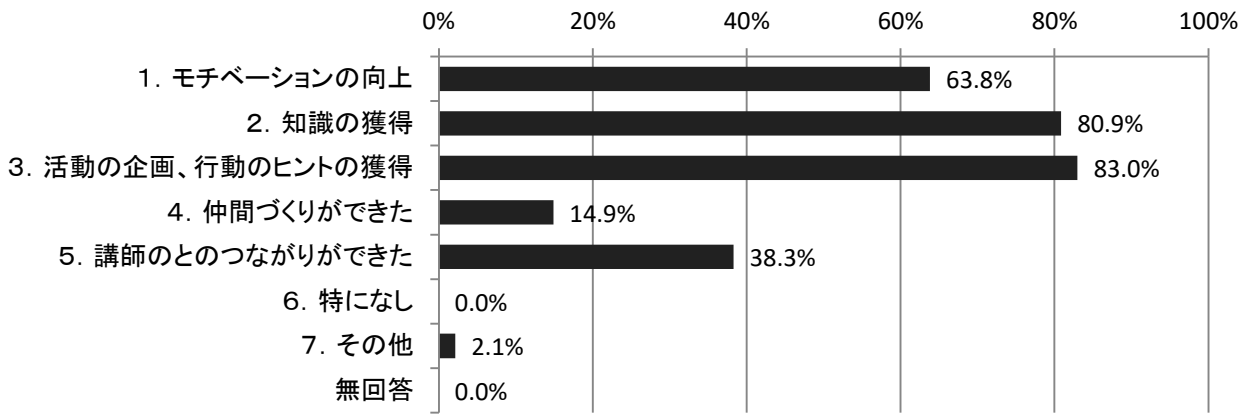
【講師との直接対話（森山講師）】



◎活用度４

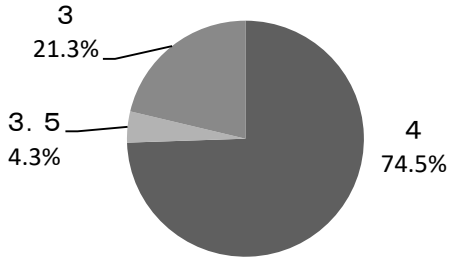
・　関わり方を階層的に用意するという考え方が印象に残った。
・　移住者のトークイベントは地元でもやろうと思います。
・　地域課題を市民が皆で取り組むことが大切ということがわかりました。

研修全体に対する評価



人財塾受講による地域づくり活動への関わりに関する意向度合

問：人財塾を受講したことにより、今後、業務又は業務外で地域づくりに関する活動を新たに、又は、継続して行っていきたいと思うようになりましたか？



N=47

＜活用度＞		回答数	%
↑ 思った 思わない ↓	4	35	74.5%
	3．5	2	4.3%
	3	10	21.3%
	2．5	0	0.0%
	2	0	0.0%
	1．5	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	47	100.0%

（自由回答）

●研修を伺って、一つ自分の中で新しい思いつきが生まれました。集落支援員の任期後どうやって定住するかのヒントをたくさん得ることができたのが良かったです。直接対話の時間（2 コマ）を設けてもらったのは、非常に効果的でした。10 年間続いているということなので、また課題を見つけて参加します。

●直接対話ひとつの時間を短くして、もう一人講師の方とお話しができれば良いと思いました。

●実践論を学び参考になった。今後情報交換（フェイスブック）して情報を取り入れ、今後の活動に役立てていきたい。

●意識が高く行動力のある講師の方々のお話は大変勉強になりました。参加者同士の交流がもっとあると良かったと思います。

●日々の業務で、地域づくりにおける課題にぶつかっていたので、講義や、直接対話で解決策のためのヒントを得ることができたので、今後の業務に活かしていきたい。

●講師が全員参加する交流会は良かったです。たくさんしゃべることができました。

講義（富永講師）

講義（豊重講師）

講義（多田講師）

講義（飯盛講師）

講義（森山講師）

直接対話（飯盛講師）

直接対話（富永講師）

直接対話（豊重講師）

直接対話（多田講師）

直接対話（森山講師）

④フィールドワーク

- 3 日目は、受講者有志（事前申込）により株式会社御祓川の取組を視察するフィールルドワークを実施した。
- 視察では、御祓川の活動フィールドである能登食祭市場、一本杉通りの各個店が取り組む地域づくり活動について見学・聞き取り等を行った。
- その後、御祓川のオフィスにおいて、振り返りのグループワークを行った。

【フィールドワークプログラム（石川県七尾市）】　参加人数１０名

7月20日（土）	8:00～8：30	JR 金沢駅集合・出発
	10:00～12:00	能登食祭市場視察
	12:00～13:00	昼食
	13:00～14:30	一本杉通り視察（各店舗における取組視察）
	14:30～15:30	株式会社御祓川におけるグループワーク（振り返りワーク）
	15:30～17:00	移動・JR 金沢駅解散

【フィールドワーク】

能登食祭市場視察

一本杉通り視察
（各店舗における取組視察）

一本杉通り視察
（各店舗における取組視察）

株式会社御祓川におけるグループワーク（ふりかえりワーク）

■参考資料

参考資料１．全国地域づくり人財塾　受講者アンケート等

２．地方開催（in 金沢）編

（３）市町村職員中央研修所（JAMP）編

①開催概要

■日時：令和元年 9 月 18 日（水）～20 日（金）

■場所：市町村職員中央研修所（千葉県千葉市）

■参加者数：67 名（自治体職員 61 名、その他 6 名）

■研修概要：　地域づくりに取り組む市区町村等職員及び NPO 関係者等を対象とした 2 泊 3 日の合宿型研修。

人材力活性化研究会構成員および地域で活躍する実践者を外部講師とした座学式の講義のほか、講師との直接対話やグループトーク、人財塾修了生の事例報告を通じて、地域リーダーとして必要な心構えやノウハウ等を学習するとともに、個人ワークとして研修終了後に「自分が現場で取り組むべき具体的な行動」（行動宣言）を取りまとめた。

②カリキュラム（敬称略・役職は当時のもの）

月日	時間	講義内容
9月18日（水）	11：00～11：30	受付
	11：30～12：30	昼食
	12：30～12：40	開講・オリエンテーション
	12：40～12：55	【講義１：導入】 「人材力の活性化について」 目貫　誠（総務省地域力創造グループ地域自立応援課人材力活性化・連携交流室地域支援専門官）
	13：00～14：10	【講義２：実践事例】 「人が育つ、人間里山主義」 富永　一夫 講師（一般社団法人スマート代表理事）
	14：25～15：35	【講義３：事例報告】 「修了生の報告」 神山　伸一 講師（公益財団法人小平市文化振興財団事業課長）
	15：50～17：00	【講義４：事例報告】 「「ツナガル。」から生まれる図書館の可能性」 豊山　希巳江 講師（千葉県山武市成東図書館主査）
	17：00～17：30	【グループ・トーク】 本日の振り返り
	17：30～17：45	【説明】 「地方創生カレッジ」について 北村　潤一郎 講師（一般財団法人地域活性化センター常務理事）
	18：15～	情報・意見交換会

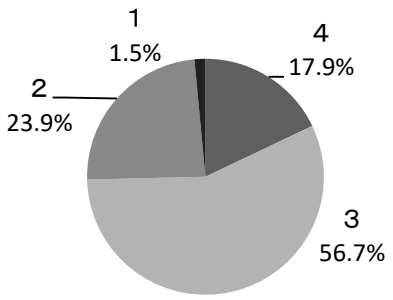
月日	時間	講義内容
9月19日（木）	8：45～9：25	【グループ・トーク】
	9：25～10：35	【講義５：実践事例】 「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～」 豊重　哲郎 講師（柳谷自治公民館長）
	10：50～12：00	【講義６：実践事例】 「地域づくりのマネジメント-つながりをつくり創発を生む仕組みづくり」 飯盛　義徳 講師（慶應義塾大学総合政策学部教授（学部長補佐））
	13：00～14：10	【講師との直接対話】 飯盛　義徳 講師（慶應義塾大学総合政策学部教授（学部長補佐）） 富永　一夫 講師（一般社団法人スマート代表理事） 豊重　哲郎 講師（柳谷自治公民館長） 神山　伸一 講師（小平市文化振興財団事業課長） 小澤　浩子 講師（赤羽消防団副団長、消防大学校客員教授） 玉沖　仁美 講師（株式会社紡代表取締役）
	14：25～15：35	
	15：50～17：00	
	17：15～18：25	
	18：30～19：00	【グループ・トーク】 本日の振り返り
9月20日（金）	8：45～9：25	【グループ・トーク】
	9：25～10：35	【講義７：実践事例】 「地域力の創生と人材力の活性化について」 畑山　栄介（総務省地域力創造グループ地域自立応援課人材力活性化・連携交流室長）
	10：50～12：00	【講義８：実践事例】 「人口減少時代における、公民連携都市再生戦略のつくりかた」 西村　浩 講師（株式会社ワークヴィジョンズ代表取締役）
	13：00～14：10	【成果発表と振り返り】
	14：10～14：20	閉講

③受講者の評価（受講者アンケート抜粋）

- 円グラフは、当該研修の講義内容の活用度合を４段階で聞いたもの。活用度４が最も高い。
- コメントは、活用度４の記述のうち、主なものを取り上げた。

【導入】「人材力の活性化について」

総務省地域力創造グループ地域自立応援課人材力活性化・連携交流室地域支援専門官　目貫　誠

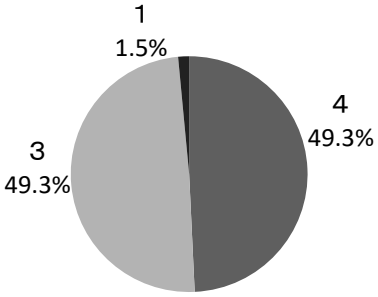


◎活用度４

・　様々な制度があることを知ることができました。有効に活用していきたいと思います。

・　地域づくり人財塾がこれまでにどのように行われてきているのかを知ることができた。個人的には、「集落支援員」と「生活支援コーディネーター」の連携を考えていきたい。

【実践事例】「人が育つ、人間里山主義」　　**一般社団法人スマート代表理事　富永　一夫　講師**

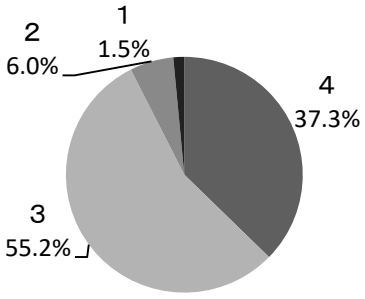


◎活用度４

・　場の提供、黒子に徹する姿勢、求められているものを認識する重要性などタメになりました

・　行政についてわかった上で、市民との上手な付き合い方を学ばせていただいた。どうしても、行政側の事情を押し付けがちだったことに気付かされた。

【実践事例】「修了生の報告」　　**公益財団法人小平市文化振興財団事業課長　神山　伸一　講師**



◎活用度４

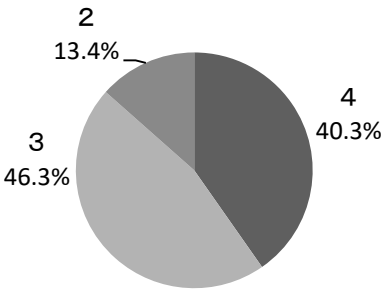
・　この人財塾の OB でかつ市役所職員ということで、行政の実情に沿ったお話を伺えたため、非常にためになった。

・　「企てる力」の重要性、「互学互習」。同じ行政としてとても参考になりました。

・　行政でもできることは沢山あると感じた。

【実践事例】「「ツナガル。」から生まれる図書館の可能性」

千葉県山武市成東図書館主査　豊山　希巳江　講師

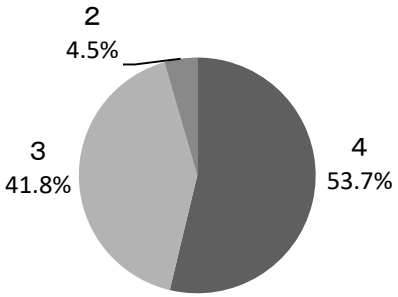


◎活用度４

・　図書館の新たな可能性に気付くきっかけになった。図書館に限らず、様々な施設で応用できる手法と思う。

・　「ツナガル。」の意味がわかる講義でした。庁内の連携で悩むことがあるが、すり寄ってつながれる部分を見つけていきたい。

【実践事例】「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり」　柳谷自治公民館館長 豊重 哲郎 講師

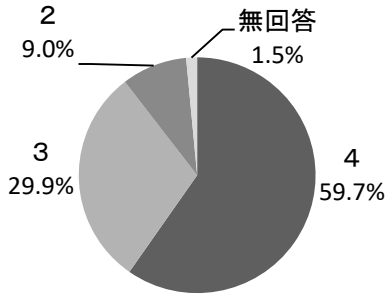


◎活用度４

・　地域づくりは人海戦術。仲間を増やし、課題解決に取り組みたいと思った。また行政の質の向上のための環境づくりが重要だと感じた。
・　自分で考えて行動しなければならないと思わせる講義。「義理と人情」は私も重きを置いているので、共感した。

【実践事例】「地域づくりのマネジメント―つながりをつくり創発を生む仕組みづくり―」

慶應義塾大学総合政策学部教授（学部長補佐）　飯盛　義徳　講師

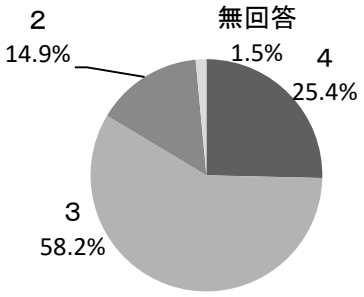


◎活用度４

・　学術的な観点から地域づくりに必要なフレーム、ファクトなど分析されわかりやすかった。
・　強いつながりだけでも新しいことは生まれない。弱いつながりから新しい情報が入ってくることで変化が生じるという言葉が印象的だった。

【実践事例】「地域力の創生と人材力の活性化について」

総務省地域力創造グループ地域自立応援課人材力活性化・連携交流室長　畑山　栄介

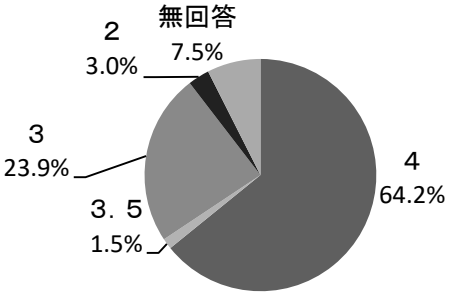


◎活用度４

・　総務省事業について詳しくわかった。すでに活用している事業も多くあるが、改めて見直したいと思った。
・　国の施策や事業等について学ぶことができたので今後の業務の参考にしたいと思った。

【実践事例】「人口減少時代における、公民連携都市再生戦略のつくりかた」

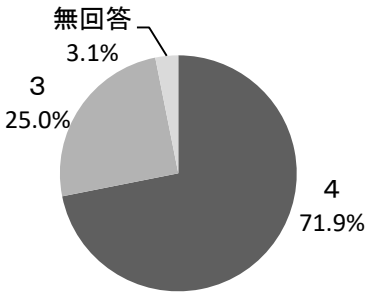
株式会社ワークヴィジョンズ代表取締役　西村　浩　講師



◎活用度４

・　強いメッセージで変化の必要性を考えさせられました。周囲にも伝えたいと思います。
・　目からウロコな話ばかりでした。変化を恐れず、当市でも実践できることから着手していきたい。

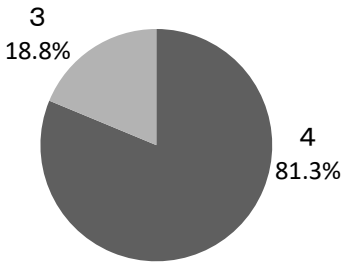
【講師との直接対話（飯盛講師）】



◎活用度４

・　大学や高校との連携は個人的に今後取り組んでいきたいと思っていたので、大変参考になった。
・　大学連携についての疑問を親切にお応えいただいて良かったです。

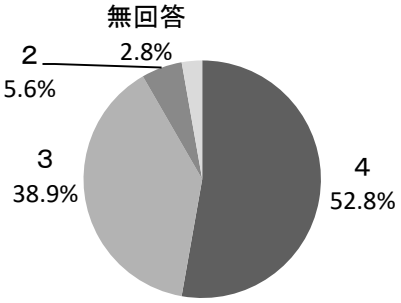
【講師との直接対話（富永講師）】



◎活用度４

・　自分自身の質問に対して直接答えていただく貴重な機会だった。
・　指定管理者と行政の役割について事業者側からの意見が聞くことができて参考になりました。

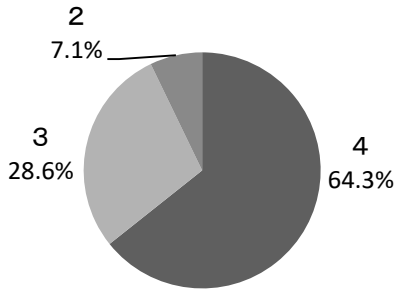
【講師との直接対話（豊重講師）】



◎活用度４

・　地域づくりへの熱意、本気さが伝わってくる内容で、とても充実した時間を過ごすことができた。EDUCE を実践したい。
・　1 人 1 人の名前をフルネームで覚える。利己的ではなく利他的に相手の才能等を引き出す仕掛けをつくることの大切さを学びました。

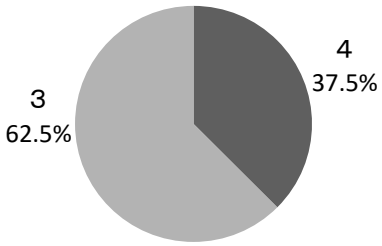
【講師との直接対話（神山講師）】



◎活用度４

・　「つながる」とは？の議題に対し社会情勢が急激に変化している中、以前の常識や考え方を実例を使って説明いただいた。
・　「つながり」について考えを深める時間だった。参加者と先生と対話をしながら導き出せたので、自分のものになった気がする。

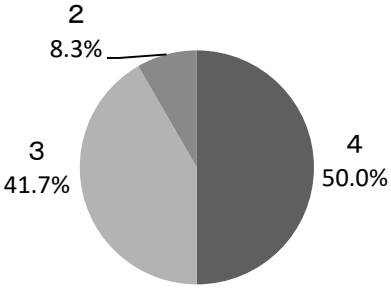
【講師との直接対話（小澤講師）】



◎活用度４

・ 消防団について学ぶことができてとても良かったです。
・ もともと知識もなかった消防団や、安全安心なまちづくりについて、大変勉強になった。率直な疑問などいろいろぶつけられて良い時間となった。

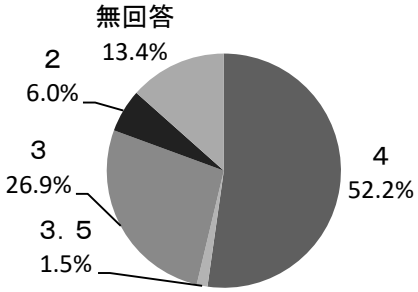
【講師との直接対話（玉沖講師）】



◎活用度４

・ 優先順位をつけて仕事をすること、自分の中で仕事とプライベートのシェアを考えることが印象的だった。
・ 身近な悩みを出し合ってそれぞれディスカッションし、玉沖氏ならではの視点から解決策を示していただき参考になった。

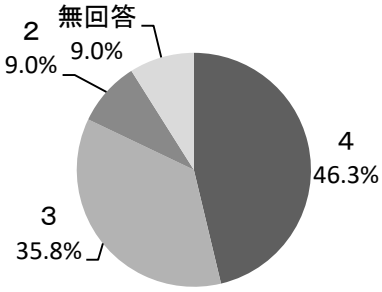
【成果発表と振り返り】



◎活用度４

・ 全員、目標を持って素晴らしいと思った。自分も「宣言」の通り行動していきたい。
・ 知行合一、自分自身でできるよう心掛けていきたいです。
・ 発表することで退路を断てた気がします。ありがとうございます。

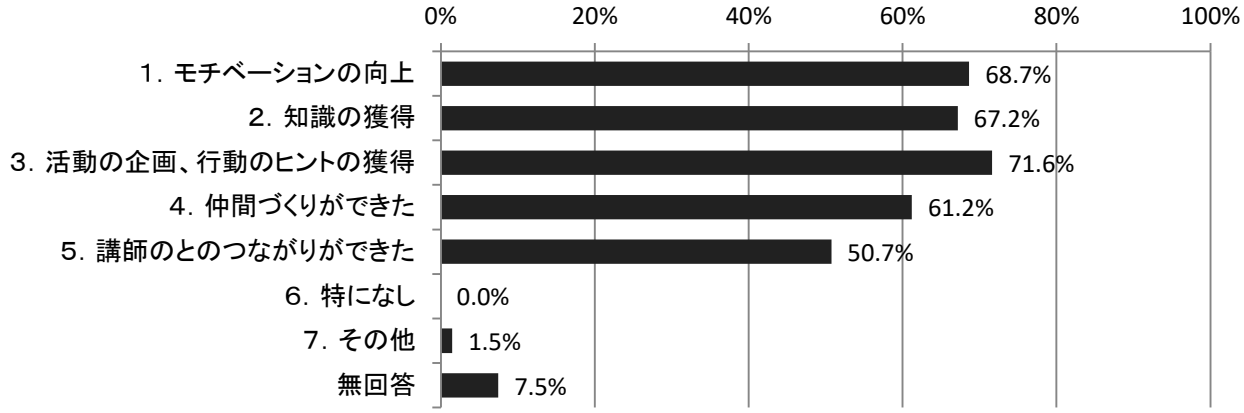
【グループトーク】



◎活用度４

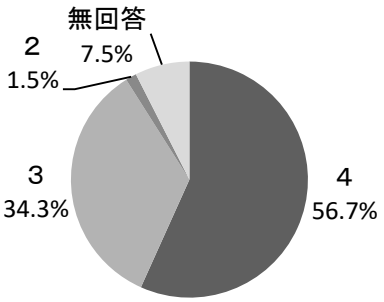
・ 様々な人たちの話を聞いて自分では気づかない部分など多くありとても楽しかった。
・ 外の参加者の様々な視点から意見を聞くことができた。
・ 他の自治体の方と意見交換や振り返りを行えたことで刺激になり意欲が高まった。

研修全体に対する評価



人財塾受講による地域づくり活動への関わりに関する意向度合

問：人財塾を受講したことにより、今後、業務又は業務外で地域づくりに関する活動を新たに、又は、継続して行っていきたいと思うようになりましたか？



N=62

＜活用度＞		回答数	%
↑ 思った 思わない ↓	4	38	56.7%
	3	23	34.3%
	2	1	1.5%
	1	0	0.0%
	無回答	5	7.5%
	合計	67	100.0%

（自由回答）

●様々な自治体の方々と情報共有することができたこともとても有意義な研修だった。

●全国の市町村だけでなく各団体の方、こんなに多くの方と出逢うことがないので、大変刺激になった。有意義であった。

●熱い方々のお話を伺うことができ、非常に刺激を受けた。

●この研修に参加することができたことが私にとって、今後の公務員の業務に大きな影響があると実感できる内容であり、すぐに実践していきたいことばかりでした。このような場を提供していただいたことに感謝したい。

●公務員同士、同じ悩みを持っている仲間として、公務の参考となる話を伺えた事で、たくさんの気付きと解決のための方向性を示していただきモチベーションの up につながりました。職場の仲間にも、受講を勧めます！

●地域づくりとは何なのか、といった基本的な事を模索していたが、本当に納得できる研修内容で理解度がとても上昇した。モヤモヤが解消したので、今後の業務にとても役に立つ研修だった。

●参加者がみな真剣に考え、取り組んでいたため、議論も活発であり、大変有意義な内容であったと思う。

●非常にモチベーションが高まりました！知識はもちろんですが、考え方・企画の仕方なども学べ

て、さらには、様々な市町村と知り合うことができ充実した 3 日間でした。

修了生の報告（豊山講師）

講義（豊重講師）

講義（飯盛講師）

講義（西村講師）

■参考資料

参考資料１．全国地域づくり人財塾　受講者アンケート等

３．市町村職員中央研修所（JAMP）編

（４）自治大学校編

①開催概要

■日時：令和２年１月 17 日（金）～22 日（水）

■場所：自治大学校（東京都立川市）

■参加者数：21 名（自治体職員 16 名、その他５名）

■研修概要：　自治大学校「地域づくりセミナー」受講生を対象とした研修。

7 日間の研修日程のうち、4 日間において人材力活性化研究会構成員を講師とした座学式の講義のほか、講師との直接対話やグループワークを通じて、地域リーダーとして必要な心構えやノウハウ等を学習した。

②カリキュラム（敬称略・役職は当時のもの）

月日	時限	時間	講義内容
１月１７日（金）	１限目	９：25～10：35	【演習１】 班別で事前課題の発表
	２限目	10：50～12：00	【合同講義１】 「地域の誇りを活用した稼げるまちづくり」 吉田　博詞 講師 （株式会社地域ブランディング研究所代表取締役）
	３限目	13：00～14：10	【合同講義２】 「地域おこし協力隊を活用した地域の活性化について」 藤井　裕也 講師 （特定非営利活動法人山村エンタープライズ代表）
	４限目	14：25～15：35	【合同講義３】 「地域づくりのマネジメント―つながりをつくり創発を生む仕組みづくり―」 飯盛　義徳 講師（慶應義塾大学総合政策学部教授）
	５限目	15：50～17：00	【合同講義４】 「人が育つ、人間里山主義」 富永　一夫 講師（一般社団法人スマート代表理事）
１月２０日（月）	１限目	９：25～10：35	【合同講義５】 「クリエイティブな地域づくり～課題解決思考から価値創造思考へ」 前神　有里 講師 （一般財団法人地域活性化センター人材育成プロデューサー）
	２限目	10：50～12：00	【合同講義６】 「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～」 豊重　哲郎 講師　（柳谷自治公民館長）
	３限目～４限目	13：00～15：35	【講師との直接対話】 富永　一夫 講師（一般社団法人スマート代表理事） 豊重　哲郎 講師（柳谷自治公民館長） 前神　有里 講師（一般財団法人地域活性化センター人材育成プロデューサー） 吉田　博詞 講師（株式会社地域ブランディング研究所代表取締役）
	５限目	15：50～17：00	【演習２】 課題解決に向けた班別検討 アドバイザー：富永講師、豊重講師、前神講師、吉田講師

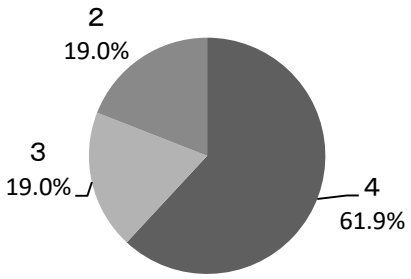
月日	時限	時間	講義内容
1月21日（火）	1限目	9：25～10：35	【演習３】 課題解決に向けた班別検討
	2限目	10：50～12：00	【合同講義７】 「地域力の創生と人材力の活性化について」 境　勉（総務省大臣官房地域力創造審議官）
	3限目	13：00～14：10	【合同講義８】 「関係人口のつくり方～わたしたちは地方で幸せを見つける」 指出　一正 講師　（月刊「ソトコト」編集長）
	4限目	14：25～15：35	【演習 4】 課題解決に向けた班別検討
	5限目	15：50～17：00	【演習５】 課題解決に向けた班別検討
1月22日（水）	1限目～3限目	9：25～14：10	【演習６】 課題解決に向けた班別検討（30 分） 課題解決の発表（10 分/班）＋質疑（10 分/班）×5 班（100 分）
	4限目	14：25～15：35	講師からの講評、ふりかえり、閉講 アドバイザー：富永講師、豊重講師、前神講師

③受講者の評価（受講者アンケート抜粋）

- 円グラフは、当該研修の講義内容の活用度合を４段階で聞いたもの。活用度４が最も高い。
- コメントは、活用度４の記述のうち、主なものを取り上げた。

【合同講義１】「地域の誇りを活用した稼げるまちづくり」

株式会社地域ブランディング研究所代表取締役　吉田　博詞　講師

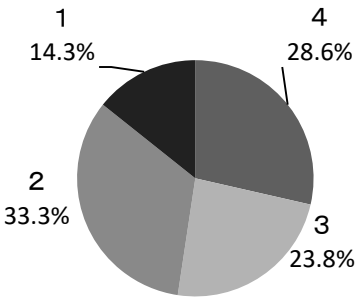


◎活用度４

- 価値が無いと思ってたことが、視点を変えるだけで価値あるものに生まれ変わるインバウンド対策の重要な考え方がわかった。
- 今後のまちづくりを進める上でのインバウンドを意識した外貨獲得の重要性を客観的なデータに基づき知ることができた。

【合同講義２】「地域おこし協力隊を活用した地域の活性化について」

特定非営利活動法人山村エンタープライズ代表　藤井　裕也　講師

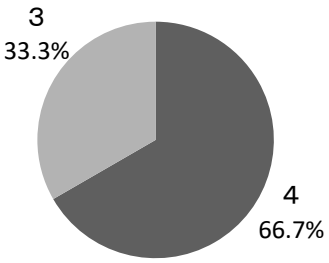


◎活用度４

・　地域おこし協力隊の成功事例と失敗事例の両方を知ることで、今後の制度活用のヒントと行政の役割を知ることができた。
・　新たに桜島に地域おこし協力隊を導入するために、現在その予算化や地域へのヒアリングを進めているところで、大変参考になった。

【合同講義３】「地域づくりのマネジメント―つながりをつくり創発を生む仕組みづくり―」

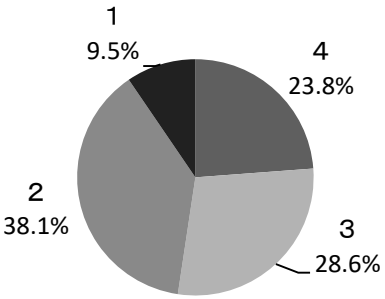
慶應義塾大学総合政策学部教授　飯盛　義徳　講師



◎活用度４

・　空間の境界、資源のもちより、プラットホーム設計。教えていただいた視点がすべて新鮮でした。とくに空間の境界については業務でも意識していきたいと思います。
・　人のつながり、土台づくりについて強く共感できた。

【合同講義４】「人が育つ、人間里山主義」　一般社団法人スマート代表理事　富永　一夫　講師

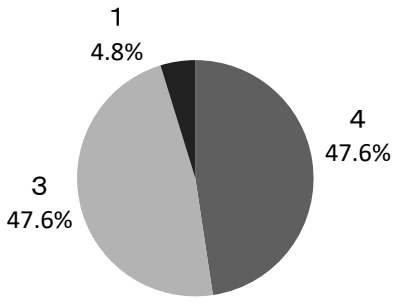


◎活用度４

・　「持続可能性」の重要性。マネジメントの大切さを学んだ。行政、第３セクターの役割と効果の最大化について勉強になりました。
・　地域に果たすNPOの役割、組織の運営について整理することができた。

【合同講義５】「クリエイティブな地域づくり～課題解決思考から価値創造思考へ～」

一般財団法人地域活性化センター人材育成プロデューサー　前神　有里　講師

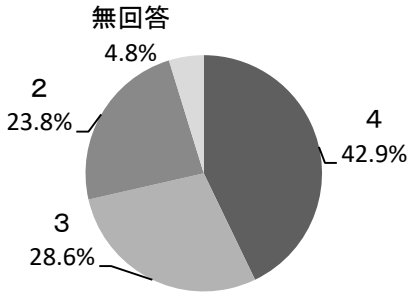


◎活用度４

・　自治体職員の経験から価値創造の地域づくりについて御講義いただきました。日本全国の事例について学ぶことができました。
・　小さいことから始めてみることの大切さを学びました。資源はたくさんあり、どう活用するかが鍵。

【合同講義６】「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～」

柳谷自治公民館館長　豊重　哲郎　講師



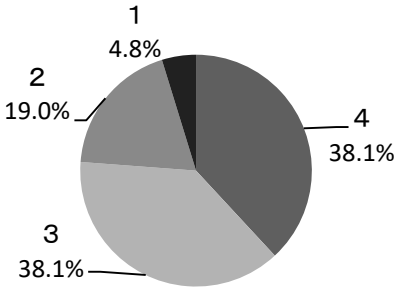
◎活用度４

・　自主運営、斬新でした。行政としての参考というよりは、むしろ自身が住んでいる地域で、自治会で活用していきたいと思いました。

・　行政に頼らない感動の地域づくりとして、企画力・演出力・財務力の 3 点と、またリーダーとしての心構えが大変参考になりました。

【合同講義７】「地域力の創生と人材力の活性化について」

総務省大臣官房地域力創造審議官　境　勉　講師



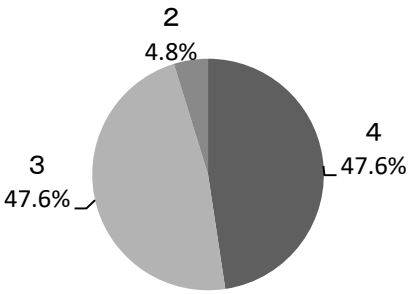
◎活用度４

・　地域力創造と人材力の活性化について施策の全体が見えました。

・　国の人口減少に関する捉え方、地域づくりに関する課題認識、それを支える支援策について知ることができた。

【合同講義８】「関係人口のつくり方～わたしたちは地方で幸せを見つける～」

月刊「ソトコト」編集長　指出　一正　講師

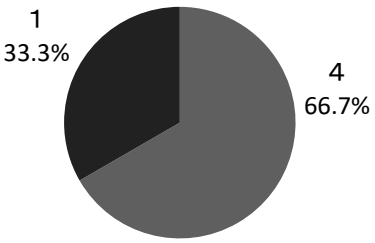


◎活用度４

・　関係人口という内容で様々な事例から興味深く拝聴させていただきました。ちょっとしたつながりが、若者が入るだけでこれだけ作られるものなのかとおどろきました。

・　関係人口については本市でも重要課題であり、大変意義のあるものでした。

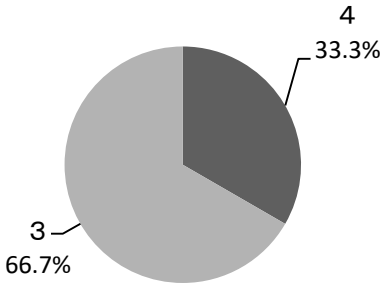
【講師との直接対話（富永講師）】



◎活用度４

・　個別対話という少人数な状況でありましたので、富永講師におきましては、NPO 開設時の話から指定管理のこと、特にフュージョン長池様が指定管理の先達で国の制度設計の参考となったというお話まで多種多様な内容をお聞きして、大変参考になりました。

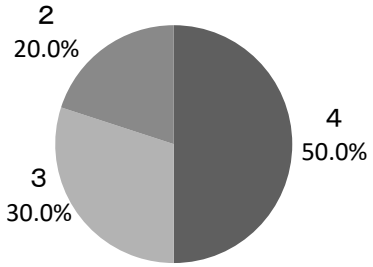
【講師との直接対話（豊重講師）】



◎活用度４

・　研修生 3 人を相手に、非常に細かいところまで大変丁寧に説明いただいた。この研修に参加するに当たって聞きたかった、特産品開発や地域づくり活動の担い手にいついて、直接お話を伺うことができ、とても有意義であった。

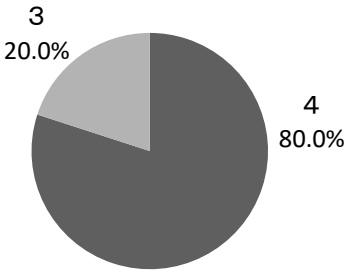
【講師との直接対話（前神講師）】



◎活用度４

・　講義では伝えきれなかった点でご指摘をいただきましたが、異なるものと異なるものの組み合わせは新しいものの創発につながるという点は、今後の業務に大きく活かしていきたいと思いました。

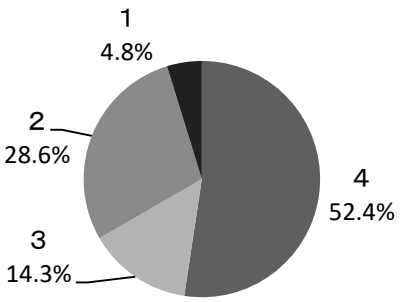
【講師との直接対話（吉田講師）】



◎活用度４

・　講義では聞けない内容を自分の地域に関した話を聞けて大変参考になった。
・　地域づくりに絡めたインバウンド戦略だけでなく、オリンピックや万博、IR といったトレンドに関する考えも伺うことができ、大変有意義な時間となった。

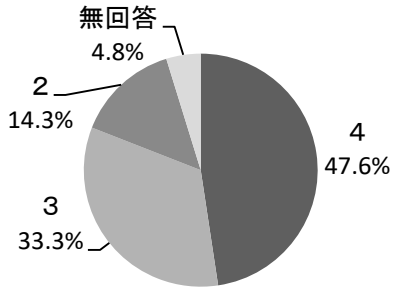
【演習１～４】



◎活用度４

・　各団体の課題から、テーマを決めるまで十分に話し合うことにより、理解を深められたと思います。話し合うことは本当に勉強になります。正解はないのでしょうが考えることが楽しく、また共通した意識をグループでもち合うことができ、ここが大きな成果だった。

【成果発表と振り返り】

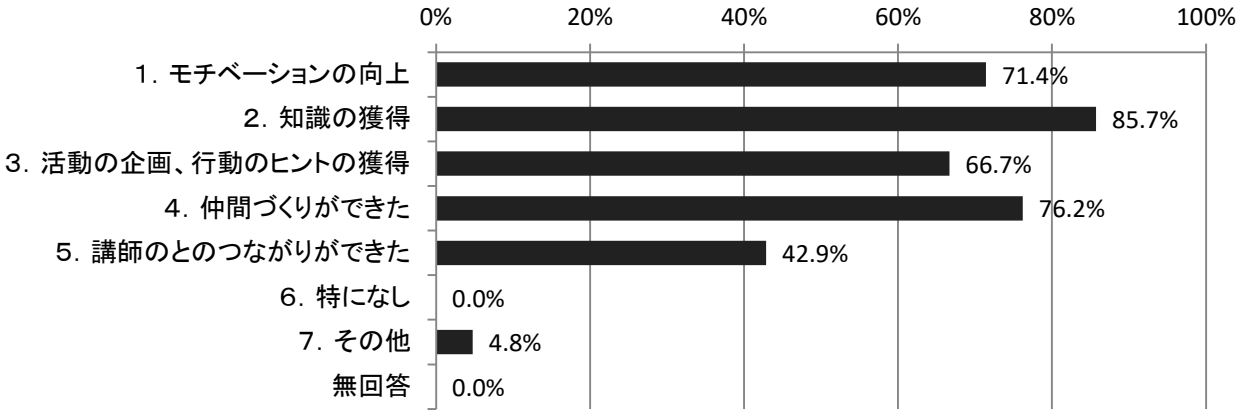


◎活用度４

・　プレゼンの展開について、十分に検討したかいがありました。良い経験になりました。ありがとうございました。

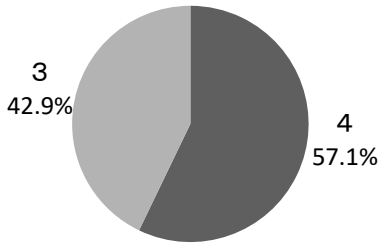
・　自分たちのグループで考えた事が発表できたと思います。他グループの考えも大変参考になりました。

研修全体に対する評価



人財塾受講による地域づくり活動への関わりに関する意向度合

問：人財塾を受講したことにより、今後、業務又は業務外で地域づくりに関する活動を新たに、又は、継続して行っていきたいと思うようになりましたか？



N=21

＜活用度＞		回答数	%
↑ 思った 思わない ↓	4	12	57.1%
	3	9	42.9%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	21	100.0%

（自由回答）

●今回の地域づくりセミナー演習である課題解決に向けた班別行動では、班の考え方（解決策等）を模造紙での記入で良いとの事で、班の中でじっくり考え方を練ることができました。最近の他の研修では、パワーポイントでのプレゼンをしないといけない事が多く、資料の作り込みに時間をかけてしまいがちな研修もあったことから、次年度以降も同じように続けて欲しいと感じています。

●強いて挙げるなら、最後の講評は、発表コメントと総評をまとめても良かったかなと思いました。短期間でしたが、楽しく学ばせていただきました。ありがとうございました。

●直接対話について、どの先生ともお話してみたいなと思ったため、１コマ目と２コマ目で異なる先生のお話を聞けるようにするのも良いなと思った。
●１つのテーマについてじっくりと話し合うという点では、もう少し演習の時間をいただきたかったように思います。
●講師の方の人選が素晴らしかった。とても有意義な研修を受けることができまた。ありがとうございました。
●講師の先生から多くの知識を学べて良かったです。講義、直接対話、演習といろいろな視点から深く学ぶことができました。短い期間でしたが、大変お世話になりました。
●地域づくり人財塾を受講して、知識の獲得や自身のモチベーションアップにつながったと強く感じます。本当にありがとうございました。長池公園のフィールドワークについて事前に案内をいただけていたらありがたかったです。
●宿泊させていただいた部屋がきれいで、一週間きもちよくすごすことができました。ありがとうございます。

講義（吉田講師）

講義（飯盛講師）

講義（指出講師）

演習の様子

■参考資料

参考資料１．全国地域づくり人財塾　受講者アンケート等

４．自治大学校編

３．全国地域づくり人財塾フォローアップ研修

（１）全国地域づくり人財塾フォローアップ研修とは

これまで実施した「全国地域づくり人財塾」の修了生が自主的に集まり、定期的に勉強会（フォローアップ研修）を実施している。

これまで、大きくは東日本と西日本での活動があるほか、地方開催を契機に北海道、九州地域でフォローアップ研修がスタートしている。

本年度は、新たに北陸、中部地域においてフォローアップ研修がスタートした。

本年度開催されたフォローアップ研修の活動概要

地区	開催日	場所	テーマ
東日本	平成 31 年 4 月 14 日	館山市	選ばれるためのブランディング活動
	令和元年 7 月 10 日	長池公園自然館	人間里山主義読書会
	令和元年 10 月 4 日	BIC ライブラリ（機械振興会館）	フォローアップ研修のこれからを考える
北海道	令和元年 10 月 13 日～14 日	北海道旭川市、鷹栖町	旭川公園ゲストハウス、パレットヒルズ視察を通じた協働のまちづくりの実践を学ぶ
北陸	令和元年 11 月 3 日	石川県金沢市	都市公園の現地視察を通して、指定管理や Park-PFI など公民連携のあり方を学ぶ
中部	令和元年 10 月 4 日～5 日	愛知県津島市	地域資源の発見から地域の可能性を考える
西日本	令和元年 9 月 7 日～8 日	大阪府吹田市、大阪市	パークマネジメントや Park-PFI・都市型公園の防災拠点・環境教育を学ぶ

（２）本年度の実施状況

①東日本支部

・平成 24 年度の地域づくり人育成講座（市町村職員中央研修所編）の修了生が中心となって企画・開催している。
・平成 25 年 4 月以降、概ね 3 か月毎に開催し、平成 30 年度までに 23 回が実施されている。
・平成 26 年度末に今後の運営のあり方について意見交換を行った結果、平成 27 年度以降は、参加者による持ち回り担当制により開催されている。
・主な研修内容は、人材力活性化研究会の構成員や大学等とタイアップした講義のほか、参加者が自分の地域についてプレゼンを行い、それに対して他の参加者からフィードバックを行う形式で開催している。

第２４回：館山での開催模様

第２５回：長池公園での開催模様

第２６回：BIC ライブラリでの開催模様

②北海道

開催目的	・人財塾及びフォローアップ研修において学んだことと、参加者各位が地域で実践した成果等を持ち寄り、地域活動において必要な知見を深める。研修の継続的な開催により、研修の振り返りや参加者相互の情報交換を行い、研修効果の向上に寄与することを目的とする。 ・地域に根差した公共施設の整備や住民と行政が一体となった管理運営、民営で公共空間を目指す公園の事例視察を通じ、共通点や差異を考え、協働のまちづくりの実践や地域において活躍する人材及びネットワークのあり方を学ぶ。
担当講師	富永　一夫 講師
参加人数	12 名（自治体職員 9 名、その他 3 名）
カリキュラム	■10 月 13 日（日） 17：00　JR 永山駅集合 17：15　視察①「旭川公園ゲストハウス」視察 18：45　交流会 ■10 月 14 日（月） 09：00　視察②「パレットヒルズ」視察 09：40　ワークショップ ・前日視察の振り返り ・2 か所の視察を経て感じた両公園の共通点、差異 ・地域に必要とされる公園、活動の場とは 10：40　講師講評 11：30　終了

パレットヒルズのフィールドワーク

ワークショップ

③北陸

開催目的	・公園の利活用の観点から、金沢市内の都市公園の現地視察を通して、指定管理や Park-PFI など公民連携のあり方について学ぶ。
担当講師	富永　一夫 講師
参加人数	11 名（自治体職員 4 名、その他 7 名）
カリキュラム	■11 月 3 日（日） 10：00　近江交流プラザ集合 10：00　座学（講師より公民連携による公園の利活用等について講義） 11：00　視察「卯辰山公園及び周辺エリア」（ひがし茶屋街、卯辰山麓寺院群等） 14：00　ワークショップ（座学や現地視察の結果を踏まえ、テーマ別に、講師を交えて受講者で自由に意見交換） 【テーマ】 ・都市公園（周辺エリアを含む）の利活用や魅力向上のアイデアについて 15：30　講師講評 16：00　終了

富永講師の講義

卯辰山公園フィールドワーク

ワークショップ

④中部

開催目的	・人財塾後の実践状況の共有と、地域へ踏み込む第一歩を学ぶ。 ・全体テーマは、「地域資源の発見から地域の可能性を考える」
担当講師	前神　有里 講師
参加人数	延 33 名（自治体職員 18 名、その他 15 名）
カリキュラム	■10 月 4 日（金） ●トークセッション（参加者：自治体職員 13 名、その他 1 名） 19：00　人財塾で学んだことの振り返り 19：30　修了生の取組紹介 20：00　意見交換 21：30　閉会 ■10 月 5 日（土） ●エクスカーション（参加者：自治体職員 6 名） 09：30　津島市中心部のまち歩き 11：30　終了 ●ワークショップ（参加者：自治体職員 10 名、その他 15 名） 13：30　集合 13：40　ワークショップ①地域資源の洗い出し 14：10　ワークショップ②こんな地域にできたらいいな 14：55　発表・共有 15：05　講師講評・事例紹介 15：50　終了

修了生の活動報告

エクスカーション（街探検）

ワークショップ

⑤西日本

開催目的	・関西で地域おこし人財の発表と交流。 ・行政・企業・市民の連携による都市型公園の視察（パークマネジメント・Park-PFI・都市型公園の防災拠点・環境教育を学ぶ）
担当講師	富永　一夫 講師
参加人数	10 名（自治体職員 2 名、その他 8 名）
カリキュラム	■9 月 7 日（土） 13：00　万博記念公園視察 15：00　ワークショップ（関西地域おこし人財による意見交換） 17：00　千里南公園視察 18：00　交流会 19：30　終了 ■9 月 8 日（日） 10：00　大阪城公園視察 12：00　終了

万博記念公園フィールドワーク

ワークショップ（意見交換）

大阪城公園フィールドワーク

■参考資料

参考資料２．全国地域づくり人財塾　フォローアップ研修

１．これまで開催されたフォローアップ研修の活動概要

２．北海道フォローアップ研修しおり

２．北陸フォローアップ研修リーフレット

３．中部フォローアップ研修リーフレット

４．西日本フォローアップ研修リーフレット

第Ⅱ章　全国地域づくり人財塾修了生地域づくり活動調査

１．全国地域づくり人財塾修了生地域づくり活動調査

「全国地域づくり人財塾」の修了者が実践している地域づくりの活動状況を網羅的に把握するとともに、今後の「全国地域づくり人財塾」運営検討のための基礎資料とすることを目的に、「全国地域づくり人財塾」の修了者を対象としたアンケート調査を実施した。

【調査概要】

調査期間：2019 年 9 月 12 日～2019 年 10 月 4 日
調査対象：全国地域づくり人財塾修了生（平成 27 年度 JAMP 修了生～令和元年度 JIAM 修了生）
調査目的：今後の人財塾運営におけるカリキュラム・日程の参考及び改善点の把握のため。
調査方法：受講時に収集したメールアドレス宛に、価値総合研究所または総務省から修了生にメールにて調査票（Excel）を配布、メールにて回収
調査対象数　：550 名
有効回答数　：141 名
調査票回収率：25.6%
質問項目：１．回答者プロフィール
２．人財塾の受講理由
３．受講による意識の変化
４．受講による行動の変化
５．受講意欲が高まる仕組み
６．受講成果を活かして取組を改善、新たに計画・取り組んだ地域活動（記述方式）
７．地域活動の実施の有無
８．地域活動で感じている問題・課題
９．地域活動のモチベーション維持に向けた人財塾の場の活用
10．今後受講したい研修
11．さらに受講したいと考える研修や人財塾に求めるサポート等（自由回答）

（参考）前回（平成 27 年度）調査
調査期間：2015 年 8 月 26 日～2015 年 9 月 30 日
調査対象：全国地域づくり人財塾修了生（平成 24 年度までに実施された「地域づくり人育成講座」を含む。自治大学校における政策専門課程の研修生を除く）
調査方法：関係市町村及び関係法人の人事担当を通じて調査票を配布、回収
調査対象数：639 名
有効回答数：346 名
調査票回収率：54.1%

調査結果概要：

- 受講後、「意識の変化があった」と回答した者は 97.2%、「行動の変化があった」と回答した者は 73.8%となっており、多くの受講者に意識・行動の変化を促している。
- 意識の変化から行動の変化へと結びつけるための検討が必要である。
- 前回の調査と比較すると、「受講後の意識の変化」（アンケート３参照）、「受講後の行動の変化」（アンケート５参照）、「モチベーション維持に向けた人財塾の場の活用」（アンケート１１参照）等、多くの選択肢で回答割合が低下している。そのため、研修については受講生のニーズに沿ったカリキュラム編成や、開催運営等のあり方の検討が必要であり、具体的には以下のような内容が考えられる。

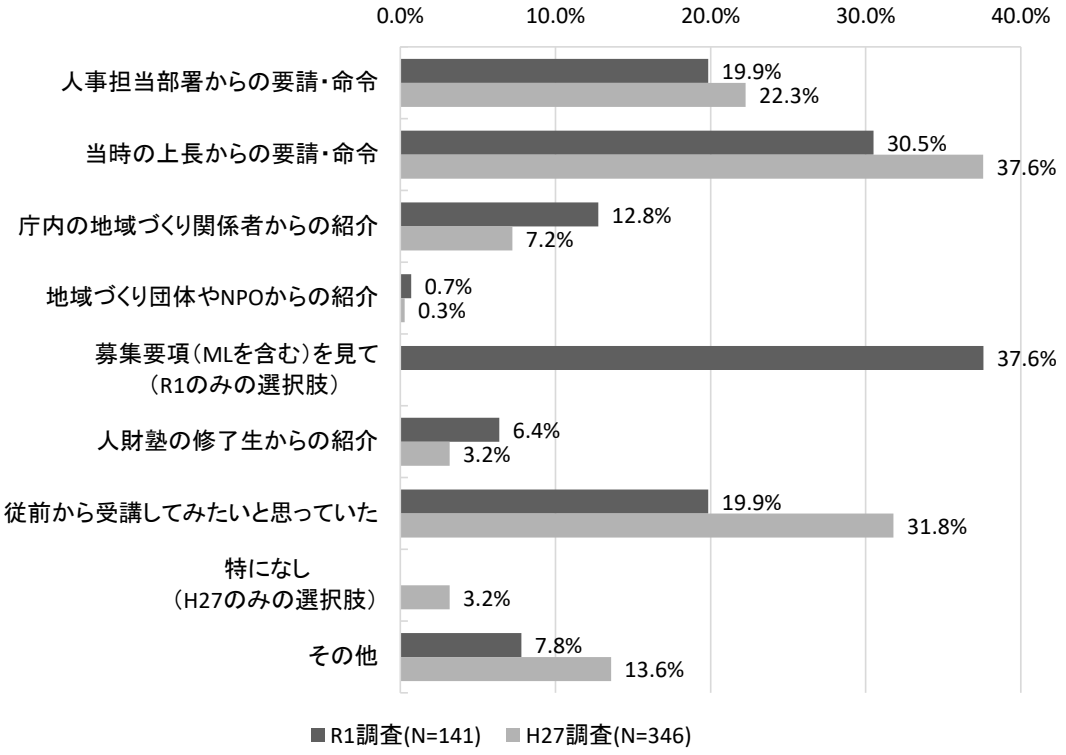
  ①研修修了生の抱える課題としては、受講後に新たな地域活動を計画している者の割合が著しく低下している（アンケート５参照）ほか、地域活動を行う上で抱える問題意識・課題としては約半数が、計画作成や効果測定などのマネジメント知識・経験の不足を抱えている（アンケート９参照）といった結果となっており、地域活動の計画作成や効果測定のスキル向上を図る研修が必要と考えられる。

  ②研修修了生にとっては、自治体職員による活動紹介が受講意欲につながりやすい（アンケート６参照）ことがわかった。さらに、研修修了生が求めている研修の内容としては、住民協働や地域コーディネートに関する知識や技法を学びたい者が多く（アンケート１２参照）、研修の形式としては、講義よりもフィールドワーク、ワークショップ、ディスカッションといった能動的な参加によるものが求められている（アンケート１３参照）。
- また、研修修了生が抱える問題意識や課題の解消方法として、人財塾講師の招聘を望む割合は少なく（アンケート１０参照）、人財塾講師の派遣については、修了生の課題解決に寄与する内容となるよう検討する必要がある。
- 研修修了者へのフォローとしては、SNS やホームページで他の修了生の活動状況を知ることが、自身の地域活動へのモチベーション維持につながっており（アンケート１１参照）、修了生の活動を追跡調査して情報を収集・発信することが有効と考えられる。

1. 全国地域づくり人財塾（以下、「人財塾」という。）を受講した理由についてお伺いします。下記の選択肢から該当するもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）

受講理由についてたずねたところ、今回の調査では「募集要項（ML を含む）を見て」が 37.6%と最も高く、次いで「当時の上長からの要請・命令」（30.5%）、「人事担当部署からの要請・命令」「従前から受講してみたいと思っていた」（19.9%）の順となった。

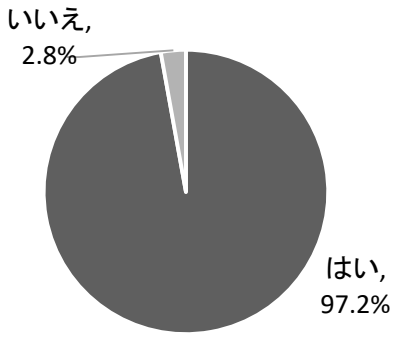
「募集要項（ML を含む）を見て」が最も割合が多いことから、募集要項等によりはじめて人財塾を知り受講するきっかけとなった者が多いこと、また、前回の調査と比べ「従前から受講してみたいと思っていた」と回答した割合が大きく減少していることから、人財塾の知名度が低下していることがうかがえる。



2. 人財塾の受講により、貴方の意識は変化しましたか。「はい」、「いいえ」のどちらかでお答えください。

受講後の意識の変化についてたずねたところ、意識の変化があった（「はい」を回答）と答えた回答者は 97.2%、意識の変化がなかった（「いいえ」を回答）と答えた回答者は 2.8%だった。

人財塾における研修内容は、受講による意識の変化という点においては、有効なものとなっていることがうかがえる。

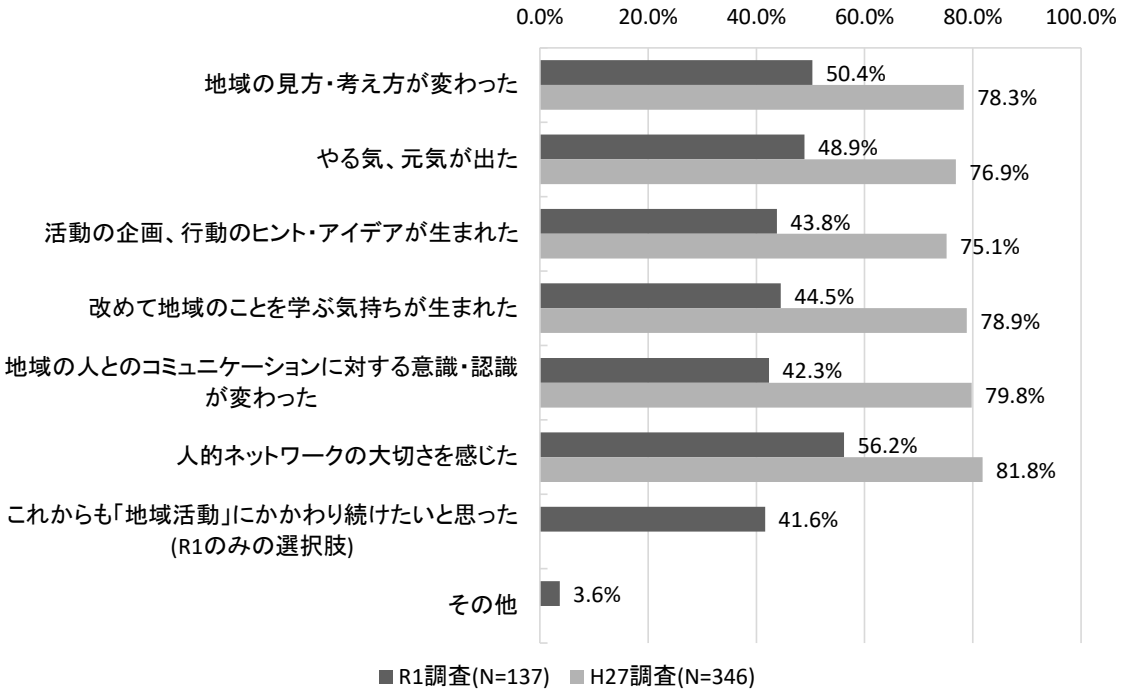


3. 人財塾の受講により、貴方の意識は何が変化しましたか。下記の選択肢から該当するもの全てに〇をつけてください。（〇はいくつでも）

受講後の意識の変化についてたずねたところ、今回の調査では「人的ネットワークの大切さを感じた」が 56.2%と最も高く、次いで「地域の見方・考え方が変わった」（50.4%）、「やる気、元気が出た」（48.9%）の順となった。

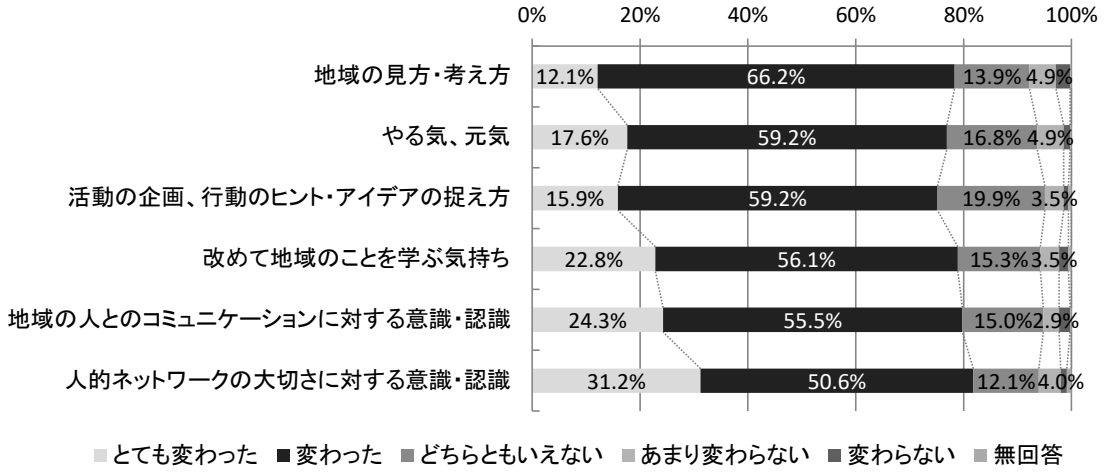
前回の調査においても、「人的ネットワークの大切さに対する意識・認識」の回答は最も割合が多く、このことは人財塾受講による意識の変化の内容として、一貫して重要なものとなっていることがうかがえる。一方で、前回の調査に比べて全体的に意識が変化した回答割合が低下しており、受講生のニーズを捉えたカリキュラム編成の検討が必要である。

（前回の調査は、各項目について 5 段階での変化の度合いを聞いており、上位２段階である「とても変わった」及び「変わった」の回答合計数を今回の調査の各選択肢への回答に相当するとみなして集計した。同様に、以下に掲載するアンケート項目の５、１１、１２、１４については 5 段階の上位２段階の回答合計数を以て今回の調査と比較した。）



（参考）H27 調査（N=346）

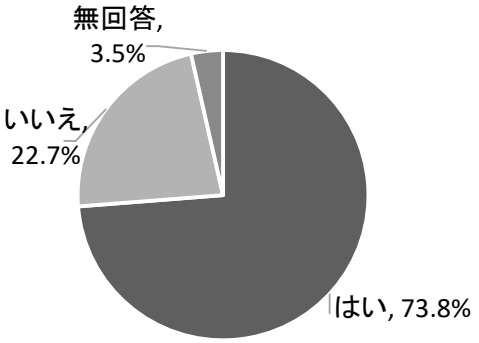
人財塾等の受講により、貴方の意識はどのように変化しましたか。下記の項目それぞれについて、５段階でお答えください。（○はそれぞれ一つ）



4. 人財塾の受講により、貴方の行動は変化しましたか。「はい」、「いいえ」のどちらかでお答えください。

受講後の行動の変化についてたずねたところ、変化があった(「はい」を回答)と答えた回答者は 73.8%、変化がなかった（「いいえ」を回答）と答えた回答者は 22.7%だった。

前述のアンケート２（受講後の意識の変化に関する設問）において 97.2%の受講生が受講後に意識が変化したと回答したにも関わらず、行動の変化へと結びついていない受講生が 22.7%も存在していることから、いかにして行動に結びつけていくかについて、検討する必要がある。

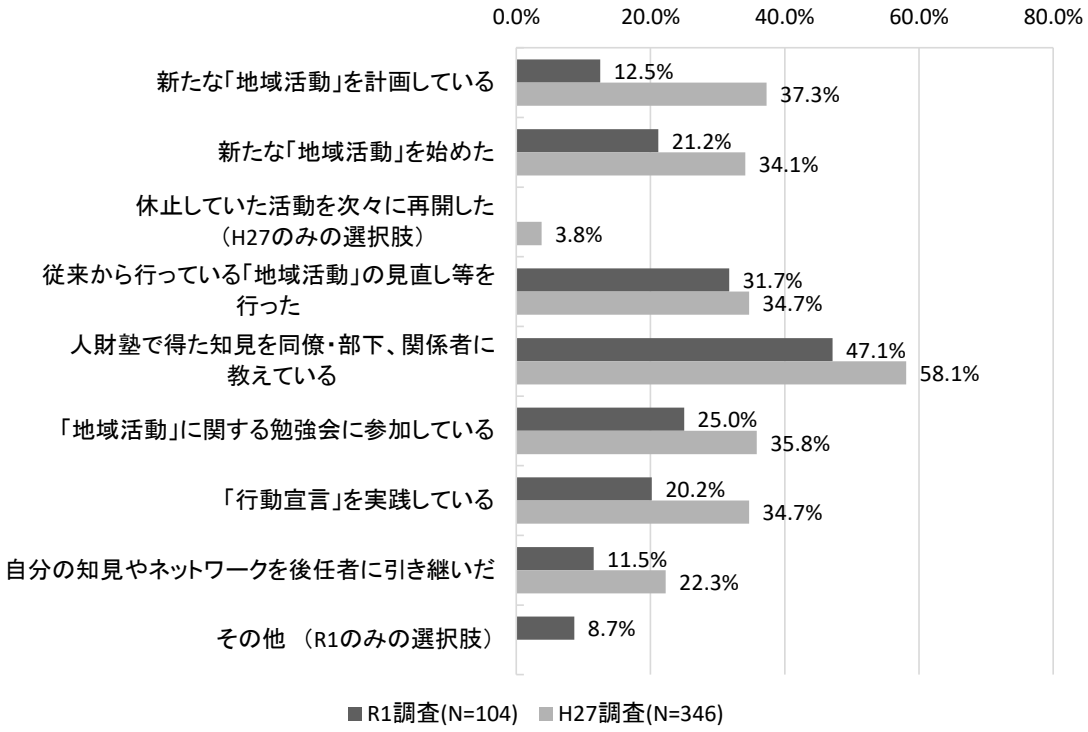


5. 人財塾の受講により、貴方のどのような行動をとっていますか。下記の選択肢から該当するもの全てに〇をつけてください。（〇はいくつでも）

受講後の行動の変化についてたずねたところ、今回の調査では「人財塾で得た知見を同僚・部下、関係者に教えている」が 47.1%と最も高く、次いで「従来から行っている「地域活動」の見直し等を行った」（31.7%）、「「地域活動」に関する勉強会に参加している」（25.0%）の順となった。

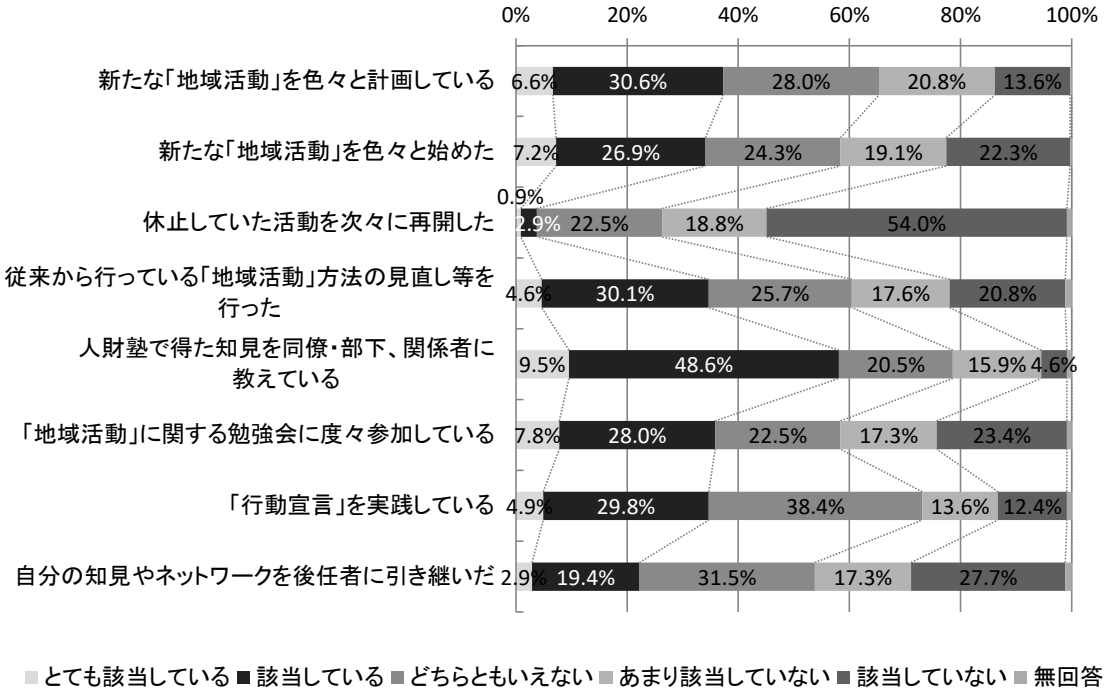
前回の調査でも、「人財塾で得た知見を同僚・部下、関係者に教えている」が最も多いことから、身近な人への知見の共有については、人財塾修了生を中心とした同僚・部下、関係者を対象とした自主的な勉強会等の開催を推進していくことが有効であると考える。

「新たな「地域活動」を計画している」と回答が前回の調査に比べ著しく低下していることから、地域活動を計画する上で必要となるスキルが身につくためのカリキュラム等について検討する必要がある。



（参考）H27 調査（N=346）

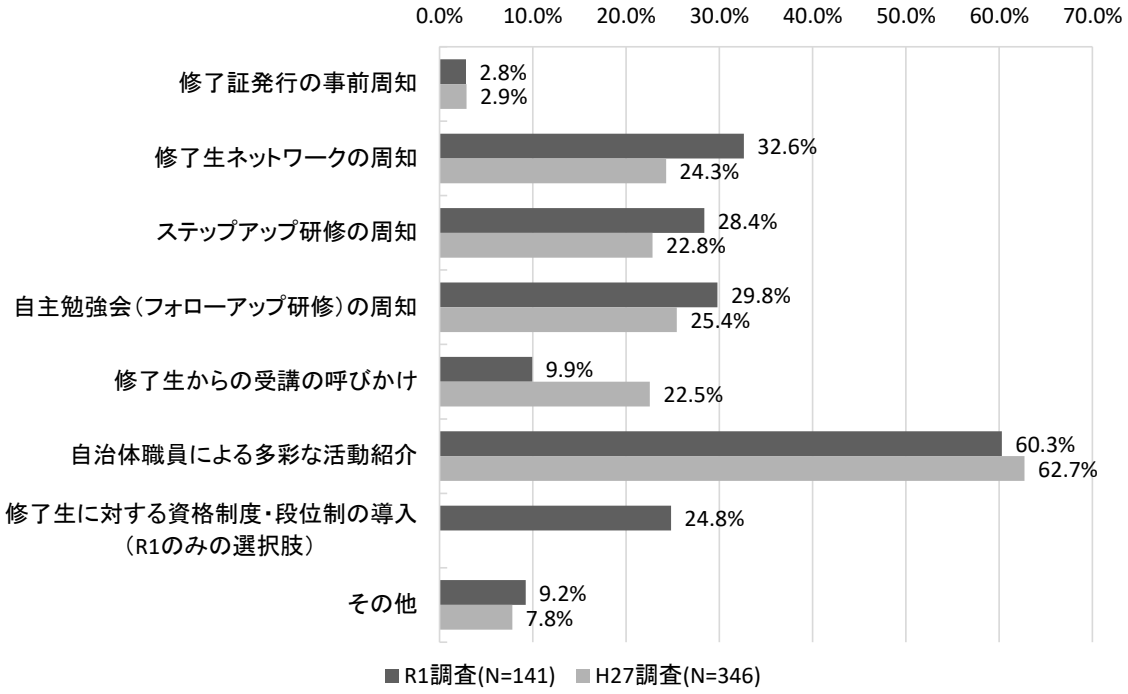
人財塾等の受講により、貴方の行動はどのように変化しましたか。下記の項目それぞれについて、５段階でお答えください。（○はそれぞれ一つ）



6. どのような仕組みが人財塾にあると、受講意欲が高まると思いますか。下記の選択肢から該当するもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）

人財塾の受講意欲を高める方法についてたずねたところ、今回の調査では「自治体職員による多彩な活動紹介」が 60.3%と最も高く、次いで「修了生ネットワークの周知」（32.6%）、「自主勉強会（フォローアップ研修）の周知」（29.8%）の順となった。

前回の調査においても、「自治体職員による多彩な活動紹介」の回答は最も割合が多いなど、同様の傾向がうかがわれ、自治体職員による様々な活動事例を知ることや、修了生ネットワークの周知、自主勉強会の周知が受講意欲につながりやすいと考えられる。

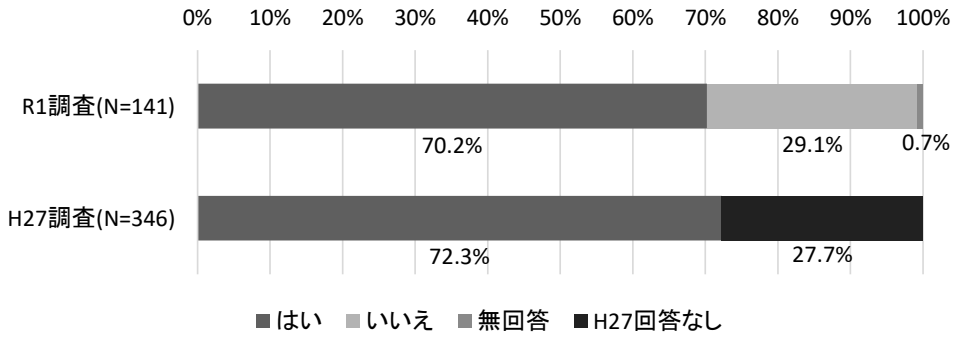


7. 貴方は現在、「地域活動」を行っていますか。「はい」、「いいえ」のどちらからでお答えください。

「地域活動」の取組の有無についてたずねたところ、今回の調査では地域活動に取り組んでいる（「はい」を回答）と答えた回答者は 70.2%、取り組んでいない（「いいえ」を回答）と答えた回答者は 29.1%だった。

前回の調査と比較すると、取り組んでいる者の割合はやや減少（2.1 ポイント減少）となった。

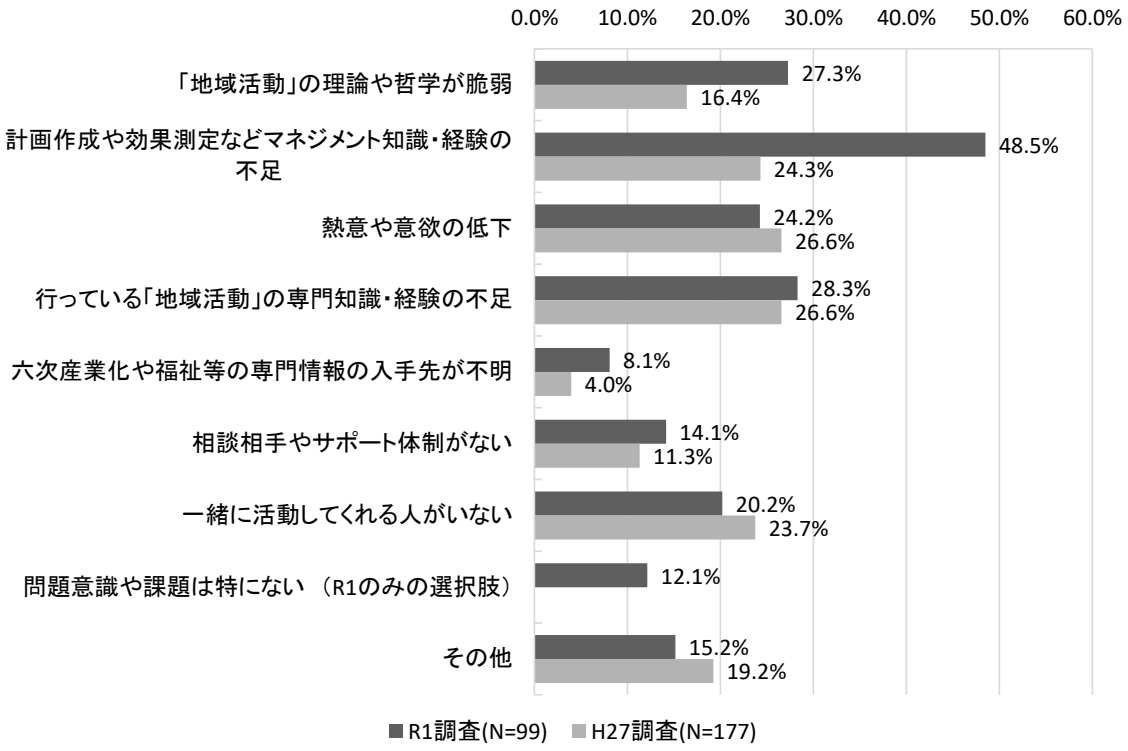
（前回の調査は、取組の有無ではなく、活動の分野や範囲等を聞いており、分野や範囲等のいずれか１つ以上回答があった者の数を今回の調査の「はい」の回答（＝地域活動を行っている）に相当するとみなして集計した）



９．貴方が現在、「地域活動」を行う上で抱える問題意識・課題についてお伺いします。下記の選択肢の中から該当するもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）

「地域活動」を行う上で抱える問題意識・課題についてたずねたところ、今回の調査では「計画作成や効果測定などマネジメント知識・経験の不足」が 48.5%と最も高く、次いで「行っている「地域活動」の専門知識・経験の不足」（28.3%）、「「地域活動」の理論や哲学が脆弱」（27.3%）の順となった。

前回の調査と比較すると、「計画作成や効果測定などマネジメント知識・経験の不足」（24.2 ポイント増加）、「「地域活動」の理論や哲学が脆弱」（10.9 ポイント増加）の増加が目立ち、汎用的な理論や知識が必要とされていることがうかがえる。

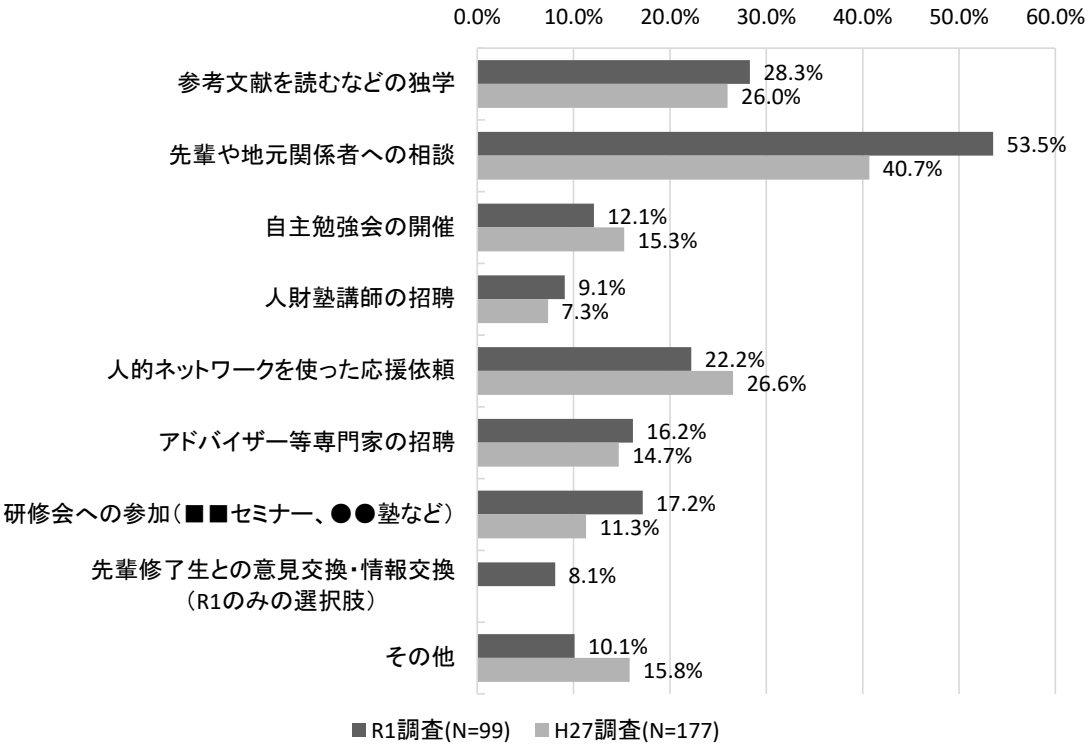


10. 前の設問でお答えになられた問題意識や課題の解消の方法についてお伺いします。下記の選択肢の中から該当するもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）

問題意識や課題の解消方法についてたずねたところ、今回の調査では「先輩や地元関係者への相談」が 53.5%と最も高く、次いで「参考文献を読むなどの独学」、(28.3%)、「人的ネットワークを使った応援依頼」（22.2%）の順となった。

前回の調査においても同様の傾向となっており、特に「先輩や地元関係者への相談」においてはその割合がさらに増加（12.8 ポイント増加）している。

人財塾講師の招聘については、前回の調査よりも微増しているが、他の回答に比べ回答割合が低くなっている。人財塾講師の派遣については、国費による支援を講じていることもあり、修了生の課題解決に寄与する内容となる派遣について検討する必要がある。



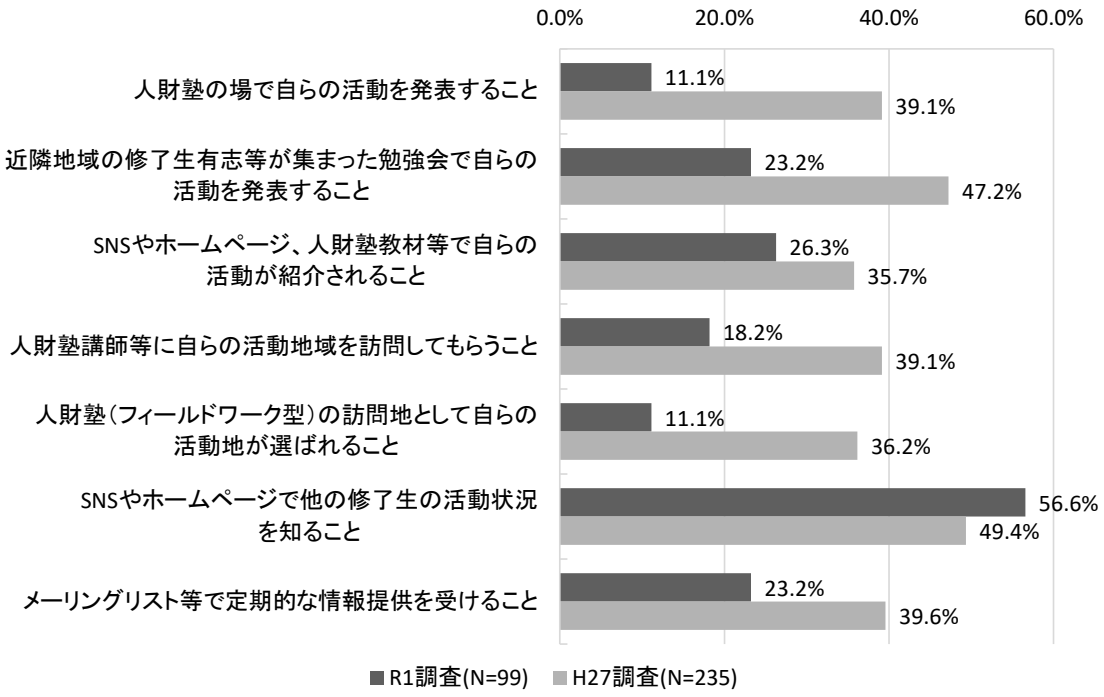
11．貴方ご自身、あるいは、地域の「地域活動」に対するモチベーション維持に向け、人財塾の場の活用についてお伺いします。下記の選択肢の中から該当するもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）

「地域活動」に対するモチベーション維持に向けた、人財塾の場の活用の方法についてたずねたところ、今回の調査では「SNS やホームページで他の修了生の活動状況を知ること」が 56.6%と最も高く、次いで「SNS やホームページ、人財塾教材等で自らの活動が紹介されること」（26.3%）、「近隣地域の修了生有志等が集まった勉強会で自らの活動を発表すること」「メーリングリスト等で定期的な情報提供を受けること」（23.2%）の順となった。

前回の調査においても、「SNS やホームページで他の修了生の活動状況を知ること」の回答は最も割合が高く、SNS やホームページでの情報発信が依然として効果的だと考えられる。

修了生の活動状況を知ることについての回答の割合が増加していることを考慮すると、自身の活動の成果や現状のアウトプットよりも、他者の活動事例をインプットすることが求められていると考えられる。その媒体については、SNS やホームページといった視覚的に情報が得られる媒体が求められる一方で、メーリングリスト等といった文字情報が求められるニーズは減少傾向にあることがうかがわれる。

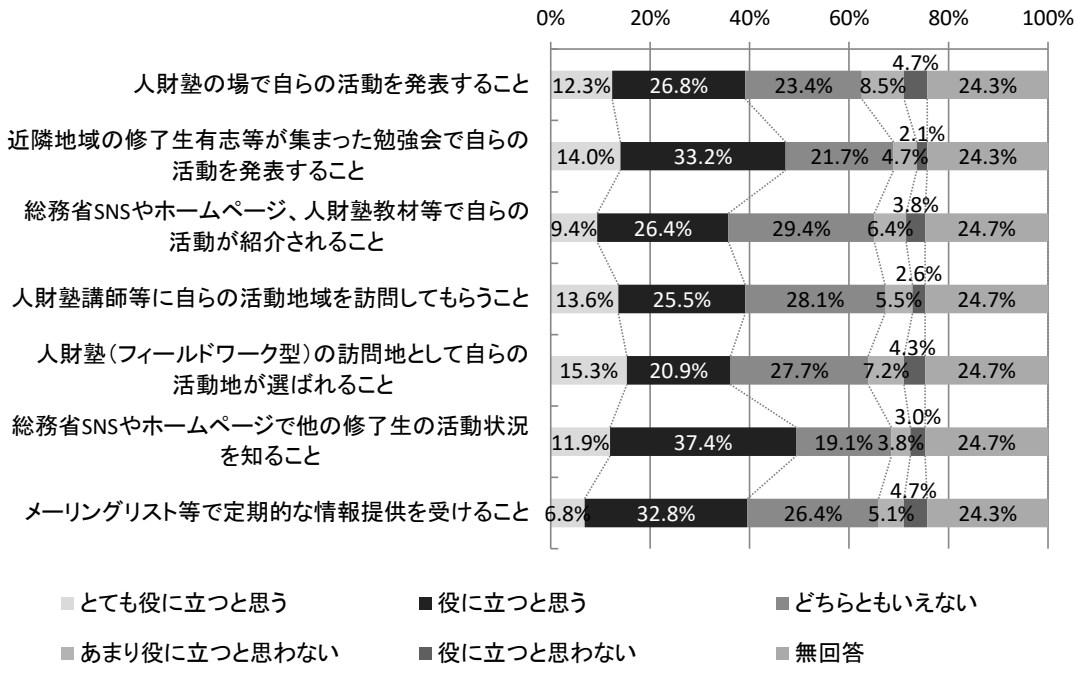
また、人財塾や勉強会で自らの活動を発表することや、講師や人財塾受講生が自らの地域へ訪問することについての回答の割合が大きく減少している状況については、受講生のニーズに沿った人財塾のカリキュラムや開催・運営等のあり方について検討する必要がある。



（参考）H27 調査（N=235）

貴方ご自身、あるいは、地域の「地域活動」に対するモチベーション維持に向け、人財塾等の場の活用についてお伺いします。

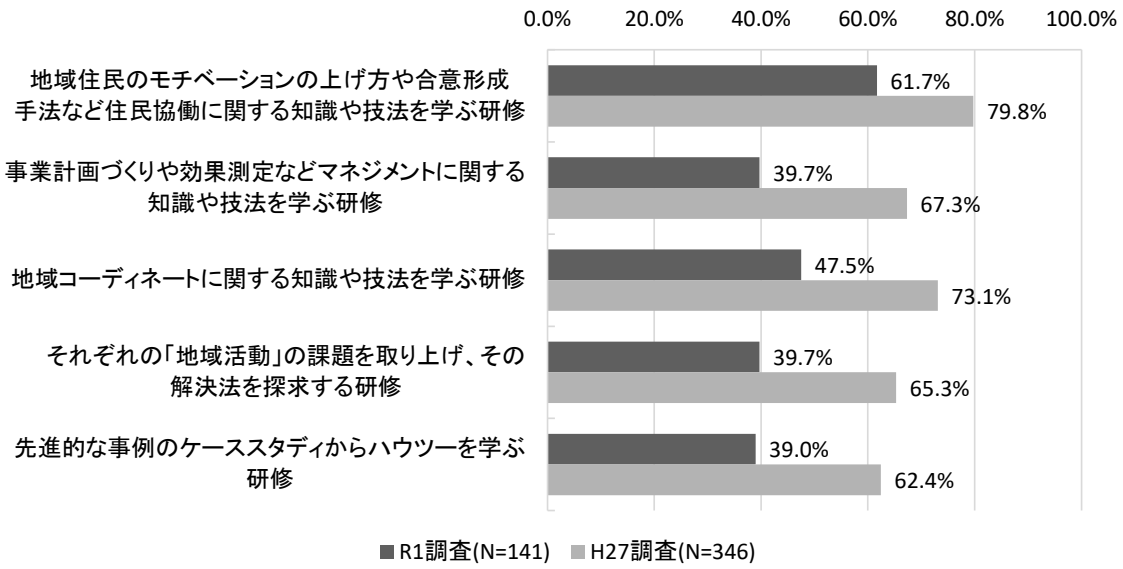
下記の項目それぞれについて、５段階でお答えください。（○はそれぞれ一つ）



12. 全ての方にお伺いします。貴方が今後受講したいと考える研修内容についてお伺いします。下記の選択肢の中から該当するもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）

今後受講したいと考える研修内容についてたずねたところ、今回の調査では「地域住民のモチベーションの上げ方や合意形成手法など住民協働に関する知識や技法を学ぶ研修」が 61.7%と最も高く、次いで「地域コーディネートに関する知識や技法を学ぶ研修」（47.5%）、「事業計画づくりや効果測定などマネジメントに関する知識や技法を学ぶ研修」「それぞれの「地域活動」の課題を取り上げ、その解決法を探求する研修」（39.7%）の順となった。

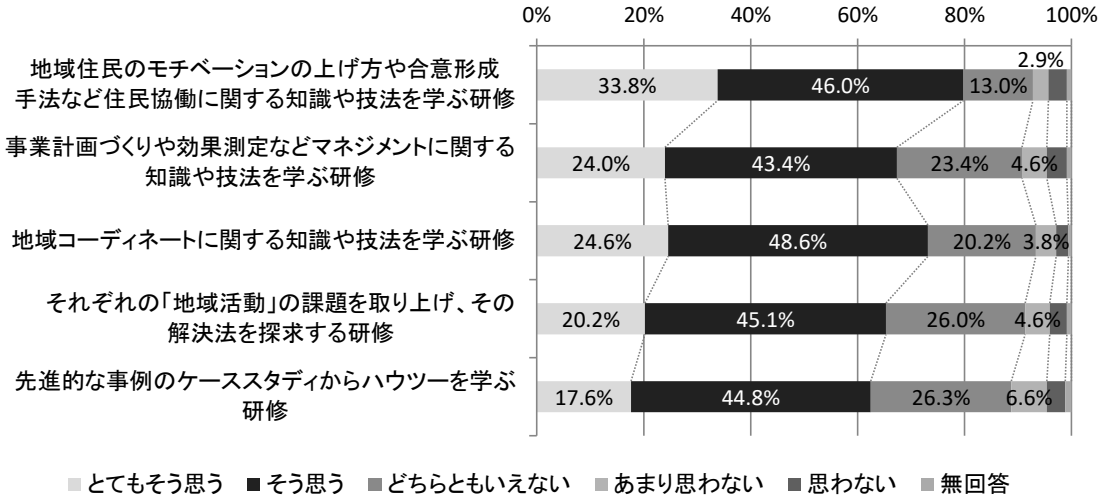
前回の調査においても同様の傾向がうかがわれ、特に「地域住民のモチベーションの上げ方や合意形成手法など住民協働に関する知識や技法を学ぶ研修」の回答は最も割合が高い。



（参考）H27 調査（N=346）

全ての方にお伺いします。貴方が今後受講したいと考える研修内容についてお伺いします。

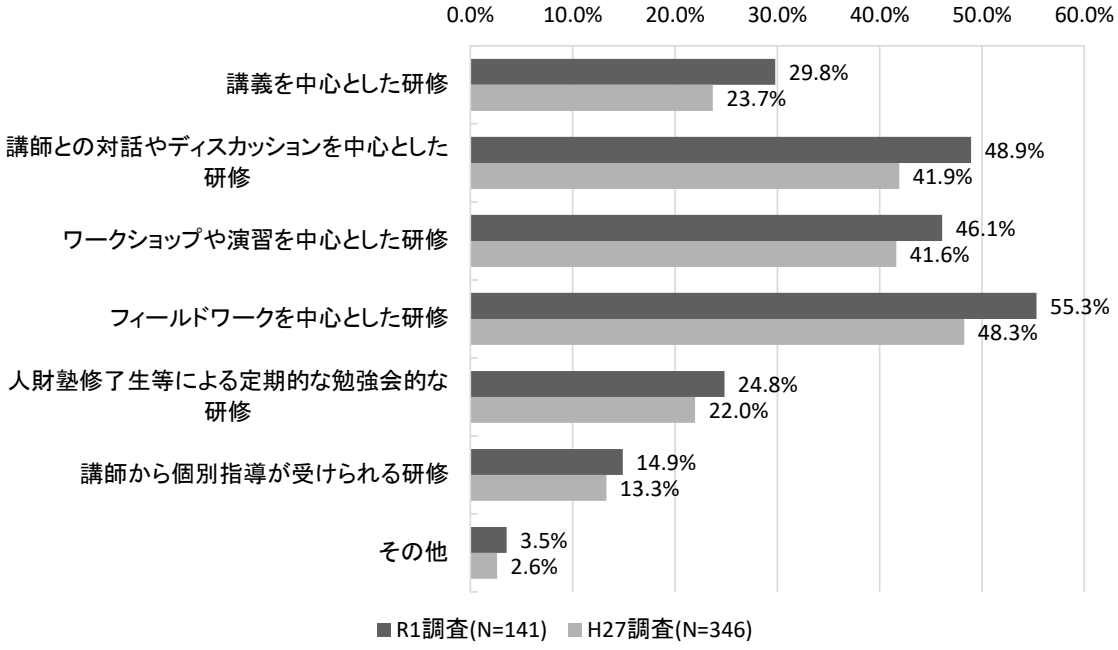
下記の項目それぞれについて、５段階でお答えください。（○はそれぞれ一つ）



13. 貴方が今後受講したいと考える研修のスタイルについてお伺いします。下記の選択肢の中から該当するもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）。

今後受講したいと考える研修のスタイルについてたずねたところ、今回の調査では「フィールドワークを中心とした研修」が 55.3%と最も高く、次いで「講師との対話やディスカッションを中心とした研修」（48.9%）、「ワークショップや演習を中心とした研修」（46.1%）の順となった。

前回の調査においても、同様の傾向がうかがわれ、座学よりも、フィールドワーク、講師との対話、ワークショップ等、自身で考え、議論しながら進めていくスタイルが求められている。

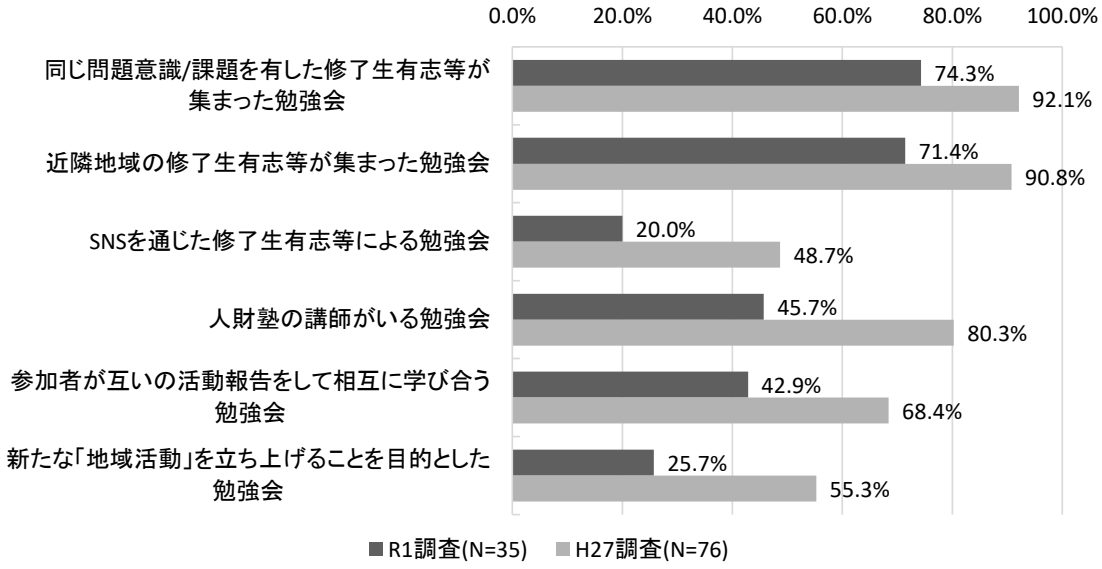


14. 前の設問で「人財塾修了生等による定期的な勉強会的な研修」とお答えの方にお伺いします。どのようなスタイルが良いですか。下記の選択肢の中から該当するもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）

さらに、前記設問において、「人財塾修了生等による定期的な勉強会的な研修」と回答した者を対象に、さらに具体的な研修のスタイルについてたずねたところ、今回の調査では「同じ問題意識/課題を有した修了生有志等が集まった勉強会」が 74.3%と最も高く、次いで「近隣地域の修了生有志等が集まった勉強会」（71.4%）の順となった。

前回の調査においても、同様の傾向がうかがわれ、同じ問題意識や課題、あるいは近傍の地域の者との勉強会の方が求められている。

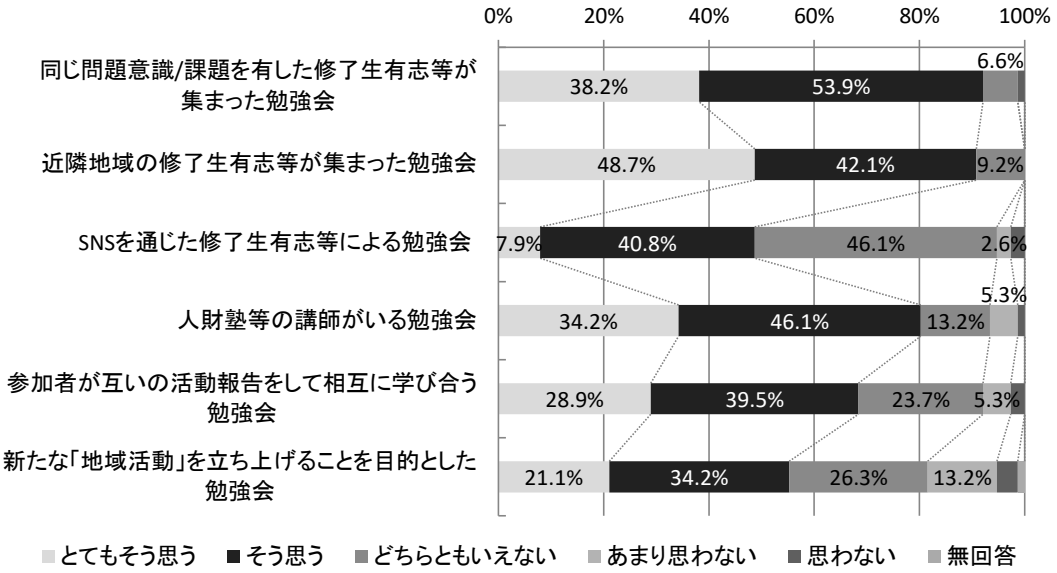
その一方で、「人財塾の講師がいる勉強会」は今回の調査では 45.7%、前回の調査では 80.3%と大きく減少しており、その要因の分析と、人財塾講師の派遣について、そのあり方を検討する必要がある。



（参考）H27 調査（N=76）

前の設問で「人財塾修了生等による定期的な勉強会的な研修」とお答えの方にお伺いします。どのようなスタイルが良いですか。

下記の項目それぞれについて５段階でお答えください。（○はそれぞれ一つ）



●地域別の集計

それぞれの選択肢に対し、地域別に集計すると、「同じ問題意識/課題を有した修了生有志等が集まった勉強会」は、関東・北陸、北海道・東北で志向する傾向がみられる。

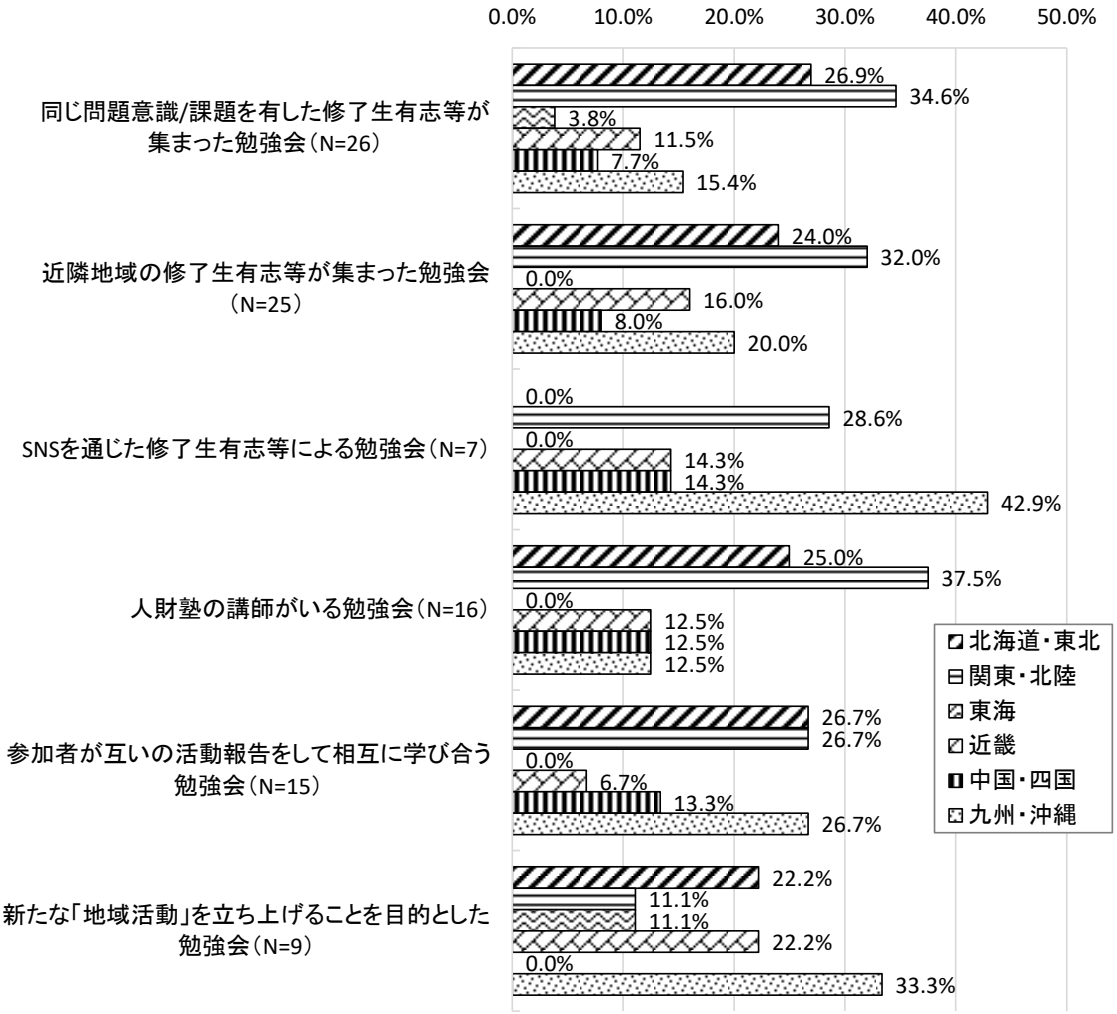
「近隣地域の修了生有志等が集まった勉強会」は、関東・北陸、北海道・東北、九州・沖縄で志向する傾向がみられる。

「SNS を通じた修了生有志等による勉強会」は、九州・沖縄、関東・北陸で志向する傾向がみられる。

「人財塾の講師がいる勉強会」は、関東・北陸、北海道・東北で志向する傾向がみられる。

「参加者が互いの活動報告をして相互に学び合う勉強会」は、関東・北陸、北海道・東北、九州・沖縄で志向する傾向がみられる。

「新たな「地域活動」を立ち上げることを目的とした勉強会」は、九州・沖縄、北海道・東北、近畿、で志向する傾向がみられる。



■参考資料

参考資料３．全国地域づくり人財塾修了生地域づくり活動調査

１．全国地域づくり人財塾修了生地域づくり活動調査アンケート票

２．全国地域づくり人財塾事例報告者の地域づくり活動事例調査報告

全国地域づくり人財塾では、修了後、受講生それぞれが行う地域活動の姿をより具体的にイメージしてもらうことを目的に、修了生を講師として招聘し、地域活動の模様について報告してもらう時間を設けている。

ここでは、事例発表者の地域づくり活動を事例集として整理した。

	取組	所属	報告者
1	つながりが紡ぐストーリー～巡り合わせから生まれる地域づくり	千葉県千葉市	渡辺大樹
2	人も地域も発酵する町づくり～信州木曽町が美味しくて楽しい！	長野県木曽町	都竹亜耶
3	実践あるのみ！～考えてるだけじゃやってないのと一緒だよー！	愛媛県宇和島市	村上将司
4	柏町限定情報紙「かしわなほっとぷれす」～情報を紡いで絆づくり	埼玉県志木市	石塚匠
5	武生に来たらボルガライス～ご当地グルメで盛り上がる越前市～	福井県越前市	波多野翼
6	これからの地域経営にファンドレイジングを活かす	滋賀県高島市	戸田由美
7	広域連携による人財育成～人と地域がつながる置賜へ	置賜広域行政事務組合	齋藤拓也
8	公務員として地域づくりを支える～カタクリ百万本の里山づくり～	福井県大野市	今村智子
9	伝統を紡ぐまちづくり～「房州うちわ」の新たな展開を目指して～	千葉県館山市	秋山歌南子
10	モノモノコウカンプロジェクト～物々交換イベント開催～	鹿児島県志布志市	田中慶悟
11	人財を活かしたまちづくり～つながりから生まれる住みよさ	栃木県栃木市	鈴木晃子
12	楽しく続ける地域づくり～踏み出そう、はじめの一歩	兵庫県朝来市	高本恵三
13	千年つづくむらさなごうち～小さな自治を継承していくために	徳島県佐那河内村	安富圭司
14	宮崎ベースキャンプ～「ゴミ拾い」からはじまる地域イノベーション	宮崎県宮崎市	池袋耕人
15	交流の場づくり～人は人で磨かれる	小平市文化振興財団	神山伸一
16	分を学ぶ「大分学」～自分のまちの魅力を再発見～	大分県大分市	幸重陽子
17	地域をかきまぜる ～自然と繋がる人、モノ、コト ～	北海道岩見沢市	高瀬浩樹

人財塾の受講効果をみると、講義を通じてノウハウ等の手法を学び、地域や活動の再点検に臨んだ事例発表者がいる一方で、講師の言葉等により、これまで取り組んできた活動に対する自信を得たなどの内面的な活性化につなげている事例発表者がみられた。また、受講の効果を活かし新たな活動に取り組むケースがみられた一方で、受講の効果を活動の振り返りに活かし、その後の活動の改善に役立ているケースがみられている。

		所属	氏名	これまでの取組	受講目的
1	平成27年度	千葉県千葉市	渡辺大樹	該当なし	・漠然と捉えていた「地域づくり」とは何かを知りたい。 ・他自治体等の参加者との交流を通じて、刺激や新たな気づきを得たい。
2		長野県木曽町	都竹亜耶	・木曽町役場企画財政課が主管となる事業に携わりつつ自主提案事業を担当。	・地域づくりの分野のプロフェッショナルの手法や想いを直接的に学ぶこと。 ・全国各地の同じ志をもつ人たちとの交流を通して多様な気づきを得ること。
3		愛媛県宇和島市	村上将司	・御槇プロジェクト、地域インターン生受入れ、九島プロジェクト等を実施。	・ノウハウの習得と人脈形成。 ・全国の地域づくりに熱いメンバーとの交流。
4	平成28年度	埼玉県志木市	石塚匠	該当なし	・仕事へのモチベーションが上がらない時期の気分転換。 ・職員が地域に飛び出すきっかけや仕組みについて先進事例を知り、情報交換したい。
5		福井県越前市	波多野翼	・越前市の知名度アップと気軽にできるまちづくりの証明。	・熱意をどう形にしていくかを学びたいと思い受講。
6		滋賀県高島市	戸田由美	・受講前は自身の知見を高めることと、まずは「ファンドレイジング」という言葉を高島市内に伝えることが目標。	・全国各地の地域づくり実践例を学ぶ。またその実践者との交流。

このほか、受講により構築された修了生ネットワークからの発言や意見等により刺激を受け、活動のモチベーション向上につなげているケースがみられている。

	人財塾で学んだこと・効果
1	・地域づくりのためには、フラットな立場で対話ができる環境整備が必要であることを認識し、今後の地域づくりの取組に活かしていくこととした。 ・活動を展開していく上でキーパーソンとなるコアメンバーをいかに発掘していくかが大切であることを学んだため、今後の活動でそのような人々をつなげていくことを意識していこうと考えた。
2	・豊重先生の講義からは地域づくりに関わる上での資質と精神、富永先生からは次世代を育てるうえでの心意気、飯盛先生からは創発に集約された具体的な手法について深い学びを得ることができた。いずれも以降の活動の指針となった。
3	・講師の方々の取組や考え方、分析について非常に学ぶところが多かった。「地域づくり」という分野はある意味カテゴライズできないものであり、講師陣やテーマ、学ぶ分野が多種多様で常に刺激を受け続けた 3 日間！ ・今後向かうための新たな発見というよりも、これまでの自分自身の考え方や行動の再確認ができたことが非常に大きい。
4	・既に地域に飛び出していた各地の職員や地域おこし協力隊の熱意に感銘を受ける。 ・自庁内で途絶えていたヨコやナナメの関係づくりの復活を決意。 ・飯盛講師のプラットフォームの考え方や富永講師の多様な協働の設計図について学ぶ。 ・地区担当職員制度の創設と地区まちづくり会議の制度設計に取り組む。
5	・当事者としてチャレンジする強み。 ・多くの人を巻き込む重要性。 ・切磋琢磨する仲間づくりの重要性。
6	・リーダーシップは、特定の誰かでなく個々人の中に見出されるということ。 ・誰かの思いに共感する人が集まった時に、集まった力が物事を動かす推進力になること。

		所属	氏名	これまでの取組	受講目的
7	平成２８年度	置賜広域行政事務組合	齋藤 拓也	・置賜各市町から推薦された地域づくりに取り組む住民と一緒に置賜八食祭を実施した。 ・新たな広域連携の研究・推進に向けて、置賜各市町の企画担当職員と協議を進めていた。	・地域づくり人財塾の講師から学び、これまでの取組だけでなく、様々なことに活用するため受講した。 ・現在の状況を前に進めるための具体策について学びたかった。
8		福井県大野市	今村 智子	・構想を持ったリーダーとの出会いが始まり。多くのリーダーは「どこに行っても門前払いだった」と言う。一旦すべて聞き入れ、一緒に考える。制度は断る道具ではない。	・出て来ない人をどうやったら参加させられるか。自分が市をどうやって変えるか。地域づくりに関する質問の模範解答を知りたいと思っていました。
9		千葉県館山市	秋山 歌南子	・地域づくり人財塾を受講したのは、社会人２年目。市役所職員として基本的な知識を養うとともに、担当業務の全体像を把握することができた頃、「住民自治組織の支援」とは、具体的にどのように活動していけばよいのかわからず、悩んでいる状況だった。	・地域づくりの活動を主体となって進めていくためのヒントを得ること。 ・全国の市町村職員と情報交換をすること。
10		鹿児島県志布志市	田中 慶悟	・過疎高齢化が進む鹿児島市東部（大隅半島エリア）で若者が地域に愛着をもち、域外に情報発信できる機会が少ないとの問題認識があり、同じような志を持つ人達と地域づくり活動に取り組んできた。	・地域活動の実践者の指導や姿勢を学ぶ。 ・熱い志を持った参加者との交流。
11	平成２９年度	栃木県栃木市	鈴木 晃子	・職場や地域における人のつながりづくりと、そのつながりを、地域をより良くするための仕組みに活かす。	・全国の地域づくりの様々な事例を知り、知見を広める。 ・教育と地域づくりをつなげるヒントを得たい。
12		兵庫県朝来市	高本 恵三	・受講前は、地域住民として自治会の青年団や消防団活動に従事。 ・当たり前のこととして、深く考えずに参加していた。	・地域で自らが主体的に活動できる手法を学ぶ。 ・全国の地域活動実践者との交流。
13		徳島県佐那河内村	安富 圭司	・想いを持って地域に入り、行政と地域・住民等が地域状況を共有し、内発的動機付けによって課題を楽しむ行動に移せる環境づくりを目指す。	・行政に頼らない地域づくりの実践の現状を知る。 ・内発的動機付けによる活動に必要な環境と要素を学ぶ。

	人財塾で学んだこと・効果
7	・豊重講師の「目くばり、気くばり、心くばり」、飯盛講師の「プラットフォームと創発」、森講師の「プランドハプンスタンスセオリー」、前神講師の「県職員として地域に飛び出すこと」といった講師の話から様々なことを学ぶことができた。 ・人財塾の置賜支部を作るという行動宣言を行い、置賜地域で人財塾の学びを共有したい方に声がけを行い、楽しく活動し学ぶことができる仲間づくりから始めた。 ・平成 28 年 8 月には、地域づくり人財塾東北自主研修@仙台を開催した。
8	・活動の結果でなく過程が大切。 ・地域づくりは地域によって違っていい。正解はない。 ・外とのつながりは大切。
9	・様々な地域の状況や活動の取組方法を学び、地域課題に対して、自ら一歩踏み出すための勇気を得ることができ、日々の業務に対する姿勢が変わった。 ・館山市について客観視する機会となり、新たな発見とともに市に愛着が沸いた。 ・活動に人を「巻き込む」のではなく、「惹き込む」ことが大切ということ。
10	・NPO フュージョン長池の富永先生、元 NHK アナウンサーの森先生など、様々な分野で活躍される講師陣の講義と、それに感銘を受けた参加者との語らいは今も大切な財産となっている。参加者との交流は今も続いている。
11	・人とのつながりが財産であること。 ・プラットフォームという概念。 ・公務員が地域に出て活動することについて（翻訳機としての役割）。
12	・どんなことでも、小さなことでもいいから、「まずはやってみる・チャレンジしてみる」ことが大切。 ・自らが主体的な地域活動を行う一歩を踏み出した。 ・一人でやるな、みんなでやれ（1 能力×100 人＞100 能力×1 人）。 ・住民みんなの「居場所と出番」をつくる。
13	・豊重さんの想いが人を動かす原動力と吸引力になっていることが分かった。 ・個人の小さな想いを言語化し行動に移し夢中で頑張ると、そのときは想像もしていない結果と成果になっている。

		所属	氏名	これまでの取組	受講目的
14	平成30年度	宮崎県 宮崎市	池袋 耕人	・まちづくりに多様な人が関われる仕組み、何か行動したい人を支援する仕組みをつくることを目的に、まちなか清掃、夢プレゼンテーション大会、各種ワークショップの取組を実施している。	・他地域で実践されている地域活動の取組を参考として学ぶ。 ・他講師の講義を受講することで地域づくりの考え方について学び直しの機会とする。
15		(公財) 小平市 文化振 興財団	神山 伸一	・活動の成果を発信すべく情報発信に取り組む。	・人づくりの効果的な実践方法を学ぶこと。 ・全国で活躍している実践者と交流すること。
16		大分県 大分市	幸重 陽子	・発足当初より「大分学研究会」運営委員として活動している。	・地方が活性化するまちづくりの先進事例を学ぶ。 ・各地で活躍する実践者（講師・受講生）との交流。
17	平成31年度	北海道 岩見沢 市	高瀬 浩樹	・地域のことを知っているのは地域の人。ゆるい雰囲気で雑談できる場づくりを企画。	・事例の学習、多様な実践者との交流。

	人財塾で学んだこと・効果
14	・現在、中心市街地活性化を業務として担当していることから、効果的なプラットフォーム設計の考え方(飯盛講師)を意識しながら、事業設計を行っている。
15	・受講生の熱い思いと意識の高さ。 ・熱い講師陣から贈られる言葉の数々。 ・これまでの活動が理論的に整理され、自分の中で深化。 ・地域を作っていくのは「人」。人を育てることが地域づくりになるということを再認識。
16	・私が事例発表した「大分学研究会」は、郷土愛の醸成に寄与する活動として全国的にかなり先進的な事例である事がわかった。検定試験では県内全市町村の首長賞の提供や県内の企業からの支援を受けていること、例会に首長や県内で活躍する人を講師として招へいする等の手法について、受講生からたくさんの問い合わせがあった。この活動の効果について振り返り、再認識することができた。 ・人材塾の講師の方々の活動は、地域の人材育成に直結する点がとても多かった。また、その時々の事象からブラッシュアップしていく柔軟な体制作りも学ぶことができた。
17	・仲間との盛り上がりが、仲間だけでの盛り上がりになっていなかったか。誰もが入ってきやすい場づくりが必要だと感じ、これまでの取組を見直すきっかけに。 ・できる範囲、手の届く範囲でまず実践し、自然と継続していることが重要と再認識。

１．千葉県千葉市　つながりが紡ぐストーリー～巡り合わせから生まれる地域づくり

千葉市保健福祉局地域包括ケア推進課　渡辺　大樹（H24 JAMP 受講）

<table>
<tr><td>市町村
（地域）
概況</td><td colspan="2">・人口　980,264 人（令和元年 12 月 1 日現在）、面積　271.77k ㎡
・昼夜間人口比率が 97.9%（平成 27 年）と首都圏政令指定都市で最も高く、千葉県内における通勤先として、高い拠点性を有している。
・総人口は、令和 2 年をピークに減少局面となる見込みである。</td><td rowspan="3">
</td></tr>
<tr><td rowspan="2">活動主体と
活動地区</td><td>報告者の活動経歴</td><td>地域づくり人育成講座受講後、花見川区地域振興課地域づくり支援室へ異動（2 年間従事）
また、業務外の地域づくり活動への参加も開始</td></tr>
<tr><td>活動地区</td><td>・千葉県千葉市及び千葉県内</td></tr>
<tr><td>地域づくり
の状況</td><td colspan="3">・小学校区から中学校区の広さの地域ごとに、地域で活動する様々な団体が参加して、持続可能な地域運営の体制づくりを進めるための組織である「地域運営委員会」の設立を推進している。</td></tr>
<tr><td>地域課題
または
問題意識</td><td colspan="3">・地域の魅力が発掘できていない。
・地域づくりの一翼を担う行政職員の動機付けが不十分。</td></tr>
<tr><td>これまでの
取組
（受講前の
取組）</td><td colspan="3">
<table>
<tr><th>開始年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td></td><td>該当なし</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>人財塾の
受講目的</td><td colspan="3">・漠然と捉えていた「地域づくり」とは何かを知りたい。
・他自治体等の参加者との交流を通じて、刺激や新たな気づきを得たい。</td></tr>
<tr><td>人財塾で
学んだこと
・効果</td><td colspan="3">・地域づくりのためには、フラットな立場で対話ができる環境整備が必要であることを認識し、今後の地域づくりの取組に活かしていくこととした。
・活動を展開していく上でキーパーソンとなるコアメンバーをいかに発掘していくかが大切であることを学んだため、今後の活動でそのような人々をつなげていくことを意識していこうと考えた。</td></tr>
<tr><td>受講後の
取組</td><td colspan="3">講座で学んだ対等な対話ができる場づくりとキーパーソンの発掘を目指し、業務内外で以下の取組を開始した。
<table>
<tr><th>年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>H25.10 月</td><td>花見川どっと com！</td><td>大学や高校と連携し、若者視点で行政区内の資源（自然、文化、商業、施設等）を発掘する事業を新たに開始した。</td></tr>
<tr><td>H26.6 月</td><td>ちば活</td><td>「10 年後の千葉市に“活”を入れること」を目的として、千葉市職員有志による自主研修グループを結成した。</td></tr>
<tr><td>H28.4 月</td><td>SIMULATION ちば 2030</td><td>公務員や民間企業の有志により、架空都市「C 市」を舞台に未来の自治体経営を体験する対話型ワークショップを開発し、住民、行政職員や大学生等に対して実施した。</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

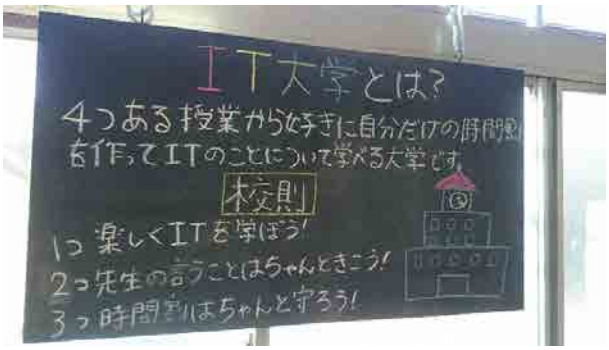
■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1　地域の魅力を発見するためには…（H24 年度）

講座受講後のタイミングで、行政区の地域づくりを担当する部署に異動となった。異動した当時は、行政区にある様々な資源（自然、文化、商業、施設等）の魅力を再発見し、行政区内外に発信していく取組を検討していた。検討の結果、行政区に訪れる交流人口を増やすために、SNS を活用した魅力発信事業（花見川どっと com！）を展開していくこととなった。

●STEP2　協働先探し・連携（H25.4～9 月）

具体的な事業設計の過程では、魅力発見の視点を若者（高校生～大学生）に置くこととし、該当する年代の若者の協力が得られる協働先を探した。その結果、行政区内にある高校と市内他行政区にある大学の協力が得られ、3 者が連携して事業を開始することとなった。



●STEP3　魅力発信の開始（H25.10 月～）

主に大学生が中心となって、行政区内にある商店やお祭り等のイベントを取材した。Facebook を情報発信のプラットフォームとして採用し、随時投稿を行った。また、IT について学ぶことができる講座の開催等、主体的な活動を展開した。

■取組を進める過程で生じた課題

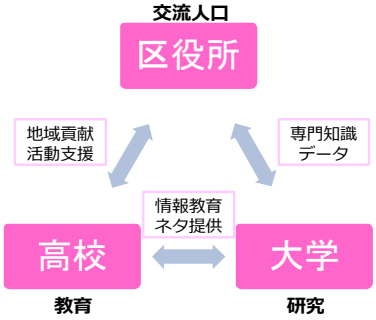
・効果的な実施方法の検討
・Facebook ページの行政における位置づけ
・投稿承認のフロー整理

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●行政区内外の視点を重視した連携関係の構築

行政のみで、目指した若者視点の魅力発信を実現することは難しいと考えられたため、大学や高校に協力を求めることを検討した。行政区内には、大学はなく、高校は 2 校という環境であったため、大学とは市レベルで締結していた連携協定を活用し、高校とは以前から築いていた関係を発展させることにより体制を構築した。

自行政区内の関係者に拘らず、様々な立場からの



協力を得られたことで、取組のバリエーションが生まれた。

●魅力発信にとどまらない相乗効果

行政の主眼は、行政区の魅力発信にあったが、それぞれの主体にメリットが生まれるような仕掛けづくりを行った。大学には、専門的な知識やスキルを活かせる場として活用していただくとともに、高校には、魅力発信と並行して、ソーシャルメディアに関するリテラシー教育の機会を設けた。

■成果

多様な主体が集う魅力発信のプラットフォームを創設した。取組にあたっては、行政区内にはない資源（大学）を、既存の制度を活用しながら確保しつつ、それぞれの特徴を活かした魅力発信を行うことができた。

また、既存のモノだけに着目するのではなく、区内で開催されているイベント等のコトにも注目することで、豊富なジャンルの情報を提供した。

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

受講前は、入庁から間もない時期であり、地域づくりという言葉に対して漠然としたイメージを抱いていた。一方、入庁前から地方自治や地域活性化に興味があり、市役所業務はどのような分野でも地域との連携や協働は必要不可欠と考え、地域づくりとは何かを自分自身に落とし込むことが重要と捉えていた。

育成講座（人財塾）では、他自治体の事例に見られる特徴を学ぶとともに、参加者との交流を通じて、今後携わることになるかもしれない地域づくりの活動に活かしていきたいと考えていた。

受講の翌月に地域づくりを担当する部署への異動となり、育成講座（人財塾）での学びを実践する機会が訪れたことは、貴重な巡り合わせであった。

■受講後の取組、今後の方向性

●想いを同じくする仲間や刺激の発見

受講後、全国各地に強い想いを抱いている自治体職員がいることを認識する一方で、活動を継続していく上では、定期的な刺激を受けることによるモチベーションの維持が重要であると感じた。

私は、イベントへの参加やSNS上での交流を通じて、市役所内外で活動されている自治体職員とのつながりをつくることを心掛けた。その中で生まれた活動が、市役所職員有志により結成された自主研修グループの「ちば活」である。この活動は、目的として、10年後の千葉市に“活”を入れることを掲げ、千葉市

を拠点として、自らが活躍する人材となり、千葉市に活力を与えることを目指している。

具体的な活動は、市役所職員がチャレンジしたいことをスケッチブックに書き、友人紹介によりバトンをつなげ、最終的には動画作品の制作と交流会の開催を実施した「撮ってもいいとも！」プロジェクトがある。本プロジェクトでは、友人紹介のバトンを渡す際には、相手が自分にとってどのような存在なのかを紹介するシーンを挿入した。このことは、講座の中で学んだお互いのつながりが生みだすネットワーク意識の醸成という面で効果的だった。

このプロジェクトを通じて、職員同士がそれぞれの想いに共感する機会を設けることができた。

撮ってもいいとも！プロジェクト

●地域づくりを我が事へ

講座の中で紹介される地域づくりの好事例は、行政の立場だけではなく、住民や事業者等の異なる立場からアプローチされている取組が多くあった。
私自身も、行政による一方通行の提案ではなく、関係者により創り上げられた納得解が地域づくりを推進する原動力になると考えている。

そのような過程を体験できる取組として参画したものが「SIMULATION ちば 2030」である。この取組は、熊本県庁の自主活動グループである「くまもと SMILE ネット」が開発した未来の自治体経営を体験するシミュレーションゲーム（対話型ワークショップ）を、千葉にある架空都市を舞台として改変したものである。

SIMULATION ちば 2030 を体験した参加者からは、地域づくりには短期的な成果だけを追い求めるのではなく長期的な視点が欠かせないことを理解した等の感想が寄せられる。

現在、全国各地でこの取組が盛んになっていることは、将来の地域づくりを考える機会として、講座で言及されていたプラットフォームとしての役割を果たしていると言える。

このような取組を通じて、地域に暮らす多くの人々が地域に対する興味・関心を高め、自身と地域を接近させる契機になることを願っている。

２．長野県木曽町　人も地域も発酵する町づくり～信州木曽町が美味しくて楽しい！

木曽町役場農林振興課　都竹　亜耶（H25 JAMP 受講）

<table>
<tr><td>市町村
（地域）
概況</td><td colspan="2">・人口 10,933 人（2019 年 12 月 1 日現在)、面積（476.03k ㎡）
・長野県の南西部に位置し、中山道の福島関所や霊峰御嶽山を擁する。
・高齢化率は 2015 年時点で 38.9%の少子高齢化が深刻化する中山間地</td><td rowspan="2"> </td></tr>
<tr><td rowspan="2">活動主体と
活動地区</td><td>報告者の活動経歴</td><td>・H23～H25 年木曽町地域おこし協力隊（企画財政課）
・H25～H26 沖縄県名護市地域おこし支援員
・H27～現在　木曽町役場農林振興課（嘱託職員）
・H22～食文化を多角的に編集発信、ケータリング、食のコンテンツ開発等併行して国内外で活動中</td></tr>
<tr><td>活動地区</td><td colspan="2">・長野県木曽町では町内全域を対象に事業を担当。
・副業として食の編集、講座、ケータリングは国内外で活動。</td></tr>
<tr><td>地域づくり
の状況</td><td colspan="3">・平成 18 年木曽町まちづくり条例制定。合併前 4 町村に地域協議会を設置し特色を保持。
・平成 25 年創造農村フォーラム開催地。日本で最も美しい村連合加盟など中山間地の自然資源に基づいた地域づくりが活発。</td></tr>
<tr><td>地域課題
または
問題意識</td><td colspan="3">・県下一面積の広さ故にインフラの安定に時間も経済的にも割かれやすい。
・少子高齢化に対する危機意識があり事業化はされているものの具体的な策に至らない。
・資源が豊富で特色ある旧 4 町村からなる木曽町で一丸となれるテーマを絞りきれない。</td></tr>
<tr><td>これまでの
取組
（受講前の
取組）</td><td colspan="3">・木曽町役場企画財政課が主管となる事業に携わりつつ自主提案事業を担当。
<table>
<tr><th>開始年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>H23.4 月</td><td>地域資源研究所設立</td><td>地域資源を科学的に活用して産業振興に役立てることを目的に設立・運営。</td></tr>
<tr><td>H24.2 月</td><td>スローフード街道フェスタ</td><td>木曽地域の飲食業関係者が郷土食や地酒を屋台形式でふるまう食の一大イベント。</td></tr>
<tr><td>H25.9 月</td><td>地域おこし協力隊全国女子会シンポジウム＆フェスタ</td><td>協力隊女子のスキルと田舎の課題を組み合わせることで繋がる可能性について多角的な分野から考え、各地の食で交流する企画運営。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>人財塾の
受講目的</td><td colspan="3">・地域づくりの分野のプロフェッショナルの手法や想いを直接的に学ぶこと。
・全国各地の同じ志をもつ人たちとの交流を通して多様な気づきを得ること。</td></tr>
<tr><td>人財塾で
学んだこと
効果</td><td colspan="3">・豊重先生の講義からは地域づくりに関わる上での資質と精神、富永先生からは次世代を育てるうえでの心意気、飯盛先生からは創発に集約された具体的な手法について深い学びを得ることができた。いずれも以降の活動の指針となった。</td></tr>
<tr><td>受講後の
取組</td><td colspan="3">・これまでの活動を総括して各事業に学生や商店街・地元企業などとも連携をはかり、参加者が地域の活動を多面的かつ横断的に関われるように工夫した。
<table>
<tr><th>年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>H27.1　月
～継続</td><td>アートとアカデミックが醸し出す木曽町醗酵プロジェクト
【はっこうのがっこう】</td><td>木曽の地域資源、発酵の町づくり条例、官学連携等の要素を融合させた多様なコンテンツとして展開し、固有の観光商品化とコミュニティ形成につなげる代表を持たない行政事業。</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1　担当事業の実務作業の中から、課題と可能性を汲み取る（H23.4 月～）

a. 国内初の町立研究施設としてすんき乳酸菌や木曽の植物、野生酵母など地域資源の産業利用化するための研究機関として立ち上がりのハード整備及び研究の一部を担当。

b. 木曽郡内の食関連業者がそれぞれの地域の名物料理や特産品を屋台形式で地域内外の人々にふるまう有料イベントの企画運営を担当。

c. 町内の各地域の郷土食の継承のために活動する団体の地元女性グループのお手伝い、体験プログラムの企画や加工施設のメニュー開発のサポートを担当。

●STEP2　各課題に関わる人々が集う機会を設ける（H24.2 月～）

a. 研究テーマに関連した講演会と同時に地域の食資源を用いた食の交流会を開催し、地域住民が研究所に求めることを聞き取る。

b. 食で地域をもてなすことの意義を改めて考える機会となるプログラム内容に再編。a の研究所で培養した菌を用いた天然酵母パンやお酒をふるまったり、食提供方法も共に調理盛り付け作業から関わることで知識と技術を共に学び合う機会とした。

c. 全国各地の地域おこし協力隊女子と地域の郷土食継承に関わる女性たちの交流イベントを開催し、互いの悩みや田舎の魅力について話し合う場とした。

●STEP3　木曽町の課題を横断的に俯瞰し考えるイベントの開催（H25.9 月～）

都市部から移住し地域づくりを仕事とした中で感じた課題と可能性を、女子力×田舎力という切り口で自治総合センターのシンポジウム事業として採択を受ける。
移住者、行政、女性としての立場を活用した全国規模のシンポジウムを行うことで、全国の協力隊女子と地域づくりに奔走する民間、学生、行政が膝を突き合わせて互いの得手不得手を共有できる機会とした。

■取組を進める過程で生じた課題

a. 地域資源の学術的研究機関の要素が強く地域住民にとっては敷居が高すぎる。
b. 来場者の満足度は高いが出店する側は疲弊気味。
c. 高齢化に伴う後継者不足。
d. 若年層と高齢者層の広報手段の違い（デジタルかアナログか）

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

a. 行政が運営する研究所としての特色を明確にする。（地元の学校との連携、特産品振興、農業利用等）
b. イベント疲れしない仕組み（学び、同業者との情報交換の場として機能させる）
c. 地元住民にも関心を寄せてもらう為、参加地域の特産品などをふるまうマルシェも同時開催。
d. いずれも共通して食の楽しみの要素を加える。

■成果

・地域づくりの無知無関心層の掘り起こし。
・地元の方々の郷土への誇りの喚起。

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと（いずれも直接会うことで得られる面を重視）

・地域課題に関わる様々な立場のひとや団体の協働の場づくり。
・地域の未来を担う多種多様な人材育成。
・地域活性化における先駆的な事例に関わる方々の実践的なノウハウ。

■受講後の取組、今後の方向性

「アートとアカデミックが醸し出す木曽町発酵プロジェクト」
と題して行政の中立的な立場をフル活用して木曽町の多様なモノコトヒトを交えた仕組みの構築

グローバル規模の価値の創造
（ICT 社会における発酵のまち PR）
木曽町合併 10 周年記念事業として木曽のスローフードをモチーフにしたアニメーションを制作。

ウチとソトへの価値の創造
（発酵のまちとしての観光ブランディング及び
町民意識・知識の醸成）
発酵を支える見えない菌を人気アニメのオリジナルキャラクター化し、動画や町案内冊子を製作。同冊子は仏語版も製作し地元のこどもたちの渡仏交流の際に使用。H27 年度より開始した五感で発酵を楽しむ知的エンターテインメント「はっこうのがっこう」は 5 年目 14 回開催した。毎回テーマを変えることで町内外、年齢層も幅広く、述べ 676 名の参加となり交流人口の拡大に寄与。

木曽に暮らしながら日々刻々と移ろう木曽町の旬の恵やイベントをリアルタイムで発信する facebook ページを有志メンバーでライフワークとして運営。

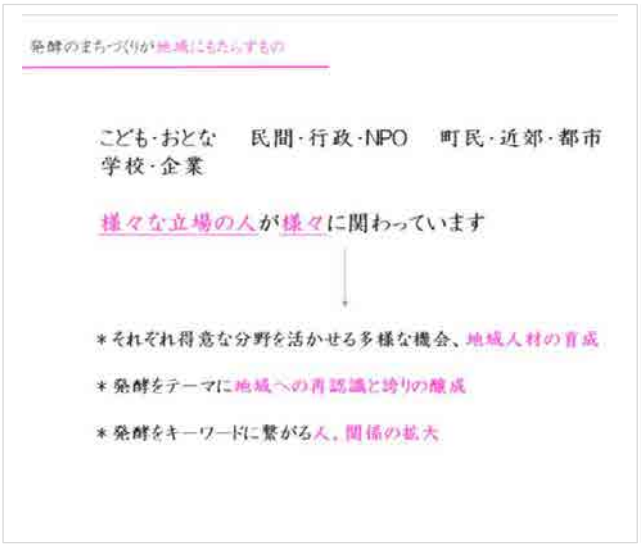
豊重先生の講話の中の潜在的な魅力（農業・観光等）の地域資源の掘り起こしに寄与しているかということを念頭に木曽町の文献や郷土誌を整理しました。

また豊重先生より地域づくりの必須条件としてご教示頂いた

・分析力
・行動力
・人間力

を日々の活動の指針とするために見取り図として整理しました。

富永先生の協働のありかた、そして次世代育成の大切さを念頭にすすめてきました。



飯盛先生の創発する地域づくりの発想をベースに木曽町らしく活動に落とし込みました。

３．愛媛県宇和島市　実践あるのみ！～考えてるだけじゃやってないのと一緒だよー！

宇和島市商工観光課　村上　将司（H26 JAMP 受講）

<table>
<tr><td>市町村
（地域）
概況</td><td colspan="2">・人口 77,465 人（平成 27 年国勢調査）、面積 469.58（k ㎡）
・位置は四国の西南部。食べ物では鯛めし、じゃこ天！養殖真珠の生産量が日本一。みんな伊勢志摩と言うが実は宇和海が日本一。</td><td rowspan="2"> </td></tr>
<tr><td rowspan="2">活動主体と
活動地区</td><td>報告者の活動経歴</td><td>【仕事として】
・H20～　地デジ＆高速インターネット整備の業務でほぼ全ての集落で住民説明会を開催。住民の合意形成のノウハウ（味方の獲得、根回しなど）を習得。
・H24～　集落対策、地域づくり担当。4 年間従事。
・H27～　商工観光課
【私的活動として】
・住んでいる「九島」で様々な活動を。</td></tr>
<tr><td>活動地区</td><td colspan="2">【仕事】
御槇地区（中山間、人口約 300 人）
蒋淵地区（沿岸、人口約 300 人）　その他市内全域
【私的活動】
九島地区（離島）人口約 800 人）</td></tr>
<tr><td>地域づくりの状況</td><td colspan="3">・計画立てたものはなく、機運としてもまだまだ。
・住民参加は一部のみであり、地域づくりの担い手育成、中間支援組織の構築が必要。</td></tr>
<tr><td>地域課題または問題意識</td><td colspan="3">・上述のとおり。地域全体として過疎高齢化の危機感はまだない。</td></tr>
<tr><td>これまでの取組（受講前の取組）</td><td colspan="3">・御槇プロジェクト、地域インターン生受入れ、九島プロジェクト等を実施。
<table>
<tr><th>開始年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>H25.4</td><td>御槇プロジェクト（仕事）</td><td>保育園跡地を農家レストランと宿泊施設へリノベーション。名前は「みまきガーデン」</td></tr>
<tr><td>H27.2～</td><td>地域インターン生受入れ（私的活動）</td><td>九島にて（一社）いなかパイプと連携し、首都圏学生インターンを約 1 ヵ月間受入れ。継続中。</td></tr>
<tr><td>H26.4</td><td>九島プロジェクト（私的活動）</td><td>架橋完成前の九島にて、カフェや特産品開発など「食」にスポットを当てた交流人口拡大の取組。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>人財塾の受講目的</td><td colspan="3">・ノウハウの習得と人脈形成。
・全国の地域づくりに熱いメンバーとの交流。</td></tr>
<tr><td>人財塾で学んだこと・効果</td><td colspan="3">・講師の方々の取組や考え方、分析について非常に学ぶところが多かった。「地域づくり」という分野はある意味カテゴライズできないものであり、講師陣やテーマ、学ぶ分野が多種多様で常に刺激を受け続けた 3 日間！
・今後向かうための新たな発見というよりも、これまでの自分自身の考え方や行動の再確認ができたことが非常に大きい。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>受講後の
取組</td><td>・「巻き込むな！引き出せ！」
・「インプットを加工してアウトプット、それがイノベーション！」
<table><tr><th>年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr><tr><td>R1～</td><td>多文化共生の地域づくり</td><td>技能実習生や外国人配偶者など「在住外国人」は、そこに住んでいれば「地域の一員」。日本人も外国人もできることを持ち寄りながら、互いに高めあい共存する国際交流、多文化共生の地域づくりを展開中！</td></tr></table></td></tr>
</table>

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1　ニーズの発掘は「声なき声」を！

いずれの取組もまずは「ニーズの発掘」に取り組んだ。通常、自治会役員や各団体代表者を集めて意見を聞くものだが、声の大きな男性の意見に引っ張られ、できない理由を並べられ、さらには口だけ番長で動かないというケースが常である。一方女性は自分が楽しいことから発想し、リアルに生活に直結したアイデアを出し、さらには自分がやってみたかったのよー、とりあえずやってみようよーと言ってくるのである。

役員や代表者などもとりあえず集めてワークショップを行うが、会終了後に女性だけを再度集めてホントのところをヒアリングするとワイワイと良い意見が出てくるのである。そういった「声なき声」を拾い、事業化をさせていく作業を行ってきた。

幅広い年齢層の女性で WS

試作を作りながら…

時にはコタツでミーティング

●STEP2　「巻き込むな！引き出せ！」　餅は餅屋。できないことはプロに頼もう！

プレイヤーは「やりたいこと」「できること」はそれぞれ持っていて、やねだん　豊重講師も言われていたが「巻き込むな！引き出せ！」だと本当に思う。巻き込まれた方はたまったもんじゃなくて、巻込み事故に巻き込まれたくないから普通の住民は避けていくもの。住民ひとりひとりの得意分野を上手く引き出してプロデュースする必要があった。

例えば、農家レストランに初めから反対してたあるおばちゃんは豆腐づくりが上手。プロジェクトに参画してとは言わないが、料理には豆腐を使ってあげる。これで立派なプレーヤー。

講釈ばかりで動かないおっちゃんは事務局をやるのが好き。なのでプロジェクトの会計を依頼。料理や接客はできないけど自分が作る米に自信があるおっちゃんからは米を仕入れ、お客さんに褒めてもらう。褒めてもらって嫌な人はいないので、もっと自信がつく。逆に人としゃべるのが好きなおばちゃんにはドンドン前に出ていってもらって「顔」になってもらう。こういった得意分野を上手く引き出し好循環を生む仕掛けにより自然と地域全体にプレーヤーが広がっていった。

しかし、デザインや写真、人財募集なんかは過疎集落ではなかなかできる人がいない。そこはやはり地域外のプロやできる人にキチンと頼むことでキチンとしたものになっていく。自前でやろうとすると陳腐なものになってしまう。

「地域」というものを良く知るデザイナーやカメラマン、メディアに助けてもらい、プロジェクトの初めから参画してもらうことで、表面だけではない根っこの部分まで理解してもらって成果物に表現してもらうことでプロジェクトの精度もグンと上がってくる。

【御槇 PJ】御槇米 PR のポスター

【九島 PJ】人財募集

●STEP3　小さなトライアルの積み重ね。動いていると「瓢箪から駒」

重要なことは「とりあえずやってみる」ことだと考えている。やってみないとわからないことは多く、やってみて初めてわかる、次につながる、二の手三の手を打てる、など動いていく価値は無限大。「御槇 PJ」で農家レストランをスタートさせると、地域内から弁当や仕出しの注文が多く入るようになった。地域外に出ていた消費が地域内で循環するようになったのだ。

また「九島 PJ」では「食」での交流人口に取り組んでいたが、今では多世代地域共生の福祉分野として独居老人への配食サービス、ママカフェの稼働などへ進んでいる。いずれも「瓢箪から駒」である。

地域インターン生の受け入れはあまりビジョン無く受入れをスタートしたものだが、受け入れて行く度に新鮮な風が入り、地域住民の意識が変わるのを目の当たりにしている。都市部の大学生が 1 ヵ月九島に住み、活動することで「若者が何かやってるフワフワ感」があり、みんなが気にしてくれ、活動に協力的になっている。そしてまた次のシーズンにインターン生が来ても当たり前に受け入れていて、地域で若者が何かをやることへの抵抗感がいつの間にか無くなっている。「とりあえずやってみる」トライアルの繰り返しと積み重ねで展開してきた。

■取組を進める過程で生じた課題

・プレイヤーの高齢化
・他地域への波及はまだまだ

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●外部人材の活用

地域外から俯瞰的に見る、できないスキルを補完するという部分において、地域おこし協力隊やファシリテーターなど外部人材を有効的に活用した。住民にとっても刺激的であり、もちろん大変な部分もあったが相乗効果を生むことができた。

●地域全体への情報共有と代表者のオーソライズを得る

良くも悪くも集落では噂が回るのは早いし、代表者の声は大きい。いらぬ足の引っ張り合いは避けたいので、初めから常に情報はオープンにし、代表者への説明も丁寧に行った。これを疎かにすると非常に厄介！

■成果

【御槇 PJ】農家レストランと宿泊施設「みまきガーデン」が継続していることが一番の成果。

【地域インターン生受入れ】受け入れインターン生はこれまで 20 名超。多くがまた帰ってきてくれたり、東京でのイベントで手伝ってくれたり参加してくれたりしている。「関係人口」が流行る前から関係人口づくりができている。

【九島 PJ】地域共生社会の取組として福祉分野へスムーズに展開できている。

インターン生の主催イベント

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

・専門知識、ビジョン形成の経験不足
・地域づくりの「哲学」

■受講後の取組、今後の方向性

●多文化共生の地域づくり

地方にも多くの外国人が生活しており、国の制度改正により今後もより多くの外国人労働者が地域で生活していくことが予想されている。地域に外国人が住むことは「地域の一員」となることであり、外国人も日本人も住みやすい多文化共生のまちを創っていく必要がある。今はまさにそれに取り組んでいる。

豊重講師の「巻き込むな！引き出せ！」はまさに実践すべきことであると考えている。日本語教室の設置に取り組んでいるが、今は市民の参画と機運醸成を図っている。「英語が話せない」「外国人の文化はわからない」という方が多いが、やさしい日本語で会話したり、折り紙を教えてあげたり、教室の受付をしたりなど、できることを引き出していこうとしている。

また、森講師の「インプットを加工してアウトプット、それがイノベーション！」も実践しているところである。先進地域はあるので、既にできあがっているところの情報をインプットし、それを宇和島にフィットさせるよう加工しアウトプットをしている。成果を出すのはまだ先になるが、しっかりと取り組んでいきたい。

４．埼玉県志木市 柏町限定情報紙「かしわなほっとぷれす」～情報を紡いで絆づくり

志木市産業観光課　石塚　匠（H24 JAMP 受講）

<table>
<tr><td>市町村
（地域）
概況</td><td colspan="2">・人口 76,443 人（令和元年 12 月 1 日現在）、面積 9.05k ㎡
・全国で 6 番目に面積の小さな市。かつては新河岸川の舟運で栄え、現在は首都近郊 25 キロ圏内にある典型的なベッドタウン。
・現在も人口は社会増状態にあるが、昭和 54 年に完成した志木ニュータウンを抱え急速な高齢化が進行中。</td><td>
</td></tr>
<tr><td rowspan="2">活動主体と
活動地区</td><td>報告者の活動経歴</td><td>・平成 8 年入庁　生涯学習課（6 年）⇒市民活動推進課（5 年）⇒秘書広報課（1 年）⇒政策推進課（4 年）⇒地域振興課（2 年）⇒秘書広報課（5 年）⇒産業観光課（現在）
・地域づくり人財塾受講を契機に、地域担当職員制度を設置。自らも柏町地区まちづくり会議に参画。</td><td></td></tr>
<tr><td>活動地区</td><td colspan="2">・志木市柏町地区　人口 1 万 4,000 人、6,700 世帯　昭和 40 年代から開発が進み、戸建て住宅が多く建ち並ぶ住宅地。
・志木のカッパ伝説（宝幢寺のお地蔵さんとカッパ）生誕の地。</td></tr>
<tr><td>地域づくり
の状況</td><td colspan="3">・川辺の清掃運動をはじめ古くから地域活動が盛ん。平成 13 年には「市政運営基本条例」を制定し、地方自立計画に基づく「行政パートナー制度」の導入で注目を集める。
・平成 26 年に地区担当職員制度を設置し、職員と市民が一緒になって地域の課題を考える「地区まちづくり会議」を設置。</td></tr>
<tr><td>地域課題
または
問題意識</td><td colspan="3">・戸建て住宅を中心に高齢化が進展。空き家が増加。
・大型マンションの新住民と戸建て住宅の旧住民との交流が少ない。
・数ある地域資源や地域活動があまり知られていない。</td></tr>
<tr><td>これまでの
取組
（受講前の
取組）</td><td colspan="3"><table><tr><th>開始年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr><tr><td colspan="3">該当なし（※人財塾受講後に活動を開始したため）</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>人財塾の
受講目的</td><td colspan="3">・仕事へのモチベーションが上がらない時期の気分転換。
・職員が地域に飛び出すきっかけや仕組みについて先進事例を知り、情報交換したい。</td></tr>
<tr><td>人財塾で
学んだこと
・効果</td><td colspan="3">・既に地域に飛び出していた各地の職員や地域おこし協力隊の熱意に感銘を受ける。
・自庁内で途絶えていたヨコやナナメの関係づくりの復活を決意。
・飯盛講師のプラットフォームの考え方や富永講師の多様な協働の設計図について学ぶ。
・地区担当職員制度の創設と地区まちづくり会議の制度設計に取り組む。</td></tr>
<tr><td>受講後の
取組</td><td colspan="3">・職員が地域に飛び出し、市民の声を市役所に届ける仕組として「地区担当職員」制度と、「地区まちづくり会議」を構築。
・4 年 2 期の活動を通じ課題を共有し、地区ごとの解決策としてそれぞれ事業を実施。<table><tr><th>年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr><tr><td>H26.4 月</td><td>地区担当制の設置</td><td>市の広聴広報活動と地域のまちづくりの担い手として、職員が地域に飛び出す仕組みを構築</td></tr><tr><td>H26.7 月</td><td>地区まちづくり会議スタート</td><td>職員と市民が地域の課題を共有し、市民協働で解決するための組織として市内 7 地区に設置</td></tr><tr><td>H28.3 月</td><td>かしわなほっとぷれす創刊</td><td>地区まちづくり会議での検討を経て、情報を通じた地域の絆づくりを目的として柏町地区限定情報紙「かしわなほっとぷれす」を創刊。全戸へ配布。</td></tr></table></td></tr>
</table>

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

受講した当時、本市では過去の先進的な施策の反動で、職員が地域に飛び出そうというマインドが減退し、市民協働による地域づくりが後退してしまっていた。とは言え、複雑多様化する地域の課題やニーズを行政だけの力で克服、解決することは限界があり、早晩新しい形の市民協働による地域づくりが必要になるものと考えていた。再び市民協働による地域づくりを取り組む際には、もっとしっかりと地域に根付き、さまざまな意見や立場の人が共存できるプラットフォームを構築したいと考えていたが、人事異動もあって行動に移すことができずにいた。ところが、受講から数か月後の平成 25 年 7 月に市の方針が大幅に変わり、「地域担当制」の導入が打ち出され、広報広聴力の強化策として制度設計へ関わり、ここに人財塾で学んだ知識を生かすこととした。

●STEP1　地区担当制の設置（H26.4 月）

平成 25 年 7 月に「地域担当制」の導入の方針が示されたものの、どのように設置、展開していくかは全くの白紙であった。まずは先進市の事例を学び、千葉県習志野市が古くから導入し今も続いていることを知った。同期受講の人財塾参加者に習志野市の職員がおり、そのつながりを通じて習志野市へ伺い、制度の概要や現状についてお話を聞かせていただいた。また、その後も各地の導入例を学び、本市にあった地域担当職員制度を研究し、以下の 3 点を考慮して要綱を制定した。

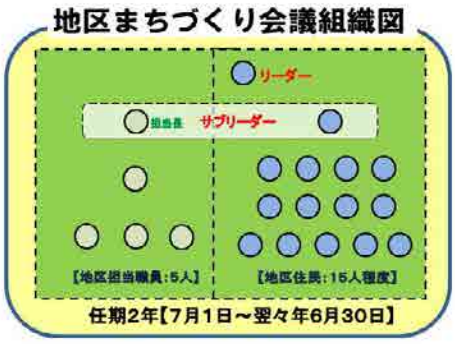
1.職域外の関係づくりや学び（ナナメの関係づくり）の場とすること

2.御用聞きではなく、住民といっしょに考え、思いを共有する場（プラットフォーム）にすること

3.市民も意見を述べるだけでなく、ともに手を動かし、課題解決へ取り組むこと

そして、庁内で説明会を実施し公募の上、職階や所属の異なる 5 人の職員チーム合計 35 人を市内 7 地区に設置し、自身も柏町地区担当職員として市長から任命された。

●STEP2　地区まちづくり会議での検討（H26.7 月～）



平成 26 年 7 月には、職員と市民が地域の課題を共有し、市民協働で解決するための組織として公募市民と地区担当職員による「地区まちづくり会議」を設置することとし、柏町地区でも駅頭での PR や町内会の皆さんへの説明など、地区担当職員が自主的に企画し職員の売り込みと広報を行い、町内会役員や NPO 役員、地域活動団体のメンバー等の市民 19 人が応募し、地区まちづくり会議委員として任命された。

ワークショップでの様子

会議の初期ではワールドカフェやフィールドワーク、カードによる積み上げ、課題マップづくりなど様々なワークショップを実施し、「柏町のいいところ」や「柏町がこうなったらいいな」を対話し、共有した。そして、浮かび上がった課題の解決策を模索し、どんなまちを目指し、誰が実行すべきかを分析、分類し、さらに自ら取り組めることは何かを模索した。

最終的には解決策のそれぞれを参画度、継続性、楽しさ、独自性、理解度の 5 つの尺度で点数化し、柏町地区まちづくり会議では地域内の情報発信に関する事業に取り組むこととした。

●STEP3　地域限定情報紙「かしわなほっとぷれす」の創刊（H28.3 月）

地域内の情報発信手法としては、手軽な方法としてインターネットを通じて発信する手法も検討されたが、いつでも読めること、そして誰でも読めることを重視し、紙媒体による情報発信を基本に、SNS や動画コンテンツを組み合わせた情報発信を行うこととした。また、発信する情報については、①人やモノ、商店、地域活動などの地域資源、②地域の安全に関する話題、③さまざまな属性の人が抱く思いの 3 つを取り上げ、情報を通じた絆づくりやプラットフォームの形成を目指すこととし、柏町地区限定情報紙「かしわなほっとぷれす」を平成 28 年 3 月に創刊することとした。

「かしわなほっとぷれす」は、柏町にちなんでネーミングしただけでなく、の…家族のような、し…しあわせいっぱい、わ…わくわくする、な…仲間のいるまちという委員間で考えた柏町のありたい姿を示すとともに、ホットな情報とほっとする情報をお届けしたいといったこの情報紙への願いも込められている。

創刊号の紙面

掲載内容は、地域のイベントを紹介する「インフォメーション」、柏町のお店を紹介する「アーケード」、地域の安全に関する話題を紹介する「セーフティ」、地域の歴史を探る「ヒストリー」、柏町の自然や保護活動を紹介する「ネイチャー」、地域の素朴な疑問を体当たりで解き明かす「チャレンジ」、名物の人をリレー形式で紹介する「ヒューマン」の 7 つのコーナーで構成されている。

動画コーナー「かしわなチャレンジ」

配布にあっては、地域の協力と行政の信用力を味方にすることとし、町内会を通じて市の広報紙と同時に配布していただけるよう、地域の協力を取り付けている。

■取組を進める過程で生じた課題

・異なる意見を共存共有しながら、全員のモチベーション維持させること難しさ
・地域の課題は「ないもの」探しではなかったこと
・続けることのできる動機付けと体制づくり

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●会を進めていくためのルールづくり

過去に市民協働によるまちづくり施策に関わる中で、あるときを境に急に会議等に参加しなくなってしまう人を見てきた。その多くは、物事を決めていく中で自らの意見が反映できないと感じた時からであったように思えた。人財塾での学びとその後の東日本の修了生で組織したフォローアップ研修会での学びで、地区まちづくり会議をプラットフォームとして機能させていくには意見を戦わす「議論」でなく、認識を共有して互いの話に耳を傾ける「対話」が大切との認識を得た。こうしたことから、地区まちづくり会議の発足後すぐに、①それぞれの意見を否定しない、②できることを持ち寄りみんなで参加する、③難しく考えず楽しむ、という 3 つの基本ルールを決めた。

●「ないもの」探しではなく、「あるもの」探し

地域課題の解決というと、どうしても地域に「これがないから課題だ」といった思考になりがちで、実際、地区まちづくり会議の初期では「ないもの」を探していた時期もあった。しかし会議を進めるうちに地域には既存の資源が実は沢山あり、気づかない、あるいは知られていないだけのことが多く見つかった。こうしたことから、途中から「あるもの」探しに方針を転換し、組み合わせたり別の視点を取り入れたりする解決策を模索することとした。

●持続させていくための動機付けと体制づくり

地区まちづくり会議の成果としては、2 年間の任期中に何らかの課題解決のための取組を実施すれば良かったが、人財塾で学び、地域担当制の制度設計段階から関わってきた自身としては、任期満了後に事業を持続させることこそが本来の目的と考えていた。こうしたことから、事業の決定に至るまで多くの時間を割き、メンバー間で動機を共有し、①いつも楽しく、②無理をせず、③誰も仲間外れにしない組織づくりを心掛けた。また、事業の費用は、創刊号については市の補助金を活用したが、任期満了後は広告収入によって事業を継続できるよう想定し、デザインを行った。

■成果

年間 3 回、毎号 6,000 部を発行し、町内会を通じて全戸配布を行っている。また、令和元年 12 月までに 13 号を発行し、地域のローカルな情報発信を通じて、コミュニケーションの活性化や絆づくりを進めることができた。毎回、紙面に掲載された人が地域の人から「記事読んだよ」と声をかけられたり、紹介したお店の売り上げが伸びたりと発行ごとに多くの反響があり、柏町独自の取組として市内においても一定の評価をいただいているところである。こうした取組が認められ、令和元年度は民間のボランティア活動助成に採択された。また地域限定の情報紙でありながらも地域外での読者がおり、発行を心待ちにしている。

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

受講前、私は特に取組を行っておらず、市民協働施策の停滞期にあって、市民との関係に距離を感じ、課題を感じつつもモチベーションが上がらない時期であった。そうした中、人財塾にいわば気分転換として参加したのは、他の受講生に比べて些か不真面目な動機であった。しかしながら、各地にこんなにも頑張っている職員や大きな情熱を傾けている地域おこし協力隊に出会い、行動宣言をしたことで何かをはじめようという気持ちになったことは大きな収穫であった。

最新号（第 13 号の紙面から）

■受講後の取組、今後の方向性

●地域の課題解決に向けたプラットフォームとして

前述のように「かしわなほっとぷれす」は、情報を通じた地域の絆づくりと地域の課題を住民間で共有する情報のプラットフォーム機能を目指している。今後は、情報発信に加えて取材の中から感じ取った課題を地域へと提起する力も強化したいと考えている。創刊から 3 年が経過し、編集メンバーについても環境の変化からできること、できないことが変化しているが、変化を柔軟に受け止めつつ引き続き職員と市民による編集委員ができることを持ち寄って発行し、楽しむことをモットーに補助金に頼らない地域独自の取組として続けていきたい。

５．福井県越前市　武生に来たらボルガライス～ご当地グルメで盛り上がる越前市～

越前市役所社会福祉課　波多野　翼（H23 JAMP 受講）

<table>
<tr><td>市町村
（地域）
概況</td><td colspan="2">・人口 82,112 人（令和元年 12 月 1 日現在）、面積 230.7k ㎡
・コウノトリをシンボルとした里地里山の保全再生や環境調和型農業の推進により美しい自然が広がっている。また越前和紙や越前打刃物、越前箪笥の伝統工芸品がある一方、電子部品の先端産業も集積している「モノづくりのまち」。</td><td>
</td></tr>
<tr><td rowspan="2">活動主体
と
活動地区</td><td>報告者の活動経歴</td><td>・平成 21 年　観光振興課、平成 25 年　秘書広報課、平成 29 年　社会福祉課（現在）
・平成 22 年 3 月に日本ボルガラー協会を設立
・平成 30 年 4 月より子育てコミュニケーションアドバイザーとして活動開始</td></tr>
<tr><td>活動地区</td><td colspan="2">・福井県内</td></tr>
<tr><td>地域づくりの状況</td><td colspan="3">・市民と行政の「協働」を総合計画の基本理念の一つに掲げている
・通年型の職員採用や外国籍の職員採用、職員自ら企画した研修への奨励金制度</td></tr>
<tr><td>地域課題
または
問題意識</td><td colspan="3">・人口のうち外国人の割合が約 5%（H30 年 10 月 1 日時点）で多文化共生の推進が必要
・市役所内での個性を生かした人材育成</td></tr>
<tr><td>これまでの取組（受講前の取組）</td><td colspan="3">・越前市の知名度アップと気軽にできるまちづくりの証明
<table>
<tr><th>開始年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>H22.3 月</td><td>日本ボルガラー協会設立</td><td>越前市を知ってもらう、越前市に来てもらうために越前市のご当地グルメ「ボルガライス」の情報発信を行う。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>人財塾の受講目的</td><td colspan="3">・熱意をどう形にしていくかを学びたいと思い受講</td></tr>
<tr><td>人財塾で学んだこと・効果</td><td colspan="3">・当事者としてチャレンジする強み
・多くの人を巻き込む重要性
・切磋琢磨する仲間づくりの重要性</td></tr>
<tr><td>受講後の取組</td><td colspan="3">・越前市の知名度アップと気軽にできるまちづくりの証明をするために一市民の当事者として、たくさんの人の協力を得ながら取組を行う。
<table>
<tr><th>年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>H22 年 10 月</td><td>ポスター完成</td><td>越前市出身の劇画家池上遼一氏にオリジナル原画の制作を依頼し、ポスターの作成費用を 70 人以上の協力金で賄う。</td></tr>
<tr><td>H23 年 10 月</td><td>市内中学校の学校給食</td><td>中学校のスクールランチにボルガライスが採用</td></tr>
<tr><td>H23 年 6 月</td><td>料理教室開催</td><td>地元公民館がボルガライスの料理教室を主催</td></tr>
<tr><td>H23 年 11 月</td><td>11 メートルのボルガライス</td><td>武生南小学校の設立 111 年記念事業として、11 メートルのボルガライス 3 本を作り「111」の文字を完成させる</td></tr>
<tr><td>H24 年 2 月</td><td>JAL 機内食に</td><td>JAL（日本航空）の国際線の機内食にボルガライスが採用</td></tr>
<tr><td>H25 年 1 月</td><td>サークル K サンクスで全国発売</td><td>お弁当として 2 週間限定で全国発売</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

	H25 年 9 月	**ボルガライス味のあられ発売**	地元あられ工場でボルガライス味のあられを販売。パッケージデザインを地元仁愛大学の学生が考案
	H26 年 4 月	**タイ（バンコク）にボルガライス**	タイのバンコクにある飲食店でボルガライスが提供され、人気商品に！
	H27 年 3 月	**市内提供店 20 店舗達成**	市内のボルガライス提供店が 20 店舗に！
	H27 年 5 月	**オタフクソースとソース開発**	オタフクソースとボルガライス専用ソースを共同開発し、全国発売！
	H28 年 10 月	**ランチパックにボルガライス味登場**	山崎製パンよりボルガライス味のランチパックが発売
	H30 年 4 月	**子育てコミュニケーションアドバイザー**	越前市男女共同参画センターにて子育て講座の講師を務める
	H31 年 6 月	**絵本出版**	絵本「いなくなれ　おばけのバッチン」を制作し、出版
	H31 年 7 月	**「極・池上遼一展」開催**	池上遼一氏初の企画展「極・池上遼一展」が開催、観光協会と協働でボルガライスを食べようキャンペーンを実施。

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1　日本ボルガラー協会の設立（H22 年 3 月）

平成 21 年 4 月に越前市役所に入庁し、前例踏襲で新しいことにチャレンジさせてもらえないことへの苛立ちと、市民からの「補助金がないとまちづくりなんてできない」という声に違和感を覚え、お金もかけず楽しくまちづくり活動をやってみようと思い立つ。

そして、私を含む市役所職員 3 人で福井県越前市に 40 年以上前からあったオムライスにトンカツを乗せたご当地グルメ「ボルガライス」を PR し、ボルガライスを通して越前市を知ってもらい、来てもらうことを目的とした日本ボルガラー協会を設立。

協会での活動は、仕事ではなくあくまで協会メンバーのプライベートな市民活動として行い、越前市内にあるボルガライス提供店 5 店舗を食べ歩き、写真やボルガライスの特徴についてまとめたホームページを作成する。

●STEP2　ポスター作製で一気に注目度 UP（H22 年 10 月）

▲H22.11.27 福井新聞

▲H23.10.27 日刊県民福井

越前市出身の劇画家「池上遼一」氏にボルガライスを PR するためのオリジナルポスターの制作を依頼。池上遼一氏が描いてくれたポスターが完成するとマスコミ各社からの取材があり、一気に「ボルガライス」に注目が集まる。

その後、市内でボルガライスを提供する飲食店が増加。H23 年 10 月には、市内中学校のスクールランチとして初めてボルガライスが提供され、今では、市内の中学校、小学校のみならず県内の学校給食でボルガライスが提供されるようになっている。

●STEP3　多発する市民や企業によるボルガライスの取組

▲H25.9.18 日刊県民福井

公民館でのボルガライスの料理教室や武生南小学校の設立 111 周年記念事業で 11 メートルをボルガライス制作など市民によるボルガライスに関わる取組が行われるようになった。また、地元の企業からボルガライス味のあられ「ボル菓゛（ボルガ）」やボルガライスの押し寿司「どこでもボルガライス」、ボルガライスにそっくりな見た目の「ボルガアイス」などのボルガライスの派生商品が開発発売される。

さらに JAL の国際線の機内食や各社コンビニの弁当としてボルガライスが採用され、サークル K サンクスでは 2 週間限定で全国発売、オタフクソースと共同開発したボルガライス専用ソースも販売されるなど大手企業でも様々な取組が行われた。

▲H27.5.14 日刊県民福井

■取組を進める過程で生じた課題

・ポスターの原画制作費や印刷費など費用をどうするか
・活動に関係のない人からのネガティブな言葉

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●多くの人に活動に参加してもらう「アナログファンディング」

▲ボルガライスポスター

ボルガライスポスターを制作する際に、池上遼一氏の原画作成費用と印刷費で多額の費用が必要となった。しかし、ここであえて補助金に頼らず、市民 70 人以上から 1 口 1,000 円の協力金を集め、費用を賄った。

そして、協力してくれた人に完成したポスターをプレゼントしたところ、民家や美容室、酒屋、電気屋、お寺などにポスターが貼られ、多くのマスコミがそうした様子を取材してくれ、一気に「ボルガライス」に注目が集まった。

▲H26.3.17 福井新聞

●自分の楽しいと思えることに取り組む

今までにない活動を始めると市役所内をはじめ市民からも「そんなことやって何になるんだ」、「今さらPRしたところで何も変わらない」、「そんなことをするなら仕事をしろ」などと少なからずネガティブな発言をされることがある。しかし、あくまでこの活動はプライベートな市民活動ということで「自分たちが楽しい」と思えることに取り組んできた。

間違いなくそうした楽しさが伝わり、市民だけではなく地元企業などもボルガイラスに関わる取組を自主的に行ってくれたと思う。補助金をもらうため、計画にすでに書かれているためではなく、自分たちのまちを良くするために活動していればワクワクするし、そのワクワクが多くの人を引き付けるのだと実感した。

■成果

越前市名物ボルガライス
活性化主役に成長
給食、観光 地域ぐるみ
記者リポート 今何が
提供店急増 変わり種も

▲H23.10.9 福井新聞

協会メンバーだけではなく、地域のお店や企業の協力があり、市内のボルガライス提供店は協会設立当初の 5 店舗から最大 20 店舗まで増加、学校給食や多数の観光情報誌に掲載されたため市内のボルガライス認知度も 20%から 98%に増加した。もちろんお店でも、ボルガライスが 1 日 5 食ほどだったのが 1 日 40 食に増えたお店や市外からの観光客で行列ができるお店ができるなど、ボルガライス提供による経済効果も十分にあった。

また、これらのボルガライスの活動が評価され、平成 25 年 8 月に「ふくい人の力大賞 2013」、令和元年 11 月に「地方公務員が本当にすごい！と思う地方公務員アワード 2019」を受賞することができた。

「庁内起業」ゾクゾク
越前市職員掘おこし団体
日本ボルガライス協会
「市役所良くなれば街良くなる」
越前建設ナンプロック課

▲H26 年 4 月 6 日朝日新聞

何より一番の成果は、越前市役所内の若手中堅職員が私と同じように自分が楽しいと思えること。そして、市役所の中では、そうした職員のまちづくりの取組を「庁内起業」と呼び、市役所内の出る杭を応援する風土ができあがった。

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

・熱意をどう形にしていくか
・新たなまちづくりへの一歩をどう踏み出させるか

■受講後の取組、今後の方向性

●当事者としての強みでチャレンジ

「あんだんて」に 講座 いこうざ！
2月24日(土)
10:30~11:30
子どもを伸ばす
父ちゃん、母ちゃん、じいちゃん、ばあちゃん
講師：波多野 麗 氏
チャイルドコーチング アドバイザー
今回の開催場所は
子育て支援センター
ピノキオ

人財塾で当事者としての問題意識が強みとなり、多くの人を巻き込む原動力になることを学んだ。私は、3 人の娘を持つ親として子育ての楽しみを知ると同時に大変さも実感。そこで、「チャイルドコーチングアドバイザー」と「チャイルドカウンセラー」の資格を取得し、ニコニコしながら子育てができる親御さんを増やそうと子育て講座の講師を務めている。また、講座の中で「子どもが友達を叩くこと」に悩んでいる親御さんが多いことに気づき、少しでもそういった悩みを軽くできないかと考えて絵本「いなくなれ　おばけのバッチン」を製作、出版した。

バッチン

●切磋琢磨する仲間づくりにチャレンジ

人財塾では、まちづくりを行う上で、活動内容は違うが意見交換をしたり、協働したりする仲間が重要だということも学んだ。

しかし、実際には、ネガティブな意見になかなかまちづくりへの一歩が踏み出せない人も多いと感じている。

現在、年間 20 件ほどの講演の依頼があるので、そうした機会を活用し、ボルガライスの活動のように小さな一歩でまちが変わったことを多くの人に知ってもらい、まちづくりへの一歩を踏み出す仲間を増やしていきたいと考えている。

６．滋賀県高島市　これからの地域経営にファンドレイジングを活かす

高島市総合戦略課　戸田　由美（H23 JIAM 受講）

<table>
<tr><td>市町村
（地域）
概況</td><td colspan="2">・人口：48,311 人（2019.10 月末）、面積：693 ｋ㎡
・琵琶湖の水の 1/3 を発する森林と琵琶湖に囲まれた自然豊かな地域。
一方、鉄道で京都に 45 分、大阪に 75 分と関西都市部に好アクセス。
・2008 年の約 56,000 人をピークに人口減少が進む。高齢化率県下一。</td><td rowspan="2">
滋賀県</td></tr>
<tr><td rowspan="2">活動主体
と
活動地区</td><td>報告者の
活動経歴</td><td>2013 年「認定ファンドレイザー」資格取得。非営利組織の組織基盤強化や資金調達を考える「ファンドレイジング研究会」を主宰。2015 年「日本ファンドレイジング協会関西チャプター」設立、2019 年 6 月まで共同代表。関西圏でファンドレイザー創出や育成、相互交流に携わる。</td></tr>
<tr><td>活動地区</td><td colspan="2">関西 2 府 4 県（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、滋賀県）</td></tr>
<tr><td>地域づくりの状況</td><td colspan="3">・2005 年に 5 町 1 村が合併して市制施行。市内 204 の区・自治会における顔の見える関係をベースとしながらも、持続可能な地域運営に向けて、より広域的なコミュニティのあり方「地域自治組織」の設立に向けた検討を重ねている。</td></tr>
<tr><td>地域課題
または
問題意識</td><td colspan="3">・前職（公益法人）で行政補助打ち切りを目の当たりにし、行政支援を得ている団体が今後同様の課題に直面すること、これを克服するため自ら資金調達力を高めるべきと実感。
・市役所入庁後は、市内の市民活動団体が他地域に比べて行政補助だのみの傾向が強いデータを目にし、同様の課題意識を感じる。</td></tr>
<tr><td>これまでの取組
（受講前の取組）</td><td colspan="3">・受講前は自身の知見を高めることと、まずは「ファンドレイジング」という言葉を高島市内に伝えることが目標。
<table>
<tr><th>開始年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>2010</td><td>ファンドレイジング日本への参加</td><td>日本ファンドレイジング協会主催「ファンドレイジング日本」に参加し、全国の成功事例に触れる。</td></tr>
<tr><td>2011</td><td>市内でのファンドレイジング普及啓発</td><td>・職員組合活動で、日本ファンドレイジング協会事務局長を招聘し、職員と市民活動団体向けに講演会を開催。
・市内の中間支援センターが主催する市民活動の講座で全国の「ファンドレイジング」事例等を紹介。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>人財塾の
受講目的</td><td colspan="3">・全国各地の地域づくり実践例を学ぶ。またその実践者との交流。</td></tr>
<tr><td>人財塾で学んだこと・効果</td><td colspan="3">・リーダーシップは、特定の誰かでなく個々人の中に見出されるということ。
・誰かの思いに共感する人が集まった時に、集まった力が物事を動かす推進力になること。</td></tr>
<tr><td>受講後の
取組</td><td colspan="3">・地方の機会差克服のため、関西圏でファンドレイジングを学ぶプラットフォームを創出。
・ファンドレイジングの知見を市役所業務にも導入。
<table>
<tr><th>年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>2013.9</td><td>「ファンドレイジング研究会」主宰</td><td>関西圏で仲間を集め、年 4 回程度ファンドレイジング事例等を共有する勉強会を始める。同時に facebook グループを立ち上げ SNS コミュニティをつくる。</td></tr>
<tr><td>2015.1</td><td>関西チャプター設立、共同代表に</td><td>チャプター設立。協会（本部）からの支援に加え、会員制度を創設し、自主財源も得て定期的に勉強会実施。またファンドレイザー創出のための研修等にも携わる。</td></tr>
<tr><td>2016.10</td><td>高島市への寄付金つき商品の開発</td><td>フルタ製菓との連携により、本市限定販売の「セコイヤチョコレート」を企画。売上の一部をフルタ製菓から本市に寄付いただく「寄付金つき商品」としてリリース。</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1　ファンドレイジングとの出会い

前職で、大阪府が設立した「大阪（現：日本）センチュリー交響楽団」に勤務。在職時に海外オーケストラでインターン実習されていた方の講演を聞く機会があり、地域住民に愛されるオーケストラ運営の背景にある「ファンドレイジング」に関心を持つ。在職時は楽団経理のほか、文化庁や民間助成団体への助成金申請業務、法人賛助会員等の営業に携わる。

2008 年に大阪府からの運営補助金削減が示され、業務では楽団への寄付金つき商品の開発のほか、楽団員ほか有志の開催による「頑張れ！センチュリーコンサート」の運営に携わった。

↑楽団への寄付金つき
エコバッグの企画・販売

←コンサート開催の
チラシ、プログラム原稿の作成
↓協賛広告原稿の作成や
先方確認、入稿作業を行った

●STEP2　ファンドレイジングを学ぶ・広める

2009 年に設立された日本ファンドレイジング協会に関心を持ち、翌年に開催された「ファンドレイジング日本 2010（以降、2019 まで皆勤！）」に参加、全国のファンドレイジング成功事例に触れる。

この時、ファンドレイジング協会事務局長 鵜尾雅隆さんのお話を聞き、「絶対、この人と知り合いになる！」と決意。その後、2011 年 2 月に職員組合の活動で高島市に鵜尾氏を招へいし、職員や市民活動団体向けに、「ファンドレイジング」の概念を知らせる講演会を開催。折しも半月後に東日本大震災が起こり、寄付による市民の社会参画に注目が集まった。

その後、協会がファンドレイザーの資格制度を創設することを聞き、「絶対、1 回目の試験でファンドレイザーになる」とまたまた決意。

高島市に日本ファンドレイジング
協会 鵜尾氏を招へい。

■取組を進める過程で生じた課題

・自身の個人的経験、また当時所属していた市民活動支援課の業務の上でも、市民活動団体のような非営利組織が、善意や思いだけでなく、自らの活動のビジョンをしっかりと持ち、共感者を増やすことで「市民の課題解決力」を向上させるとともに、課題に取り組む間の組織運営や資金調達も含めた経営をしっかり考えなければいけない時代であると感じていた。

・一方で、こうしたファンドレイジングに関する学習機会は東京が主であり、地方圏には機会が少ないことに加え、クラウドファンディング等の隆盛でその「手法」だけが注目され、ファンドレイジングの基盤となる組織経営への理解が薄いと感じていた。

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●いきなり人を巻き込もうと気負わずに、まず自分が楽しくやる

初めから多くの人にファンドレイジングを広めようと気負わずに、市内の人からちょっと見える距離で、私自身が楽しくファンドレイジングを学び、ファンドレイザーと交流する。その楽しい姿が人からチラチラ見えるところで泳ぐ（笑）。その上で「ファンドレイジングについて教えてほしい」と声がかかれば、喜んで行くということを意識していた。市内や市役所に理解者が少ない時点では、関西圏のファンドレイザーと交流できる別のコミュニティを持ち、そのコミュニティと普段のコミュニティをほんの少し重ねておくというのがポイント。

■成果

●高島市内にファンドレイザー仲間誕生！

私自身が 1 回目（！）の試験で「准認定ファンドレイザー」資格を取得した（2012 年 6 月）半年後に、市内の中間支援センター事務局長が 2 回目の「准認定ファンドレイザー」試験を受験し、資格取得。その時点で私自身は、一つ上位の「認定ファンドレイザー」1 回目（！）試験を受験し認定ファンドレイザー資格を取得（2013 年 2 月）。同じタイミングで、高島市に准認定ファンドレイザーと、認定ファンドレイザーが誕生することになった。

市内、県内の中間支援団体や他自治体でファンドレイジングの話をした後、その団体からファンドレイザーが誕生したことを知るのが、自身の貢献を感じられる機会。目の前のたった 1 人の人の心に届き、何か行動変容を起こすことができる、そうありたいと思っている。

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

・誰かが始めた地域活動が、どう波及していくかということに興味があった。

■受講後の取組、今後の方向性

●ファンドレイジング研究会の開始（2013 年 9 月）

関東圏で活躍していたファンドレイザー仲間 2 人が関西に来る機会があり、私と 3 人でそれぞれのファンドレイジングについて共有する勉強会を京都・滋賀のくくりでやろう！と発起。20 人程度の参加者を得て（うち高島市関係者 6 人）、「これから京都や滋賀でこういう気運が盛り上がるだろう！」という熱気に包まれて終了。

折角なのでと大阪や兵庫のファンドレイザー仲間にも声を掛けたところ、12 月以降は対象者を関西 2 府 4 県に広げて定期的に勉強会をすることになり、後の「日本ファンドレイジング協会関西チャプター」の萌芽となる。人の力を集めて活動を拡げる推進力にするというところは人財塾で学んだこと。

ファンドレイジング勉強会 京都×滋賀（2013 年 9 月）の様子。

行政、NPO、中間支援、社協、大学、コンサル関係者など多様なメンバーが参加。
現在の関西チャプター運営委員も数人。

●日本ファンドレイジング協会関西チャプターの設立（2015 年 1 月）

日本ファンドレイジング協会（本部）でも、地域にファンドレイザーネットワーク（チャプター）を創設していく必要性を認識し、北海道、東海、関西、九州のチャプター設立をサポート。

2015 年 1 月に関西チャプターを創設、同時に共同代表に就任。東京に行かなくても、関西で継続的にファンドレイジンジングを学び、「准認定ファンドレイザー」資格が取得できる環境整備を目標に、年 6 回程度の研究会やセミナーの開催、年 2 回の准認定ファンドレイザー必修研修と資格試験の運営をベースに活動を行っている。公務員でありつつ、「市民」であることの誇りを忘れずに多様な人と交わることは、結果的に自分の仕事を豊かにするというのも受講後に実感したこと。NPO、公益法人、社会福祉法人、大学、行政、中間支援、行政書士等様々な主体がゆるくつながり、いざとなれば実際に会うことができるという、これからの社会を支え合うプラットフォームを築くことが目標。

左）関西圏で活躍する NPO の組織基盤強化研修を、ファンドレイザーとしてサポート。

右）2016 年 12 月、大阪大学で開催した　地方版「ファンドレイジング日本」。高島市社協からもファンドレイジング事例を紹介したほか、高島市役所からも 2 人の仲間が参加してくれた。立命館大生もボランティアで関わる。

●市役所業務にファンドレイジングを活かす（2016 年 10 月）

高島市内にある全国的な観光名所「メタセコイア並木」と、定番商品「セコイヤチョコレート」の名前の縁で、高島市とフルタ製菓株式会社で提携を検討。高島市内限定販売のセコイヤチョコレート土産品の開発にあたり、両者で包括連携協定を締結し、商品売上の一部をフルタ製菓から高島市に寄付する寄付金つき商品とすること、市内独自の商流を構築することを両者で企画。

2019 年 9 月末現在、商品売上は 60,000 千円超、フルタ製菓から高島市への寄付金は 1,800 千円超（予定額含む）となった。

活動と業務をつなげたことは、一つのマイルストーン。

高島市内限定販売　寄付金つき
「メタセコイヤチョコレート」

●滋賀大学大学院で経営学を学び、そしてこれから（2017 年 4 月～）

ファンドレイジングの概念には経営の概念も含まれることから、非営利組織を中心とするファンドレイジング、企業等営利組織を中心とする経営学の両方を学んでこそやっと「スタート地点」と感じていたため、県内の大学院で経営学を学ぶこととした。

先のフルタ製菓との連携から、今後の地域経営における企業の役割の再確認、また「資源の共有」という考え方が必須と感じ、修士論文テーマを「自治体と企業の戦略的協働に関する考察～CSV 事業の事例から」とし、2019 年 3 月に無事修了。

またこれからの地域経営を考える上で、地域経済循環を考えたいという思いが芽生え、新たに「絶対、●●●●になる！」という決意を持っている（笑）。願掛け時点では公言しない主義。日本ファンドレイジング協会関西チャプターの共同代表を後任の方に譲り、新しい隙間時間で現在勉強中。

地域づくりは、日々変容していく。学び続けることも重要だと感じている。

７．山形県置賜広域行政事務組合　広域連携による人財育成～人と地域がつながる置賜へ

置賜広域行政事務組合　齋藤　拓也（H26 JAMP 受講）

<table>
<tr><td>市町村
（地域）
概況</td><td colspan="2">・人口 215,097 人(H27 国勢調査速報値)、面積 2,495.52 ㎢
・米沢市を中核とした 3 市 5 町で構成され、温泉や四季折々の自然風景や米沢牛や果樹などの美味しい食があり、歴史的・文化的なつながりのある圏域
・今後 30 年で圏域人口は 4 割近く減少し、特に年少人口と生産年齢人口が約半分になる見込みであるが、平成 30 年から定住自立圏をスタートし、圏域で新たな価値創造による課題解決を目指している。</td><td> </td></tr>
<tr><td rowspan="2">活動主体と
活動地区</td><td>報告者の活動経歴</td><td colspan="2">平成 24 年度から、圏域住民と共に『置賜の食』を通じて置賜の魅力を発信する「置賜八食祭」と、平成 25 年度から第 5 次ふるさと市町村圏計画に掲げた「新たな広域連携の研究・推進」業務を担当していた。</td></tr>
<tr><td>活動地区</td><td colspan="2">置賜 3 市 5 町（米沢市・長井市・南陽市・高畠町・川西町・白鷹町・飯豊町・小国町）</td></tr>
<tr><td>地域づくりの状況</td><td colspan="3">本組合では、平成 2 年から 20 年以上に渡り、広域計画に置賜圏域全体として「置賜に住みいきいきとした置賜をつくって行く人材」の育成を掲げ、ふるさと市町村圏基金の運用益を活用した住民参加型の様々な人材育成事業を実施してきた。</td></tr>
<tr><td>地域課題
または
問題意識</td><td colspan="3">・置賜八食祭という住民参加型でイベントを企画運営し実施する中で、毎年度成功するものの、イベントの実施が目的となり、「置賜に住みいきいきとした置賜をつくって行く人材」の育成という目的とずれてきてしまっているのではないかと感じていた。
・新たな広域連携の研究・推進ということで、置賜 3 市 5 町の企画担当職員と協議を進めていたが、総論賛成、各論反対の状況から、上手く進めることができずにいた。</td></tr>
<tr><td>これまでの
取組
（受講前の
取組）</td><td colspan="3">・置賜各市町から推薦された地域づくりに取り組む住民と一緒に置賜八食祭を実施した。
・新たな広域連携の研究・推進に向けて、置賜各市町の企画担当職員と協議を進めていた。
<table>
<tr><th>開始年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>H24 年 10 月</td><td>置賜八食祭</td><td>置賜 3 市 5 町から推薦された住民 16 名で実行委員会を設置し、10 月の実施に向け、4 月から月 2 回以上の会議を行い、置賜地域の人的ネットワークを作り、人材育成を図りながら、事業を進めてきた。</td></tr>
<tr><td>H25 年 4 月</td><td>新たな広域連携の研究・推進</td><td>置賜 3 市 5 町の企画担当職員と、広域連携で解決できそうな課題を洗い出し、施策の検討を行った。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>人財塾の
受講目的</td><td colspan="3">・地域づくり人財塾の講師から学び、これまでの取組だけでなく、様々なことに活用するため受講した。
・現在の状況を前に進めるための具体策について学びたかった。</td></tr>
<tr><td>人財塾で
学んだこと
・効果</td><td colspan="3">・豊重講師の「目くばり、気くばり、心くばり」、飯盛講師の「プラットフォームと創発」、森講師の「プランドハプンスタンスセオリー」、前神講師の「県職員として地域に飛び出すこと」といった講師の話から様々なことを学ぶことができた。
・人財塾の置賜支部を作るという行動宣言を行い、置賜地域で人財塾の学びを共有したい方に声がけを行い、楽しく活動し学ぶことができる仲間づくりから始めた。
・人財塾受講の半年後には、前神講師のサポートを受け、置賜圏域の広域連携による人財育成事業がスタートし、個人として、（構成市町の職員とともに）豊重講師のやねだん故郷創世塾に参加することができた。
・平成 28 年 8 月には、地域づくり人財塾東北自主研修@仙台を開催した。
・仕事以外でも、地元の取組を前向きに捉え、新たな取組も始めることができた。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>受講後の
取組</td><td>・前神講師とのつながりから、(一財) 地域活性化センターの支援を受け、置賜圏域の広域連携を進めるため、人財育成事業を始めることができた。
<table>
<tr><th>年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>H27 年 4 月</td><td>置賜圏域の広域連携による人財育成事業</td><td>置賜圏域の広域連携を進めるため、置賜 3 市 5 町の首長、職員を対象に視察や研修を主体とした「広域連携事業」を実施し、3 市 5 町と連携し置賜圏域で移住交流フェアへ共同出展した。
また、住民参加型でイベントを実施する広域人材の育成ではなく、講座（座学）と視察を主体とした住民向けの人財育成事業「人と地域をつなぐ事業」を実施した。</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1　置賜八食祭（H24 年 10 月）

ふるさと市町村圏計画の一部として「広域活動計画」を策定し、ふるさと再発見として『置賜の食』を通じて置賜の魅力を発掘するとともに、行政や住民が互いに協力し合い、「広域的交流活動の推進」及び「広域的人材の育成活用」を図り、もって 3 市 5 町のさらなる連携につなげることを目的に、「置賜 8 市町が『食』でひとつになろう！置賜の魅力や特色(うまいもの)を再発見しよう！」をテーマとした「置賜八食祭」を実施した。

置賜 3 市 5 町から推薦された住民 16 名で実行委員会を設置し、10 月のイベントに向け、4 月から月 2 回以上の会議を行い、「置賜に住みいきいきとした置賜をつくって行く人材」の育成を図りながら、置賜の人的ネットワークを作り、事業を進めてきた。

●STEP2　新たな広域連携の研究・推進（H25 年 4 月）

平成 24 年に「第 5 次ふるさと市町村圏計画」を策定し、豊かなふるさとを創造するおきたま共存圏が基本構想。基本目標に掲げた「新たな広域連携の研究・推進」に取り組み、置賜 3 市 5 町の企画担当係長と広域連携に関する課題抽出を行った。

■取組を進める過程で生じた課題

・置賜八食祭というイベントを住民参加型で企画運営し実施する中で、多くの来場者があり、毎年度成功するものの、イベントの実施が目的となり、「置賜に住みいきいきとした置賜をつくって行く人材」の育成という目的とずれてきてしまっているのではないかと感じていた。
・新たな広域連携の研究・推進ということで、置賜 3 市 5 町の企画担当職員と協議を進めていたが、総論賛成、各論反対の状況から、上手く進めることができずにいた。

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

・置賜八食祭では、地域住民による実行委員会を組織し、住民主体となるような運営を心がけてきた。

・新たな広域連携の研究・推進では、各市町の職員から理解していただけるよう丁寧に進めてきた。

■成果

・置賜八食祭では、実行委員会に参加していただいた方のつながりができ、イベント自体にも多くの集客があった。
・新たな広域連携の研究・推進では、広域連携で解決できる可能性がある課題を抽出することができた。

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

・「取組を進める過程で生じた課題」で記載した課題を解決するためのきっかけがなく、難しく感じていたため、地域づくり人財塾の講師から学び、これまでの取組だけでなく、様々なことに活用するため受講した。現在の状況を前に進めるための具体策について学びたかった。

■受講後の取組、今後の方向性

地域づくり人財塾に参加して、豊重講師の「目くばり、気くばり、心くばり」、飯盛講師の「プラットフォームと創発」、森講師の「プランドハプンスタンスセオリー」、前神講師の「県職員として地域に飛び出すこと」といった講師の話から様々なことを学び、実際の取組に反映することができた。

個人としては、人財塾の置賜支部を作るという行動宣言を行い、人財塾に置賜地域から参加している同期や先輩、置賜地域で人財塾の学びを共有したい方に声がけを行い、楽しく活動し学ぶことができる仲間づくりから始めた。人財塾受講の半年後に豊重講師のやねだん故郷創世塾に参加したことで、地元の取組を前向きに捉え、新たな取組も始めることができた。

業務としては、前神講師のつながりから、人財塾受講の半年後に置賜圏域の広域連携による人財育成事業がスタートして、現在も続いている。

そういった動きから、平成 28 年 8 月には、修了生のネットワークで地域づくり人財塾東北自主研修@仙台を開催することができた。

また、自分が受講したあと、本組合の職員が全国地域づくり人財塾を毎年受講しており、これまで 5 名の職員が修了生となっている。

これからも、全国地域づくり人財塾での学びを活かして、個人としてできること、業務としてできること、両方に取り組んでいきたい。

●全国地域づくり人財塾 置賜支部（H26 年 12 月）個人

全国地域づくり人財塾の学びを共有するために置賜支部として、人財塾に置賜地域から参加している同期や先輩、置賜地域で学びを共有したい方に声がけを行い、楽しく活動し学ぶことができる仲間づくりをするために活動を始め、自主研修や合宿などを実施した。

●第 17 回　やねだん故郷創世塾参加（H27 年 5 月）個人

地域づくり人財塾の豊重講師の講話を聴き、実際にやねだん故郷創世塾に参加したいと思うようにな

り、半年後、第 17 回を受講した。人財塾で聴いた話を実際にやねだん故郷創世塾で体験することで、理解を深めることができた。平成 28 年 3 月には、人財塾の同期や先輩と協力して、地元の山形県南陽市主催で豊重講師の講演会とやねだん故郷創世南陽塾を開催し、地域の方に豊重講師の話を聴いていただく機会を作ることができた。

●子供消防隊結成（H28 年 5 月）個人

南陽市消防団第 7 分団 1 部 1 班の団員の子供達で結成し、毎月第 1 週の夕方に親子で「火の用心」と拍子木を鳴らして、まちをまわる活動を始めた。おそろいの法被とＴシャツを揃えて、みんながちょっとだけ嬉しいをインセンティブに、長く続く活動にしたいと思い続け、始めてから 4 年目となった。地域で「30 年」の輪転が続くように親から受け継いだものを子供達へつないでいきたい。

●広域連携事業（H27 年 3 月～現在）業務

新たな広域連携の研究・推進として課題抽出を進めていたが、まずは広域連携する土壌を醸成するために、置賜 3 市 5 町の職員が広域連携について学ぶところから始めることになった。前神講師に相談したところ、(一財) 地域活性化センターとして支援を受けることになり、地域づくり人財塾を受講した半年後にはキックオフミーティングを行い、平成 27 年度から広域連携事業を実施し、5 年目となっている。

当初はテーマを広域連携での移住施策とし、置賜 3 市 5 町の職員と共に勉強会や実地研修を通じて学びながら、移住交流フェアに共同出展するなどの事業も実施した。また、置賜 3 市 5 町の首長向けのセミナーや視察研修もあわせて行うことで、広域連携に関する理解を深めながら進めてきた。

翌年度からは、広域で RESAS を活用した地域経済循環分析や定住自立圏構想などを学び、現在は港区との遠隔自治体間連携に挑戦しながら事業を進めている。令和元年 5 月には、飯盛講師と前神講師を招き、首長向けの講演会を開催した。

●おきたま地域づくり～人と地域をつなぐ事業～（H28 年 3 月）業務

全国地域づくり人財塾受講後、住民参加型のイベントを企画運営し実施する中で人材育成をするのではなく、「置賜に住みいきいきとした置賜をつくっていく人材」の育成を目的とした事業を実施することとした。置賜の住民向けの広域的人財育成事業として、「おきたま地域づくり～人と地域をつなぐ事業～」という名称とし、東京都市大学都市生活学部の坂倉杏介准教授を講師に招き、講座と視察研修を主体として事業を進めている。「人と人」「人と地域」のつながりづくりと「新たな楽しみの発見・地域に関わるきっかけ」づくりとして、現在 4 年目となっている。受講者は 4 年間で 52 名となり、約 7 割が女性となっている。

「『開かれていて多様性があること。違いを超えてともにあること。』、『まだ見えていない価値を模索すること。未来を志向すること。』これまでの『地域おこし』の『型』に合わせるのではなく、一人一人が持ち味を発揮して生きること。自分たちの望む未来の暮らし方を実践し、そのために、必要なまちをつくること。」この言葉を「ゆるふわ」という講座のキーワードにして、事業を進めている。地域の課題解決のために何をするかではなく、「私を生かして地域を活かす」という発想の転換に気づき、共感から新しい価値を創造する小さな社会実験に取り組んでいる。

また、この事業から、東京都市大学坂倉杏介研究室の夏合宿受入れが始まり、大学との合同事業を実施するようになった。この事業では、視察研修として毎年東京港区芝地区にある「芝の家」訪問していることがきっかけで、港区芝地区と置賜の住民同士のつながりができ、港区芝地区で置賜のことを考える「24 時間トークカフェ置賜」という事業を開催することができた。

令和元年度からは、こうした港区芝地区と置賜の住民同士のつながりから、遠隔自治体間連携事業が始まったほか、「人と地域をつなぐ事業」、東京都市大学坂倉研究室、米沢市の町内会のコラボレーションで、つながりが薄れ、活気がなくなっていた町内コミュニケーションを再生するという小さな社会実験を学生と住民主体で実施するなど、暮らして楽しい地域づくりに挑戦している。令和 2 年 2 月には、シンポジウム開催を予定しており、第 1 期から現在の 4 期までの参加者と共に企画と準備を進めている。

８．福井県大野市　公務員として地域づくりを支える～カタクリ百万本の里山づくり

大野市湧水再生対策室　今村　智子（H26 JIAM 受講）

<table>
<tr><td>市町村
（地域）
概況</td><td colspan="2">・人口 33,013 人（2019 年 11 月 1 日現在）、面積（872.43k ㎡）
・市の 87%を森林が占める自然豊かな農村。急激な少子高齢化・人口減少が続く中、2040 年には老齢人口と生産人口が逆転すると予測されている。
 </td></tr>
<tr><td rowspan="2">活動主体と
活動地区</td><td>報告者の活動経歴</td><td>2009 年　森林整備を担当。地域づくりに携わり始める
2012 年　福井放送かがやき基金　準大賞
2014 年　人財塾参加
2015 年　第 7 回　ゆめづくりまちづくり賞　優秀賞
2015 年　関西元気な地域づくり発表会　事例発表
2015 年　国土交通省　地域づくりメルマガに掲載される
2016 年　第 30 回　手づくり郷土賞　国土交通大臣表彰受賞
人財塾にて事例報告（全講義を受講）
2017 年　国土交通白書 2016　「第 4 章　地域活性化の推進」に掲載される
中心市街地の景観修景事業を行い城下町の再生に携わる
2017 年　地方創生・人口減少対策事業を担当。特に世界へのアピールを担当
2018 年　ブラジルで開催された世界水フォーラムに参加。学術会議で活動発表。
日本パビリオンを視察された令和天皇に活動を副市長からご説明</td></tr>
<tr><td>活動地区</td><td>福井県大野市</td></tr>
<tr><td>地域づくりの状況</td><td colspan="2">大野市総合計画の重点プロジェクトとして、市が誇る魅力ある全ての資源を磨き上げ、市全体を世界へアピールする戦略を展開。市民と行政が一体となった様々な取組を進めている。</td></tr>
<tr><td>地域課題
または
問題意識</td><td colspan="2">行政が行う市全体を対象とする地域づくりは、政治や職員の異動の影響を受けやすく、一貫性ある長期的な取組は難しい。前例のない取組は批判を受けやすい。</td></tr>
<tr><td>これまでの
取組
（受講前の
取組）</td><td colspan="2">構想を持ったリーダーとの出会いが始まり。多くのリーダーは「どこに行っても門前払いだった」と言う。一旦すべて聞き入れ、一緒に考える。制度は断る道具ではない。
<table>
<tr><th>開始年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>2009 年 4 月</td><td>矢地区の里山整備の支援</td><td>自治会を支援し地域の荒れた山林を整備。整備を通し地域資源を見つけ、故郷に自信を持たせる。</td></tr>
<tr><td>2009 年 4 月</td><td>平家平の廃村後の森林整備の支援</td><td>廃村となった故郷を整備し続けることで、故郷の魅力を再認識し、後世へ語りつなげる。</td></tr>
<tr><td>2009 年 4 月</td><td>里山銀杏峰の整備の支援</td><td>市民団体に里山の整備を任せることで、生きがいと故郷への愛を醸成する。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>人財塾の
受講目的</td><td colspan="2">出て来ない人をどうやったら参加させられるか。自分が市をどうやって変えるか。地域づくりに関する質問の模範解答を知りたいと思っていました。</td></tr>
<tr><td>人財塾で
学んだこと
・効果</td><td colspan="2">・活動の結果でなく過程が大切。
・地域づくりは地域によって違っていい。正解はない。
・外とのつながりは大切。</td></tr>
<tr><td>受講後の
取組</td><td colspan="2"><table>
<tr><th>年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>2015 年～</td><td>矢地区の里山整備の支援</td><td>関西地方、国の表彰を受ける活動に成長。現在も自立した活動を継続中。郷土愛増。空き家ゼロ。</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

仕事以外で地域づくり活動をするのではなく、公務員として様々な地域づくりを支援し、多くの人に自分の住んでいる地区を好きになり、故郷に自信と誇りを持ってもらう取組を私流で実践しています。

矢地区という世帯数 30 戸、高齢化が進んだ農村が革命的に生まれ変わった事例を紹介します。

●STEP1　新しい物をつくるな。あるものを磨け！（2009 年）

ここは僻地指定された行政区で、先祖伝来の田畑を守るため、何も無いところに住んでいると村人は思っていました。活動のきかっけは、「小さい頃、遊んだお寺周辺をきれいにしよう」と壮年会が裏山を整備したことでした。整備を継続させるため、桜を植えました。桜を特産にしようと考えた村人たちは、里山や川沿いに桜の植樹を始めました。また、切り花として出荷できる桜も植えました。その作業中、山に埋もれていたカタクリの群生地を発見したのです。次の春、山肌一面に、カタクリが見事に咲きました。

矢は行政区と同じ範囲で委員会を立ち上げました。委員会と行政区の違いは、来ても来なくてもいいというゆるさ。委員会と団体の違いは、メンバー制でない仲良しグループでもないということ。活動報告は全戸配布し、いつでもだれでも参加できる状態を作りました。

●STEP2　10 年続けろ！　（2010 年）

里山は整備すればするほど、どんどんカタクリが咲きました。この地に眠っていた宝が目を覚ましたのです。観光客が大型バスで来るようになり、「大自然が私たちの地域資源だ」と気づかされました。

カタクリ畑は西日本最大級の 100 万本 3ha に広がりました。カタクリの里に足を踏み入れた人は、100%「すごーい」と感嘆します。

●STEP3　地域の人の心が変わった。（2015 年）

毎年開いてきた「かたくりまつり」で、観光客と交流することで、村人は、故郷を自慢・誇りに思うようになり、度々、集まるうちに、みんなが仲良くなり、ここに生きていることが大好きになりました。

自信がついた大人の背中をみた子供達は、自然とガイドをするようになりました。切り花の桜は、地元では人気商品になりました。これは農閑期の収入源です。今では自然を活かした交流事業も自主的に行っています。

あるおばあちゃんの言葉を紹介します。

「嫁に来たときは、こんなへんぴな所に来てしまって、後悔した。いつ出て行こうかとずーっと思っていた。だけど、こんなことになるとは思わんかった。もう、私、出てかんざ。ありがとのう。」

■取組を進める過程で生じた課題

・継続することがつらい。
→リーダーも私も 10 年続けるという強い意思を持つこと。表彰制度や補助制度を活用し、1 年また 1 年、そうして継続していけばいい。
・新しいものをつくろうとするな。あるものを磨け。
→新しいものを作っても、結局残っていないのが事実。
・出て来ない人、悪く言う人、忙しい人を無理に参加させようとしない。
→そんなことしても何の得にもならない。いつでも参加できるオープンな窓口づくりをする。
・何かいい話ないか？市がしてくれんか。行政への依存体質はだめ。
→私は指示しない。外作業しない。あくまで黒子。主人公は地域住民。
・ボランティアでは続けて出てこない。ボランティアを続けて頼みづらい。
→補助金ではない自己資金を作り、わずかでも手当を支給する。
・団体の多くは文章を読む、書類を作るのが苦手
→公務員が仕事としてフォローできるところ。

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

①イベントに顔をだし、地域の人と話す

地域の性格やニーズを自分で把握する。地域の人と信頼関係を築き、お互いの情報を共有できる環境を構築する。情報を持っている市職員でいる。要綱要領の作成や改正、予算付け、計画などに活かす。

②ぴったりの補助メニューや表彰を探す

国・県・団体・企業のチラシに常にアンテナをたて情報収集する。人脈はつながるので、思いもかけない情報が、国県の方から提供されることもあった。

③文章を読む、書類を作る

団体の多くは補助金の申請や、表彰の推薦書を作成することを苦手としているので、私が、仕事として手伝う。補助や表彰の申請には、焦点をどこに合わせるか、目的によって切り口を変えることも必要。人との距離が近いと、補助金を獲得した時や表彰を受賞した時の喜びが大きく、団体の活力になる。

④市役所の広報力と人脈を使う

市の広報力を利用してイベントの集客を。議員や国家公務員に地区へ訪問してもらうことは、地域づくり活動に大きな力を与える。異動はチャンス。補助事業も人脈も広がるから。

⑤外の世界と交流する機会を与える

団体が自ら活動を PR したり、他団体と交流することは活力を生む。田舎者を都会へ連れて行ってあげましょう。行きたい人はみんな行こう。田舎者の自己評価を上げる効果がある。

⑥何でも話しに来れる人になる

やりたいという構想を持ったリーダーと出会えたことがすべての始まり。何人かのリーダーから聞いた話だが、「どこの課に行っても門前払いだった」「実績がなく話し合いができなかった」など、市役所に出入りしている煙たい人として扱われていたようだ。どんな人でも一旦話を聞く。そして一緒に考える。できないという結果も、一緒に考えた結果なら、次の一手の参考になる。リーダーは活動的な人達だが、人間だからたまには弱音を吐きたくなる。困ったときの相談相手となれる存在に。互いに愚痴りあい、支えあい。地域づくりに正解はないのだから、基本聞くだけで大丈夫。

■成果

私は黒子に徹する。団体を動かすのは団体のリーダーの役目。団体を見守っていたから、団体には自分でやる力が育っている。独自で走り、つまずいたら、私に相談に来る。しかし、自分たちで考えて、また自力で走り出す。そうしてひとりでに充実していく。

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

団体のリーダーから毎週のように聞かされる愚痴や質問にどう答えたらいいのだろう。きっと先進事例があるに違いないと思った。しかし、人財塾で、他の市でも同じような活動をしている発表を聞いて、自分の関わっている団体の活動を肯定し、評価する考えに変った。また、地域づくりは地域ごとに違っていい。先進事例を探さず、自分を信じて、地域がやりたい活動を支えようと考えが変わった。

■受講後の取組、今後の方向性

広い視野と人脈を常に開拓

公務員として様々な地域づくりを支援し、多くの人に住んでいる地区を好きになってもらい、故郷に自信と誇りを持ってもらうという目標が明確になり、一人ひとりをしっかり見るようになった。地域づくりも行きつくところは人。自分から、一瞬一瞬一人一人が貴重であるという思いをもって、話しを聞くようになって、急に人脈が広がったように思う。

人財塾で教わった「とにかく行動する。考えているだけでは、考えつかないのと同じ。失敗したってもともと」。この精神で、関西地方の地域づくりの表彰制度へ推薦書を書いてみた。ここで評価を受けたことがきっかけで、多くの人に出会い、助けられ、次々に表彰の推薦書を書くことに。表彰を受ける度に、村人と喜びを分かち合い、活動継続の力となった。

矢の委員会が「ゆめづくりまちづくり賞」で優秀賞を受賞した時は、村は、県内初の快挙だといって大いに盛り上がり、祭り状態になった。本来、代表者 2 名が市長室で国土交通省近畿地方整備局長から表彰を受けるのだが、リーダーから、「わがままいうが、一部の人間が表彰を受けるのではなく、村のみんなで喜びたい。子供から、足腰が弱ったじいさん、ばあさん、みんなで表彰を受けたいんや。だから、無理を言って悪いが、役所に行くんじゃなくて、大阪から村に来てくれんか頼んでもらえんか。そば打ち名人、家庭料理の名人、桜の名人、司会の名人、みんな精いっぱいおもてなしするから。たのむ。」そう頼まれて、こわごわ近畿地方整備局に電話した。帰ってきた返事は「よろこんで伺います。局長以下、どんな所か見てみたいと言っておりまして、お伺いします。」表彰式当日、コミュニティーセンターはお祝いモードに飾られ、そばや郷土料理がふるまわれ、平日だったが多くの村人がコミュニティーセンターに集まり、市長、議員、国家公務員ら多くの来賓と分け隔てなく交わり、老若男女が喜びを分かち合った。この勢いに乗り、ついには、国土交通大臣表彰まで頂いてしまった。

（写真上）ゆめづくりまちづくり賞受賞記念の植樹　（写真下）手作り郷土賞公開審査の様子

今、仕事で市が誇る水環境と地下水保全の取組を国内外へアピールするプロジェクトを展開している。2018 年 3 月にはブラジルで開催された国際会議「世界水フォーラム」へ出張し、PR。基調講演をされた皇太子殿下（現在の天皇陛下）から「よい取組ですね」とお言葉をかけられた。大野市を世界の水の聖地にする、水への感謝の気持ちを世界とシェアするというあまりにも大きな目標で、迷いながらも、一歩ずつ、少しずつ世界に響いていけばと思っている。自分にできることをして、市の存在価値を少しでも高められたらうれしい。

（写真）ブラジルで開催された世界水フォーラムで、書道パフォーマンスを行い集客し、英語でプレゼンした。

９．千葉県館山市　伝統を紡ぐまちづくり～「房州うちわ」の新たな展開を目指して～

館山市　秋山　歌南子（H25 JAMP 受講）

<table>
<tr><td>市町村
（地域）
概況</td><td colspan="2">・人口 46,473 人（平成 31 月 4 日 1 日現在）、面積 110.05k ㎡
・房総半島の南端に位置し、温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれ、トライアスロンやロードバイク、マリンスポーツに適した地域。
・人口減少、高齢化が急速に進んでいる。</td><td rowspan="2">
</td></tr>
<tr><td rowspan="2">活動主体と
活動地区</td><td>報告者の活動経歴</td><td>・平成 24 年 4 月入庁 社会安全課に配属
町内会等、住民自治組織の支援を担当
・平成 28 年 4 月経済観光部商工観光課に配属
産業振興や起業支援等を担当
・平成 31 年 4 月総合政策部企画課に配属</td></tr>
<tr><td>活動地区</td><td colspan="2">・館山市内全域
・「房州うちわ」の産地は、館山市那古・船形地区・南房総市</td></tr>
<tr><td>地域づくり
の状況</td><td colspan="3">・職員有志によるプロジェクトチームが結成され、地域資源の発掘に取り組んでいる。
・恋人の聖地 地域活性化大賞においては、地方創生担当大臣賞を受賞。</td></tr>
<tr><td>地域課題
または
問題意識</td><td colspan="3">・高齢化等により、地域活動の担い手が固定化しつつあり、若者や女性の活躍の場が少ない。</td></tr>
<tr><td>これまでの
取組
（受講前の
取組）</td><td colspan="3">・地域づくり人財塾を受講したのは、社会人 2 年目。市役所職員として基本的な知識を養うとともに、担当業務の全体像を把握することができた頃、「住民自治組織の支援」とは、具体的にどのように活動していけばよいのかわからず、悩んでいる状況だった。</td></tr>
<tr><td>人財塾の
受講目的</td><td colspan="3">・地域づくりの活動を主体となって進めていくためのヒントを得ること。
・全国の市町村職員と情報交換をすること。</td></tr>
<tr><td>人財塾で
学んだこと
・効果</td><td colspan="3">・様々な地域の状況や活動の取組方法を学び、地域課題に対して、自ら一歩踏み出すための勇気を得ることができ、日々の業務に対する姿勢が変わった。
・館山市について客観視する機会となり、新たな発見とともに市に愛着が沸いた。
・活動に人を「巻き込む」のではなく、「惹き込む」ことが大切ということ。</td></tr>
<tr><td>受講後の
取組</td><td colspan="3">・迷ったら「一歩踏み出す」ということを意識して、全国地域づくり人財塾フォローアップ研修に参加。初めは知識や経験がないことに引け目を感じていたが、次第に学びから実践に移していきたいと思うようになった。
<table>
<tr><th>年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>H26 年 4 月</td><td>全国地域づくり人財塾フォローアップ研修に参加</td><td>様々な市町村で行われる研修は、該当地域の課題を参加者全員で考える場であり、他市町村の課題を考えることは、同時に自分への気付きを得る貴重な機会。</td></tr>
<tr><td>H28 年 4 月以降</td><td>伝統的工芸品産業の PR 活動に注力</td><td>房州うちわの存在を、多くの人に知ってもらうことを第一段階の目標として活動した。
・現代における、うちわの活用方法の提案
・新商品の開発、販路拡大
・メディアへの露出度を高める</td></tr>
<tr><td>H30 年 4 月以降</td><td>伝統的工芸品産業の後継者の起業支援</td><td>・後継者支援のために、振興協議会を組織改編
・地元業者との交流の場の創出
・房州うちわ展の実施
・他産業との連携促進、ビジネスチャンスの創出</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

地域づくり人財塾を受講した当時に在籍していた部署では、自らが主体となって事業を起こすことはできなかった。初めは、声をかけてもらうことで様々な活動に関わるようになった。言わば「巻き込まれた人」である。おこがましいようであるが、これから何か始めたいけれど、「どうしたらよいかわからない。勇気が出ない。」という若手職員に向けて、一例として参考になれば幸いである。

●STEP1　「支援する立場」ではなく、学びながらヒントを与えられる存在に

住民自治組織の支援を担当していた当時、20 代前半の女性職員である私に、地域の悩みを相談してくれる町内会長は少なかった。年代のギャップと、社会経験の浅さがそうさせていたのは明確だったため、まずは、町内会長と会話をする機会がある度に各地区のことを教えてもらいながら話を聞くことを心掛けた。悩みを聞けるようになると、全国の事例を紹介したり、時にアイディアを出したりして接していくうちに、頼ってもらえるようになった。このように人間関係を築いていく感覚は、異動後の部署においても団体の事務局を務める上で活かすことができたと感じている。

●STEP2　伝統的工芸品「房州うちわ」の PR（平成 28 年 4 月～）

伝統的工芸品産業の振興の担当となり、まずは、経済産業大臣指定伝統的工芸品である「房州うちわ」の存在を少しでも多くの方に知ってもらうことに注力した。

コツコツと様々なアイディアを職人に持ち掛けることで、仕事をする相手として見ていただけるようになってきたと思えるようになった。産業について学ばせていただきながら、自分自身も楽しんで取り組むことができた。「素人」の視点や感覚が、職人に気付きを与えることもあると実感した。

暑中見舞い葉書としての活用を提案

父の日や敬老の日にオリジナルうちわ

スポーツイベントの賞状として活用

●STEP3　伝統的工芸品「房州うちわ」の後継者育成・起業支援（平成 30 年 4 月～）

平成 25 年度より単発の入門講座を開講していたが、講座終了後、職人は弟子を育てられるような状態ではなく、受講者との関係も途切れてしまう状態が続いていたので、人財として繋ぎとめ、次のステップに進めるよう支援するため、継続して製作技術を習得する機会の創出、起業支援を開始した。

後継者育成事業の様子

竹の選別・伐採の担い手も必要

■取組を進める過程で生じた課題

・生活必需品ではなくなった伝統的工芸品は現代では使用頻度が低く、産業の衰退が顕著であること。
・人口減少や高齢化に伴う後継者不足により、産業全体に諦めの雰囲気があった。

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●ストーリー性を大切に

人口減少や過疎化は全国各地で懸念されており、それに伴い、寂しさや切なさを感じるような地域課題は多い。しかし、ただ単に「衰退しているから、維持しなくてはならない」ではなく、なぜ維持・発展したいのか、そうすることで何が変わるのかを意識することを忘れない。そして、取り巻く環境や歴史背景をしっかり知り、自分が取り組む仕事が新たな展開に少しでも繋がることを希望にしている。

●房州うちわ産業に関わる人口を増やす

職人への道は険しく、製作工程を習う入門講座を受けただけで離れていく人も多い。職人を目指したい人のみを支援するのではなく、職人を目指したい人、売り手として産業に関わりたい人、コラボ商品を作りたい人、情報発信をして応援してくれる人等、房州うちわに興味を持つ人を丁寧に繋いでいくイメージを持ち、どのような形であっても、産業に関わってもらえる人口を増やすことを目標とした。

●初めから全員賛成を目指さず、でも情報共有は確実に

団体で何かを始めるとき、最初から全員賛成を目指すと行き詰まるので、必ず全体に情報共有することを基本とし、個々にもアプローチするようにして、物事を進めた。

■成果

・知名度が上がり、地元の住民や市職員に関心を持ってもらうことができた。
・後継者を目指す人が増え、新たに商売として事業を開始する人も出てきた。
・後継者を目指す人を支援しながら振興協議会の活動に賛助会員として協力してもらうことで、一時会員３名にまで落ち込んだ振興協議会の活動に活気の兆しが見えてきた。
・上記の成果が、職人さんの向上心アップに繋がったことが何よりの成果。

３年間活動し、職人だけでなく、様々な面から協力者が増えた

館山ふるさと大使とのコラボうちわはお土産としてヒット！

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

・人口減少や高齢化を理由に、地区によっては住民自治組織の衰退に諦めムードが否めなかったため、地域づくりを行う上での地域へのアプローチ方法や、事業の作り方及び進め方を学びたかった。
・他市町村の事例を知り、情報交換を行い、地域づくりに活かしたいと思った。
・自分の地域づくりへの参画のモチベーションを高めるきっかけが欲しかった。

■受講後の取組、今後の方向性

●まずは、地域住民の活動の応援からスタート

高齢化が進むことで、地域のコミュニティ活動の担い手は、人材不足に陥っている。様々なことが衰退し、地域におけるネガティブな雰囲気が否めない。自分が主体となって事業を起こすことができなくても、地域住民の活動を応援させてもらうことが重要な地域づくりと考え、まずは「学びの機会」を創出。

自分が地域づくり人財塾で学び、活動に活かせているように、コミュニティ活動を行う方々にも先進事例を学んでもらう機会を提供した。それまで施設見学がメインで旅行化していた視察を、学びの場に変えることで、地域活動のリーダー同士の会話が、アイディアを出し合う前向きな内容に変わった。

●様々な人を惹き込み、紡いだ「竹取物語」

「人の関心を引きつけるためには、感動や共感を与える要素が必要であり、ストーリー性を重視することが大切」と地域づくり人財塾やその後のフォローアップ研修で学んだ。もう一度地域に根差した産業にするために、多くの人に様々な側面から伝統的工芸品産業について考えてもらう機会を創出し意識づけをしたいという思いのもと、「里山と伝統的工芸品」をテーマにイベントを開催した。

里山が荒れて困っていたお寺で、後継者育成事業に使用する竹を切らせてもらったことが縁で、お寺を会場に房州うちわの展示会及び製作体験を開催。併せて獣害対策支援を行う地域おこし協力隊員が里山について学ぶ「里山教室」を実施した。観光客や地域住民に伝統的工芸品や里山について知識を深めてもらえた他、職人を目指す後継者の商いとしてのデビューの場にもなり、「これからの活動に自信がついた」という言葉が、何よりも嬉しかった。こうしたやりがいが、次への活力となることを実感した。

展示会のチラシ

回廊に沿ってぐるっと展示

↑地域おこし協力隊による「里山教室」
里山の変化を学んだ後、里山の散策も行った。

●やりがいを感じられることが嬉しい、仲間が増えることが楽しい、「地域づくり」は成長できる場

地域づくり人財塾では、全国各地で活躍する方々と出会い、学び合い、「これから何をやろうか」と、わくわくしながら帰路についたことを今でも覚えている。しかしその感覚も、日々の業務に追われ、薄れていってしまうことも多々あるので、人財塾で出会い、そこから広がった繋がりに時々学ばせてもらうことで、刺激を得て、モチベーションを保っている。

行政職員には異動がつきものであり、数年ごとに部署が変われば、思い入れのある仕事も手放さなければならないが、地域づくりは「仕事で向き合う」だけの取組ではないし、形式など何もない。その時々で自分の置かれた立場からできること、その立場だからこそできることを見つけ、地域づくりの担い手の一人としてあり続けたい。

１０．鹿児島県志布志市　モノモノコウカンプロジェクト～物々交換イベント開催～

志布志市役所税務課　田中　慶悟（H26 JAMP、H27 フィールドワーク型 受講）

<table>
<tr><td>市町村
（地域）
概況</td><td colspan="2">・人口　31,160 人（令和元年 9 月 30 日現在）、面積（290.28k ㎡）
・鹿児島県の東端に位置し、東部と東部は宮崎県に接する。志布志湾に接しており、志布志港は物流拠点港湾かつ九州唯一の国際バルク戦略港湾であり、南九州地域の物流拠点。
・少子高齢化が進行する一方、就農移住者が増加している。</td><td rowspan="2"> </td></tr>
<tr><td rowspan="2">活動主体と
活動地区</td><td>報告者の活動経歴</td><td>・　市役所で地方創生推進に関わっていた 2016 年より子育て支援活動として「モノモノコウカンプロジェクト」を立ち上げ、事務局長として運営に携わる。
・　2012 年～2016 年　大隅半島の音楽フェス運営に従事。</td></tr>
<tr><td>活動地区</td><td colspan="2">鹿児島県志布志市を中心としたエリア（半径 100km 圏内）</td></tr>
<tr><td>地域づくりの状況</td><td colspan="3">・志布志市では県外からの新規就農希望者を積極的に受け入れており、移住者が中心となって生産するピーマンは志布志市の特産品として都市圏に多く出荷されている。
・自治会活動が活発で、地域ぐるみの見守り活動や一斉清掃などが盛ん。</td></tr>
<tr><td>地域課題
または
問題意識</td><td colspan="3">・県外からの移住者などから、子育てに孤独感を感じる、親同士の人間関係を築く場所がない等の意見が市に寄せられた。従来型のコミュニティに溶け込めていない方が若い世代を中心に多いとのアンケート結果も出された。</td></tr>
<tr><td>これまでの
取組
（受講前の
取組）</td><td colspan="3">・過疎高齢化が進む鹿児島市東部（大隅半島エリア）で若者が地域に愛着をもち、域外に情報発信できる機会が少ないとの問題認識があり、同じような志を持つ人達と地域づくり活動に取り組んできた。
<table>
<tr><th>開始年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>H25 年 9 月</td><td>GOLD BEACH LOVERS　LIVE</td><td>鹿児島県では当時事例が少なかった野外音楽フェスを企画、過疎高齢化進行率が県内一の南大隅町の海岸で数百名の観客を集めた。H28 まで毎年開催。</td></tr>
<tr><td>H26 年 10 月</td><td>ストリートピアノ in 志布志</td><td>通りにピアノを設置し、道行く人が立ち止まり、ふれあう場所を作りたいと有志で企画。プロのアーティストを招きイベントを開催。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>人財塾の
受講目的</td><td colspan="3">・地域活動の実践者の指導や姿勢を学ぶ
・熱い志を持った参加者との交流</td></tr>
<tr><td>人財塾で
学んだこと
・効果</td><td colspan="3">NPO フュージョン長池の富永先生、元 NHK アナウンサーの森先生など、様々な分野で活躍される講師陣の講義と、それに感銘を受けた参加者との語らいは今も大切な財産となっている。参加者との交流は今も続いている。</td></tr>
<tr><td>受講後の
取組</td><td colspan="3">
<table>
<tr><th>年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>H28 年 4 月</td><td>モノモノコウカンプロジェクトのスタート</td><td>あなたの「もったいない」はだれかの「たからもの」をキャッチフレーズに、家庭で不要となった子供服、絵本、おもちゃの物々交換イベントを開催。お下がりをシェアする場を通じ、子育て世代が集う場づくりを行っている。
人財塾参加者と SNS 等で交流を続け、各地で活動を行う仲間に大きな刺激を受けたことで、実行への第一歩を踏み出せた。</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1　GOLD BEACH LOVERS　LIVE　H25 年 9 月（第 1 回目）

過疎高齢化が進む鹿児島市東部（大隅半島エリア）で若者が地域に愛着をもち、域外に情報発信できる機会が少ないとの問題認識があり、同じような志を持つ人達と地域づくり活動に取り組んできた。特に、恵まれた自然景観と音楽の融合により、域外からの観客（訪問者）を呼び込むコンセプトとして、野外音楽フェスを開催した。

沈みゆく夕陽と会場

地元焼酎蔵とのタイアップ（オリジナルラベル）

●STEP2　GOLD BEACH LOVERS　LIVE　H26 年 9 月（第 2 回目）

野外フェス開催への理解が少しづつ深まり、地域の協力者も増えてきた。あいにくの雨予報で屋内開催となったが、テント持ち込みの宿泊型イベントとしたことで、フェス翌日に観客が近隣の観光地に向かうなどの例が見られた。

照明や装飾で幻想的な雰囲気に

地元情報誌に特集記事掲載

●STEP3　ストリートピアノ in 志布志　H26 年 10 月

通りにピアノを置いてみると、街にメロディーが流れる。音楽と街づくりには親和性があることを実証したいとの思惑もあった。

ピアノ設置のお披露目式には、イラストレーターのエドツワキさんと音楽家のコトリンゴさんを招き、演奏しながらライブペインティングする企画を実施。

イベントのフライヤー

ライブペインティングの様子

■取組を進める過程で生じた課題

・資金調達に苦労（イベント開催には多額の費用を要するが、寄付金集めが難航した）
・活動の波及効果をどのように測定するか難しい

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

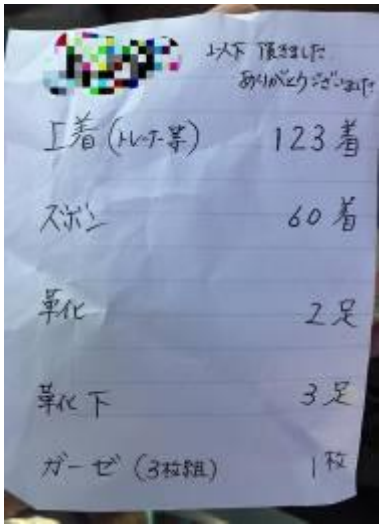
●スタートアップ資金及びランニングコストの低減（身銭を切らずに持続的活動を）

0 円スタートのプロジェクトスキーム→購入しない、レンタルは無償のみ、廃棄物の利活用、これらを徹底的に追求。イベント運営で陥りやすいと言われる「身銭で赤字を埋める」体質にならないよう考慮。物々交換イベントであれば収益（営利）目的でない上、交換アイテムを無償で入手しやすいことに着目した。

●活動成果「見える化」へのこだわり

イベントを開催することが最終目的にならないよう、ボランティア活動の成果を定量的アウトプットするよう意識。チャリティ販売品の収益金や交換イベントで余剰となった在庫（子供服、おもちゃ等）を鹿児島県内の児童福祉施設や子育て支援団体へ寄付を続けている。ただし、社会貢献が優先され過ぎる事で、イベント趣旨が不必要に固くならないよう、ほどよいバランスも重要と認識している。

県内児童施設への物品寄付（子供服、おもちゃ）



寄贈内容は SNS 等で公開する

■成果

あなたの「もったいない」はだれかの「たからもの」をキャッチフレーズに、家庭で不要となった子供服、絵本、おもちゃの物々交換イベントを開催。これまで 30 回以上開催し、のべ 5,000 点以上が物々

交換された。また、交換したいモノが無くてもチャリティとして購入できるようにし、売上を鹿児島県内外の児童福祉施設や子育て支援団体、まちづくり団体に寄付し、地域社会への還元を行っている。

参加者の中には毎回来てくださる方もおり、参加者同士、スタッフと参加者の間で交流も生まれるなど、子育てに関する新たな輪（サークル）としての機能も期待している。

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

地域活動に関して少なからず興味があったが、熱意があるばかりで、何をどのようにすればよいのか分からないジレンマを抱えていた。すでに地域活動の実践者の指導や姿勢を学ぶことが、ジレンマの緩和になるのではと思い、人財塾の門を叩いた。そこに集う熱い志を持った参加者との交流は今も続いており、上記の活動について叱咤激励をいただくなど、活動の原動力となっている。

■受講後の取組、今後の方向性

あなたの「もったいない」はだれかの「たからもの」をキャッチフレーズに、家庭で不要となった子供服、絵本、おもちゃの物々交換イベントを開催。お下がりをシェアする場を通じ、子育て世代が集う場づくりを行っている。活動は 4 年目を迎え、積み重ねたノウハウを元に安定活動ができるようになった。継続的に活動ができた理由として、講師や人財塾参加者との SNS 等での交流を通じ、常に励ましや刺激を受け続けたことが何よりも大きい。今後は、他の地域活動との連携による相乗効果創出や海外への衣料支援を定期実施するなど、新たな展開を進めることで皆さんに刺激の御返しをしたい。

お隣宮崎県串間市と志布志市の連携イベントに出展

ウズベキスタンへ子供服を贈る

１１．栃木県栃木市　人財を活かしたまちづくり～つながりから生まれる住みよさ

栃木市地域づくり推進課　鈴木　晃子（H27 JAMP 受講）

<table>
<tr><td>市町村
（地域）
概況</td><td colspan="2">・160,108 人（令和元年 11 月 30 日現在）、面積（331.5k ㎡）。
・県南部に位置し、埼玉県、群馬県と隣接している。まちなかには蔵や歴史ある建造物が残存し、周辺部は山々に囲まれ、歴史と豊かな自然が調和するまち。
・県内他市に比較して高校が多いが、卒業後は転出する割合が高い。</td><td rowspan="2">
栃木市の位置</td></tr>
<tr><td rowspan="2">活動主体
と
活動地区</td><td>報告者の
活動経歴</td><td>・H23 年栃木市役所入庁。総合政策部地域づくり推進課（H27. 4～）において、市独自の地域自治制度「地域会議」及び、自治会等の業務を担当。庁内で自主研究グループに所属（H28. 5～）。
・業務外にて地域のイベント運営に携わる。</td></tr>
<tr><td>活動地区</td><td colspan="2">・栃木市内全域</td></tr>
<tr><td>地域づくりの状況</td><td colspan="3">・住民代表組織として市が市内 8 地域にそれぞれ設置する附属機関「地域会議」が、市長への提案や予算提案を実施。
・住民が自発的に設立する組織として各地域に「まちづくり実働組織」を設立し、イベント等を開催。</td></tr>
<tr><td>地域課題
または
問題意識</td><td colspan="3">・合併により市域が広範囲になったため、それぞれの地域の状況にあった地域自治が必要
・世代間でまちづくりに対する意識や関わる方法が違い、それぞれ個別に活動を続けていることが勿体無い。</td></tr>
<tr><td>これまでの取組
（受講前の取組）</td><td colspan="3">職場や地域における人のつながりづくりと、そのつながりを、地域をより良くするための仕組みに活かす。
<table><tr><th>開始年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr><tr><td>H23.5 月</td><td>庁舎周辺の清掃活動</td><td>月に一度、庁舎周辺の清掃活動が企画され、職員は任意参加。庁内の他部署の方々とのつながりができる。</td></tr><tr><td>H25.5 月</td><td>映画祭でのボランティア</td><td>まちなかの施設（蔵や学校）を利用し、映画を上映するイベントにボランティアで参加。市内で活動する様々な団体、人と知り合う。</td></tr><tr><td>H27.4 月</td><td>市独自の地域自治制度の担当</td><td>地域づくり推進課に異動し、地域会議の運営に携わる。</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>人財塾の
受講目的</td><td colspan="3">・全国の地域づくりの様々な事例を知り、知見を広める。
・教育と地域づくりをつなげるヒントを得たい。</td></tr>
<tr><td>人財塾で学んだこと・
効果</td><td colspan="3">・人とのつながりが財産であること。
・プラットフォームという概念。
・公務員が地域に出て活動することについて（翻訳機としての役割）。</td></tr>
<tr><td>受講後の
取組</td><td colspan="3">公務員である自分を活かし、人同士のつながりを広げると共に、人財塾で学んだ「場づくり」を実践する。
<table><tr><th>年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr><tr><td>H28.10 月</td><td>地域自治研修会等</td><td>地域会議委員同士、また市民同士の対話の場づくりを試みる。</td></tr></table></td></tr>
</table>

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

受動的なかかわりから、能動的な取組へ。

●STEP1　庁内におけるつながり醸成（H23.5 月）

庁内で呼びかけのあった庁舎周辺の清掃活動に参加した。月に一度、朝の 15 分程度の時間だったが、普段の業務では関わりの少ない他部署の方と話すきっかけとなった。清掃しながらコミュニケーションを取ることで、庁内の業務に関する理解が深まり、入庁間もない新人である自分にとって、とても良い機会となった。その後の業務を行う上でも、庁内における人とのつながりは重要であると感じている。

まちづくりというどの部署が欠けてもできない取組は、市役所全体できちんとつながっていることが前提となる。緩やかなつながりを作るための活動や仕組みは必要であると実感した。

●STEP2　人財の発掘（H25.5 月）

栃木市では毎年 5 月に地元の有志によって『栃木・蔵の街かど映画祭』が開催されている。これは市内の歴史ある建物や店舗等において映画を上映するイベントであり、例年 10 箇所ほどの会場で多様なジャンルの映画を上映し、来場者を楽しませている。

映画祭の会場ととち介（栃木市マスコットキャラクター）

映画祭には地元の商工会や専門学校、子育てサークルなど、様々な団体が関わっている。映画祭でボランティアを経験したことにより、市内に様々な団体、活動があることを知った。庁外に出て地域のイベントに関わることによって、それまでになかったつながりのネットワークが構築された。まちづくりの主役は住民である。住民の方々がどんな思いをもち、どんな活動をしているのか知らなければ、主役不在のまちづくりになってしまう。地域で活躍している人財を発掘し、まちづくりの担い手となる方々とのネットワークができたのが本ボランティアの一番の成果だった。

●STEP3　人財活用の機会スタート（H27.4 月）

栃木市独自の地域自治の仕組みとして「地域会議」と「まちづくり実働組織」がある。二つは両輪となり、より住み良い街にするために、住民主体で進んでいく。検討、実働の場を整えることが行政としての役割であり、地域づくり推進課として、まちづくりの主体である住民（人財）を活かすことが業務となった。

「地域会議」は月に一回程度、市役所内で開催され、地域課題解決のための予算提案等の検討をしている。

地域会議の様子

■取組を進める過程で生じた課題

・地域自治の仕組みが周知されていない
・地域課題の検討の場をどのようにつくるか

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●仕組みを丁寧に説明する、またその機会を増やす

対外的に周知できることについては様々な方法（広報紙、SNS 等）を用いて周知し、地域会議委員自身にも発信をしていただくよう呼びかけた。

「地域会議だより」の発行

●ファシリテーションを学び、地域会議委員同士の対話を促す

検討の場づくりをするに当たって、意見を出しやすい雰囲気や仕組みを取り入れた。

グループに分かれての検討の場面

■成果

制度開始から年数を経たこともあり、地域自治制度の取組は徐々に市内に知られつつある。地域予算で検討された成果物（例、公園遊具等）が増えていくことによって、委員自身も地域会議についての情報を発信しやすくなった。

検討の場については、少人数のグループで話す、一度付箋に書いてみる等のフラットな場づくりを意識することによって、委員の方の意見は出やすくなった。

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

・「地域の意見」はどのように形成されるのか

・公務員として、また一市民として地域とどう関わっていくか

■受講後の取組、今後の方向性

●対話による地域づくり

人財塾を受講し、改めて人と人とのつながりによって地域が形成されていることを学んだ。また、プラットフォームという押し付けではない「場づくり」の方法についても知見を得られた。テキストとして配布された『地域づくり人育成ハンドブック』には具体的に地域での活動の方法が記載されており、場づくりを実践していく上でとても役に立っている。

地域課題について検討する地域会議だが、委員同士の世代間ギャップもあり、検討の場が活性化しないという課題があった。そこで、地域会議委員の研修の場において、「対話の場づくり」を重視した研修を行うこととした。人財塾やその後の学習の機会からも、つながりから生まれる自然な対話から地域づくりは進んでいくと実感した。お互いの背景を知り、議論ではなく対話することにより、自分が住んでいる地域のことをより深く理解し、課題をなくしていくために自分たちができることをより実践的に検討できるのではないだろうか。委員ひいては市民が本当に課題だと思っていること、また課題の本質を検討できるよう「対話」の文化を委員に広げている。

地域会議委員の研修会のようす

●今後の方向性

今後は「対話による地域づくり」を、地域会議委員以外の市民にも広げていきたい。世代や職業など様々な背景を持つ人たちが集まって何かを生み出せる場（プラットフォーム）づくりが、住みよいまちにとって重要だと考えている。より自由な発想ができ、実現に向けて動き出せる場が創出できると良い。

また、場をつくるだけでなく、場に人をつなげることもしていきたい。自分自身も一市民として市民活動を続けていくが、その過程で、プラットフォームや行政の支援策と、それを求めている人たちの間を翻訳機としてつなげていく役割も担っていきたいと思う。

１２．兵庫県朝来市　楽しく続ける地域づくり～踏み出そう、はじめの一歩

朝来市市長公室総合政策課　高本　恵三（H24 JIAM 受講）

<table>
<tr><td>市町村
（地域）
概況</td><td colspan="2">・人口：30,253 人（R 元.11 末現在）、面積：403.06k ㎡。
・兵庫県のほぼ中央部に位置し、古くから交通の要衝の地として発展。
・「天空の城 竹田城跡」「史跡 生野銀山」など、多くの歴史遺産がある。
 </td></tr>
<tr><td rowspan="2">活動主体と
活動地区</td><td>報告者の活動経歴</td><td>・平成 18 年 4 月入庁の際、都市部から出身地である朝来市へ帰省。地区の青年団や消防団に参加し活動
・平成 25 年 4 月から地域の若者世代を中心とした「竹田とらふす会」に参加し、郷土教育などに従事。</td></tr>
<tr><td>活動
地区</td><td>・人口約 3,200 人の竹田地域（竹田地域自治協議会・竹田小学校区）を中心に活動。</td></tr>
<tr><td>地域づくり
の状況</td><td colspan="2">・市内全ての地域において、概ね小学校区を単位として「地域自治協議会」を設置し、地域の創意工夫による、地域特性を活かした地域づくりに取り組んでいる。
・自分らしく生き生きと活動する「ひと」を育むため、幼児から大人まで各ライフステージに合わせた人財育成事業を展開している。</td></tr>
<tr><td>地域課題
または
問題意識</td><td colspan="2">・地域の風土や人口構造の違いなどにより、地域への関心度に温度差がある。
・特に、地域活動に参加しない無関心層へのアプローチが課題である。
・誰でも地域活動に参加しよう（してもいいのだ）という機運が高くない地域もある。</td></tr>
<tr><td>これまでの
取組
（受講前の
取組）</td><td colspan="2">・受講前は、地域住民として自治会の青年団や消防団活動に従事。
・当たり前のこととして、深く考えずに参加していた。
<table>
<tr><th>開始年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>H18.4 月</td><td>地区の青年団
（友和会・自衛消防団）</td><td>地区に居住する 20 代前半から 40 代半ばで組織し、地区内の防火活動・夏の盆踊りや大晦日の初詣での炊き出しなど、地区住民に暮らしに近い活動を行っている。</td></tr>
<tr><td>H21.4 月</td><td>朝来市消防団
（和田山支団第 10 分団）</td><td>居住地区を管轄する消防団員として、火災時の消火活動、災害時の水防活動、日頃からの防火・啓発活動に従事している。また、消火活動に対する技術及び意識向上、さらに団員間の交流に資する「ポンプ操法大会」に出場している。</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>人財塾の
受講目的</td><td colspan="2">・地域で自らが主体的に活動できる手法を学ぶ。
・全国の地域活動実践者との交流。</td></tr>
<tr><td>人財塾で
学んだこと
・効果</td><td colspan="2">・どんなことでも、小さなことでもいいから、「まずはやってみる・チャレンジしてみる」ことが大切。
・自らが主体的な地域活動を行う一歩を踏み出した。
・一人でやるな、みんなでやれ（1 能力×100 人＞100 能力×1 人）。
・住民みんなの「居場所と出番」をつくる。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>受講後の
取組</td><td>・受講で学んだ「まずはやってみる・チャレンジしてみる」を実践するため、地域へ飛び出す機会に立候補（H24.4 月：地域協働推進プロジェクト）。
・自らが主体的な地域活動を行うべく、また「一人でやるな、みんなでやれ」を実践するため、仲間と一緒に活動を開始（H25.4 月：竹田とらふす会）。
<table>
<tr><th>年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>H24.4 月</td><td>地域協働推進プロジェクト</td><td>地域自治協議会ごとに市職員を 3 名配置し、地域の主体的な活動をサポートするもの。まずは地域を知り、地域に自分を知ってもらうため、プロジェクトメンバーとなった。
地域の区長会・財産区・ソフトボール大会の運営などを通じて、様々なヒト・モノ・コトと出会い、関わることができた。</td></tr>
<tr><td>H25.4 月</td><td>竹田とらふす会</td><td>地域内外の 20 代から 40 代の若者世代を中心に、自分たちが楽しみながら、まちを盛り上げようと活動を開始した。令和元年 11 月末現在、会社経営・会社勤務・自営業・公務員など 15 名の多種多様なメンバーが、自分たちの得意なこと、好きなことの延長線上にまちと関わりながら活動を展開している。</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1　地区の青年団（H18.4 月）

平成 18 年 4 月市役所へ入庁する際、大学進学先である都市部から出身地である朝来市へ帰省し、同時に青年団（友和会・自衛消防団）へ参加した。

主な活動は、地区内の消火栓点検など防火活動、地区の盆踊り大会での唄と太鼓や出店、地区内の氏神社の初詣参拝者への炊き出しなどを、地区住民に暮らしに近い活動を行っている。

盆踊り大会の様子
（遠くの山頂が竹田城跡）

●STEP2　朝来市消防団（H21.4 月）

平成 21 年 4 月、長年活動されてきた地区の先輩と交代する形で入団した。

火災時には消防本部、地域住民と協力して消火活動、大雨や台風など災害時には水防活動、日頃からの地域内の防火・啓発活動に従事している。

また、消火活動に対する技術及び意識向上、さらに団員間の交流に資する「ポンプ操法大会」に出場している。
（令和元年 11 月末現在、朝来市大会 6 連覇中）

ポンプ操法大会の様子

●STEP3　地域協働推進プロジェクト（H24.4 月）

地域自治協議会ごとに、主にその地域出身の市職員を 3 名配置し、地域の主体的な活動をサポートするプロジェクト。

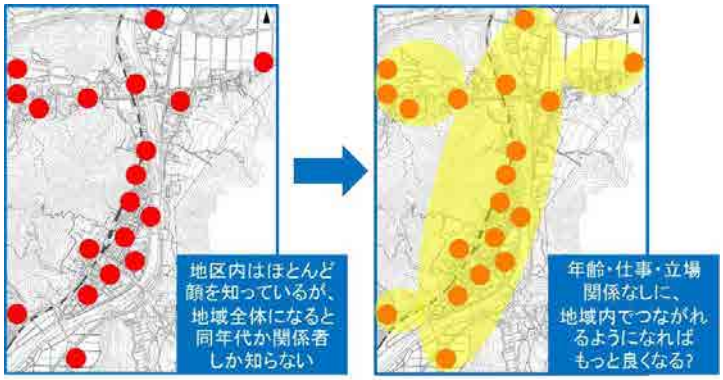
まずは自分が暮らす地域を知り、地域に自分を知ってもらおうと、プロジェクトメンバーとなった。

地域の区長会・財産区・ソフトボール大会の運営などを通じて、区長さん・体育委員さんなど様々なヒト、地域にある様々なモノ、地域の歴史・文化・風習など様々なコトと出会い、知り、関わりながら活動を行ってきた。

ソフトボール大会の様子

■取組を進める過程で生じた課題

・義務感ややらされ感で行う地域活動が多い
・居住する地区（自治会）内はほとんど顔を知っているが、地域（小学校区）全体になると同年代か関係者しか知らない



地域全体の地図
地域（小学校区）内に
●印の 19 地区（自治会）ある

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●誰もが win-win となる地域活動

①地域の課題を把握し、②自分たちができる事、③自分たちがしたい事を話し合い、左記①～③が重なり合う活動を行うよう留意した。

●一人でやるな、みんなでやる地域活動

年齢・仕事・立場関係なしに多様な人がつながり活動できる場（竹田とらふす会）に参加し、それぞれが「居場所と出番」を持ちながら活動できるよう留意した。

仲間と一緒に「地域課題・できる事・したい事」
を考えるワークショップ

TAKEDA TORAFUSU PARTY

竹田とらふす会のロゴマーク

■成果

ワークショップにて、地域の課題、自分たちができる事、したい事を考えた上で活動することにより、誰もが居場所や出番を持ちながら無理なく活動を継続することができ、また、地域にも喜んでもらえる（と思われる？！）活動を行っている。

一人ではなく仲間みんなで活動することにより、多種多様な人材の創意工夫により、幅広い活動が行えている。

地域イベントに出店

地域の子どもたちと楽しくまちと触れ合うまなび隊活動

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

・義務感ややらされ感ではなく、主体的に継続して活動が行える仕組みづくり
・自分たちが生き生きと活動し、その延長線上にまちとつながれる手法

■受講後の取組、今後の方向性

●竹田とらふす会での活動スタート

受講で学んだ「まずはやってみる・チャレンジしてみる」、「一人でやるな、みんなでやれ」を実践すべく、仲間とともに「竹田とらふす会」の活動をスタートさせた。

さらに、受講で気づきを得た「みんなの居場所や出番をつくる」の必要性を考慮し、メンバー自身ができる事・したい事の延長線上に、まちとつながる活動を展開している。

そうすることで、メンバーそれぞれの得意な事・好きな事を活かすことができ、主体的かつ継続的な活動となっている。

また、その延長線上に地域課題の解決につながる事を念頭に置いた活動を実践しているため、地域との協働・共感が生まれ、地域との信頼関係を築きながら、活動を行っている。

地域とのつながり方は自由で、「何をして」つながるかよりも「何を想って」つながるかが大切だと考える。

竹田とらすふ会メンバーと
地域の子どもたちのまなび隊活動での
竹田城跡早朝登山

「一歩を踏み出す」と何かがはじまる

１３．徳島県佐那河内村　千年つづくむらさなごうち～小さな自治を継承していくために

佐那河内村　安冨　圭司（H24 JIAM、H26 ケーススタディ型 受講）

<table>
<tr><td>市町村
（地域）
概況</td><td colspan="2">・人口 2,297 人（R1.11.30 現在）、面積（42.28k ㎡）
・徳島県中東部に位置する中山間地域。徳島市に隣接している徳島県唯一の村。移住支援等は充実しているが人口は減少している。</td><td> </td></tr>
<tr><td rowspan="2">活動主体と
活動地区</td><td>報告者の
活動経歴</td><td>・職員として H15 年度から 7 年間ゴミ分別活動を推進。地方創生担当では移住支援体制の確立及び地域団体設立支援、企業誘致等を行ってきた。</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td>活動
地区</td><td>・村内全域（全国的にも珍しい地域自治組織（講中・常会・名中）が存在する。ブータン王国などがその仕組みを学びに来ている。）</td></tr>
<tr><td>地域づくり
の状況</td><td colspan="3">・村は地方創生を推進するために（一財）さなごうちを設立。「食」による起業及び移住支援のために、食業工房さなごうちを運営している。また、ふるさと住民票の発行や定住促進のための宅地造成を進めている。</td></tr>
<tr><td>地域課題
または
問題意識</td><td colspan="3">・人口流出等により、「区域の権利」と地域を担う「人財」が流出している。
・人口減少と高齢化により、地域を継承する自信や文化が失われつつある。
・地域の遊休資産（農地、空き家を含む）の確保と活用方法が課題である。</td></tr>
<tr><td>これまでの
取組
（受講前の
取組）</td><td colspan="3">・想いを持って地域に入り、行政と地域・住民等が地域状況を共有し、内発的動機付けによって課題を楽しむ行動に移せる環境づくりを目指す。
<table>
<tr><th>開始年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>H15.4 月</td><td>住民主導のゴミ分別活動の推進</td><td>23 か所ある集積所で地域毎のルールを決定。住民の発案から 9 分別から 33 分別に移行。結果、排出量減や処理費の約 60%縮減に成功し、その経費は子どもの医療費無料化に充てられている。</td></tr>
<tr><td>H22.4 月</td><td>多様な地域活動団体の発足支援</td><td>複数の地域と世代が違う地域活動団体の立ち上げを支援し、各種体験イベントの実施や移住支援及び空き家活用等を行う団体を設立。</td></tr>
<tr><td>H26.8 月</td><td>徳島県建築士会及び大阪工業大学建築学科との連携</td><td>本村にある空き家を活用するために専門家らと連携し、所有者と移住希望者とのマッチングから耐震診断・改修までの仕組みづくりを行った。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>人財塾の
受講目的</td><td colspan="3">・行政に頼らない地域づくりの実践の現状を知る。
・内発的動機付けによる活動に必要な環境と要素を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>人財塾で
学んだこと
・効果</td><td colspan="3">・豊重さんの想いが人を動かす原動力と吸引力になっていることが分かった。
・個人の小さな想いを言語化し行動に移し夢中で頑張ると、そのときは想像もしていない結果と成果になっている。</td></tr>
<tr><td>受講後の
取組</td><td colspan="3">・地域活動及び移住促進等を実践するには、各々が小さな決断ができる環境が重要である。
・移住支援体制を整備し地域・所有者・移住希望者それぞれが想いを持って活動している。
<table>
<tr><th>年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>H25.4 月</td><td>地域づくり支援及び移住支援体制の構築</td><td>地域団体等と共に、地域を主語にした移住支援体制等を構築。地域活動や移住等に必要な情報や仕組みづくりを各種団体と連携して行っている。
各々の活動により、受け継がれる地域自治を継承する気持ちが醸成されつつある。</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1　住民主導のゴミ分別活動の推進

23 か所あるゴミ集積所全てでワークショップを重ねて、住民主導で地域独自のルールを作った。

ゴミ分別は、地域や家族・個人の責任の積み重ねの結果であり、その課題解決にはリーダーをつくらず、地域住民が納得のいく合意形成を図れるように工夫し、行政は地域が決めたルールに合わせて業務体制を変更した。それにより処理経費の縮減に成功し、当時の首長はその経費を子供たちの医療費無料化の財源に充当した。

地域（常会）毎に異なる合意形成の図り方と必要な「間」、そして地域にも受け継がれる「イエ」の繋がりは、幾重もの厚みのある地域自治の奥深さを知ることになり、地域を継承するには、それを大切にする人財（移住者等）の確保と課題を共有できる地域自治組織の継続が必要だと感じた。

●STEP2　多様な地域活動団体の発足支援

村内の 60～70 代の住民とともに交流広場や里山整備などを行う「根郷いきいき塾」や循環型農業を実践する「オープンファーム菜々」を発足し、村や活動に関心のある人たちと一緒に活動や体験イベントを開催している。

村に在住する 30～40 代の住民とともに地域づくりや地域の遊休資源（空き家等）をストックし活用できるように「ねごう再生家」や「地域活性化プロジェクト宮前笑会」の発足を支援した。

●STEP3　徳島県建築士会及び大阪工業大学建築学科との連携

初めて借りることができた築 100 年以上の古民家を活用して、構造調査や改修の実習等を行った。

その調査等をもとに、空き家を利活用できるように、徳島県建築士会と大阪工業大学建築学科と連携し、空き家活用に関する計画を策定し、耐震診断から改修までの仕組みづくりと物件所有者と移住希望者とのマッチングをする仕組みづくりと補助制度を創設した。

■取組を進める過程で生じた課題

・地域課題を自分事として捉えてもらうことの難しさ
・移住者や空き家を確保するための、地域の協力と連携を生む仕組みづくり
・この場所で住んでいることの肯定感をどのように醸成するのか。
・地域（常会）を繋ぐための人財を確保するために、地域の見えない価値を伝える環境づくり
・村に必要な民間事業者（建築士・不動産事業者等）がいない。

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●聴くことから始める、決断ができる環境づくり

地域住民が村を想う小さな取組に共感し、地域と行政がともに行動すると、取組から活動、活動から事業、事業から政策、政策から継続、継続から習慣、そして、文化（共有される価値観）へと変わっていくという経験を大切にした。

それをもとに地域に入り、行政側の情報を伝えるだけでなく、地域だけでしか知り得ない状況や情報を聴くことから始めた。

事業を進めるということは、それぞれの主体が行う小さな決断と行動を積み重ねることであり、そのうえで大切にしていたことは、「所有者」「地域」「移住希望者」など各々が、自分事として決断ができる環境づくりを心がけた。

●地域に合わせた提案と世代を分けたアプローチ

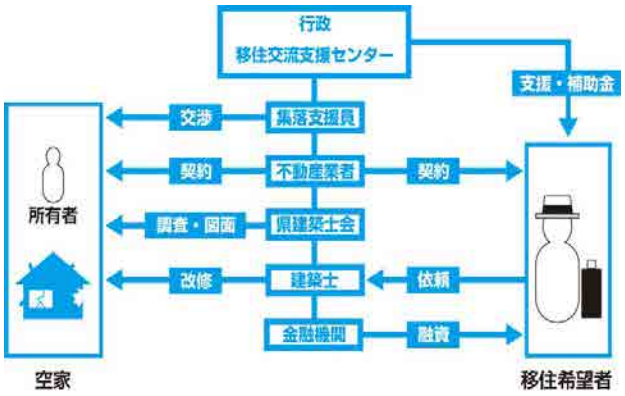
事例となる地域は、世代とテーマが違う 2 つの地域団体を立ち上げた。

エリア型コミュニティの中に、世代の違う 2 つの団体が地域に存在することで、世代間での役割が明確になり、移住希望者は地域住民と関わる機会が多くなるように心がけた。

●村の状況と移住希望者のニーズに合わせた移住支援体制の構築

東南海トラフ地震が懸念されているため、改修等補助制度は古民家であっても耐震を条件にしているが、その仕組みづくりには多くの建築士や大学教員等の専門家の意見を反映させた。

また、賃貸借契約等は全ての案件で双方の意見を確認しながら契約書を作成するなど、専門家が関わりトラブルに備えるように心がけた。



■成果

●みんなの成果「7 年ぶりに人口社会増」

地域団体や地域（常会）と行政が密接に連携して情報共有を行い、移住希望者及び物件所有者に対して丁寧に対応していくことで、移住支援及び物件等に関する体制整備を行った結果、社会増という成果を得た。

●地域に必要な人財が移住

地域団体の成果として、1 級建築士や不動産会社経営者、デジタルクリエイター、映像作家、大学教員など今まで村にはいなかった多くの人財が移住し、地域自治の担い手としても活躍している。

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

・行政に頼らない地域づくりの実践の現状を知る。
・内発的動機付けによる活動に必要な環境と要素を学ぶ。

■受講後の取組、今後の方向性

●情報と信頼を蓄積するための外郭団体を設立

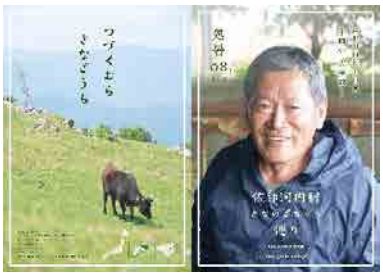
一般財団法人さなごうちの設立を担当し、空き店舗を 10 年間無償で借受け改修し、サテライトスペース、カフェの運営、ふるさと納税事業等を行っている。

また、村内の遊休資産（空き家）の譲渡を受けて、お試し居住体験施設の運営の他、転貸事業も展開している。

●さなのごちそう便りの発刊

地域への関心と魅力を再認識してもらうために、地域の生業をテーマに村民とふるさと住民向けに情報発信を行っている。

現在までに、16 刊を発行している。



●ふるさと住民票の発行

域外から村を応援する人たちを見える化し、村民、地域、行政との関係性を深めるためにもう一つの住民票を発行している。現在 250 名以上が登録している。

●移住アートプロジェクト「フルムーン・ダイニング」

人の気配がなくなった空き家に人の流れを創るために、現代美術家の北澤潤氏を招聘して空き家を利用したアートプロジェクトを実施している。

●地域に住む者として地域自治を継承するために！

「住民が自治を諦めなければ地域は継承される。」と教えられた。

公務員としての役割だけでなく、住民として地域自治に貢献できるように、地域の仲間と共に活動し、地域で受け継がれる小さな自治に目を向けて、それを継承していけるように行動していきたい。

そのうえで、地域に必要な機能を失わないために、地域活動団体「ねごう再生家」では、自分たちの出資の他に、空き家を転貸して資金を蓄え、無店舗地域にならないように活用することに決めている。

人口が減少し、地域の存続が危ぶまれるが、日本の地域自治の多様性を残すためにも頑張り続けたい。

１４．宮崎県宮崎市　宮崎ベースキャンプ～「ゴミ拾い」からはじまる地域イノベーション

宮崎市商業労政課まちなか活性化室　池袋　耕人(H30 JIAM 受講)

<table>
<tr><td>市町村
(地域)
概況</td><td colspan="2">・人口 398,297人(2019年12月1日現在現住人口)、面積 643.67k㎡</td><td rowspan="2"> </td></tr>
<tr><td rowspan="2">活動主体と
活動地区</td><td>報告者の
活動経歴</td><td>・2003年入庁後、知人等のつながりから、年間4～5回程度イベント等のボランティア活動に従事。
・2015年から宮崎ベースキャンプの活動を開始。
・2016年から中心市街地活性化を所管する部署に配属。</td></tr>
<tr><td>活動地区</td><td colspan="2">・宮崎市中心市街地エリア(中心市街地活性化区域内)
・対象区域の現住人口9,154人(2019年10月1日現在)、面積162ha</td></tr>
<tr><td>地域づくり
の状況</td><td colspan="3">・宮崎市では平成10年以降中心市街地活性化基本計画を策定し、関係機関と連携しながら中心市街地活性化の取組を進めている。また、商業団体や大型店等で構成するまちづくり団体であるDoまんなかモール委員会でも活性化に向けたまちづくりの取組を進めており、民間団体等もそれぞれ中心市街地活性化に向けた取組を実施している。</td></tr>
<tr><td>地域課題
または
問題意識</td><td colspan="3">・各団体での取組を進めているところではあるが、自主的なまちづくりの取組が少ないことや、特に若者を巻き込んだ取組や新しい人が関わる仕組みづくりが求められる。</td></tr>
<tr><td>これまでの
取組
(受講前の取組)</td><td colspan="3">・まちづくりに多様な人が関われる仕組み、何か行動したい人を支援する仕組みをつくることを目的に以下の取組を実施している。
<table>
<tr><th>開始年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>2015.4月</td><td>まちなか清掃</td><td>毎月 2 回、自由参加のゴミ拾い活動を実施し、ゴミ拾いの後には、情報共有やアイデアを生み出す場として雑談の時間を持っている。</td></tr>
<tr><td>2016.3月</td><td>夢プレゼンテーション大会</td><td>年 1 回、挑戦を声に出し、支援者を繋げる場として TEDx 形式のプレゼン大会を運営している。</td></tr>
<tr><td>2015.9月</td><td>各種ワークショップ等の開催・開催支援</td><td>働くことを考えるジョブカフェや、食・DIY・テーマに沿ったワークショップの自主開催や、開催したい個人・団体の開催を支援している。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>人財塾の
受講目的</td><td colspan="3">・他地域で実践されている地域活動の取組を参考として学ぶ。
・他講師の講義を受講することで地域づくりの考え方について学び直しの機会とする。</td></tr>
<tr><td>人財塾で
学んだこと
・効果</td><td colspan="3">・現在、中心市街地活性化を業務として担当していることから、効果的なプラットフォーム設計の考え方(飯盛講師)を意識しながら、事業設計を行っている。</td></tr>
<tr><td>受講後の
取組</td><td colspan="3">・国土交通省の「グリーンスローモビリティの活用検討に向けた実証調査支援事業」の採択を受けた実証実験を実施する中で、各関係機関が主体的に関わるプラットフォームの設計を心がけて取り組んだ。
<table>
<tr><th>年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>2019.11月</td><td>グリーンスローモビリティ実証調査を実施する中での関係機関が主体となった取組</td><td>11/29-12/15 まで実施した実証調査の中で、Do まんなかモール委員会を中心に、クリスマス抽選会を企画運営いただき、行政がその動きを後方支援することで、結果的にグリーンスローモビリティ実証調査の利用につながった。</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP0　空き家利活用勉強会（庁内政策提言グループ）の発足（2014.7 月）

中心市街地で増加する空き店舗について、部局横断で利活用策を検討する勉強会が発足。当初は、各部署で興味のある職員が横断的に集まり、関係機関からのヒアリングや過去の計画の検証、他自治体の先進的な取組を調査し利活用に向けた提案とロードマップを含めた計画策定を行った。この空き家利活用勉強会で提案及び計画策定に関わったメンバーの中に、「政策提言や計画だけでは課題は解決されない。」という課題感が共有され、実際に行動に起こそうという機運が盛り上がった。

〈作成した提言書〉

●STEP1　宮崎ベースキャンプを立ち上げ、月 2 回のゴミ拾いを開始（2015.4 月）

「楽しく活動する」、「とりあえずやってみよう！」をコンセプトに団体を立ち上げ、誰でもできるゴミ拾いからスタートした。その理由としては、目的や計画という「理屈」より「行動」を重視し、「とりあえず一つゴミを拾えば、一つまちは綺麗になる」という考え方に基づくもの。ゴミ拾い後は、1 時間程度カフェで休憩しつつ、まちなかの変化や気づいたこと、アイデア等を共有する時間（雑談）をもった。その中から面白そう、楽しそうと盛り上がったアイデアは、とにかく実行した。

〈ゴミ拾い後の記念撮影〉

〈雑談の時間〉

〈実施①〉読み聞かせ

〈実施②〉本棚づくり

〈実施③〉みんなで朝ごはん

〈ゴミ拾い参加者も増加〉

●STEP2　夢プレゼンテーション大会の開催（2016.3 月）

ゴミ拾い後の雑談の中から、TEDx をモチーフとした夢を語る場をつくりたいというアイデアが盛り上がり、夢プレゼンテーション大会を実施している。これは、「世界一挑戦しやすいまち」にすることを目標に、「まずは挑戦を口にしてみる、そして挑戦者を応援する文化を育む」というコンセプトで実施している。併せて、公共施設の新しい活用方法の提案として、プラネタリウムホールを活用するなど、私達の団体としても運営側として挑戦を続けながら継続している。

〈夢プレゼンテーション大会〉

〈SNS 等での広報資料〉

●STEP3　各種ワークショップ等の開催・開催支援（2015.9 月）

ゴミ拾い後の雑談の中から、各種のワークショップやセミナーを運営している。さらに、高校生や大学生、社会人等からセミナーやワークショップを企画したいという相談があるようになり、それらの開催支援を行っている。

〈熊本地震をきっかけにした震災対策 WS〉

〈地域活動をする団体が連携したセミナー〉

■取組を進める過程で生じた課題

・メンバー間の活動に対する温度差や本業と家庭、地域活動とのバランス
・マンパワー不足
・情報共有
・団体のミッションや目標を明確にしなくても良いのかという迷い
・資金調達

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

・メンバー間の活動に対する温度差や本業と家庭、地域活動とのバランス
・マンパワー不足

●平等を求めない団体運営

➢様々な活動にすべてのメンバーが参画できるわけではないので、平等に参画することを求めないような考え方に整理した。業務ではないので、参画できるメンバーが可能な時間に可能な部分を分担するような進め方で団体運営を行うように配慮しており、参加が義務感とならないように、「楽しく活動する」ことを重視し、無理な役割分担等を行わないような団体運営を心がけている。

➢また、私達の団体だけではマンパワーが不足するので、できない部分は無理をせず、適切に頼ることで、逆に関係者等との連携が生まれる結果となっている。

・情報共有

●新しいコミュニケーションツールの積極的な活用

➢年齢や所属等も異なり、全員集まれる場も少ないことから、新しいコミュニケーションツールを色々と模索しながら活用して情報共有に努めている。併せて、広報や集客手段としても様々なツールを試しながら運用している。一例として、「フェイスブックグループ」、「LINE@」、「Slack」、「Trello」、「Peatix」、「Google」関連サービス等の新しいツールを、必要に応じて活用している。

・団体のミッションや目標を明確にしなくても良いのかという迷い

●明文化しなくても OK！何となく共有されていれば OK！

➢地域活動を進めていると、ミッションや目標を聞かれることが多く、明確にしなくても良いのかという議論はあったが、明確にすることで縛られるのではないかという考え方から、ミッションや目標はあえて明確にしないこととした。また、名簿等や団体構成を明らかにしないことで、何となく趣旨に賛同する人が緩やかに参加できるような団体運営を心がけるようにしている。そのことで「Weak ties」（弱いつながり）でも参画できる仕組みとしている。

・資金調達

●セミナーやワークショップ開催での会費制、投げ銭制度の導入

➢大きな資金が必要なイベントは実施していないが、団体の活動に理解するメンバーからの年会費や、セミナーやワークショップも実費分は会費として集めることで資金を確保している。また、セミナーやワークショップで、団体の活動や今後の予定を説明し、趣旨に賛同する方からは投げ銭制度で少額を集め、今後の活動資金として活用させていただく取組も試行的に実施している。

■成果

活動を通して、特に高校生が意欲を持って地域活動に関わる土台を作ることができた。また、セミナーやワークショップ開催の実績が積みあがることで、運営ノウハウを構築し、別の団体が実施したいときの後方支援等も行うことができ、県内全体で、地域活動を行う団体や個人が増加している。

さらに、2016 年から代表が業務として中心市街地活性化を担当しており、地域活動と市役所業務が連携することで、地域活動にこだわることなく、中心市街地活性化に向けて適切な手法（地域活動として行うのか、市役所業務として行うのか）を選択しながら進めることができている。

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

・他地域で実践されている地域活動の取組を参考として学ぶ。
・講義を受講することで地域づくりの考え方について学び直しの機会とする。

■受講後の取組、今後の方向性

他団体の活動に加え、各講師の実践事例は参考となる考え方が多かった。特に飯盛義徳氏の効果的なプラットフォーム設計は参考としており、地域活動と市役所業務が上手く連携した事例が生まれた。

●「宮崎市グリーンスローモビリティ実証調査実施事業」への地域からの支援

宮崎市では、中心市街地の回遊性向上施策の一つとして、国土交通省所管の採択を受けグリーンスローモビリティ実証調査を本年度に実施した（11/29-12/15）。その中で、検討委員会等の強い関係性の団体だけでなく、これまでの地域活動の中からのつながりがある団体や個人に協力をもらい、実証調査の利用者を増やす取組や広報活動に協力いただいた。

特に、地元デザイナー後藤修氏からは、ロゴや SNS 等で使用するバナー、看板等の多方面から協力いただいた。また、まちづくり団体である Do まんなかモール委員会からは、利用者を対象にした抽選会を企画運営いただき、17 日間で延べ利用者数 5,901 名という成果につながった。

〈実証調査の様子〉

〈ロゴ、乗車チケット〉

〈抽選会ポスター〉

地域活動の展開が目的でなく、地域活動と市役所業務がお互いに連携・波及し合うことが非常に重要であると考えている。現在は、これまでの地域活動の財産を市役所業務に活用している状況であり、現部署では市役所業務が中心にならざるを得ない部分もあるので、他部署に異動した場合は、地域活動もさらに拡充させていきたい。

１５．東京都小平市　交流の場づくり～人は人で磨かれる

公益財団法人小平市文化振興財団事業課　神山　伸一（H24 JAMP 受講）

<table>
<tr><td rowspan="3">市町村
（地域）
概況</td><td colspan="2">・190,005 人（平成 27 年国勢調査）、面積　20.51k ㎡
・東京都多摩地域の武蔵野台地上にあり、都心からは 26 キロメートルのところに位置するベッドタウン。</td><td rowspan="2"> </td></tr>
<tr><td rowspan="2">活動主体と
活動地区</td><td>報告者の活動経歴</td><td>・業務では、常に現場のある職場に所属し、地域づくりの最前線で仕事をしてきた。
・いくつかの自主研究グループを立ち上げ、市民とともに学ぶ場、実践する場、人と人をつなげる場づくりに取り組んでいる。</td></tr>
<tr><td>活動地区</td><td colspan="2">・東京都小平市
・東京都多摩地域</td></tr>
<tr><td>地域づくりの状況</td><td colspan="3">・東京都小平市及び周辺の多摩地域では、自主研究会が少しずつ立ち上がってはいる。
・自治体を超えての交流は少ない。
・情報、経験が自治体の中にとどまり、横への広がりが進まない。
・地域に飛び出し、人と人とのつながりから学ぶことへの意識が低い。</td></tr>
<tr><td>地域課題
または
問題意識</td><td colspan="3">・地域に飛び出し、人と人とのつながりから学ぶことへの関心の低さ。
・地域活動している者同士の連携。
・交流の場の少なさ。</td></tr>
<tr><td>これまでの
取組
（受講前の
取組）</td><td colspan="3">・活動の成果を発信すべく情報発信に取り組む。
<table>
<tr><th>開始年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>H12.4 月</td><td>フパルク</td><td>小平市職員の自主研究グループ。まちの緑について研究。特にビオトープに注目し、まちの中にビオトープがあることによる効果・効用を研究。研究成果を小冊子 3 冊にまとめた。
研究成果を学校で実践するべく、学校ビオトープづくりを 3 校で行った。</td></tr>
<tr><td>H22.11 月</td><td>ジャーナリスト楽校 in こだいら</td><td>住みやすい街なのに伝わっていないのは情報発信がきちんとなされていない、情報発信スキルが低いからと情報発信をテーマに学ぶ連続講座を開催。受講者は自治体職員に限定せずにオープンで実施。すると自治体職員、市民、NPO、企業人など様々な人たちが交流する場へと発展。また、学んだことを実践に移したいと、ミニコミ紙への連載、ラジオ CM づくり、コミュニティラジオ番組作りなど実践の場を自治体職員、市民と連携して実践。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>人財塾の
受講目的</td><td colspan="3">・人づくりの効果的な実践方法を学ぶこと。
・全国で活躍している実践者と交流すること。</td></tr>
<tr><td>人財塾で
学んだこと
・効果</td><td colspan="3">・受講生の熱い思いと意識の高さ。
・熱い講師陣から贈られる言葉の数々。
・これまでの活動が理論的に整理され、自分の中で深化。
・地域を作っていくのは「人」。人を育てることが地域づくりになるということを再認識。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>受講後の取組</td><td>・自治体職員が地域の方々と一緒に学ぶ場づくり。
・自治体職員の組織を超えた交流、学ぶ場づくり。
<table>
<tr><th>年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>H28.7 月</td><td>小平市職員自主研究グループ K-up（ケーアップ）</td><td>小平市職員の様々なスキルをアップするための講座を実施。自治体職員、自治体職員 OB などを講師に招き、多様な知見を聞く場となる。参加者は小平市職員に限定していないため、他の自治体職員、議員、民間人など参加者も多彩。受講者同士の交流から、さらにいろいろな気づきを得られる場となる。</td></tr>
<tr><td>H27.11 月</td><td>タマガワ・リーグ</td><td>東京都多摩地域の自治体職員の交流の場、学ぶ場として講座を実施。多摩地域の自治体職員だけではなく、多摩エリア外の自治体職員、議員、民間人など多様な方々が集まる場となる。</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

●STEP1　フパルク

小平市職員の自主研究グループ。まちの緑について研究。特にビオトープに注目し、まちの中にビオトープがあることによる効果・効用を研究。研究成果を小冊子 3 冊にまとめた。
研究成果を学校で実践するべく、学校ビオトープづくりを 3 校で行った。

●STEP2　ジャーナリスト楽校 in こだいら

住みやすい街なのに伝わっていないのは情報発信がきちんとなされていない、情報発信スキルが低いからと情報発信をテーマに学ぶ連続講座を開催。受講者は自治体職員に限定せずにオープンで実施。すると自治体職員、市民、NPO、企業人など様々な人たちが交流する場へと発展。また、学んだことを実践に移したいと、ミニコミ紙への連載、ラジオ CM づくり、コミュニティラジオ番組作りなど実践の場を自治体職員、市民と連携して実践。

■取組を進める過程で生じた課題

・コアメンバーの環境の変化により、集まる機会が少なくなり活動が停滞化。
・当初設定したテーマを達成し、その後のテーマ設定が難しくなる。

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●実践を伴う場にする

単に勉強するだけ、講演を聞くだけに終わらせず、必ず実践の場につながるような仕掛けをしている。また、自治体職員だけということにとどまらず、多様な人たちとつながる場になるよう意識し、いろいろな方々の意見を聞く場、交流できる場となるように考えた。

■成果

・小平市職員の学びの場を創出することができた。
・小平市職員と他の自治体職員、地域の方々とつなぐ場を創出することができた。
・多摩地域の職員同士がつながる場を創出することができた。

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

・人づくりの効果的な実践方法を学ぶこと。
・全国で活躍している実践者と交流すること。

■受講後の取組、今後の方向性

・人財塾では、特に、地域を作っていくのは「人」。人を育てることが地域づくりになるということを再認識。人財養成やネットワークづくりに力点を置き、取組を深化させる。

●小平市職員自主研究グループ K-up（ケーアップ）

小平市職員の様々なスキルをアップするための講座を実施。自治体職員、自治体職員 OB などを講師に招き、多様な知見を聞く場となる。参加者は小平市職員に限定していないため、他の自治体職員、議員、民間人など参加者も多彩。受講者同士の交流から、さらにいろいろな気づきを得られる場となる。

回	日にち	スピーカー	タイトル
15	2019 年 4 月 25 日	堤直規	公務員の働き方　1 年目・異動・出世・人付き合いのコツ
16	2019 年 5 月 30 日	K-up	出張 K-up　SIMULATION こだいら 2030 in 東村山
17	2019 年 7 月 12 日	酒井直人	中野区長酒井直人の過去・現在・未来
18	2019 年 11 月 8 日	諏訪頼史	SDGs って何？
19	2019 年 12 月 25 日	佐久間智之	公務員のまちへの思いが集まることができたら
20	2020 年 1 月 11 日	K-up	出張 K-up　SIMULATION こだいら 2030 in 岸和田

●タマガワ・リーグ

東京都多摩地域の自治体職員の交流の場、学ぶ場として講座を実施。多摩地域の自治体職員だけではなく、多様な肩書の参加者が集まる場となる。

●対話を重視

単に講演を聞くだけで終えることなく、必ず自分の感想や意見を発散する「対話」の時間を設けている。

自分の気持ちを外部化することで、新たな自分を発見したり、他者の意見を聞くことで違う視点からの考え方を得られたり、その日に聞いた話が自分の中で深化していく。

また、その場限りの出会いで終わらせないためにも対話は重要で、地域づくりのキーマンである人同士が、この場で出会い繋がっていく。

回	日にち	スピーカー
1	2016 年 11 月 7 日	富永一夫（NPO フュージョン長生）、後藤好邦（山形市）
2	2018 年 2 月 4 日	今村寛（福岡市）
3	2019 年 2 月 2 日	諏訪頼史（三郷市）、篠田智仁（茂原市）

１６．大分県大分市　大分を学ぶ「大分学」～自分のまちの魅力を再発見～

大分市道路維持課　幸重　陽子（H29 JAMP 受講）

<table>
<tr><td>市町村
（地域）
概況</td><td colspan="2">・人口：478,574 人（2019 年 10 月末現在）、面積：502.39k ㎡
・大分県の県庁所在都市
・国内でも有数の産業集積地であり、工業統計調査では製造品出荷額は九州 1 位、全国 15 位。世界に誇れる工場群を有する。</td><td rowspan="2"> </td></tr>
<tr><td rowspan="2">活動主体と
活動地区</td><td>報告者の活動経歴</td><td>・2001 年広聴広報課、2006 年から文化国際課でフィルムコミッション業務に従事し、まちの魅力発信を県、市町村と共に行ったことがきっかけとなり、県内全域を多面的に学ぶ「大分学研究会」に所属し、運営委員となる。
・子ども向けの絵本の読み聞かせボランティア活動を、20 年間以上行っている。</td></tr>
<tr><td>活動地区</td><td colspan="2">大分県内全域</td></tr>
<tr><td>地域づくり
の状況</td><td colspan="3">・市民活動センター（ライフパル）が中心となり、NPO 法人（210 法人）、市民活動団体（210 団体）、ボランティア団体（73 団体）の地域づくりに直結する幅広い活動支援をしている。</td></tr>
<tr><td>地域課題
または
問題意識</td><td colspan="3">・地域づくりの中心となっている担い手は、高齢者が多数を占めている。
・地域ごとで活動の温度差があり、キーマンとなる人材育成が必要。</td></tr>
<tr><td>これまでの
取組
（受講前の
取組）</td><td colspan="3">・発足当初より「大分学研究会」運営委員として活動している。
<table>
<tr><th>開始年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>H23.7 月</td><td>例会（奇数月開催）</td><td>県内市町村持ち回りで、テーマ（歴史・文化・産業・自然等）を決めて座学を行う。市長、自治体職員も講師として参加（大分市長は 2017 年に「大分市のまちづくり」について講演）。</td></tr>
<tr><td>H23.10 月</td><td>おおいた魅力体験ツアー（偶数月開催）</td><td>例会で学んだ内容の地域や、その時に旬な話題のある地域を見学するツアー。お昼は各地域の観光協会の協力を得て、郷土料理を楽しむ。</td></tr>
<tr><td>H25.11 月</td><td>大分学検定
（11 月 3 日文化の日に開催）</td><td>大分県の事をどのくらい理解しているか。様々なジャンルから出題。H27 から子ども検定も開催。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>人財塾の
受講目的</td><td colspan="3">・地方が活性化するまちづくりの先進事例を学ぶ。
・各地で活躍する実践者（講師・受講生）との交流。</td></tr>
<tr><td>人財塾で
学んだこと
・効果</td><td colspan="3">・私が事例発表した「大分学研究会」は、郷土愛の醸成に寄与する活動として全国的にかなり先進的な事例である事がわかった。検定試験では県内全市町村の首長賞の提供や県内の企業からの支援を受けていること、例会に首長や県内で活躍する人を講師として招へいする等の手法について、受講生からたくさんの問い合わせがあった。この活動の効果について振り返り、再認識することができた。
・人材塾の講師の方々の活動は、地域の人材育成に直結する点がとても多かった。また、その時々の事象からブラッシュアップしていく柔軟な体制作りも学ぶことができた。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>受講後の取組</td><td>郷土について学ぶ機会を更に発展させるため、誰もが入りやすいようにテーマを「食」として『郷土料理』に注目して活動を行った。
<table>
<tr><th>年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>H31.3 月</td><td>創作郷土料理本作成</td><td>次世代に伝えたい郷土料理を、県内を代表するシェフにアレンジしてもらい、レシピ本を作成。材料も地産地消にこだわった。</td></tr>
<tr><td>R1.7 月</td><td>創作郷土料理講座</td><td>「創作郷土料理本」に掲載した料理を、シェフに直接教わる料理講座。地産地消の地元食材の魅力も併せて学ぶ。</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

■取組紹介

●STEP1　例会

専門の知識を持った会員が多数所属しているため、会員自らが講師となり講演を行う。

・「西郷どんと大分を考える」（豊後大野市三重町史談会会長）
・「おおいた遺産と宇佐神宮」（NPO 法人大分研究所所長）
・「中津と医学」（川嶌整形外科病院理事長）
・「大分弁について考える」（別府大学文学部文化学科教授）
・「国東半島の民族文化を考える」（国東市文化財課職員）
・「地元の魅力を再発見～ロケ撮影とまちづくり～」（幸重）

●STEP2　おおいた魅力体験ツアー

例会で学んだ事柄を見学する。

・「時空を越えた『せごどん』大分と西南戦争」
　（豊後大野市～佐伯市～宮崎県延岡市）
・「宇佐に古代ロマンと戦争遺跡を訪ねて」（宇佐市）
・「おおいた遺産モニターツアー『修正鬼会』」
　（国東市、豊後高田市）

●STEP3　大分学検定試験

「あなたはどれくらい大分県の事を知っていますか？」をキャッチコピーとして、大分の魅力を多面的に知る事で、地域に対する誇りを深めてもらう事が目的。

・歴史、文化、食、温泉、産業、方言、スポーツ等の一般問題 100 問、スペシャル問題 5 問を出題。120 満点中 110 点以上を取ると大分学上級者に認定。

検定試験の様子

上級者への賞品
（左は県知事賞トロフィー）

検定パンフレット

■取組を進める過程で生じた課題

・会員は徐々に増えているが年齢層が高い。
・取組のマンネリ化。
・検定試験受験者数が横ばい。

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

●新たな視点に立っての取組

老若男女に共通して関心のあるものは何かを考え「食」をテーマに取り組んだ。大分県内でも様々な郷土料理があり、幼い頃から口にしていた料理が県内の一流シェフ 7 人によって再現、アレンジされ、新たな魅力となるよう料理本の作成を行った。この料理本はシェフのお店をはじめとして、協賛団体、県内の観光協会にて配布。シェフ考案の料理は、それぞれのお店で提供した。
協賛：大分県椎茸農業協同組合、九州電力、学校法人田北学院、株式会社山英食品、おおいた和牛
※「食料産業・6 次産業化交付金」（農林水産省）、「大分県地域活力づくり地域創生事業補助金」（大分県）を活用。

料理本（大分編）

レシピ掲載内容

●実践の場の提供

・各シェフの考案した料理を直接教わる料理教室を県内で開催。
・九州電力の協力で各営業所（大分、日田、中津、佐伯、三重）のクッキングスタジオをお借りし、全 10 回開催（定員 20 人）。全教室ともほぼ定員となり幅広い年齢層が参加（20 代～70 代）。うち 3 分の 1 は男性参加者。「郷土料理の新たな魅力を感じられた」「郷土料理を見直した」「地元の野菜の美味しさを実感した」と大変好評であった。

募集チラシ

講座風景

講座風景

●企業への呼びかけ

自分の住んでいるまちの魅力を知る事で地元住民との交流にも役立つと、社員研修の一環として大分学の活用を企業に提案した。これまで日本銀行大分支店、西日本シティ銀行大分支店、大分銀行、TOS 大

分放送、OAB 大分朝日放送、FM 大分、JR 九州大分支社の社員が大分学検定試験を受験。

■成果

・地元紙に「検定試験問題」や、「大分学ミニ知識」として歴史や文化など様々なジャンルの内容で定期的に掲載されている。
・地元のテレビやラジオ番組内に「大分学」のコーナーが作られた。視聴者の方々からの反響が良く、沢山の質問が寄せられている。
・専門学校や、大学などから、「地元の魅力を学ぶカリキュラム」の一環として依頼を受け、会員が講師として教壇に立つ機会も増えている。

地元紙に掲載された検定試験問題

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

・地域活性化の先駆的な事例、持続可能な体制作り等の手法を学ぶ。
・地域の抱える課題解決に向けた取組を失敗事例も含めて包括的に学ぶ。

■受講後の取組、今後の方向性

●講師、受講生の仲間の取組から、先進事例を学び続ける

講義の中で空家対策、公園の利活用、商店街活性化等々、地域が抱える様々な問題を、まちの人を巻き込みながら継続性を持つ流れに発展させていくというプロセスを学ぶ事ができた。

受講後は、講師の方々、受講生と Facebook で繋がっており、今はそのツールから更に進化した活動を知ることができ、とても良い刺激を受けている。

私のまち大分市は「笑顔輝き、夢と魅力溢れる未来創造都市」という都市像を掲げており「大分学研究会」の活動を通してこの都市像に近づかせたいと考えていた。人材塾を受講したことにより、まちの魅力に誇りを持つ人たちを増やすためには、ツールに対してもっと参加しやすく触れやすい仕組み作りが必要である事がわかった。それが受講後の取組（「食」）に繋がり、新たな人達を巻き込む成果になった。

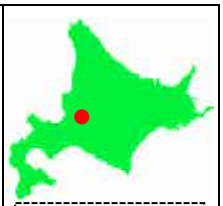
これからも、先進事例を学び、様々な工夫を凝らしてまちの人達と一緒になって活動していきたい。

H29 全国地域づくり人財塾交流会

講師の直接対話（飯盛慶応義塾大学教授）のメンバーと共に

１７．北海道岩見沢市　地域をかきまぜる ～自然と繋がる人、モノ、コト～

岩見沢市経済部商工労政課商工労政係（総務部秘書課広報係兼務）　高瀬　浩樹（H31 JIAM 受講）

<table>
<tr><td>市町村
（地域）
概況</td><td colspan="2">・人口 80,622 人（10 月 31 日現在）、面積：481.02 ｋ㎡
・人口のピークは平成 7 年の 97,042 人で、以降は減少。平成 18 年に隣接する北村、栗沢町と市町村合併。旧産炭地域の多い空知地方において、小樽や苫小牧の港へ石炭を運ぶための鉄路を中心に町が発展。国鉄が認定した全国 12 か所しかない「鉄道の町」の一つ。</td><td rowspan="2"> 
札幌から
32 ㎞（約 30 分）
新千歳空港から
67 ㎞（約 60 分）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">活動主体と
活動地区</td><td>報告者の活動経歴</td><td>H28 年に庁内で立ち上がったシティプロモーションプロジェクトチームに参加。チームでトークイベント「ザワトーーク」を立ち上げ、定期的に開催。</td></tr>
<tr><td>活動地区</td><td colspan="2">岩見沢市内全域</td></tr>
<tr><td>地域づくり
の状況</td><td colspan="3">・青年会議所、生活サポートセンター「りんく」（生活困窮者支援相談窓口）、みる・とーぶプロジェクト（東部丘陵地域の人や暮らしを発信するプロジェクト）などの団体が活発に地域活動を行っている。
・市立高校である緑陵高校や北海道教育大学岩見沢校の学生など、将来を担う人材による地域課題解決のためのプロジェクトが行われている。</td></tr>
<tr><td>地域課題
または
問題意識</td><td colspan="3">・市内で展開されている地域活動を知らない人が多い。団体間のつながりが弱い。
・学生の取組を、その後も地域の中で継続するという動きは弱い。進学等で地域を離れる若者が、将来的に「戻ってきたい」「関わりを持ち続けたい」と思う傾向は弱い。</td></tr>
<tr><td>これまでの
取組
（受講前の
取組）</td><td colspan="3">・地域のことを知っているのは地域の人。ゆるい雰囲気で雑談できる場づくりを企画。
<table>
<tr><th>開始年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>H28.6 月</td><td>シティプロモーションプロジェクトチームへの参加</td><td>まちのことや人の想いを深く知るため、インタビューやアンケートを実施。facebook ページを作成し、定期的にまちのことを発信。</td></tr>
<tr><td>H28.9 月</td><td>ザワトーークの開催</td><td>プレ開催の参加者は 21 名。テーマは「あなたの考えるいわみざわらしさとは」と「いわみざわらしさを使って楽しいことを考える」</td></tr>
<tr><td></td><td>市民活動への参加</td><td>ザワトーークを通しての縁をきっかけに、さまざまな活動に足を運ぶようになり、庁内以外でのつながりを持つことができた。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>人財塾の
受講目的</td><td colspan="3">事例の学習、多様な実践者との交流</td></tr>
<tr><td>人財塾で
学んだこと
・効果</td><td colspan="3">・仲間との盛り上がりが、仲間だけでの盛り上がりになっていなかったか。誰もが入ってきやすい場づくりが必要だと感じ、これまでの取組を見直すきっかけに。
・できる範囲、手の届く範囲でまず実践し、自然と継続していることが重要と再認識。</td></tr>
<tr><td>受講後の
取組</td><td colspan="3">・場づくりの継続で次第に人と人、コトが繋がっていき、新しい動きが生まれる。
<table>
<tr><th>年月</th><th>事柄</th><th>概要</th></tr>
<tr><td>H30.6 月
～現在</td><td>ザワトーークの継続</td><td>R1.12 現在でザワトーークの回数はプレ開催を含めて 16 回、これまでの参加者数は延べ 440 名。この場をきっかけに得意分野を活かして発表の場に一歩踏み出す人も生まれつつある。</td></tr>
<tr><td></td><td>エコラブごみ拾い活動の開始、市民活動への本格的な参加
（私的活動）</td><td>仲間と月 1 回のエコラブごみ拾いを開始。また、ザワトーークでコラボした市民団体「いっしょにboardgames」の活動に本格的に参加し、ボードゲームを通した地域活動を行っている。</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

■報告者の取組紹介（展開の経緯・流れ）

（１）シティプロモーションプロジェクトチームへの参加

平成 28 年 4 月、シティプロモーションを推進するためのプロジェクトチームのメンバー募集があり、「何か面白いことがやれるかも」という興味本位で自主的に応募し、集まった 6 名のメンバーでシティプロモーション事業をゼロから考えるところからスタート。

町の声を聴くことからはじめ、街頭インタビューのほか学生へのヒアリングをして、岩見沢に暮らす人がどのような想いを町に対して持っているのかを聞き取った。

また、自分たちの活動や想い、自分たちが足を運んだ市内の店舗や団体活動の情報を発信し、市民活動や市民の想いを広く知ってもらうことを目的に Facebook による発信を開始した。

（２）住民参加トークイベント「ザワトーーク」の開催

トークイベント「ザワトーーク」を開催。毎回、参加者の中からゲストを選び、その人の活動や経験、人生観などをゲストトークとして話していただき、そのトークをきっかけにテーマに沿ってグループトークを行う。当初は、人を集めて多くの人の声を聞くことが目的であったが、自分の想いを語ることで生まれる自己分析や自己肯定感、他人の想いを聞くことで得ることのできる気づきなどトークそのものに価値が生まれてきた。

（３）市民活動への参加

それまで市役所内にしかいなかった知り合いが、ザワトーークをきっかけに広がり、市内で行われる市民活動や教育大岩見沢校の学生の活動など大小関係なく足を運ぶようになった。多くの活動に参加するうちに「活動する人たちがどういった想いで活動しているのか」「その活動を続けていくためにはどういった支援が必要か」など、市民活動の在り方や継続性という新たな視点で考えるようになった。

■取組を進める過程で生じた課題

シティプロモーションという言葉のイメージから、市民はもちろん市役所内部においてもメディアを使った PR 活動を期待する声が多く、シティプロモーションを手段として「まちに関わりたい」「まちに関わる人を応援したい」「まちのことを人に伝えたい」といった地域参画総量の向上を図るプロジェクトチームとの見解の相違が見えた。

また、地域づくりに強い想いを持つ参加者の中には、ザワトーークからの施策展開を期待する参加者もおり、ザワトーークの位置づけを明確にする必要が生じた。

■効果を育むため、課題解決のために留意したこと

「地域の人、そしてその人が起こすコト、生み出すモノが地域の宝。みんなが主役。みんなの想いを知ってもらう。」という考えのもと、ザワトーークのゲストの経験・活動・人生観をより深く掘り起こすためにテーマやグループトークの進め方を工夫したほか、全道に放送される FM ラジオを使った PR 活動の中に多くのザワトーーク参加者を出演させ、多様な人生を歩む人が暮らすこと、この町でも面白いことができることを発信した。

■成果

①ゲストの活動に対する想いを参加者がより理解しやすいように、トークだけではないコラボ企画を実施

ボードゲーム×ザワトーーク
テーマ：頭の体操

音楽×ザワトーーク
テーマ：うたをつくろう

学生×ザワトーーク
年 1 回学生の企画で開催

コラボ企画をきっかけにして、ボードゲーム団体の活動や音楽活動をするバンドのライブ、学生の企画する地域活動にザワトーーク参加者が足を運ぶようになる。

②ザワトーークをつながりの場として、数々の新しい動きが生まれる

・レンタルスペース経営者とフリーターの若者がつながり若者が起業。
・引きこもり経験者がバンドマンとの出会いをきっかけに音楽に目覚め、一人でライブ鑑賞に出かけたり、イベントで演奏を披露。
・塗装業の経験があるフリーターが地域住民の企画した駅舎再生プロジェクトに参加し、経験を活かしてペンキ塗りに活躍。
・大学生と地域おこし協力隊が意気投合し、空き家を手作りでリノベーションしてシェアハウスとして活用。
・ラーメンを商品化したい飲食店経営者とデザイナーがつながり、商品のパッケージを制作。

③ザワトーーク参加者が地域のコーディネーターになる

参加者が多様なつながりを持ったことで、暮らしの困りごとの相談先やビジネスパートナーの紹介、仕事の斡旋、移住者に対する先輩移住者の紹介などをするようになり、一人一人が地域のコーディネーターになりつつある。

■受講前の課題・人財塾で学びたいこと

・全国の活動実践者の手法や想いに触れ、自らの取組に取り入れることができるヒントを得る。
・仲間とどのように繋がって、どのように繋がりを広げているか学ぶ。

■受講後の取組、今後の方向性

【受講後の意識の変化】

・人財塾が、取組が仲間内の盛り上がりになっていないか。置いてきぼりをつくらないことを考えるきっかけに。

・できる範囲、手の届く範囲で自らがまず実践することが重要と再認識。

→　誰もが気軽に参加でき、誰もが主役になれる、そして楽しく続けられる場をつくりたい。

→　「ザワトーーク」「エコラブごみ拾い」「いっしょに boardgames」による場づくり

●ザワトーークの継続

ザワトーークはプレ開催を含めて現在 16 回開催し、参加者数は延べ 440 名。結論や答えを出すことを目的にはしておらず、毎回設定しているテーマを話のタネにして、参加者同士が気楽に語り合う場としている。自由なトークの中で自分の想いを語り、みんなの想いを聞くことにより、参加者に新たな気づきやつながりが生まれている。参加者募集は Facebook と HP・広報、ポスター掲示での周知のみで動員は行わないこととしている。毎回 25 名程度の人が集まってくれているが、行政職員の参加は少ない。市民の声を直接聴くことのできる貴重な機会であり、「人財育成」の観点からも行政職員の参加も期待したいところである。今後の課題の一つとして新しい仕掛けが必要と考えている。

●エコラブごみ拾い（私的活動）

シティプロモーション事業を通じて多くの市民活動に足を運んだ経験から、自らが主体となって新たな地域活動を行いたいと考えていたところ、滋賀県を訪れた際に東近江市でエコラブごみ拾いを行っている方と出会い、それをきっかけに仲間と月 1 回のごみ拾いを行っている。参加者がごみを拾うことをきっかけにトークを交わしゆるいつながりをつくること、ごみを拾うという小さな地域活動を入口にして、市民活動への参加のハードルを下げることを目的としている。

●いっしょに boardgames（私的活動）

ザワトーークの参加者が行っている市民団体「いっしょに boardgames」のイベントへ足を運ぶうちに「ボードゲームを通じて人とつながり、岩見沢のことを知ってもらう。」という理念に共感し、本格的に活動に参画するようになった。

【ゆるい場づくりだけで自然とゆるやかに繋がる「人」や「コト」】

シティプロモーションプロジェクトチームの発足当時は「仕事」として捉えていた活動も、様々な場に足を運び、次第に知り合いが増え、活動や想いに触れていくことで「仕事」という感覚はなくなった。ザワトーーク、エコラブごみ拾い、いっしょに boardgames、いずれの活動も今は「ライフワーク」という感覚に近い。これからも仲間と楽しく活動しながら、ゆるい場づくりで地域をかきまぜる。そして、誰かの「やってみたい」をみんなで応援し、できる範囲で手を差し伸べるような風土、関係性を様々な活動を通じてつくっていきたい。みなさんのザワトーーク参加もお待ちしております！

第Ⅲ章　人材力活性化研究会

１．人材力活性化研究会とは

人材力活性化の具体的な施策・目標の検討や、研修に係るカリキュラムやハンドブック等の作成、全国地域づくり人財塾の進め方等の検討を行うことを目的に、有識者や実践者による「人材力活性化研究会」を平成 22 年から設置している。

本年度は、第 24 回の研究会を開催した。

人材力活性化研究会の設置目的

地域活性化の基本的な要素である人材力の強化を図るため、「人材力活性化研究会」を開催し、NPO・企業等との連携方策も含めた課題を抽出したうえで、人材力活性化の具体的な施策・目標の検討や人材力の相互交流とネットワーク形成の進め方等の検討を行い、人材力の強化・活性化に取り組もうとしている様々な主体の今後の指針となるプログラムを策定。あわせて、人材力活性化の事例の調査等を行い、その充実を図る。

人材力活性化研究会の検討事項

(1) 人材力活性化の取組の現状と課題の抽出、対応策の検討
(2) 人材力活性化プログラム等の検討・策定
(3) 人材力活性化プログラム及びプログラムに基づき実施する施策の充実
(4) その他、人材力活性化プログラムに関し検討が必要なこと

研究会構成員（令和 2 年 3 月現在）

座長	飯盛 義徳（慶應義塾大学総合政策学部 教授）
	小澤 浩子（赤羽消防団 副団長）
	谷　 和樹（玉川大学教職大学院 教授）
	玉沖 仁美（株式会社紡 代表取締役）
副座長	富永 一夫（一般社団法人スマート 代表理事）
	豊重 哲郎（柳谷自治公民 館長）
	前神 有里（一般財団法人地域活性化センター 人材育成プロデューサー）
	牧野 益巳（一般社団法人日本ティーチャーズ･イニシアティブ 事務局長）
	宮城 治男（特定非営利活動法人 ETIC. 代表理事）

（敬称略、50 音順）

２．第 24 回研究会

（１）開催概要

本年度は、新型コロナウイルス感染症への感染防止の観点から、「第 24 回人材力活性化研究会」については、会議の開催を中止することとし、書面での意見聴取をとる形とした。

（２）意見概要

①資料６　令和２年度における人財塾の展開について

- 令和 2 年度の人財塾の展開については異存ありません。ただ、自治大学校が特別編となるのであれば、内容を吟味して、前提となるような知識や経験の提示、アドバンスドなものになる内容の工夫が必要かと思います。
- 案の通りでよろしいと思います。地方公共団体の取組調査に関しては、地域に偏りがないよう工夫を期待します。先進事例に関しては、課題発見からの取組経緯を詳しく紹介していただけたら、これを参考に活動する方が増えると思います。
- 良いと思います。フォローアップ研修が、1 地域でも多く開催できることを願っています。
- JIAM、JAMP、自治大学校での開催は継続すべきと考えます。ただし、講師陣からの講義を最小化し、受講生の主体的な議論や発表がしやすい研修にすべきと考えます。講師との直接対話は継続で良いと思います。
- テーマ毎の募集案内も必要かと思います。
- この研究会が発足した平成 22 年度は、地域のことは地域の人たちが主体となって取り組むことが期待されていた時期でもありました。また、多様な切り口で活動する人を増やす、あるいはそのサポートができる人を育成しようという背景があったと思います。このため、事例集は、少し未来を模索する半歩進んだ事例を集めて、考え方を紹介する事例集が期待されていると思います。
- 内容等違和感はありません。特に全国でフォローアップ研修の自律的な開催が広がっていく展開に期待しています。また調査事業で現状を正しく把握されることも期待しています。

②資料７－１　令和２年度政策・実務研修「全国地域づくり人財塾」（@JIAM）の時間割について

- 限られた時間の中での実施のため難しいとは思いますが、受講生の声にもありました多くの受講生が希望する、受講生同士の交流や話し合いの時間が確保できればと思います。
- 修了生アンケートで他地域の事例や他の自治体職員の活動に関心が高いことが印象に残っています。この点に応える内容になっており良いと思います。
- 5/13 に新しい講師を入れてあるのが良いと思います。また、講師との直接対話では、NPO フュージョン長池の創業者と現理事長の二人が講師をさせて頂くことで、創業者と後継者の個性の違いも学んで頂けると思います。5/15 の実践事例も楽しみです。グループワークとグループトークが少ないようなので、講師との直接対話で工夫します。
- 内容については承知いたしました。
- 特に意見はありません。

③資料７－２　令和２年度「全国地域づくり人財塾（自治大学校)」（案）について

- 7/10 の講義①は、飯盛先生のプラットホームづくりが良いと思います。7/10 の講義②は、人材研の構成員より一名を選ぶと良いと思います。ご要望があれば、7/11 と 7/12 のフィールドワークを長池公園で富永が引き受けます。7/13 の各事例発表 70 分の最後 10 分は、講師からの講評を入れたらいかがでしょうか。
- 金曜日に始まって講義中心に初日を終え、土日は自主学習、2 日目に事例発表を聞いて終わりというのは違和感があります。遠方からの参加者にとって、土日の自主学習の意味がわからないと参加につながりにくいと思います。近郊のフィールドワークであれば、いくつかお願いできるあてはありますのでご相談ください。土日の企画のお手伝いも可能です。
- 意見はありません。

④資料７－３　令和２年度「全国地域づくり人財塾」（@JAMP）のカリキュラム（案）について

- 内容については異存ありません。
- JIAM と同様のカリキュラムであり、良いと思います。

⑤資料８　人材力活性化研究会の休止について

- 人材力活性化研究会の休止の件、承知いたしました。今後は、もっと、地域人材育成の優れた取組の事例を収集し、成果を分析することが必要と考えています。
- 平成 22 年に発足した当研究会は、受講生を中心に一定の成果をあげたと思います。しかし、社会情勢の急激な変化に伴い、地方公共団体が抱える課題も、期待される人材も多様化しています。今回ひとまず立ち止まり、新たな時代のニーズを受け止めるべく次の一歩に向け検討していくことは重要だと思います。
- このタイミングで今後の在り方を検討することに賛成です。今後については、単なる再開ではなく、一新されたものでも良いと思います。これまで地域のニーズに応えるマーケットインの発想で検討を続け、人財塾のカリキュラムに反映させることに注力してきましたが、今後は「こういう人たちに、こうなって欲しい」というターゲットを定めて、総務省からのプロダクトアウト型の検討があっても良いと思います。人財塾については、スキルアップに関するもの、事例を学ぶことも含めて情報収集に関するものなど、カテゴリを示して構成を組み立てるもの一案だと思います。
- 10 年になりましたので休止で良いと思います。ただ、代わりに JIAM、JAMP や自治大学校で人財塾を開催する際、人財塾の内容を講師陣で協議できる機会があったら良いと思います。常任講師だけでなく、非常勤講師も含めて研修終了後に開催してはどうでしょうか。
- 事務局の皆様に感謝いたします。ご苦労様でした。
- 休止で仕切り直し自体はよいと思いますが、むしろ改めて腰をいれて議論、設計していく時期と感じています。積極的に設計をして頂ければと願います。できれば民間のコーディネーター等も含め、受講者の桁が上がるような設計をしていく必要があると考えます。
- 了承いたしました。

⑥資料９　「人材力活性化に関する調査研究事業」報告書骨子（案）について

- 構成について意見はありません。今後の方向性としては、人材育成の成果や効果についての議論が

深まればと考えています。

- 案の通りでよいと思います。但し、修了生アンケートの回収率が少ないこと、前回と比べ評価が下がっている点などは、しっかり検証し今後につながるよう希望します。
- 修了生アンケートの調査結果を見ると、受講生の求めることが変化しています。対策としては、受講生の求めをもっと反映できる人財塾にする必要があります。講師からの一方的な講義より、対話型やフィールドワーク型が求められています。また、地域おこしの先進事例を講師と一緒に訪問して話し合う形式も良いと思います。アンケートの調査結果では、コミュニケーション能力のノウハウを受講したいとありますが、これは伴走支援をしないと困難と考えます。修了生の中から伴走支援を希望する人を募ってみたらどうでしょうか。フォローアップ研修は、修了生と当日の参加者が求めるカリキュラムに講師が応じるのが良いと思います。
- 全国各地で行政マンの良きリーダーで、地域づくりが活性化する土台が修了生で創生できること念じています。
- 自律的に展開するための戦略を立てている好事例があるとありがたい。実際に公務員が必要としているプログラムの内容や、各自治体における位置づけ、担当業務への影響、資格制度の可能性など取組のためのインセンティブの設計が浮き彫りとなるとありがたいと思っています。
- 特に意見はありません。

⑦その他御意見等あれば、ご記入ください。

- 令和 2 年度の人財塾も多くの人々との学び合いから、新しい地域づくりの芽が生まれることを期待しています。
- 飯盛座長はじめ、お力のある委員の皆様の活動や貴重なご意見に触れ、充実した時間を過ごさせていただきました。事務局の皆様のご尽力にも感謝いたします。ありがとうございました。
- 頑張っている修了生を訪問したい。地方開催を定員 70 名で開催するより、10～20 人程度の方々と徹底して懇談する人財塾の方が受講生の満足度が上がり人財育成になる気がします。
- 人財の超リーダー的、地域経営者コースに挑戦したい。

■参考資料

参考資料４．人材力活性化研究会

１．第 24 回人材力活性化研究会

第Ⅳ章　本年度の調査研究事業の成果と今後の方向性

１．本年度の調査研究事業の成果と課題の確認

本年度も地域づくり活動を自らの手で企画し、実践できる人材（人財）、「地域づくり人」の育成に向け、スタートアップの課程として位置づけている「全国地域づくり人財塾」（以下、「人財塾」という）を全国市町村国際文化研修所、市町村職員中央研修所、および金沢市文化ホール（地方開催）で開催するとともに、演習・グループワークを中心とし、中級編として位置付けた課程を自治大学校で開催した。

また、調査研究事業では、人財塾の修了生を対象とした『「全国地域づくり人財塾」修了生の地域づくり活動調査』を実施するとともに、「人材力活性化研究会」（以下、「研究会」という）において人財塾のカリキュラムや今後の方向性等について検討した（なお、研究会においては、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から書面開催とした。）。

ここでは、これらの取組を振り返り、本年度の成果と課題を確認するとともに、次年度以降の方向性について検討・整理を行った。

（１）全国地域づくり人財塾

①　成果の確認

■　172 名の修了生の輩出と地域活動への貢献

・　本年度は、全国市町村国際文化研修所（以下、「JIAM」という）、市町村職員中央研修所（以下、「JAMP」という）、石川県金沢市（地方開催）の 3 か所で人財塾を開催したほか、自治大学校で演習とグループワークを中心した課程（地域づくりセミナー）を実施した。

・　本年度は、4 回の人財塾で計 172 名（延べ 2,330 名）の修了生を輩出し、地域力創造及び地域づくり活動の活発化に向けた地域づくり人材育成のすそ野の拡大につながった。

■　石川県での地方開催（全国地域づくり人財塾 in 金沢の開催）

・　地理的な要因などから、JIAM、JAMP での人財塾の受講が困難な対象者に対する対応策として、2 日間のカリキュラムとした地方開催を平成 28 年度から実施している。これまで宮城県仙台市、福岡県福岡市、北海道札幌市で開催してきた。

・　本年度も 2 日間の日程で石川県金沢市で地方開催を行い、47 名が受講した。石川県内の参加者割合が 5 割を超え、地方での開催の目的が果たされた。

・　また、3 日目に石川県七尾市で活動する株式会社御祓川の取組を視察するフィールドワークを実施し、10 名の参加者により執り行った。

・　人財塾終了後に「課外活動」の時間を設け、フォローアップ研修（自主研修）に関する説明を行ったところ、金沢市の修了生によるフォローアップ研修が令和元年 11 月 3 日に開催され、人財塾終了後の説明の意義・効果が確認された。

■　フォローアップ研修会の継続（3 地域）と、2 地域における新しい研修会の開催

・　人財塾の修了生が自主的に集まり、勉強会等を行う「フォローアップ研修」が、本年度においても各地で開催された。

・　関東地方の修了生を主なメンバーとする「東日本支部」では、本年度も 3 回開催され、当支部

発足以降実施したフォローアップ研修は、7 年間で計 26 回となっている。「東日本支部」のフォローアップ研修は、修了生からの発表・学習だけではなく、外部講師の招へいや地域の大学とのコラボレーション企画による研修会が実施されるなど、「互学互習」をモットーに、創意工夫がなされた内容となっている。また、北海道では、旭川市・鷹栖町において昨年度に引き続きフォローアップ研修が開催され、12 名の参加者がフィールドワークを通じて、その見識を深めた。

・　このほか、本年度は、北陸（石川県金沢市）、中部（愛知県津島市）で、初めてフォローアップ研修が開催され、それぞれ 11 名、33 名の参加者により執り行われた。西日本では、2 年ぶりに再開され、本年度、大阪府吹田市・大阪市で 10 名の参加者により実施された。各会場では、フィールドワークとグループワークを組み合わせたカリキュラムで、学習ニーズを十分に反映した研修が実施された。

■　質の高いカリキュラムの構築

・　人財塾では、受講生は地域づくり人としての心構えや地域づくり活動に関するノウハウを学ぶことを目的としているため、そのカリキュラムとしては「人材力活性化研究会」の構成員による講義のほか、全国的に注目あるいは活躍されている実務家の講義、「講師との直接対話」、修了者からの活動報告、グループトーク（グループ討議等）を組み合わせている。

・　「修了生からの活動報告」では、修了生の地域活動継続の意欲醸成と、発表の場の提供を目的に行っている中、ここでの発表を希望する修了生が出現している。

・　この結果、受講者アンケートでは、各講義では高い満足度が確認され、一部に前述のフォローアップ研修のように、修了生の自主的な取組につながっている。

■　自治大学校における中級編課程の実施

・　自治大学校においては、本年度から中級編課程に位置付け、これまで JIAM や JAMP での要望が多かったグループワーク（演習）を課程に盛り込んで実施された。

・　本年度は、自治大学校の「地域づくりセミナー」の講座の一部として、全 7 日間のうち 4 日間の日程で人財塾を実施した。

②　課題の確認

■　受講者満足度の向上

・　人財塾では、研究会での議論や、受講者アンケートの結果等を踏まえ、毎年度、カリキュラム編成や、講義内容・方法を見直してきた。

・　この結果、講義、講師との直接対話等においては、アンケート結果をみると、受講生の理解度・活用度とも高い満足度が得られている。

・　このため、講義内容については、引き続き改善等を行い、受講生の満足度向上に努めることが求められる。

■　受講生ワークの時間の拡充

・　一方、研修全体の評価をみると、各回「知識の獲得」や「活動の企画、行動のヒントの獲得」等に対する満足度が高いことがうかがわれる反面、各回「仲間づくり」といったネットワークづくりに対する評価が相対的に低い傾向がみられた。

・　また、受講者アンケートでは、受講生相互で議論する時間（グループトーク）をもう少し長く

設けて欲しいなどの要望がみられた。
・　このため、グループワークの時間の創設や、課外時間での受講生の自主的な取組などにより、受講生相互のつながりづくりに配慮したカリキュラムが求められる。

■ 修了生の活動報告の充実

・　研修に対する要望として、受講者アンケートをみると、受講生の取組に対する聴講のニーズが少なからずみられた。
・　特に、受講生が講師になって活動事例を報告し、その活動模様における意識の共有に対するニーズは多い。
・　このため、一コマあたりの時間調整を図り、修了生の活動報告のコマ数を増やすことが考えられる。

■ カリキュラム編成の工夫

・　受講者アンケートをみると、日程を延ばす、または 1 コマの時間を延ばすなどといった余裕のあるカリキュラムに対する要望がみられた。
・　特に、講師との直接対話においては、講師の話をもう少しゆっくり聞きたいという意見や、受講生間の交流（グループワーク）に対しては、前述のとおり、受講生間の交流の時間をもう少し長めにとって欲しいとった意見がみられるなど、時間延長に対する要望がみられている。
・しかし、研修日程の延長は、受講者や勤務先の負担を考慮することが必要であり、簡単にはいかないところがある。
・　このため、時間配分の調整や直接対話の手法の工夫などにより、限られた時間の中で密度の高い内容・カリキュラムの検討が必要である。

■　受講者数の減少

・　平成 23 年度からスタートした人財塾（当初は「地域づくり人養成講座」）であるが、これまで定員を満たしていたが、ここ 4 年間をみると定員に満たない受講者数での開催がみられている。特に地方開催の受講者数の減少が目立っている。
・　その要因として考えられるのは、JIAM、JAMP の募集要項には講義の紹介は掲載されているものの、講師の顔写真はなく、PR 不足が想定される。また、地方開催（in 金沢）については、講師の紹介や顔写真は募集要項に掲載されているものの、周知不足や募集期間が短かったものと想定される。さらには、都道府県及び市区町村の職員課・研修担当課などから職員向けに十分に案内がされていないことも想定される。
・　このため、募集期間の確保や、募集要項における内容の充実、SNS を利用した発信など、多くの方が受講する取組が必要である。

	JIAM	JAMP	地方開催
平成 28 年度	36 名	92 名	80 名
平成 29 年度	54 名	55 名	70 名
平成 30 年度	43 名	82 名	60 名
令和元年度	36 名	68 名	47 名

（２）全国地域づくり人財塾修了生　地域づくり活動調査

①　成果の確認

■　修了生の意識や行動への訴求

・　受講による意識や行動の変化についてたずねた問では、「意識の変化があった」と回答した者は97.2%、「行動の変化があった」と回答した者は73.8%となっている。

・　行動の変化を回答する修了生の割合が相対的に少ないものの、多くの修了生に意識・行動の変化を促していることから、研修の一定の効果があるものと考えられる。

■　地域活動取組への訴求

・　「地域活動」の取組の有無についてたずねた問では、「はい」と回答した修了生が 70.2%となっている。

・　人財塾では、多くの修了生に地域活動への関与を促していることから、研修の一定の成果があるものと考えられる。

■　地域活動の質的向上への貢献

・　「全国地域づくり人財塾」事例報告者の地域づくり活動事例調査から、人財塾の受講効果をみると、講義の中からノウハウを学び、活動の再点検等を行った事例発表者がいるほか、講師のコメントにより、取り組んでいる活動における自信につながったなど内面的な活性化に結びついている事例発表者がみられた。また、受講の効果を活かし新たな活動をスタートさせるケースがみられた一方で、受講の効果を活動の振り返りに活かし、その後の活動の改善に役立てているケースがみられている。

・　このほか、受講で構築された修了生ネットワークからの発言や意見等により刺激を受け、活動のモチベーション向上につなげているケースがみられている。

・　このように、受講で得たノウハウや刺激等が地域活動に活かされ、地域活動の質的向上に貢献していることが確認された。

■　地域の人材育成への貢献

・　「全国地域づくり人財塾」受講後の行動の変化では、「人財塾で得た知見を同僚・部下、関係者に教えている」とした修了生が約半数に上っている。

・　また、具体的なケースでも、全国地域づくり人財塾フォローアップ研修が開催されており、地域に貢献できる機会を創出し、人材を輩出していることが改めて確認された。

②　課題の確認

■　人財塾の知名度の低迷

・　受講の理由についてたずねた問では、「募集要項（ML を含む）を見て」が最も割合が多いことから、募集要項等によりはじめて人財塾を知り受講するきっかけとなった者が多いこと、また、前回の調査と比べ「従前から受講してみたいと思っていた」と回答した割合が大きく減少していることから、人財塾の知名度が低下していることがうかがえる。

・　このため、講師紹介やカリキュラムの解説など募集要項の拡充に努めるほか、SNS などを通じて人財塾の積極的な PR が必要である。

■　受講意欲向上に向けたカリキュラムの編成

・　人財塾の受講意欲を高める方法についてたずねた問では、「自治体職員による多彩な活動紹介」が最も高く約 6 割の修了生が回答した。
・　また、受講したい研修スタイルについてたずねた問では、「フィールドワークを中心とした研修」、「講師との対話やディスカッションを中心とした研修」、「ワークショップや演習を中心とした研修」が高い回答率となった。
・　このため、このような点を盛り込んだカリキュラムにより、人財塾の魅力度向上を図ることが必要と考えられる。

■　地域活動を行っていない修了生に対するフォローアップ

・　前述のとおり、受講後の行動の変化についてたずねたところ、変化があったと答えた修了生は 73.8%、変化がなかったと答えた回答者は 22.7%だった。
・　受講後の意識の変化では 97.2%の受講生が受講後に意識が変化したと回答したにも関わらず、行動の変化へと結びついていない受講生が 22.7%も存在していることから、地域活動を行っていない修了生に対するフォローアップが必要なものと考えられる。
・　修了生アンケートをみると、地域活動に対するモチベーション維持としては、「SNS やホームページで他の修了生の活動状況を知ること」が最も高く約半数の修了生が挙げていることから、SNS やホームページを活用した情報発信が効果的である。

■　地域活動を続ける人材に対するフォローアップ

・　修了生が地域活動を行う上で抱える問題意識や課題についてたずねたところ、「計画策定や効果測定などマネジメント知識・経験の不足」が最も高く、約半数の修了生が課題と答えており、また、約 3 割が修了生が「行っている「地域活動」の専門知識・経験の不足」、「地域活動の理論や哲学が脆弱」と答えている。
・　このため、地域活動を続ける修了生に対するフォローアップとしては、マネジメントスキルをアップする研修（カリキュラム）を検討する必要があるものと考えられる。

■　フォローアップ研修に対するサポート

・　「人財塾修了生等による定期的な勉強会的な研修」（フォローアップ研修）について、具体的な開催スタイルについてたずねた問では、「同じ問題意識/課題を有した修了生有志等が集まった勉強会」が最も高く、次いで「近隣地域の修了生有志等が集まった勉強会」の順となった。
・　このため、フォローアップ研修の開催にあたっては、現在進められている地域性を重視する研修会の開催をサポートする一方で、SNS などを活用しながら開催目的やねらい、問題意識などを共有したメンバーによる研修の開催にも留意する必要があるものと考えられる。

（3）全国地域づくり人財塾フォローアップ研修

① 本年度の開催状況

■ フォローアップ研修の開催と定型化

・ 「人財塾フォローアップ研修・東日本支部」は、本年度 3 回開催され、発足以後 7 年にわたる継続した開催が、定例化している。

・ また、北海道ブロックは、昨年度に引き続き、フォローアップ研修が開催され、継続した開催がなされている。

・ このほか、本年度は、新規に、北陸・中部ブロックでフォローアップ研修が開催され、また、2 年ぶりに西日本での開催がみられ、次回の開催も具体的に検討されるなど、今後の継続した開催が期待される。

② 課題の確認

■ 報告の受領

・ 現在、フォローアップ研修では、講師派遣については、様式を定めて申請手続きを経るスタイルとなっているが、研修結果の報告については提出しない形となっている。

・ このため、様式を定め、効果や成果、実施により気が付いた点、想定していかなった効果などについて統一した報告を求めることが必要である。

■ 人財塾におけるフォローアップ研修に関する周知・連絡

・ 現在、フォローアップ研修の開催等ついては、修了生に対するメールを通じて、申請方法等の手続きの連絡がなされている。

・ 一方で、JIAM、JAMP、地方開催においては、フォローアップ研修に対する説明等がなされ、開催意欲のあるメンバーの募集等を行っている。

・ このように受講終了時にフォローアップ研修の開催を呼びかけることは、モチベーション維持の観点からも有効と考えられるため、引き続き、呼びかけを行うものとする。

■ 開催にあたっての事務局サポート

・ 本年度初開催となった北陸・中部ブロックのフォローアップ研修、及び開催期間が空いてしまった西日本のフォローアップ研修については、開催目的とカリキュラムの連動性や時間配分、開催までのステップなど、カリキュラムの設定について相談・助言などを事務局が行った。

・ 一方で、昨年度まで定期的に開催されてきた九州ブロックにおいては、幹事役が不在となるなど継続体制が成熟してなかったことから、本年度は開催されなかった。

・ 同様のケースが今後も想定されることから、フォローアップ研修開催の支援については、講師派遣の費用負担だけでなく、支部でのフォローアップ研修が軌道に乗るまでの間、相談などのサポートを事務局が行う必要があると考えられる。

・ フォローアップ研修は、修了生の自主的な取組として位置付けられる一方で、修了生の地域活動継続の原動力にもつながることから、今後もフォローアップ研修のサポートは必要と考えられる。

２．次年度の展開と今後の方向性

「１．本年度の調査研究事業の成果と課題の確認」を踏まえ、次年度の展開と今後の方向性は、次のように整理する。

（１）次年度の全国地域づくり人財塾の展開と今後の方向性

① 初級編として JIAM 編、JAMP 編を開催

・ JIAM 編、JAMP 編については、講義を中心とした人財塾初級編として位置付け、基本的に、本年度同様の開催を行う。

・ アンケートでも希望の多かった受講生相互のネットワーク・横の連携感を育むため、受講生及び修了生（活動報告発表者）間でのグループワークの時間を増やすとともに、課外時間を活用した自主的な受講生間の交流を促すことにより、受講生相互の関係づくりに配慮する。

・ フォローアップ研修については、各地での活動の周知を行うとともに、支援策を説明することにより、今後の新たな立ち上げを促進する。この際、受講生の連絡先の共有化を行うため、SNS を活用した受講生間の連携勧奨や、既存の各支部のフォローアップ研修担当者の連絡先を配布し、フォローアップ研修へ参加しやすい状況をつくる。

・ 自治大学校において、政策専門課程と連携して実施していた「地域づくりセミナー」については、自治大学校のカリキュラム再編にともない廃止する。

② 地方開催の休止

・ これまでの 4 回開催されてきた地方開催については、受講者数の低迷がみられることや自治大学校における夏期の特別研修を新たに開設することなどから、次年度以降については休止する。

③ 特別研修の実施

・ 次年度は新たな取組として自治大学校において特別研修を実施する。

・ 特別研修は、事例発表を中心とした人財塾中級編と位置づける。

・ 人財塾修了生のファローアップ調査の結果や受講者アンケート等で要望の高かった受講生による活動報告の時間を拡大し、受講生自らが講義者となりながら、自らの地域活動を発表する場を設けることとする。

（２）調査研究事業

地方公共団体等が行う地域人材育成の取組に関する調査

・ 地域活性化においては、様々な知識・経験を持った人が、その能力とアイデアを活かしながら地域づくりに取り組み、様々な活動が展開されることが重要である。そのため、地域づくりを担う人材を育成するために地方公共団体等において実施されている取組の調査を行い、今後の今後の人財塾のカリキュラム等に対する示唆を取りまとめる。

（３）人材力活性化研究会の休止について

人材力活性化研究会（以下「人材研」という。）は、地域活性化の基本的な要素である人材力の強化を図るため、平成 22 年 6 月に発足した。人材研では、これまでに「人材力活性化プログラム」、「地域づくり活動のリーダー育成のためのカリキュラム」、「地域づくり人育成ハンドブック」を作成しており、これらは、人材力の強化・活性化に取り組む多くの団体や地方公共団体職員の指針として活用されてきた。

また、人材研構成員が中心的講師陣となって開催されている「全国地域づくり人財塾」では、本年度末で全国に 2,330 名の修了生を輩出し、地域づくり人材の拡大に寄与している。

現在、少子高齢化や人口減少への対応、地域の特性を活かした地方創生の実践など、地域を取り巻く課題が一層大きくかつ多岐にわたるものとなっており、地域で活躍する人材をいかに育成・確保していくかを研究し、新たな施策の展開を検討していくことも重要となっている。

次年度以降においては「全国地域づくり人財塾」を引き続き開催する一方、人材研発足から 10 年が経過するのを機に、人材研を休止し、地域で活動する人材の育成・確保に係る課題の整理、効果的な育成手法やカリキュラム、行政や地域ＮＰＯ等の役割などについて、調査・研究することとする。

参　考　資　料

■参考資料１．全国地域づくり人財塾　受講者アンケート等
１．全国市町村国際文化研修所（JIAM）編 151
２．地方開催（in 金沢）編..... 187
３．市町村職員中央研修所（JAMP）編..... 221
４．自治大学校編..... 276
■参考資料２．全国地域づくり人財塾　フォローアップ研修
１．これまで開催されたフォローアップ研修の活動概要..... 309
２．北海道フォローアップ研修しおり..... 311
３．北陸フォローアップ研修リーフレット..... 314
４．中部フォローアップ研修リーフレット..... 315
５．西日本フォローアップ研修リーフレット..... 317
■参考資料３．全国地域づくり人財塾修了生地域づくり活動調査
１．全国地域づくり人財塾修了生地域づくり活動調査アンケート票..... 318
２．修了生が人財塾の成果を活かして取り組む地域活動（問８、問９）..... 322
■参考資料４．人材力活性化研究会
１．第 24 回人材力活性化研究会 345

参考資料１．全国地域づくり人財塾　受講者アンケート等

１．全国市町村国際文化研修所（JIAM）編

［令和元年 5 月 8 日～10 日］

■受講者アンケート

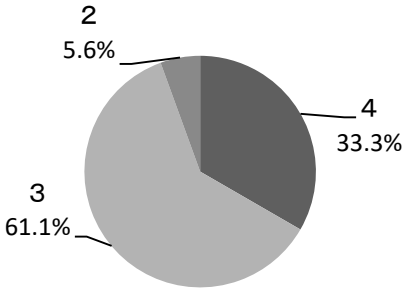
（１）各プログラムに対する評価

【講義１：導入】「人材力の活性化について」

総務省地域力創造グループ地域自立応援課　人材力活性化・連携交流室長　畑山　栄介

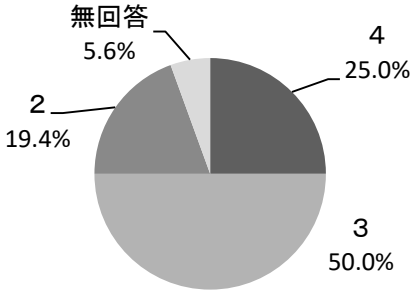
N=36

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	12	33.3%
	3	22	61.1%
	2	2	5.6%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	36	100.0%



N=36

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	9	25.0%
	3	18	50.0%
	2	7	19.4%
	1	0	0.0%
	無回答	2	5.6%
	合計	36	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

・　支援について理解できた。
・　人材力の活性化の必要性について学ぶことができた。
・　支援メニューについて理解を深めた。
・　人口減少、高齢化対策には、人材確保、地域外とのつながりが大切である。
・　外部人材の施策を活用できる。
・　これからは県や国ではなく、市の職員も慣習に捉われずチャレンジしていく時代だと感じた。
・　地域おこし協力隊の導入等に活かせる特別交付税措置があることを知り、利用していきたい。
・　時間が少なかった。資料を読み返すと非常に興味深い内容で活用に期待が持てる。

◎活用度３

・　人材育成について分かりやすく説明いただき勉強になりました。
・　自分の知らない様々な人材づくりの施策があるのだと分かった。

・　様々な制度を知ることができました。
・　様々な取組が進んでいることがわかった。
・　地域で生きる人の力をフルに発揮できるための行政の役割の大切さを認識しました。
・　様々なところで、人財づくりが行われていることを知りました。
・　職員でありながら活用できるものを知らなかった。人材の大切さを学んだ。
・　総務省も人材育成に力を入れていることを感じた。
・　国（総務省）も地域づくりのため人材育成に力を入れていることがよくわかった。国の本気度が伝わってきた。
・　基本的な導入として、「地方創生」について今の制度などについて知ることができました。
・　人材力の必要性がよくわかった。

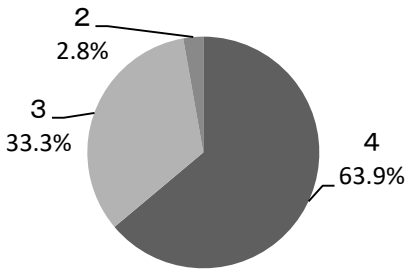
◎活用度２

・　個々のコミュニティを継ぐ、集落内など小さな規模が対象のツールは、ないでしょうか。地域活性は、個人のコミュニティ能力の向上が必要と考えます。
・　各種制度について、改めて教えていただいた。
・　「地域おこし企業人」を活用してみたい。

【講義２：実践事例】「クリエイティブな地域づくり」　一般財団法人地域活性化センター
人材育成プロデューサー　前神　有里　講師

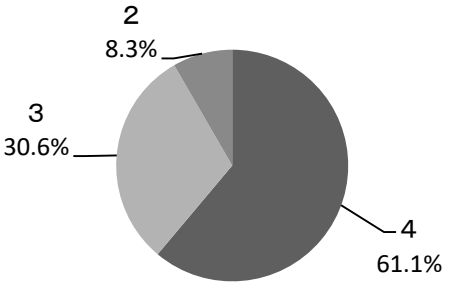
N=36

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	23	63.9%
	3	12	33.3%
	2	1	2.8%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	36	100.0%



N=36

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	22	61.1%
	3	11	30.6%
	2	3	8.3%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	36	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

・　「説得」して「納得」してもらうのではなく、「共感」を得ると自然と人は集まるということに、目からウロコでした。
・　ネガティヴ思考な人が多い行政職員、みんなに聞いてもらいたい。
・　明るい方で楽しく学べました。元気で接することが大切ですね。
・　地域に入っていく方法を知ることができ参考となった。
・　前神さんのお話を伺うと元気がもらえます。今後もどんどん飛び出して行きたいと思います。
・　地域づくりといっても人によって考え方は幅広い。
・　公が持つ機能は、情報力であるので、庁内への情報発信に努めます。
・　協働は共同ではない。異質と異質を合わせることで新しい価値を創る。
・　課題から入らない価値創造型の地域づくりのための「つなぎすと」になろうと思います。
・　課題解決より価値創造。話のわかる人だけでつるまない。人はタテのつながりからヨコ、ナナメへ。参考になりました。
・　“あくまで地域が主役”ということを意識して、業務に携わっていきたいと思った。
・　異質なもの同士の組み合わせ（協働）が新しい価値を創る。予定調和を求めず、正面から取り組もうと思った。
・　様々な分野の仕事において、つなぎすとに自然になっており、気づかないけどそれが大事だということを再認識した。
・　地域づくりは人との関わり方が大切であると思いました。「ナナメ」のつながりを持つことで、関わり方はもっと広がると実感しました。

・　地域に足を運び、「何をしたいか」聞くことが大切ということを学んだ。
・　レジュメにない PP 資料を撮影できたのはありがたかった。もう少し、ゆっくりお話が聞きたい。
・　課題から入らない、価値創造から始めるという、新たな価値観をお示しいただいた。
・　コミュニティの高さを感じた。

◎活用度３

・　移動する公務員（現場主義）、異質×異質＝新しい価値がわかった。
・　軽快なトークが楽しかったです。
・　行革の話で単に金額を削減するより金額以上の価値をつけていく発想に驚きました。
・　パワフルな講義で、たくさんの事例もあり良かった。
・　内容は理解できたが、話の展開と情報量が多すぎて、深く理解できないまま終わってしまった。
・　課題解決から入らない地域づくりということで、事前に疑問に思っていたが、理由等知ることができて良かった。
・　現場が大事だしチャレンジも大切ですね。
・　「ナナメ」の関係作り、話のわかる人だけでつるまない。肝に銘じたい。

◎活用度２

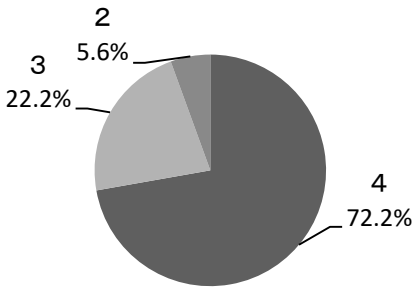
・　自分に持っていないものをたくさん持っている。明るい、熱い、力強い。
・　行政目線からの実体験を語って下さり、大事なポイントをよりつかむことができた。

【講義３：実践事例】「人が幸せに生きる公園づくり」

特定非営利活動法人 NPO フュージョン長池　会長　富永　一夫　講師

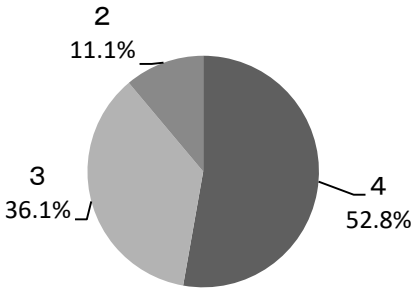
N=36

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	26	72.2%
	3	8	22.2%
	2	2	5.6%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	36	100.0%



N=36

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	19	52.8%
	3	13	36.1%
	2	4	11.1%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	36	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

・　「難しい」という言葉は、考えることをやめるということ。これからは、「難しい」という言葉を使わないようにがんばります。
・　天狗にならない、黒子でいることを率先していると思いました。
・　実直にストレートに意見をしていただきありがとうございました。
・　人材育成力がすごい。富士市のまちづくりセンターを指定管理に何か参考になるか？話を聞きたい。
・　行政と法人の関係性のある中、新たな後継者の必要性についても考えることができた。
・　相手が何を必要としているのか、1 番大事なことを置き去りにしない、再認識しました。ストーリーは地域と作る。
・　場を提供すること。まち育ては人育て。
・　人が育つ機会づくりを考えます。あえて組織を手段として使って住み良いまちづくりに挑戦します。
・　課題解決を急がず、住民自主性のため、黒子に徹し、場を提供する。
・　組織のビジョン、ミッションより個人の幸せにフォーカスする。なるほどそうだなと思いました。
・　非常にわかりやすい仕組みと話で様々なことに実際に活用できる。
・　「我々は地域のやりたいコトをサポートするだけ」という言葉が印象に残った。優秀な黒子になりたいと思う。
・　市民が中心のまちづくり。行政、指定管理者はあくまで「お世話係」という概念を踏まえていき

たい。
・　特に人材育成するための場づくり、自分の関わり方が参考になった。組織が持続的に存在する良い事例だった。
・　人が人を育てるのではなく、場が人を育てると思います。それぞれの方が知恵や技術を得て、それを活かす場を与えることが幸せにつながると実感しました。
・　人脈の活かし方がよくわかった。
・　栗農園で 80 歳の師匠から教わっているが、「定年者と若者が必ずチームで行う」という旨、とても共感できた。

◎活用度３
・　場の提供を主にしている。市民のやりたいことの手伝いをしようと思った。
・　実践に基づく理論が大変わかりやすかったです。
・　これまでの組織を中心とした考え方でなく、人としての生きる力を育てることの大切さを感じました。
・　大切なのは「場づくり」（提供）という言葉が印象的で、好循環が生まれていたことが感心したことであった。
・　公園で、稲を育てる等、目からうろこだったが、確かに地域づくりとして“公園”が存在していて勉強になった。
・　市民の集いの場をつくり、地域活動を活発化させていきたい。
・　内容は面白かったが、時間が 10 分オーバーしたのが残念…（受講生との意見交換も楽しみにしていたので）。
・　正しい公園管理について、ご教示いただいた。
・　より理解が深まりました。本も読みます。

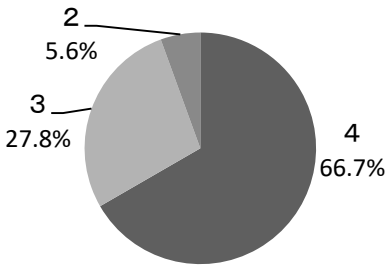
◎活用度２
・　地域の人のやりたいことに目を向けていこうと改めて思いました。

【講義４：実践事例】「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～」

柳谷自治公民館　館長　豊重　哲郎　講師

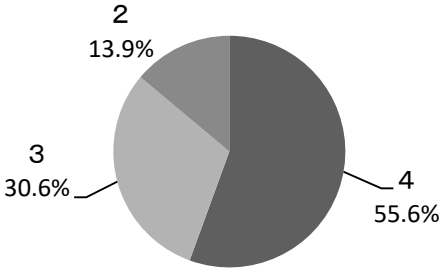
N=36

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	24	66.7%
	3	10	27.8%
	2	2	5.6%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	36	100.0%



N=36

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	20	55.6%
	3	11	30.6%
	2	5	13.9%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	36	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- キーワードは「子供」。この部分が非常に共感でき、本市において足りない「何か」のヒントをもらった気がしました。
- 一度必ず行きます。
- 数字で語れ、感動有る政策、涙・本気度、リーダーは本気、が心に残った。
- 私達のパートナーである立場の方からの言葉に背中を押してもらえました。覚悟、しっかり持ちました！！
- 地域づくりの心の持ちようや気構えなどを知ることができました。
- リーダーは黒子、人間力を高める、が心に残った。
- 単位自治体の極みの形であると感じました。講義内容を地域に発信したいと思います。鈴鹿で奇跡おこすよ会長。EDUCE！
- 補助金に頼らない企画力、演出力、財務力を身につけ、子供を主役とした地域づくりを行おうと思う。
- 本当の自治のあり方を考えさせられました。
- 自分たちのことは自分たちで考え実行するという信念と、その熱さに感動しています。
- 地域に住む行政員として、地域に対してできるコトをしていきたいと思った。
- リーダーシップも大事だが、住民が主体で支援、コーディネートに徹することが最も重要。地域コミュニティの自立しようとする意識を向上させる方法を学びたい。
- 講師の話し方、熱意、メッセージ等に引き込まれた素晴らしい内容でした。自分のしてきた内容に自信を持っており、人間性、創造力に長けている人と思った。

・　自治体職員として黒子に徹しながらも本気で地域づくりを行いたい。
・　禅問答に近かったが、自分の振り返りができ、面白かった。人について色々教わることができた。
・　地域力の高さに感動した。
・　地域、ひとにかける情熱と、数字・情報分析の冷静さ、素晴らしいと思いました。

◎活用度３

・　先生の熱い想いに心を打たれました。私も熱く、本気で取り組んでいこうと、覚悟を決めることができました。
・　地域再生の難しさを知り、時には強いリーダーシップと、思いの必要性を感じた。
・　行政マンが地域の中でその役割を担うことの大事さと、それを活かしてやろうと思われる講師の思いに共感しました。
・　自分が率先していく姿を見せていくことで周りの方が仲間になっていくのだと、実践を交えて伺えて良かったです。
・　内容と仕組みを理解できた。効果が高く、結果が出やすく感じたが人間らしさが失われそう。
・　補助金を使わない地域づくり。並大抵の努力ではないのだろうということがお伺いできたが、可能なのだと知ることができて良かった。
・　地域に住んでいる人が持つ得意なこと（才能）を活かす、EDUCE（エデュース）することが大切であると学びました。お金（補助金）があるから、どうするではなく、何々がしたいから始めるためにお金が必要。その後、自立して頼らなくなっていくことが地域と自治体にとって共に良いことであると思いました。
・　何度もお話を伺っている講師。この内容をできるだけ地域のキーマンに聞いてほしい。地域の成功事例を地域住民に身近に感じてほしい。

◎活用度２

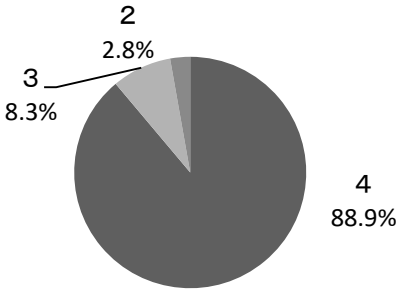
・　すごいリーダーだと思いました。覚悟と発想がすごい。
・　感動させることが、まち・地域づくり（見えない部分での動き）に直結していることを知った。
・　子どもを中心に考えます。

【講義５：実践事例】「地域づくりのマネジメントーつながりをつくり創発を生む仕組みづくりー」

慶應義塾大学総合政策学部　教授（学部長補佐）　飯盛　義徳　講師

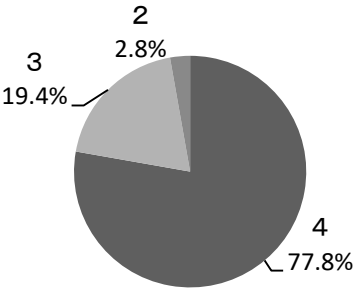
N=36

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	32	88.9%
	3	3	8.3%
	2	1	2.8%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	36	100.0%



N=36

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	28	77.8%
	3	7	19.4%
	2	1	2.8%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	36	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- すごくたくさんの事例等を聞けて勉強になりました。話を聞いただけでは足りないので、これから自分で勉強していきます。
- 内容はもちろんですが、話し方、伝え方が素晴らしいと思いました。学生がついてくるのも当然なことと思いました。
- 若い人が地域に興味があることに関して知ることができました。若者との接点を持ちます。
- 実用的な話ばかりで参考になりました。学校とのコラボが素晴らしい。
- プラットフォームの重要性を知り、頭で考えるだけでは進まないことも方式により解決することができた。
- 中学生に地域イベントボランティアを募集するが参加が少ない現状でした。興味がある子が参加しやすい仕組みをもっと考えたいと思います。
- ネットワークやプラットフォームの重要性を知ることができました。
- 場づくり、プラットフォームづくり。高校生のうちから地域と関わるきっかけを作りたいと思う。
- 学官連携の取組は、若者を地域に取り込む手段としては、非常に効果的と考えています。
- 住民主導となるプラットフォーム設計。新しい者をひきつける境界域を作り、担い手を育てたいと思う。
- 地域のプラットフォームをつくるための行政の役割と、子ども達への教育の大切さを学びました。
- 皆が相乗りできるプラットフォームの必要性を感じました。

・　非常に話がわかりやすかった。内容もわかりやすくまとめてあり、すぐに実践できると感じた。
・　地域づくりは地域が主役である、ということを忘れずに、職務に励んでいこうと思った。
・　事例をもとに、どのような効果を生むのかがわかりやすかった。教育（体験）の大切さを知った。
・　ゆるいつながりがイノベーションを生むことは実際、身の回りのことに置き換えるとよくわかった。地域を大事に思う気持ちを育むには子どもへの教育が重要だと思った。
・　①地域づくりに関心を持つ若者が増えている。②地域づくりには効果的なプラットフォーム設計が必要。この 2 点が印象に残った。
・　地域づくりは効果的なプラットフォーム設計が大切であると学びました。そして、次々と新しい自発的な活動が生まれるイノベーションが起こる環境を作ることが、職員として必要なことだと思いました。
・　地域づくりに関心のある若者は多いが、実践する場がないという話を聞いて、場づくりの大切さを実感した。
・　地域づくりにおいて理論的に教えていただいた。プラットフォームの成立について、政策を考えたい。
・　プラットフォームの境界線がよくわかった。
・　より資料を咀嚼して、自分たちの行動にします。
・　小さな「場づくり」から取り組みたい。その「場」へ誘導する様々なインセンティブの形を試していきたい。

◎活用度３

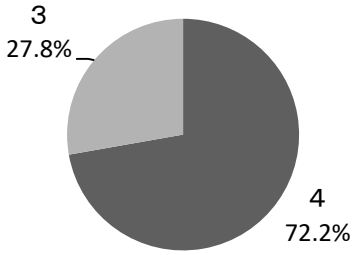
・　効果的なプラットフォーム設計について、直接対話で自身の実例に合わせて聞いてみようと思った。
・　学生の視点が地域に与える影響が大きいことがわかりました。
・　地域づくりに興味を持っている若者が増えているという内容に、とてもパワーをいただいた。境界設定も大変わかりやすい。

【講義６：実践事例】「地方はチャンス～１粒１０００円のライチが生んだ奇跡」

一般財団法人こゆ地域づくり推進機構　代表理事　齋藤　潤一　講師

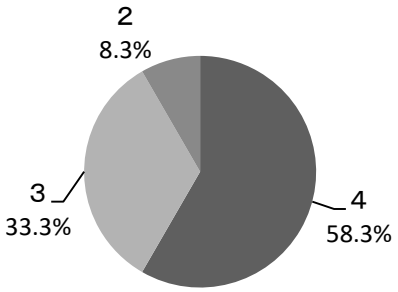
N=36

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	26	72.2%
	3	10	27.8%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	36	100.0%



N=36

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	21	58.3%
	3	12	33.3%
	2	3	8.3%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	36	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 9 割の人が行動しないという言葉にドキッとしました。1 割の人になるように、01、01 を大切に行動していきます。
- 行政はビジネス。この言葉は新鮮でしたが、話を聞く程、その通りと実感しました。本市の施策に活用できると思いました。
- 地域の宝、どう売るか？考えさせられます。
- イチになる人をヒャクに増やすよう私自身がゼロイチを繰り返していきたいと思います。
- こゆ財団の取組は非常に参考になりました。鈴鹿市においても鈴鹿版を検討したいです。
- 何気なく街を観るのではなく考えて観ると、まちづくりのヒントがある。地域づくりに正解はない。小さな積み上げが必要だと思った。
- 齋藤先生のゼロイチにまず一歩を踏み出す大切さを感じた。全てを先生がされていないという事も良い。
- 0 か 100 でなくて 01。一歩踏み出すことで変わる未来を感じました。
- チャレンジすること、人材を育てること、地道な積み重ねが人と人をつなぐという話が印象に残った。
- 内容がシンプルで 0 と 1 でできることから「やってみる」という内容がわかりやすく、実践しやすそうに感じた。
- 100 を目指すのではなく、01 を目指して、小さな事からでも始めていきたいと思った。
- 最も期待していた講義。期待通りでした。ゼロワンは自身の日常でも取り組むことができる。人財育成を主軸に事業展開されているが、地域外での事業も関係人口の増加につながっていると

思った。

- 人財育成がいかに大事で、稼ぐだけでは継続しないと思った。ビジネスチャンスはとりあえずやってみることではないか。
- 何かを始めようとする時、大きな目標があったとしても、それに向かうための小さな目標を少しずつ達成していくことが大切であると思いました。何もしない 0 より、何かやって失敗する方がまだ良い。それが 0 から 1 に変わるきっかけになると実感しました。
- やった後のことを考えるのはもちろん大切だが、まずはやってみることが一番ということに気づいた。
- あっという間に時間が過ぎた。アイディアに価値はない、というワードに動かされた。Blue ocean、地域はチャンスだらけだと思った。
- 理論の裏付けが非常に参考になった。
- 0→1。地域資源の活用方法がすごいと思った。
- 地域商社として成長されていることが非常に参考になった。自分自身がやりたいことに結び付けていきたい。

◎活用度３

- チャレンジ・01、とにかく何かやる、理論的な地域開発をやる人に投資、に共感しました。
- ビジネスにより地域が変わること、キッカケは様々であることを学ぶことができた。
- ビジネスの視点による地域づくりの事例が大変参考になりました。
- 0 を 1 にする取組をしようと思った。
- 何事も一歩踏み出すことが大切だと気づかされました。
- 行政の職務としてではなく、個人として、また齋藤先生の経営のノウハウを学びたいと感じた。
- WEB などの資料にも目を通します。

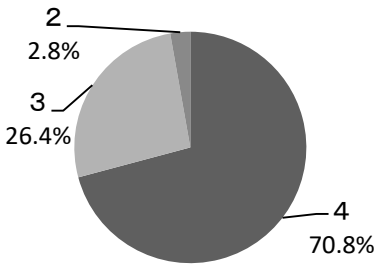
◎活用度２

- 企業と人材づくり両方の必要性が良く分かった。
- ブランド化されていないものに目を付け、発展させる手法や思考は参考になった。
- 企業の理屈を、地域づくりに活かすということが伝わった。

【講師との直接対話Ⅰ・Ⅱ】

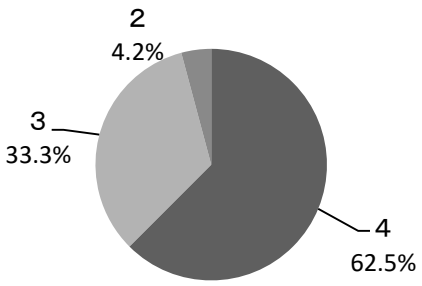
N=72

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	51	70.8%
	3	19	26.4%
	2	2	2.8%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	72	100.0%



N=72

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	45	62.5%
	3	24	33.3%
	2	3	4.2%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	72	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 講座だけでは抽象的だった部分も、詳しく説明していただけて、とても勉強になりました。
- 人を動かすというより心が動かされました。人の心を動かせるよう真正面から立ち向かいたいです。
- 互いの資源を持ち寄ることの重要さ、関係人口の増加に向けた、弱いつながりの大切さを改めて考えるきっかけとなりました。
- 事例から学べるヒントがありました。
- 講義ではわからなかった裏側を聞けてよく理解できた。後半の質問形式で不明なことが解決した。シンプルで活用できる。
- 他の市町村の悩みを聞けて参考になった。困った時には事例にあたり、知識を増やそうと思う。
- 財団も成功ばかりでなく失敗も多く、失敗から学び次につなげるという前向きな考え方に刺激を受けた。
- 自治体がやってほしいことをやらせるような描き過ぎたビジョンを押し付けるのではなく、地域、個人がやりたいことを支援する。どんなに面倒くさくても対話することから始めることが大切であると学びました。
- 地域づくりは子どもの育成が肝。子どもが帰って来たいと思えるような地域づくりを行う。
- 人の巻き込み方がよくわかった。
- 人財育成は還元の形として有効であるが、地域の方々への還元と言えるのか改めて考えさせられた。
- 今、悩んでいることを直接講師に聞くことができて良かったです。
- アクションリサーチ重要。地域活性化は企業化が必要だと思った。

- 大切なモノを一つずつ噛みしめた気持ちです。住民と職員が学び合ってハッピーを増殖していきたいです。
- 互学互習。行政が押し切る時代ではない。相手を主役にさせる。まちづくりは子育てである。自主性を持たせる。ことだと思う。
- 地域住民がどうしたいのか、何をしたいのか、そこを引き出し共存ができる行政でありたい。自身が地域の一員として。
- 講義の時よりも、多く話が聞けて大変参考になった。“市民を巻き込まない”、“共感を集める”勉強になった。
- 講師の実体験に基づく人を動かすアドバイスが大変参考になった。
- 課題ではない地域力の高め方がよく理解できた。
- 大学との連携について多面的に考えたいです。
- 地区間での競争は地元の城川町で機能させ易いと感じた。スローシティに興味を持った。とりあえず町にベンチを作る。
- 前神先生。地域住民との関わり方について伺えて参考になりました。
- 富永先生が自らのプランを発表し、それを受講生からフィードバックをもらうという形が良かった。
- NPO フュージョン長池　富永一夫氏。住民発意の重要性。指定管理制度の問題点を感じました。
- 豊重氏。思考力を高められる人を動かし、シナリオを 5 年、10 年と考える。集団に入り、使われ役から、人材を育成する。
- 柳谷の、時間（講義）で言いきれなかったマインドをじっくり伝えていただいた。
- 飯盛先生のゼミ生の取組が、やりたいことと同じで参考になった。
- 飯盛先生から具体的なアドバイスを得ることができ、非常に勉強になった。
- こゆ財団　高橋氏。「世界一チャレンジしやすいまち」。何のために仕事をしているのか？立ち返る場の必要性を感じました。
- こゆ財団　高橋事務局長。特別なスキルを持っている人を集めて作った組織ではなく、チーム力でそれぞれの個性を活かして運用されている。組織のビジョンが確立されていることで事業展開、姿勢にブレがない。
- 01 の考えと、その大切さを親切に話していただき、参考になりました。チャレンジも前向きにする必要性も心にとまりました。

◎活用度３

- 地域づくりに非協力的な人達へのアプローチの仕方がとても参考になった。
- 自己の思うところ・疑問の解決の手がかりとすることができた。
- 受講者が NPO、議員、役所で構成され、あらゆる方面からの解決法（ヒント）を下さり、あっという間だった。
- 緊張しました。でも新鮮で面白かった。
- 具体的な話が聞けて良かったです。
- 学生の地域参画が、わが市で参考になる点があった。多くの事例が聞けて良かった。

・　今後の問題、課題の考え方が変わり参考となった。
・　リーダーになる≒裏方に徹するという考えに感銘を受けました。
・　単位自治会の究極型であり、鈴鹿市においては、もう少し大きな協議会の動きに転用できないか考えます。非常に参考になりました。
・　多くの成功事例を挙げていただき、参考になり、地域の人に入っていく手法なども参考になりました。
・　たくさんの事例や結果の話があったが、成功の過程と、どのように行動すべきか、もう少し聞きたかった。
・　地域活性化をするためにリーダーに必要なことは、①企画力、②演出力、③財務力であることを改めて実感しました。出番があることが生きがいに感じている人は多い。皆が主役になるチャンスがあるまちづくりが持続していくと思いました。
・　NPO 法人の可能性、今後の地域づくりのあり方について考えることができた。
・　こちらがワクワクする内容に、希望が出てきた。ポジティブな考え方に刺激を受けた。
・　議論でもう少し課題を深めたかった。
・　豊重先生の先を見据えた集落づくりと引き出しの多さに改めて素晴らしいと感じた。
・　豊重先生。答えを示すのではなく、相手に気づいてもらうことの大切さを改めて感じました。
・　飯盛教授。大学連携などにより地域に関わりたい若者を取り込んでいくことも手法の 1 つだと思った。継続性については疑問が残る。

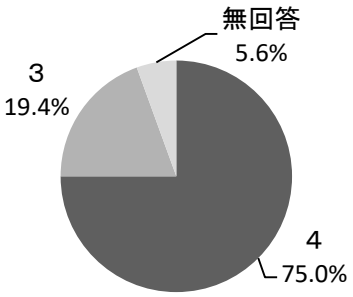
◎活用度２

・　自治会依存型の地域社会においては、単独の活動のみを活かすことは難しく、活動団体がしっかり機能しているので、次のステップと考えます。
・　対話形式でなく、業務説明に大半の時間が割かれた気が…。
・　多くの事例を見ることができ、似たイベントを行う際には、これらを基に、効果的なものを目指したい。

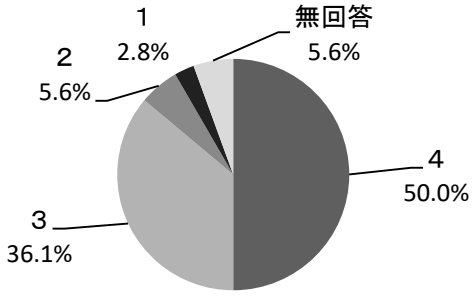
【講義７：事例報告】「地域をかきまぜる」　北海道岩見沢市経済部商工労政課　高瀬　浩樹　講師

N=36

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	27	75.0%
	3	7	19.4%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	2	5.6%
	合計	36	100.0%



＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	18	50.0%
	3	13	36.1%
	2	2	5.6%
	1	1	2.8%
	無回答	2	5.6%
	合計	36	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 同じ北海道の事例を聞けてとても参考になりました。また、講師とつながりを持つことができて良かったです。
- どこの市でも取り組める。ハードルの低い活用度の高い事例で参考になりました。
- 非常に良いまちづくりの事例だったと思います。プロジェクトチームでなければできないことだと感じた。
- 大学生との交流を当市でもやってみたいです。
- 自己業務とは別の取組について、地域でのコミュニケーションの場作りの必要性を学んだ。
- 本市の若手がやりたいことを実践されていてとても勉強になりました。FB 見ます！！
- ザワトーーク。平日夜間に若者が多く集うこと、子供の参加が多い。今後の方向性が気になります。
- やる気とセンスのある若い行政マンに刺激を受けました。こういう人材を庁内に育てたいと思います。
- シティプロモーションプロジェクトチームから始まったザワトーク。ゆるいつながりの可能性を感じました。
- 運営や進め方が具体的でわかりやすかった。同じような形で活用できそう。
- 学んだことを実践する実行力が素晴らしかった。場の提供から地域づくりの輪が広がっていて面白かった。
- 現在、自分の自治体でワークショップを行っているが、行動、動きにまでつながっていないので参考になった。参考にしたい。
- 自分の業務以外で横断的に市外の方ともつながる場を設けられていて参考になった。

・　ハードルは低く、中身は濃く、タウンミーティングを続けることや、結果や効果というより情報発信の場を確保することが大事だと思った。

◎活用度３

・　行政が参加のハードルの低い場を提供できることに驚きました。
・　わかりやすい事例であり、楽しさが伝わってきた。
・　受講されてすぐに実践されていてスピード感に驚きました。
・　仕事としてではなく、人と人のつながりで、ザワトークをして、そのつながりでネットワークができて素晴らしい。
・　何かを始める時、まずは自分自身が楽しくやれること、そして無理をしないことという講師の思いに共感することができました。そうでなければ、継続性は生まれないと思います。
・　仕事と兼ねて様々な実践をされていて、私も小さなことからやってみたいと思った。
・　自分の地域（うるま市）で行われていることが他県からすると先進的なんだと改めて自負につながった。地域に寄り添える行政マンでありたい。
・　地域づくり人財塾においてのフォローアップなど、取組方の参考になった。
・　ネーミングが面白い。地域の協力者のつくり方が勉強になった。
・　ザワトークの事例は、マネしたいなと思いました。
・　まさに場の提供による創発のモデルケースの様なお話であると感じた。トークテーマが岩見沢に限らないというところが面白いと思いました。

◎活用度２

・　何かを決めるための集まりではない話し合いの場の大切さをリアルに感じた。

◎活用度１

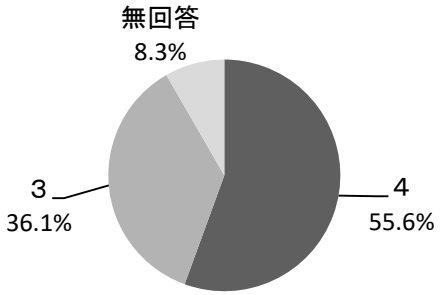
・　岩見沢市の取組への理解が素晴らしかった。結果主義の行政において、未来への素晴らしい投資だと思います。

【講義８：事例報告】「ひみつにできない日々のこと～事例報告～」

富山県氷見市産業振興部商工観光課　伏喜　マリエ　講師

＜理解度＞

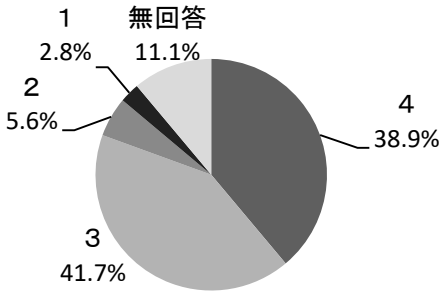
		回答数	%
↑高低↓	4	20	55.6%
	3	13	36.1%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	3	8.3%
	合計	36	100.0%



N=36

＜活用度＞

		回答数	%
↑高低↓	4	14	38.9%
	3	15	41.7%
	2	2	5.6%
	1	1	2.8%
	無回答	4	11.1%
	合計	36	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 伏喜さんの氷見愛に感動しました。私も芽室愛を持ってがんばります。
- 女性ならではの視点で、都会とのコラボがエッセンスとなり様々なかたちとなることを学んだ。
- 思わず前神先生の「ようかん」を思い出しました。私も伏喜さんのような仲間をどんどん増やしたいと思います。
- 個々のつながりが大切だと思った。新たな価値を見出す。ブラッシュアップが必要である。
- やる気とセンスのある若い行政マンに刺激を受けました。こういう人材を庁内に育てたいと思います。
- 組織ではなく、個人のやりたいことが、自然のつながりになるのだと思った。
- 一個人としてここまでのものを作り上げることができたことに驚いた。組み合わせの手法を活用できそう。
- 先生自身が地域づくりを楽しんでいることがとても伝わってきた。まずは自分が“共感”できることから探していきたいと思った。
- 女性として尊敬でき、自分の職務と重なる部分もあり、よりしっかり自分の職務を全うしたい、実際の事例も真似したいと思うものがあった。
- リーダーシップを取ってではなく自分のネットワークをうまく活用した活動だった。ツナギストの役割は大事と思った。
- 出会いは１×1＝∞の可能性という表現に共感しました。出会ったその人とのつながりだけでなく、その人がこれまでにつながった人と更につながる可能性が出てくると思いました。
- 質問タイムにおいて、どの立場で地域づくりに取り組むか、非常に勉強になった。

◎活用度３

・　特産物という強みがある点が本市とは違うが、先生の氷見に対する想いが伝わりました。
・　個人でプライベートな活動の中でこのようなことができていることが素晴らしいと思う。
・　行政としての関わりが難しくとも、個人として関わることができると思えました。
・　人が人を呼ぶ。個人で地域に関わるメリットがあると感じた。
・　多様性を認めながらやることで新たな価値が生まれることを知れました。
・　プライベートでの活動が「市」にかえってくるという姿勢で、積極的な取組に刺激を受けました。
・　多くの取組のコーディネートをされていて、興味深いものもあった。
・　沖縄にはないレベルの高い空家があることに感動。地域資源を活かすことの良いヒントになった。何より、本人が楽しそうで、こちらもワクワクした。
・　新しいアイデア力がすごい。オシャレで若者うけしそう。
・　おしゃれな感じは大切だと認識しました。
・　個々の持つスキルを掛け合わせる良い事例であると思った。いつか公として、目標の活躍ができる日を願います。

◎活用度２

・　洗練されたプロジェクトに感心した。
・　１つ１つのプロジェクトの完成度が高かった。広報、人のつながりを培っての今があり、今あるものを見直そうと思った。

◎活用度１

・　個人的な人脈による取組に聞こえましたが、行政としての関わりというより個人のマンパワーによるもので、人が変わると難しいと思います。

◎活用度無回答

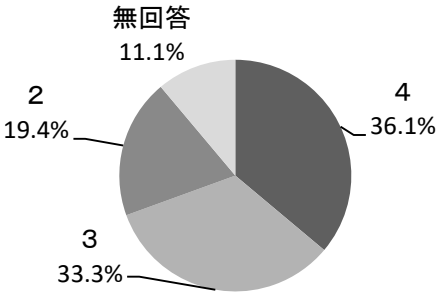
・　産休・育休からの活躍。働く女性のお手本だと思った。

【説明】「『地方創生カレッジ』について」

一般財団法人地域活性化センター　理事長　椎川　忍　講師

＜理解度＞

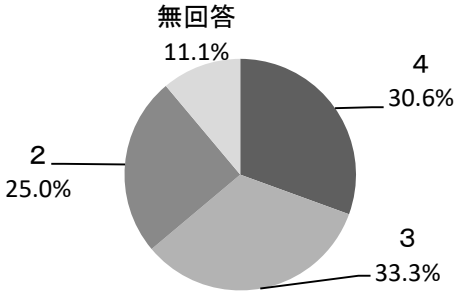
		回答数	%
↑高低↓	4	13	36.1%
	3	12	33.3%
	2	7	19.4%
	1	0	0.0%
	無回答	4	11.1%
	合計	36	100.0%



N=36

＜活用度＞

		回答数	%
↑高低↓	4	11	30.6%
	3	12	33.3%
	2	9	25.0%
	1	0	0.0%
	無回答	4	11.1%
	合計	36	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

・　地方にいながら講座を受けられるなんて、今まで受けてなかったことをもったいないと思いました。これから受けようと思います。
・　ぜひ活用したいです。職員の集まりの際にもお知らせさせてもらいます。(講師名で検索できると嬉しいです。)
・　内容ははっきり覚えていないが、活用できる印象が残っている。
・　良い制度をうまく活用し、今後の業務に活かしたいと思う。
・　事前に勉強しなかったのが悔やまれるため、今後勉強、周知したい。
・　今後ぜひ受講したい。
・　「地方創生カレッジ」の講座について、興味が湧いてきました。ぜひ、受講してみたいです。
・　ぜひ地域づくりに取り入れたい。

◎活用度３

・　知らなかったので今度見てみたいと思う。
・　帰りの電車で見たいと思います。
・　様々なプログラムを知る機会となった。
・　時間が短すぎた。地方創生カレッジに入りたいと思いました。
・　人材育成を今後、私の下の世代の方々にも還元して行っていきたい。

◎活用度２

・　「良さ」を伝えるのであれば間接的ではなく、直接の方が良いのでは。
・　今後利用できるか検討したい。
・　既に受講している。
・　取組の参考となった。

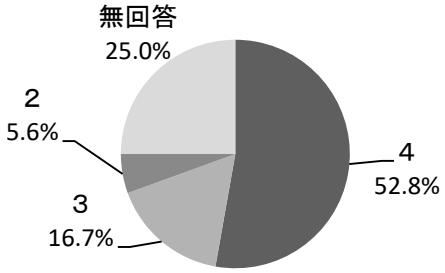
◎活用度無回答

・　多種多様な考え方が次につながる。

【成果発表と振り返り】

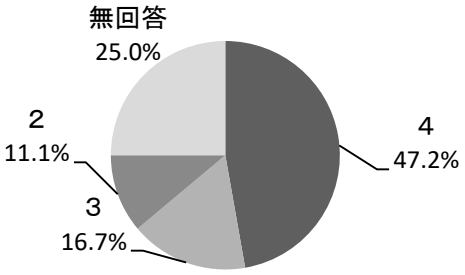
N=36

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	19	52.8%
	3	6	16.7%
	2	2	5.6%
	1	0	0.0%
	無回答	9	25.0%
	合計	36	100.0%



N=36

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	17	47.2%
	3	6	16.7%
	2	4	11.1%
	1	0	0.0%
	無回答	9	25.0%
	合計	36	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 3 日間の振り返りは、短い時間ではしきれなかったので、帰ってから改めてやります。行動宣言は、今から、明日からすぐできることがたくさんあるので、必ず行動します。
- 共通の目的で来ているので話も合い意見交換できた。
- 頭の整理ができました。あとは実践頑張ります！！
- 最後の激励に感動しました。
- より地域づくりへの意識が高まった。
- 個々の感じ方、捉え方が参考となりました。
- 自ら土台となり、育つ環境を作り、立ち位置を変えることが大切である。
- 研修で身につけたこと、自分の状況を組み合わせて、効果的に活用できると感じた。
- 先生方の熱い激励を聞き、意欲が高まった。
- 今回の研修で学んだことを行動に移したい。明日から何ができるかを整理する良い機会となった。
- 当研修全体を振り返り、今後の見通しを持つことができた。また、モチベーションを維持していきたい。
- 行動宣言に感化された。
- 発表しました。

◎活用度３

- 受講者の方の発表にもいくつかヒントが見出せた。自身も発表という一歩が踏み出せた。

◎活用度２

・　グループ内でアウトプットしても良かったかと。

・　自分の中で 3 日間で学んだことの整理ができました。

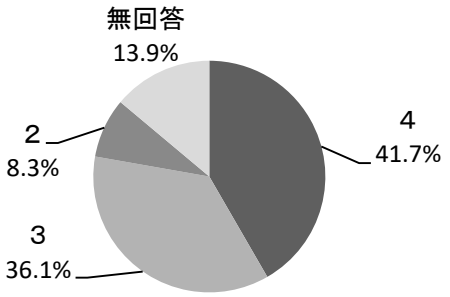
◎活用度　無回答

・　3 日間の研修を自分の中で振り返る時間にすることができた。ここで宣言したことを一つでも少しでも実践していきたいと思います。

【グループトーク】

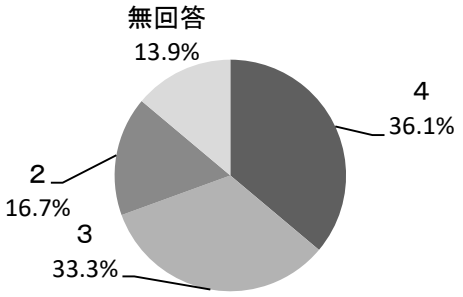
N=36

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	15	41.7%
	3	13	36.1%
	2	3	8.3%
	1	0	0.0%
	無回答	5	13.9%
	合計	36	100.0%



N=36

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	13	36.1%
	3	12	33.3%
	2	6	16.7%
	1	0	0.0%
	無回答	5	13.9%
	合計	36	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

・　他の受講者の想いや、他の町の状況等を情報共有することができてとても良かったです。
・　初めは話しにくかったが、すぐコミュニケーションが進み良かった。
・　同じ講義を受けても感じ方が違うことを面白く感じると共に、地域でも共有して確認することが必要だと思いました。
・　有意義な時間となった。
・　もう少し時間がほしかった。
・　各々所属が異なる中で、同じ研究を受講すると、価値観が異なることに気づいた。
・　他の受講生の意見を聞き、「そんな視点があるのか」と良い刺激をもらった。
・　個々の意見を聞くとともに、理解が及ばなかった所を気軽に質問でき、深められた。
・　他市町村の様々な年代の方々と意見を交わすことができ、刺激にもなった。
・　有効な時間だった。感想のまとめだけではなく、何かを話し合い、一緒に作る時間もあって良いのではないかと思う。

◎活用度３

・　もう少し時間があれば、共有が深まると思いました。
・　もっとしっかりと時間を取っても良いのでは。中途半端な感じがしました。
・　自分になかった見方を知れて、勉強になりました。
・　時間が短く、うまくまとめられないのが残念。
・　他自治体、他職種の方々の様々な意見が聞けて良かった。
・　講師の先生の考えだけでなく、受講生の皆さんが今、行っていることや、それに対する思いを知

ることができる時間になりました。
・　もう少しやり方の枠があればやりやすいかと思います。

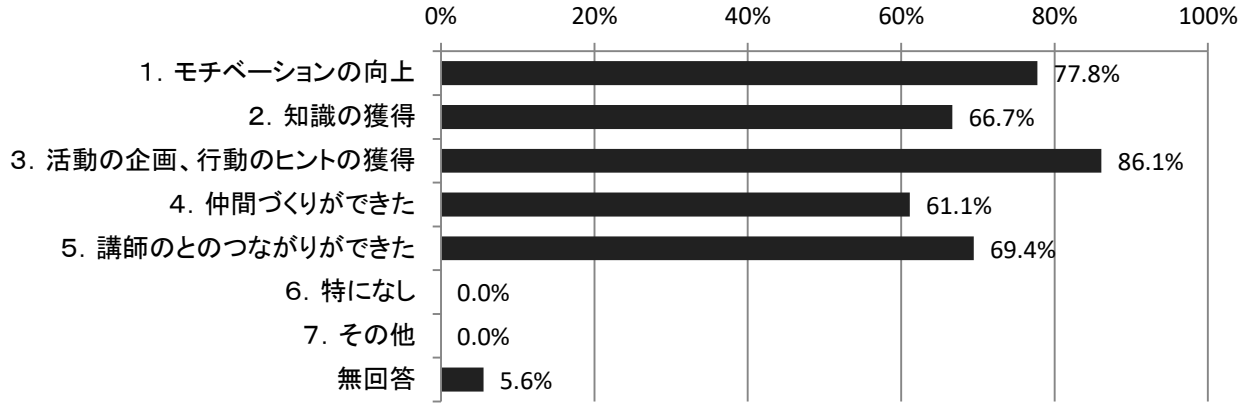
◎活用度２
・　発表者の押し付け感があった（メンバー同士)。
・　グループの発表より、グループ内の人達と話す時間を多めに取ってほしかった。
・　あまりにも時間が少なく、追い立てられているような気がした。この時間を大切にしたい。

（２）研修全体について

①人財塾の良かった点についてお伺いします。下記の選択肢から該当するもの全てに〇をつけてください。

N=36

	回答数	%
1. モチベーションの向上	28	77.8%
2. 知識の獲得	24	66.7%
3. 活動の企画、行動のヒントの獲得	31	86.1%
4. 仲間づくりができた	22	61.1%
5. 講師のとのつながりができた	25	69.4%
6. 特になし	0	0.0%
7. その他	0	0.0%
無回答	2	5.6%



＜自由回答欄＞

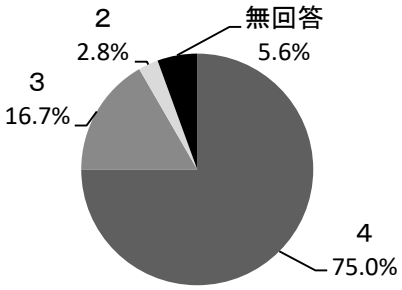
- すべての項目について、行うことができて良かったです。とても充実した研修でした。ありがとうございました。
- 「リスク」という、あくまで予知によるものばかりを気にして、行動できない自分がいました。歩み出すことで分かることがあり、それは成功かもしれないし、失敗かもしれません。失敗したらその理由を考え分析すれば良いし、成功したら喜べば良い。その繰り返しが大切だと。そんなスタンスでいきたいなぁと思います。
- モチベーション急上昇中です！！早く地域・職場の仲間達に会いたいです。この研修で得た知識をワクワクを共有して楽しみたい！！今回いただいたご縁も大切にしていきたいです。
- 行政のあり方やアプローチの手法を改めて考えてみようと思います。地方には、地方の、ルーツや背景といった多種多様な形があり、必ずしも変化を必要とせず、長く続けることによりコミュニティを維持でき独立できるものもあると考えています。取り入れることのできるものは入れ、住み良いまちづくりを支援します。
- 今後は、行政主導では難しく、地域住民が一歩を踏み出すための黒子に徹するべきと感じた。
- 講師の先生方からのインプットが多し。アウトプットの時間をしっかりと持つことが少なく、2日目の夜などはグループトークの時間をしっかりと持っても良いのではないかと感じた。

- 行政が先導しすぎないように、最初から住民たちと考えていくことが大切であることを改めて感じました。住民を巻き込む、お願いするのではなく、共感を得るようにしないと長続きしないのだなと気づかされました。
- 講師の先生方や他の受講生の方々の熱い話を聴き、モチベーションが高まりました。できることから始めていきたいと思います。
- とにかく講師のパワーがすごい。その話、パワーを受けることで、モチベーションが上がる。とりあえず 1 歩。ゼロイチ。踏み出そうという気になれた。多くの職員（人）に伝えたい内容ばかりだった。
- まだまだ、用語や制度に疎く、追いつくことに精一杯の面もあったが、一線で走り続ける方と直接お話できる機会は貴重で、刺激を多く受けました。
- 大変勉強になりました。日程の調整がつけば、参考にいただいた研修日程を見て、受講したいと思いました。職務のつもりで来ましたが、自分自身の至らない点も見えてきたこと。地域づくりだけでなく、自分づくりも私には必要だと感じました。総じて、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- 地域づくりの有名人の講師の話が聞け、質問もでき良い刺激となった。すごいことをいきなりするのでなく、できることを続けていけば大きい事につながることを再認識した。「9 割の人が行動を起こさない」と言われているが半歩でも踏み出し、行動する 1 割になりたい。
- 人財塾に参加する前と後では、地域づくりに関する考え方ががらっと変わった。様々な年代の仲間もでき、知識の習得をすることもできた。私の住むまちに戻り、まずは一歩何か実践をしていき、必ず本研修を活かしたい。
- 外で行われている様々な事例を目にすることで、自分の自信にもつながった。俯瞰で物事が見れる時間も増えそう。アイディアを行動に移すことが 0→1 の積み重ねにつながると感じる。当事者（ジブンゴト）の意識が更に上がったように思います。
- 一貫したカリキュラムにより、何が地域づくりに大切なのか実感できた。私は熱い想いと行動力、人と繋がる力だと感じた。その想いを受け取り、仲間と共有できた。非常に有意義な時間だった。
- 講師のパワーを感じた。具体的な打ち手についてイメージできた。
- 情熱が溢れる講師の皆さんから、少しその熱意を分けていただけた様に思えます。テクニックというよりは根本的なお話が多く、勉強になると共に、自身の現在の方針に自信が持てたと感じています。

②人財塾を受講したことにより、今後、業務又は業務外で地域づくりに関する活動を新たに又は、継続して行っていきたいと思うようになりましたか？

N=36

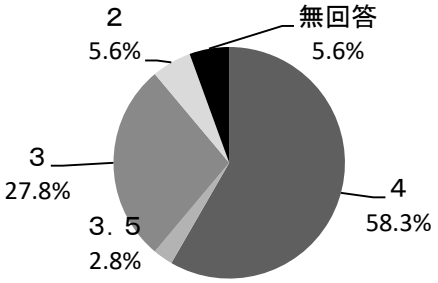
＜活用度＞		回答数	%
↑ 思った 思わない ↓	4	27	75.0%
	3．5	0	0.0%
	3	6	16.7%
	2．5	0	0.0%
	2	1	2.8%
	1．5	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	2	5.6%
	合計	36	100.0%



③研修全体の進め方・運営についてどのようにお感じになられましたか？

N=36

＜活用度＞		回答数	%
↑ 良かった 良くなかった ↓	4	21	58.3%
	3．5	1	2.8%
	3	10	27.8%
	2．5	0	0.0%
	2	2	5.6%
	1．5	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	2	5.6%
	合計	36	100.0%



④その他研修に関して改善点・お気づきの点をお聞かせください。

［プログラム、講義形式］

- グループ分けが毎日異なりほぼ全員と話ができて良かった。既受講者からの報告が具体性が表れていて非常に良かった。
- 振り返りのグループトークの時間をもう少し取っていただけたら良かったと思います。
- グループワークの時間がもう少しあってほしいです（その日の振り返りにも＋受講生の話を聴く時間にもなるので。）。講師の先生方のパワフルさに圧倒されながらも、皆様に共通することは場づくりであると知ることができました。3 日間ありがとうございました。
- グループワーク翌日の、深め合いの場の発表は、2 分程度あっても良さそうだと感じました。時間の都合上、1 分間がベストなのかもしれませんが。
- 朝にグループトークの発表をする以外は、前の日の夜に発表して、次の日の朝は、より題材を掘り下げるような内容だと嬉しかったです。
- グループトークについて。その日に学んだことはその日のうちに発表できると更に深まって良いと思った。でも、グループで話し合う時間を設けていただいたことで、いろんな方と話すことができました。ありがとうございました。

・ グループワークは、役所出身の方が多いと慣れていないので、もう少しワークシートや段取りがわかりやすいほうが、良いアウトプットが出るのではと思います。グループワークをするなら机は2つをつけて、島形式でやっても良いかなと思います。残り3分、1分と残り時間をアナウンスするとワークしやすいです。
・ 3日間という期間はあまりに短く、せめて5日間ぐらいはほしかったです。また、ワークショップなどで受講生間のコミュニケーションを取れる仕掛けもほしかったです。
・ 研修者同士の話、議論する場、自己表現できる場を、研修内の時間で1～2時間程度あっても良いのではないかと思いました。初日のグループトーク時の時間は、自己紹介でほとんどの話が終わってしまいました。
・ 研修生同士で話せる時間がほしかった。研修で習った内容をもとに、テーマを決めて実践できる時間がほしかった。運営スタッフの対応と雰囲気、笑顔とやさしさが良かった。
・ ほとんど講義を“聞く”座学スタイルだったので、1コマが長く感じました。それだけに休憩時間などで、受講生との交流を図りたかったのですが、授業時間がオーバーしたり、初日のグループトークが、予定より5分早めに切り上げられ、「地域活性化の説明」に割かれたのは？と思いました。
・ 研修のスケジュールが詰め込み過ぎるように感じた。講師の数を絞って、ゆっくりと講師の先生の話を聞きたいです。

［講義内容］
・ 施策に反映させるためには理論の裏付けが必要。行政側の視点も踏まえた事例紹介は参考になりました（齋藤氏）。行動宣言は、全体発表より、グループ内で発表した方が良いように思いました。
・ どのように地域再生を行うかの気づきはありました。成功例はよく理解できましたが、困難事例などの紹介時間があれば良かったと思います。

［その他］
・ 講師の皆さんの熱意を感じ、今後の業務の参考にしたいと感じた。
・ 講師の方たち、参加者も大変素晴らしく、これからの自分の考えに対して大変刺激を受けた。もう少し講師や参加者と意見交換したかった。研修内容に対して日程が短いと感じた。このような研修を継続してほしい。
・ 濃密な3日間を過ごすことができました。ありがとうございました。
・ 事務局の方々には、大変お世話になりました。朝早くから、夜までのフォロー、ありがとうございました。おかげ様で、私達は、受講に集中することができました。また、このような魅力的な企画で、色々と教えて下さい。
・ 研修プランナーの方々、もう少し研修の雰囲気をつくり上げても良いのではないでしょうか。進行されているという印象が強かったです。
・ 名簿、資料等で字を大きくできるものがあれば良いと思った。
・ 行政の方が多い印象でしたが、我々のような地域のプレイヤーも半分くらい参加者にいると良

いと思いました。

- フォローアップ研修が石川県でも開かれると良いなと思いました。“はじめられない”人がほとんどなら、フォローやアフターのモニタリングなどの寄り添いがあると、更に“はじめだせる”人がいるのだと思います。
- 頭を使ったら身体を動かしたい性格です。わがままですが体育館などを 22 時まで使いたいなぁと思いました。
- 当初は 2 日目等に少し時間の余裕が欲しいなと感じておりましたが、昔はもっと遅くまで講義されていた話をお聞きして、思い直しました。

（3）今回の研修受講生を対象としたステップアップ研修を行う場合、どのような内容を望みますか？

［事例発表・共有］

- 他の受講生の実践事例や、情報共有ができるような研修。
- 地域活性化の効果発表。ビジネスとしての成功例（金額を含む）の発表。失敗談をまとめタブー集を知らせる。
- 自分達がどのような活動をしてきたか共有（発表）、その内容についてグループトーク、その後アドバイスをいただけると嬉しいです。
- 他の受講生の活動報告など。
- その後について、事例等があればお聞きしたいです。
- 各自の取組の事例発表。
- この研修を機に活動し始めた方からの悩み、解決のポイント、失敗例の共有等したい。また協力者の拡大、将来的な方向性の再確認ができれば良い。
- 本講座の 3 日目に先輩塾生が話したような時間（事例発表）があると、より自分に身近なものとして聞くことができそうと思います。
- 過去から現在までの受講生と交流できるカリキュラム（意見交換、懇親会）。
- 研修後の経過報告、発表会（1 年・2 年・～5 年追跡）。

［フィールドワーク形式］

- 現地でのフィールドワーク。
- フィールドワーク。プレゼン優勝者には支援金 100 万とか（ありがちですが…）。即行動に移せるものだと思います。
- 研修所の外に出て地域に入っていき、実際に研修の成果を体験することのできるメニューがあれば良いのではと感じました。
- 実際に地域と触れ合いながら研修で学んだことがどのように政策に現れたり、地域をマネジメントしているのか考えられる内容が良い。
- どこかの町を題材に、研修で習った内容を実践して体験する研修。
- 講師の活動を実際の現場で見たり、関わる職員や住民の方と話をしてみたい（希望者対象）。
- ワークショップを含め、現場で従事されている方との交流や意見交換ができる場を作ってほしい。“人財塾”とうたうからには、人材育成に重きを置いていると思うので、ここで得たことを現場に持ち込めるモチベーションを維持したい。ファシリテーションのスキルアップなども興味あり。大変貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。

［ケーススタディ形式］

- ケーススタディの様な事例を、チーム毎に、より実践的な形式で進めてほしい。例えば、計画・立案、人員配置（体制）、模擬的な収支管理、その他工夫できる部分等、発表し共有してみたい。
- グループでの実践、模擬企画等してみたら面白そうです。グループ内をまちと見立て、まちづくりについて考えてみたいです。また、本研修の復習の時間があっても良いかもしれません。

［その他］

- 自治会依存型社会向けの取組に対する事案がほしいです。
- 各自治体が、実施した成功事例の“はじめ方”、“つくり方”をマニュアル化して、それをシェアウェアとして共有し合うみたいなことも面白いのかなと思いました。「ざわとーーく」実行マニュアル、みたいな感じです。フリーライダーでできそうですが、それも良いのかな。ジャストアイデアです。
- まだまだ勉強が足りないので、より深く実践を学べると良いと思いました。
- 具体的に行動したことへのアドバイスと振り返りを含むもの。

■リーフレット

JAM

2019年度

全国地域づくり人財塾

主催：総務省、全国市町村国際文化研修所

地域活性化のためには、様々な知識・経験を持った人が、その知識・経験とアイデアを活かしながら、それぞれ活動に取り組み、地域で様々な活動が展開されている状況こそが大切です。そのような状況を生み出すために必要となる、地域づくり活動を自らの手で企画し実践できる人材、すなわち「地域づくり人」を育成するため、本講座を開催いたします。地域づくりに実績がある豪華な講師陣、そして熱い志を持つ全国からの参加者と熱い議論をしてみませんか?

開催要領

日程 2019年5月8日(水)～5月10日(金)(3日間)

場所 全国市町村国際文化研修所 JR京都駅より湖西線約15分 唐崎駅下車徒歩約3分

対象 市区町村等職員、地域づくりに取り組むNPO関係者及び地方創生カレッジ受講中又は受講済みの皆様
3日間全日程をご受講いただける方を対象とします。途中退所や一時帰庁はできませんのでご注意ください。

募集人数 50人 申込期限【第1回】(2019年3月26日)までに募集人数を大幅に超えた場合は、申込期限後に抽選等をさせていただきますので、予めご了承ください。なお、受講者の決定については、他の研修、セミナーの申込み・受講の有無にかかわらず、本研修単独で行います。

宿泊 研修所宿泊棟(宿泊型研修) ※外泊はできません。

経費 10,500円 左記金額は、研修、宿泊、食事(朝食2回、昼食3回、夕食2回)、資料等にかかる費用です。
なお、事前準備・事前学習にかかる費用は含まれておりません。

申込期限 【第1回】2019年3月26日(火)まで 【第2回】2019年4月12日(金)まで
第1回申込期限終了後、募集人数を大幅に超えた場合は、第2回申込の受付を行いません。また、第1回申込期限後の受付は、先着順となりますので、募集までに締め切る場合がございます。詳細は、ホームページでお知らせします。

申込方法 JIAMホームページ内「研修Web申込みフォーム」からお申し込みください。
議員の方は、議会事務局を通じてお申し込みください。
「Web申込み」が難しい場合は、受講申込書によりFAXでも受け付けています。
※受講申込書はJIAMホームページの書類様式集(https://www.jiam.jp/doc/)にも掲載しております。

受講決定 受講の可否については、開講日の約1か月前までに通知をお送りします。
第2回申込の場合は、開講日の3週間前を目途に通知をお送りいたします。
経費納入方法等の手続きについては、受講決定通知書によりお知らせします。

事前課題 研修受講にあたって、事前課題に取り組んでいただく予定です。詳細は受講決定通知書送付時にお知らせします。

● 問い合わせ先 ●

公益財団法人 全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所(JIAM)教務部
〒520-0106 滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号 TEL. 077-578-5932 FAX. 077-578-5906
【e-mail】kenshu@jiam.jp 【ホームページ】https://www.jiam.jp

研修の内容及び日程

2019年 5月 8日(水)

11:00～ 入寮受付・昼食

12:30～ 開講・オリエンテーション

13:00～13:15 **導入** **人材力の活性化について**

総務省地域力創造グループ地域自立応援課人材力活性化・連携交流室　室長

「地域の人材力」向上の必要性と総務省のこれまでの取り組み、参加者への期待についてお話しいただきます。

13:15～14:10 **実践事例** **クリエイティブな地域づくり**

(一財)地域活性化センター 人材育成プロデューサー　前神　有里 氏

29年間の県職員時代に、地域包括ケア・虐待防止を担当したことをきっかけに地域に深く関わるようになり、その後地域担当職員として市町・地域おこし協力隊・地域の人とともに地域づくりに取り組んでこられました。2018年4月から現職。

県職員経験をもとに、公務員が「職務経験を地域で生かす」・「地域での経験を職務で生かす」ためのポイントを、また、地域活性化センターでの育成経験をもとに、課題解決から入らない新しい価値創造型の地域づくり・人材育成についてお話しいただきます。

※参考HP:【地方創生カレッジ(https://chihousousei-college.jp/)講座No.83】

14:25～15:35 **実践事例** **人が幸せに生きる公園づくり**

NPOフュージョン長池　会長　富永　一夫 氏

東京多摩ニュータウンに暮らす普通のサラリーマンだった講師が、47歳で会社を辞めて地域に戻り、暮らしを支援するNPO法人を設立。住宅管理支援事業、高度情報化支援事業等々の事業を立ち上げ、八王子市都市公園の指定管理者として地域課題の解決に取り組む。後継者育成にも努め、2016年に全ての経営権を30代と20代に移譲。2012年には、緑の都市賞(国土交通大臣賞)を受賞。2017年8月には、eラーニングの教材を開発し、「公園経営学校」を主宰。

2016年度　総務省ふるさとづくり大賞(大臣表彰)受賞。

"都市郊外"の新興住宅地で、既存の住民と新住民との間で地域づくりの活動を実践されてきた講師の経験をもとに、どのような点に留意して地域活動を展開すべきか、その要諦を講義いただきます。

※参考HP:【NPOフュージョン長池(http://www.pompoco.or.jp/)】
【地方創生カレッジ(https://chihousousei-college.jp/)講座No.80】

15:50～17:00 **実践事例** **地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～**

柳谷自治公民館　館長　豊重　哲郎 氏

椎谷地区(通称:やねだん)は、鹿児島県肝属平野に位置し、高齢化率が高く豊かな生き方を目指す小さな「むら」です。土着菌を活用した環境保全型農業や生きた福祉活動が高く評価され、第8回日本計画行政学会「計画賞」の最優秀作品受賞、「むらづくり日本一」受賞。また、平成30年度ふるさとづくり大賞(内閣総理大臣賞)受賞。

全住民参加型の感動の地域づくりを実践している豊重椎谷自治公民館長の経験をもとに、行政に頼らない自立した地域づくりのポイントと、地域人材の力を引き出し、活動に巻き込むためのポイントを講義いただきます。

※参考HP:【やねだん(http://www.yanedan.com/)】
【地方創生カレッジ(https://chihousousei-college.jp/)講座No.81, No.95】

17:00～17:30 **グループトーク** 本日の研修の振り返り

17:30～17:45 **説明** **「地方創生カレッジ」について**

(一財)地域活性化センター　理事長　椎川　忍 氏

18:15～ **交流会** 夕食を囲んで、ともに学ぶ受講者同士の親睦(情報交換・交流)を深めます。

2019年 5月 9日(木)

9:00～9:25 **グループトーク** 全体での共有

9:25～10:35 **実践事例** **地域づくりのマネジメント―つながりをつくり創発を生む仕組みづくり―**

慶應義塾大学総合政策学部 教授(学部長補佐)　飯盛　義徳 氏

地域づくりの第一人者である慶應義塾大学飯盛教授は、実践を通じて地域の元気の具体的方策を探求されています。

その経験から、先進事例の成功要因に基づき、「個々の人材の活かし方」「リーダーの役割を果たす人材」のほか、「リーダーを支えるための人材」など地域づくりにおける人材力の観点から講義いただきます。

※参考HP:【慶應義塾大学飯盛義徳研究室(http://isagai.sfc.keio.ac.jp/)】
【地方創生カレッジ(https://chihousousei-college.jp/)講座No.57】

2019年 5月 9日(木)

10:50～12:00 **実践事例** **地方はチャンス～1粒1000円のライチが生んだ奇跡**

(一財)こゆ地域づくり推進機構(略称:こゆ財団) 代表理事
特定非営利活動法人まちづくりGIFT 代表理事
慶應義塾大学 非常勤講師 齋藤 潤一 氏

米国シリコンバレーのIT企業でブランド・ディレクターとして勤務。東日本大震災を機に、「ビジネスで地域課題を解決する」を使命に活動を開始。シリコンバレーのデザイン思考の手法を取り入れた特産品の開発や人材育成を全国各地で行う。その活動は、「シリコンバレー流の地域づくり」として日経新聞で取り上げられ、「地方創生実現ハンドブック」(日経BP)で地方創生の成功事例として選出された。2017年4月は、一般財団法人こゆ地域づくり推進機構の代表理事に就任。1粒1000円のライチの開発や起業家育成で多くの実績を残し2018年12月は国の地方創生事例に選定され、首相官邸にて総理大臣ほか大臣にむけて発表を行った。経営学修士(MBA)。

※参考HP:【こゆ財団(https://koyu.miyazaki.jp/)】【NPO法人まちづくりGIFT(https://machi.gift/)】

13:00～15:35 (途中休憩あり) **講師との直接対話 I**

受講決定通知後の事前アンケートの希望に沿って、講師ごとにグループをつくり、受講者からの質問に講師が応える形式で直接対話を行います。
直接対話は、講師の話を聞くだけではなく、他の受講者の意見を聞きながら、「みんなで学び合う場」です。

講師1	慶應義塾大学総合政策学部 教授(学部長補佐)	飯盛 義徳 氏
講師2	NPOフュージョン長池 会長	富永 一夫 氏
講師3	柳谷自治公民館 館長	豊重 哲郎 氏
講師4	(一財)地域活性化センター 人材育成プロデューサー	前神 有里 氏
講師5	(一財)こゆ地域づくり推進機構 代表理事	齋藤 潤一 氏

※齋藤講師については、第1ラウンドのみとなります。

15:50～18:25 (途中休憩あり) **講師との直接対話 II**

Iと同様に、グループごとに直接対話を行います。Iとは別の講師と対話を行います。

18:35～19:00 **グループトーク** 本日の研修の振り返り

2019年 5月 10日(金)

9:00～9:25 **グループトーク** 全体での共有

9:25～10:35 **事例報告** **全国地域づくり人財塾既受講者からの報告1**

「全国地域づくり人財塾」既受講者から、現在の地域づくり活動の取り組みについて報告を行っていただきます。

10:50～12:00 **事例報告** **全国地域づくり人財塾既受講者からの報告2**

13:00～14:10 **成果発表と振り返り**

3日間の研修での体験を踏まえて、「自分が現場で取り組むべき具体的な行動」をまとめ、行動宣言を行います。

14:10～14:40 **研修アンケート記入、閉講**

- 各講師が講義を行っている(一財)地域活性化センター等が提供する「地方創生カレッジ」の講座を受講したり、講師HPを参照してから、当人財塾に臨むことにより、講義への理解がさらに深まることが期待できます。

平成30年度研修受講者の声～研修アンケートから～

- 実践を踏まえた上での大切なポイントや失敗談を聞くことができ、悩みを解決することができました。
- 地域と関わる姿勢を見直す機会となりました。
- 同じような取り組みをしている仲間がいるということをとても心強く感じました。
- まずは一歩ずつできることから行動しようと思いました。

- 研修内容については、都合により変更になることがありますので、予めご了承ください。なお、研修についての最新情報は、JIAMホームページをご覧ください。
- 受講者による講義中の録音・写真撮影は、固くお断りしております。
- 当研修所では、喫煙室を全館禁煙としております。喫煙は所定の喫煙場所でお願いいたします。

JIAMメールマガジンのお知らせ

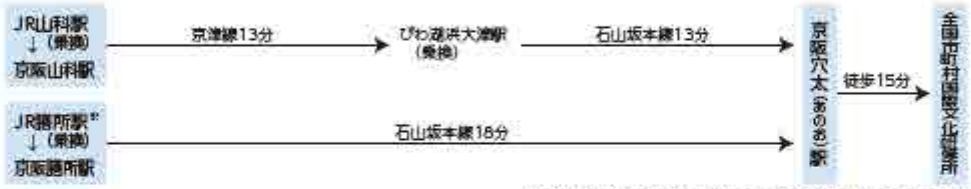
当研修所では、メールマガジンを発行しています。各研修に関する最新情報などを定期的にお知らせします。ぜひご登録ください。登録登録は、JIAMホームページで受け付けています。

JIAMまでの交通機関

研修所の位置と交通機関

※JRの「新快速」は唐崎駅には停車しませんので「普通」にご乗車ください。

京阪電車によるアクセス



※JRの「新快速」は膳所駅には停車しませんので「普通」にご乗車ください。

２．地方開催（in 金沢）編

［令和元年 7 月 18 日～20 日］

■受講者アンケート

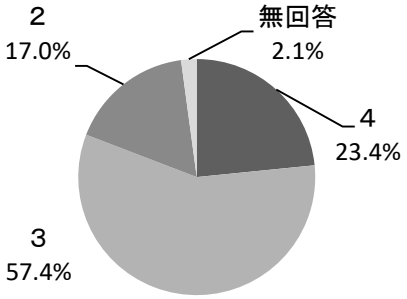
（１）各プログラムに対する評価

【講義１：導入】「人材力の活性化について」

総務省地域力創造グループ地域自立応援課人材力活性化・連携交流室　地域支援専門官　目貫　誠

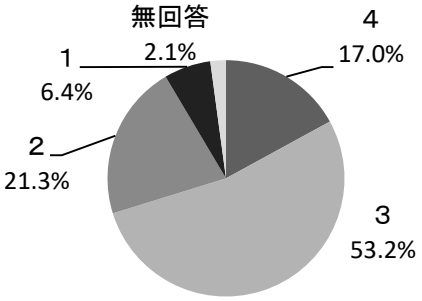
N=47

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	11	23.4%
	3	27	57.4%
	2	8	17.0%
	1	0	0.0%
	無回答	1	2.1%
	合計	47	100.0%



N=47

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	8	17.0%
	3	25	53.2%
	2	10	21.3%
	1	3	6.4%
	無回答	1	2.1%
	合計	47	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

・　総括的な説明で、現在の国の制度について理解ができた。
・　外部専門家制度を自らの地域でも活用できないか検討してみたい。
・　地域振興について、国が行っている制度がよくわかったので、積極的な活用を検討しようと思った。
・　私の知識不足ですが、専門用語が多くて、メモるので手一杯でした。しかし、知らないことばかりだったので、調べたいと思います。
・　今回初めて地域づくり人財塾に参加するが、過去の講義についての感想を見て受講が楽しみになった。

◎活用度３

・　おためし地域おこし協力隊があると知ることができた。
・　国からの特別交付税で様々な事例に対し予算措置できるお話がありましたので、今後に向けて検討したい。
・　農山漁村への都市部の子ども達の交流事業はぜひ地元でも活用させていただきたいと思いまし

た。
・ まず取組を始めることの重要性を感じた。
・ 地域づくりのリーダーに求められる資質や、様々な取組事例を知ることができて、勉強になりました。
・ 活用すべき補助金を探してみようと思った。
・ PFI、SDGs も視野に入れてほしかった。
・ まちづくり活動活性化のために使える制度や財源について知ることができ、次年度以降活用できるものがあれば今から案として考えていきたいと思いました。
・ 特交措置について、自治体職員が予算要求前の段階で積極的に情報収集しなければならないと感じた。
・ 次回も参加して、今回からのその後も見てみたい。
・ 特別交付税を活用した地域づくりのためのプログラムが多く設けられていることを知りました。
・ 様々な制度や人材育成プログラムがあることがわかった。機会があれば、チャレンジしたい。
・ 地域づくりの人材を育成するにあたり、国ではどういった取組をしているかを学べた。
・ 県職員として国の方針をしっかりと理解した上で事業に取り組んでいきたいと思った。

◎活用度２

・ 地域づくり育成ハンドブックをよく読んで活用していきたいと思います。
・ 地方活性化には、儲ける仕組みが必要。官主導では限界がある。民は結局、東京の会社が儲かるだけ。地元にうるおいを創る戦略が必要。
・ 地域おこし企業人という言葉を初めて聞きました。
・ 地域おこし協力隊以外の様々なプログラムをお話しいただいたが、そのパワポ資料があれば良かった。
・ 大雑把であった。補助金等どう探すのか知りたい。
・ 色々な支援があるとのことだが、経緯、関係、効果、実績等がわからない。
・ 地域づくりの人財育成の取組や施策について知ることができた。
・ 過疎地域の振興に対する支援・補助は、どのような制度があるのか、一度勉強したいと思った。

◎活用度１

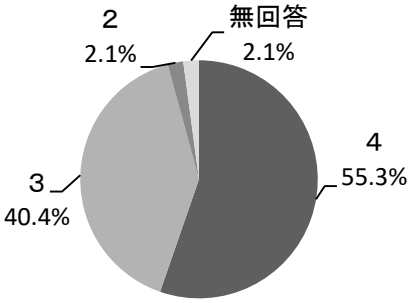
・ 地域おこし協力隊の説明は実体とは違う。中央と地方の温度差を感じた。
・ 難しい話だったので、今となっては印象に残っていません。
・ スライドと資料の文字が小さくて見にくかったです。内容は細部までよく把握できました。後で見直します。

【講義２：実践事例】「人が育つ、人間里山主義」

一般社団法人スマート　代表理事　富永　一夫　講師

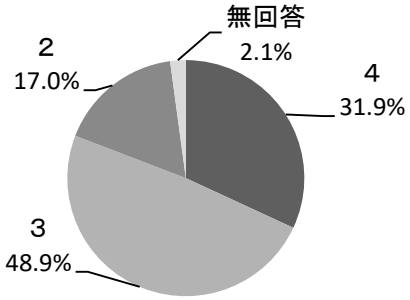
N=47

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	26	55.3%
	3	19	40.4%
	2	1	2.1%
	1	0	0.0%
	無回答	1	2.1%
	合計	47	100.0%



N=47

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	15	31.9%
	3	23	48.9%
	2	8	17.0%
	1	0	0.0%
	無回答	1	2.1%
	合計	47	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- NPO 法人のような中間支援組織の必要性を再認識できた。
- 連合体を作る。陰の黒子になる。ヒト・モノ・カネ・情報。情報の提供が自分の役ということが理解できた。
- 住民の自主性を尊重して、場と環境を提供することに徹するスタンスは参考にしたい。
- ルールばかりに気を取られるのではなく、その中で一番の選択ができれば良いなと思いました。
- 市民自身がやりたいことをサポートする「市民ファースト」の考え方が、自分に足りていなかったことを自覚できました。やってほしいことではなくやれる可能性を提示して動きを待つ。ぜひ取り入れてみたいと思います。
- 誰かの「やりたいこと」に対して「できる場の提供」、黒子に徹すること、仕組みの設計が素晴らしいです。
- 地域づくりの理念、実践、次代への承継、役所の役割が全てつながって理解することができた。
- 住民ファーストで、住民がやりたいことを優先させるという話を聞いて、普段心掛けているつもりでも、行政の目標にすり合わせてしまっている面もあると思うので、見直さないとだめだと反省できた。
- 大変面白く、参考になりました。本市で今、取り組んでいることにも参考にしたいと思いました。
- 人が育つ場を提供すれば、人の活力で人は勝手に育つという言葉が心に残りました。
- “場”を提供する、という考えは、非常に面白いと思った。行政としてもうまくアイデアとして取り入れられる部分はあると思った。

◎活用度３

- 学生やボランティア団体が各々の立場で活動されており、都会ならではの協働の仕組みがつくられていることに、うらやましく感じた。
- NPO 法人の運営を行っているので、（土づくりに奮闘中）富永さんの長い間の取組をお伺いすることで、少し自分の身の丈に合ったヒントを見つけられることができたし、NPO のメンバーや協働している団体との vision の共有ができそう。
- まちづくりに“経営の視点”が不可欠であることが新しい発見だった。行政側の考えに偏っている傾向があると自覚した。
- お話が具体的で、とてもわかりやすかったです。行政組織についてのご意見もお話しされていて、勉強になりました。
- わかりやすい話で聞きやすかった。ただ、公園の管理については、なかなか入りづらい。市民活動の動かし方については活用してみたい。
- 立場による役割の整理が理解しやすかった。
- 行政と指定管理の関係性の捉え方を改めて考えさせられた。町役場の皆がこのような考え方ができると良いと思う。経営者感覚を持ってほしい。
- 行政と指定管理者の良い関係のひとつとして勉強になりました。中心人物がうまく世代交代している点でも、参考になりました。
- 次世代への継承というところがとても良いと思う。地方では次の世代へ受け継ぐのが難しい。皆がそれを考えなければいけない。
- 業務に直接活かせないにしても、NPO と行政の柔軟な協働の形をひとつ知れたことが良かった。
- 人が育つ環境をつくる。子どもたちに「ふるさとを」…。子育て支援のあり方について。
- きっかけはわかるが、初期の活動の仕方。全体的にはすごいと思ったが、仲間との始まりなどの話が聞きたかった。
- 東京でも地域づくりを行っていることに驚いた。
- 表土としての役割、継承のため、後継者を育てる、関連と融合が参考になった。
- やらされている仕事よりも、その人がやりたいと思うことができる場を提供することが大切であると学びました。
- 人が活躍できる場の提供や支援を行うことが重要であるということがわかった。
- 「やりたい事」がある人に場を提供することで自然と地域が活性化していく、黒子に徹するというのは行政も同じだと思いました。
- 他人がやりたいことを実現する場を提供することが最も重要ということに感銘を受けた。
- 地域の人材一人ひとりが主役となり、公園管理に取り組むことで、地域に貢献しているという話が印象的だった。

◎活用度２

- とても興味深い話でした。
- 公園が愛される場であることが素晴らしいです。
- 公園はどこにでもあるが、ただあるだけで公園をここまで有効活用しているのが素晴らしいと

感じました。

- 人が育つための仕掛けづくりや、行政、民間との関係性をうまく活用した事業だと感じた。
- NPO や、各業界人について、とてもわかりやすく、得意分野などもわかりやすかったです。仕組みはわかったのですが、仕組みづくりの前のストーリーも知りたかったです。
- 人を育成することはできない、場の提供が大切ということに、行政に通じるものがあると感じました。

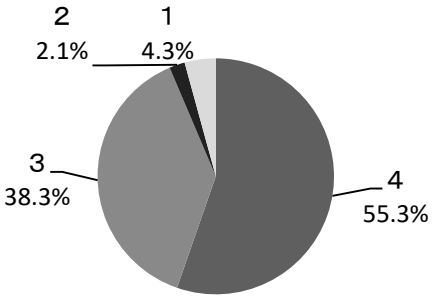
【講義３：実践事例】「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～」

柳谷自治公民館　館長　豊重　哲郎　講師

N=47

＜理解度＞

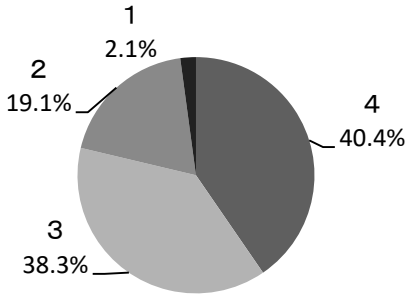
		回答数	%
↑高低↓	4	26	55.3%
	3．5	0	0.0%
	3	18	38.3%
	2	1	2.1%
	1	2	4.3%
	無回答	0	0.0%
	合計	47	100.0%



N=47

＜活用度＞

		回答数	%
↑高低↓	4	19	40.4%
	3	18	38.3%
	2	9	19.1%
	1	1	2.1%
	無回答	0	0.0%
	合計	47	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 講師の先生の熱い思いが伝わった。自分がまず行動しなければ 30 年、50 年先は変えられないと感じた。
- 「テーマ」(Ex. 子育て）を設定して、様々な人たちを巻き込むという知見が大変役に立ちそうでした。
- 地域での人財育成にとって大切な point と、粘り強い地域活動について。そして、地域の方に耳を貸してもらうためのことや、リーダーは一人でやらないことなど、とても参考になりました。
- 持ち帰ってすぐ実践してみたいことが多かった。子どもに主眼を置いていくことが長期的に効果が大きいことがよくわかった。
- 無関心 3 割、反目者 1 割を本気にさせる、という話が印象に残った。
- 想像していた以上に情熱的な講義でしたので、時間が短く感じました。山形県（金山町）にぜひ来ていただきたいです。
- 20 年以上の熱い想いが非常によく伝わる講義だった。このような自立した自治会づくりを我が町にも導入したい。
- 自治体の自主財源が素晴らしい。豊重さんの想い、強い意志に感動。
- 豊重さんのようにできるかどうかわからないが、やってみようとは思った。
- 普段まわっている集落でも、担い手不足が深刻で人を集めるのに苦労しているので、説得して参加してもらうのではなく、納得して参加してもらえるように意識を変えようと思った。また、

テーマ選びも重要だと学んだ。
・ 長い目で見た地域の継続について参考になりました。
・ 持続できる地域づくりの参考として、役立ちます。元気をもらいました。
・ 地域づくりには、リーダーが不可欠であるということを感じた。
・ リーダーにとって一体何が必要なのか、考えるきっかけになりました。

◎活用度３
・ 持続可能な地域づくりに向けて、高校を卒業した子どもたちがＵターンできるよう、小さい時からの地域愛の育み方が印象的でした。
・ 畜産の臭いニオイの対策など、皆にうれしいことを積み上げることが地域づくりになると感じた。
・ 住民自治について深く学べました。信頼関係を築くまでのプロセスを聞き、自分も先まで考えられるようになりたいと思いました。
・ 自分たちで財源を作り出すという点について、もっと聞いてみたかったです。
・ 地域に対する思いの強さ、ブレない信念を感じます。
・ どうしたらＵターンＩターンしてくれるのか、とても参考になりました。
・ 心に残った言葉は、人あつめはテーマ、説得ではなく納得、子育てしやすい環境づくり。
・ 「人はテーマ次第で耳を貸す」というお話が大変印象に残りました。興味がなかったり反対している住民に納得していただく技術として、相手にとってのメリットをお話しするといった工夫を、市内でまちづくりをされている方に伝えたいです。
・ 初期の 1～2 年の間の必要な事を話にしてほしかった。軌道に乗るまでどう苦労したか、どう解決したかを聞きたかった。
・ 強烈な熱意を感じた。行政に頼らない地域づくりをするために、行政として何ができるかということは課題として思う。
・ 持続可能な地域づくりをするためには、Ｕ・Ｉターンを増やすための働きかけが大切です。
・ 町内会で会社のようなしっかりとした組織が組まれていることに驚きました。住民を巻き込んで全員参加の取組にするには、相当の苦労があったのだろうと思います。
・ 興味深い話だった。住民皆で、一つの事業を行い、自主財源を確保していくのは、面白いと思う。
・ 焼酎や唐辛子のブランド産品の生産者は、得た利益を地区に還元することに対し、抵抗はなかったのだろうかと感じた。
・ 行政に頼らず、住民が自分達で考えて地域づくりを行っており、事例なども参考になった。

◎活用度２
・ 活用度が低いのは、豊重さんがすごすぎるから。でも、すごくモチベーション上がりました。
・ とても興味深く聞きましたが、自分に重ねて活用はわかりません。
・ 熱さが伝わったが、理解が及ばなかった。
・ 1 人の思いが地域を動かす、熱意を持続させる、という実例を拝見し、感動しました。次の展開

をどうされるか、また、今後についても知りたいです。
・　講義自体もアクションがあり、わかりやすくとても理解できました。地域再生の前に豊重さんの人生観も奥深そうに感じました。つながりづくり◎。
・　地域再生に成功された事例をお伺いできて良かったです。石川県でもそのような地域を増やしていきたいと思いました。

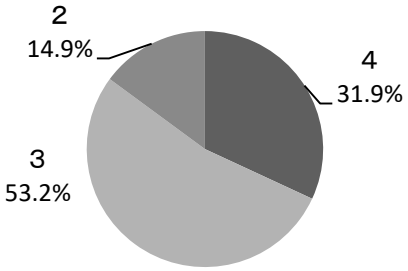
◎活用度１
・　話が飛んでいてわからなかった。

【講義４：実践事例】「農林漁家で始めよう～魅力ある暮らしと地域おこし～」

春蘭の里　代表理事　多田　喜一郎　講師

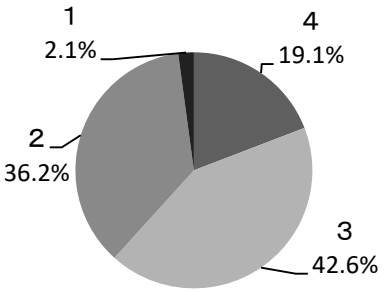
N=47

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	15	31.9%
	3	25	53.2%
	2	7	14.9%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	47	100.0%



N=47

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	9	19.1%
	3	20	42.6%
	2	17	36.2%
	1	1	2.1%
	無回答	0	0.0%
	合計	47	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

・　地域内だけでなく、金沢や東京に協力者が存在する体制は、情報の交換という点でも良いことだと感じた。
・　全国半島フォーラムのきっかけが要因であり、その関連を知りたかった。
・　仲間で作った組織を大切に守っている点が良くわかった。
・　地域づくりと、お金について改めて考える機会になった。
・　稼げる地域づくりは、持続可能な地域づくりにつながっていくと思うので、自分の地域で、何が活用できるかを探して、行動を起こす、という最初の一歩を踏み出す覚悟が必要だなと実感した。
・　「何もない」ところに「何もない」があるという話が印象的でした。
・　春蘭の里へ一度泊まってみたいと思いました。そこにしかない生活に、石川県民だけど惹かれました。

◎活用度３

・　地元の自然食をはじめ農家民宿を通じて魅力ある暮らしと地域おこしに取り組まれた意気込みにとても感動しました。
・　地域に元々暮らす人だけではなく、外部の方を取り入れることが大切だと感じた。そのための下地づくりを考えていきたい。
・　物事をプラスに考えて行動に移す。地域資源を積極的に活用していく。それらの大切さを学べました。

・ 備前県民局管内で、農家民宿を観光メニューとして育てたい市町があり、修学旅行生やインバウンドの受け入れのお話が勉強になった。
・ 幅が広く、可能性を感じる前向きな考え方となった。
・ 多田さんの強いリーダーシップにいつも勇気づけられます。
・ リーダーが後ろを支える覚悟を持たなければならないということが実感できた。
・ 農家民宿のことを知り、財務力が継続に必要。料理づくりの学びあり、おやじの会、おかみの会が良い。
・ 「何もない」ことがあることをアピールするグリーンツーリズムとして自信を持って地域を売り出すことが大切だと学びました。
・ 農家民宿を基盤に地域に還元できるような取組がされているとわかりました。
・ 「何もない」が実は、魅力的な観光資源になり得るように、各地域には、まだ発見されていない観光資源があるのだと思った。
・ 自分も春蘭の里に宿泊してみたいと思った。アイデアが先駆的で素晴らしいと思った。
・ 農家民宿で人を呼び込み、地域を活性化する、という話がとても興味深かった。

◎活用度２

・ 講義の最後に写真だけでもプロジェクターで見れたら良かったと思います。どんな場所か見てみたいです。
・ 「春蘭の里」というスポットに若い方々が関心を寄せている。その秘訣が聞けて参考になりました。
・ 稼ぐこと、利益分配で、事務局長が奮闘しているお話。自分ならどこまでできるだろうと思った。7 人のメンバーで始めたということ。地域でも「修学旅行」や「ツーリズム」や民泊に興味ある人がいるが、それなりの人数で、息の長い活動を続けていくことが必要かも。きちんと地域の人たちに共有してみようと思った (一社化)。それがあってのファンドレイジングだと思った。
・ 時間が余っていて同じ話をしていて聞きにくかった。資料を用意してほしい。
・ 具体的な取組でぜひ体験してみたいと思った。
・ ビジネスとして、地域活性を捉えることは、絶対必要だと思います。
・ 話の内容は濃く、とても面白かったですが、実際の手法など、もっと時間をかけてお伺いしたいと感じました。
・ 20 年以上の熱い想いがよく伝わる講義だった。自治体や国の補助金の話が多かったのが少し残念。
・ 農家民宿の考え方はとても面白かったです。
・ 農家民宿の可能性を感じました。有名なものを見たりといった旅のあり方から、非日常を味わったり、人と関わる体験型の旅へと需要が変化していること、体験することが移住を考えるきっかけになることなど、新しい視点をいただけました。
・ 春蘭の里がどういう活動をしているか、今後の展開などもよくわかった。春蘭の里が 1 軒の所から→今へどのように拡大へつながって、地域の人がやる気になったのかが気になる。
・ 春蘭の里は地域おこしの成功例だと思うが、なぜ春蘭は成功したのか、という強みなど、そうい

う所をもっと詳しく聞きたかった。

・ 農家民宿を増やし、「春蘭の里」というブランドをつくり上げたことは素晴らしいと思います。春蘭の里のような元気な地域を増やしたいです。

◎活用度１

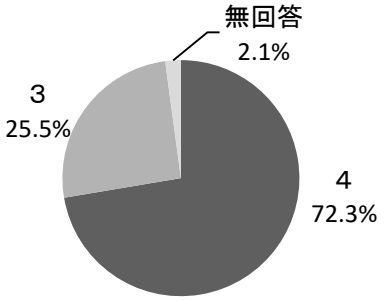
・ 民宿の良さを楽天やじゃらんで売ってしまっているのがもったいない。地域の良さはもっと違う形で PR してほしい。

【講義５：実践事例】「地域づくりのマネジメント―つながりをつくり創発を生む仕組みづくり―」

慶應義塾大学総合政策学部　教授（学部長補佐）　飯盛　義徳　講師

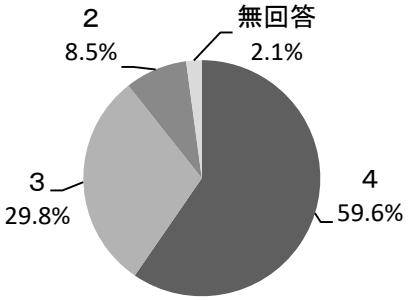
N=47

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	34	72.3%
	3	12	25.5%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	1	2.1%
	合計	47	100.0%



N=47

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	28	59.6%
	3	14	29.8%
	2	4	8.5%
	1	0	0.0%
	無回答	1	2.1%
	合計	47	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 地域づくりの新しい潮流に取り組みます。
- 「地域への思い→実践」ではなく「実践→地域への思い」が印象的だった。
- 行政職員として「信頼」を武器にいかにプラットフォームを作るか、行政としてやるべきことが明確化できたのが良かったです。「関係人口」として学生たちを巻き込み、資源の持ち寄り→地域づくりの視点が大変参考になりました。
- 場づくりについて意識していたが、「ワタシゴト」になるために、資源の持ち寄りや参加をすることで、そうしていく視点。「おもい」よりも「かかわる」ことで「おもい」が蓄積していくというところを、コアメンバーと共有して、関係のスパイラルを作っていきたい。
- 周囲を巻き込む、未知のつながりを作る突破口に悩んでいるが、手段を見つけることができた。すぐ実践したい。
- 自地域では何がプラットフォームになり得るか。また、若手をいかに巻き込むか考えてみたい。
- 直接対話してみたかったです。
- 場づくりと継続して活動していくことが大切だと知りました。
- 地域づくりに関心のある学生が増えてきているのは素晴らしいことです。学生、若者主導の地域づくりを企画していきたいと思います。
- 佐賀のキッズマート、商店街のお話、とても面白く聴かせていただきました。
- 地元の愛着を育むための仕組みづくりが素晴らしいと思った。現在私が行っている高校生との協働事業、中小企業向けブランディング事業に活かしたい。
- 地域づくりとは、効果的なプラットフォーム設計⇒地域課題解決のキーワード。自分の活動を

見直してみたい。
- 「地域のために」活動する人が少数派である事実はとても意外でした。関わるから思いが生まれるのであれば、きっかけのハードルは低く、まずはちょっと参加してみようかなと思ってもらい、多くの人に関わってもらうような場・イベントを考えていきたいと思います。
- 行政・大学・地域の連携の実績を学ぶことができ、参考になりました。
- プラットフォームづくりを意識して考えたことがなかったので、プラットフォームづくりを軸に地域づくりを考え直していきたい。また、人に参加してもらうには「境界線」が大事で内でもなく外でもない場を作ることが大事なんだなと思った。
- 内と外の話が大変印象的でした。
- 行政が地域づくりに関わる上で重要なプラットフォームづくりにおいては、リーダーシップからネットワークづくりが大切だと思った。
- 1 人からでもすぐに動けるようなアドバイスが参考になりました。今いる立っている所から、先を創造するイメージもでき、まだまだ聞きたかったです。
- 自分も学生の地域課題解決の活動の支援をしているので、とても参考になった。2 泊 3 日で課題解決の提案まで行うのは、相当レベルの高い学生たちだと思った。
- 地域活性化のために、行政が土台づくりをすることが重要。資源を持ち寄りにすることで「自分事」になるということに納得しました。
- 「関係人口」というワードは今年よく聞いていたので、関係人口創出のために行政がどうすべきか、考えたいと思います。
- 効果的なプラットフォームをつくり、住民を巻き込んで事業を行っていくというのは、面白いと思う。住民が自発的に何かを行う場の提供が大事になってくるのだと感じた。
- 行政の役割は土台づくりなのだと考えさせられました。「信頼」という強みを活かし、地域づくりにつなげる道を探したい。

◎活用度３
- 地域づくりに大きく関わってきた自営業の減少は、自分の地域でも同じように、つながりの希薄化を感じました。
- 自発的に活動が行われることを、外部からの人間が促すことに共感。「ヒト・モノ・カネ・情報」基礎だと思った。
- とてもわかりやすいお話でした。活動が数回限りではなく、継続させ、そこから人とのつながりで広がっていく、という点が印象的でした。
- プラットフォーム設計について勉強になった。地域の良いところを子どもに考えてもらうのはさっそくやりたいと思う。
- プラットフォームを作りヒト・モノ・カネ・情報を集めることで、様々な人々が活躍できる場を作りたいです。
- スマートで対応の中の広さを感じました。
- 自分のまちでの効果的なプラットフォームは何かということを考えさせられた。
- 地域づくりとマネージメントは重要なつながりがあると思った。

・　関係人口を増やす、盛り上げていくことが、地域継続につながる。
・　学生の力は、熱意とか推進力など、侮れないと思う。それを活かせる場を提供することが、行政の役割の 1 つだと思った。
・　地域づくりには、効果的なプラットフォームの設計が必要であり、そのために何をすべきかを学ぶことができた。

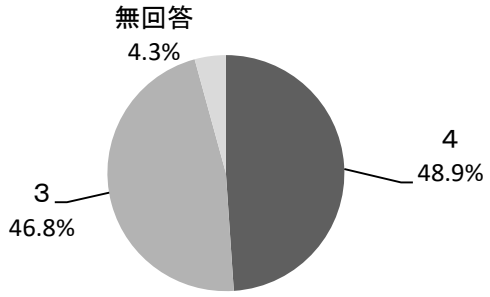
◎活用度２
・　いろんな事例が聞けて興味深かったです。
・　自分の立場でどのようにプラットフォームを設計すれば良いのか考えさせられた。
・　コアメンバーの必要性。横の連携が立ち上げのため重要になる点が良かった。

【講義６：実践事例】「御祓川がつなぐ、まち、みせ、ひと～民間まちづくり会社の 20 年」

株式会社御祓川　代表取締役　森山　奈美　講師

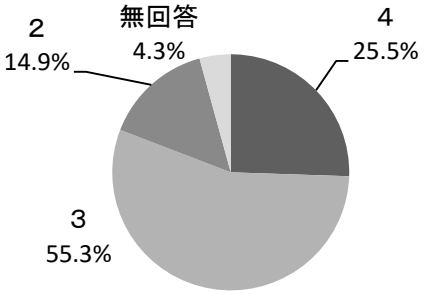
N=47

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	23	48.9%
	3	22	46.8%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	2	4.3%
	合計	47	100.0%



N=47

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	12	25.5%
	3	26	55.3%
	2	7	14.9%
	1	0	0.0%
	無回答	2	4.3%
	合計	47	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

・　“地図が逆さになる”時を見つけるために発想を変えるよう心掛けたいと感じた。やろうと思ってうまくいくことではないかもしれないが、そういう姿勢を持っていこうと思う。
・　農業に関しての体験的短期インターンはすでに受け入れているので、地域内に長期インターンだからこそできる課題解決のニーズがないか調査してみたい。
・　具体例が興味深く語られ、参考になった。
・　初めて御祓川のお話を伺うことができて良かった。「私のビジョンが、まちのビジョン」に感銘を受けました。
・　地域づくりにおいては、住民が自分で関わって解決した、という意識を持ってもらうことが、活動意欲や、持続可能な地域づくりにつながる、ということを学んだ。集落支援において「互体性」ということを意識して取り組みたい。
・　地図をひっくり返す感覚を持って仕事をしたいと思いました。祭も行うことがテーマだと聞き、とても素敵だと思いました。
・　会社として利益を上げながらも地域を元気にしていく活動にも力を入れている取組が広がっていくと良いなと思いました。

◎活用度３

・　能登スタイルストアを参考に活動する。
・　“小さな世界都市”の言葉が心に強く響きました。違う視点でみることの大切さがわかりました。

- 熱い思いを地域で形にしている人を見て育った人が、また熱い思いを引き継いでいる。そして、しなやかで力強い視点の語りに明日の視察が楽しみになった。
- まちづくりについて理論的に考え、行動に移していくことの大切さを学べました。反対の視点を大切にしたいです。
- 地域づくりは、仕事にならないという思い込みがあったと気づかされました。
- 以前にもお話を聞く機会がありました。聞くたびにひとつずつ理解できるようになっています。
- 地域に対する取組が素晴らしいです。
- 話を聞いていたらメモを忘れていました。こちらに話を投げ掛けていただいているという意思が伝わってきたので、共感できる話が多かったと感じました。
- 課題があるから人が来るとは目からウロコでした。
- 地域づくりは、見方を変えてみる。問題だと思っていたことが、宝であったりすると感じた。
- 見方を変えると見える違う視点を大切に、というお話が大変わかりやすかったです。点から線に、線から面にという計画の中、時には予期しない場面もあるということも気づかされるものがありました。
- 発想を転換すること、軸を持ってまちづくりをすることに気づかされた。
- 祭と地域づくりの関係性を改めて考え直した。
- 地図を逆さに見る。逆転の発想。関わってこそ喜びを充実できる。祭が大事。地域と連動。という言葉が印象に残った
- まちづくりにおいて、住民がやりたいと思ったことを実行する時に幸福感が生まれると思った。
- 地域を思うこと、どうしていきたいかゴールがはっきり見えること。次の世代、移住者、学生などが御祓川さんで活動していることがよくわかりました。
- 小さなプロジェクトをいろんな方が進めていくことで、彼らの幸福感も上がり、まちも変わっていく、というところが印象的だった。
- 大きな計画、構想の基ではなく、個々の小さなビジョンや目標が集まってまちを作り上げる。それを支援するプラットフォームが地域づくりに必要だと考えました。
- 地域特産の品をプロデュースし、地域全体の発展につなげていくのは重要だと思った。
- 見方を変えればガラクタが宝になるという考え方は、地域おこしにとってとても重要だと感じた。
- 「小さな世界都市」という考え方が面白いと思った。実現するために必要なことなど、多くのことを学べた。

◎活用度２

- 地域の幸福感は地域の人々が自分が関わった満足感がないと得られないに同感。
- 同年代の女性が頑張っていてかっこよかったです。
- 森山先生のお話は、いつも元気をもらえます。地元の話は、よくわかります。
- 七尾の中で会社として、地域コミュニティを作る中、利益の出し方に興味が出てきた。

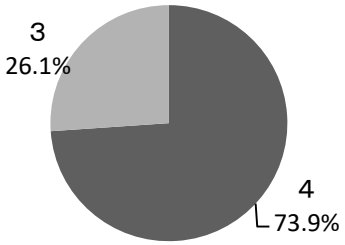
◎活用度　無回答

- 「逆手の発想」が大変新鮮で、目からウロコでした。

【講師との直接対話（飯盛講師）】

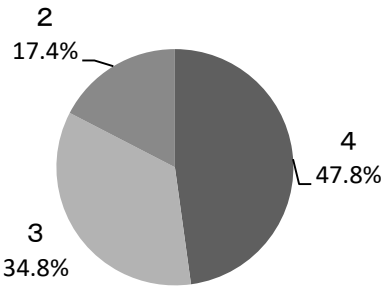
N=23

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	17	73.9%
	3	6	26.1%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	23	100.0%



N=23

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	11	47.8%
	3	8	34.8%
	2	4	17.4%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	23	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

・　「域学連携」からヒントが得られて良かったです。今後も講師からお知恵をいただきたいと思います。
・　今までの業務で課題になっていた所の根本的な解決策が見つかった。すぐにでも役立つ発見があってモチベーション UP につながった。
・　学生に見方・活用・継続等のある講義をされていることが良い。
・　地域と交わる際のスタンスを聞けて良かった。今後かなり活かせそう。
・　地域の方に入っていただく際、最初は面倒と思って入られたらしいということをお聞きし、関わっていく中で徐々に自分事にしていただけるのだという視点をいただけました。
・　地域と大学と行政とが、うまく協力できる場をつくっていくことが、行政に求められることだと思った。
・　地域の中で市民、行政、外部の方々等、協力しあっていく上で大切なことを学べました。
・　地域づくりのゴール設定と学生との共有が大切ということがわかりました。
・　学生のアイデア力はすごいと感じると同時に、石川県は大学が集積しているから、活かすべきだと感じた。

◎活用度３

・　“やってみないとわからない”この言葉が印象的でした。地域に戻ったら、頑張っていきたいと思います。
・　佐賀の商店街のお話が詳しく聴けて良かったです。
・　様々な事例を交えながら、質問に丁寧に対応していただきありがとうございました。ゴール設

定や参加する人の集め方について先生の意見を参考にできればと思います。

- 1 人から 2 人、2 人から 3 人、団体と一緒にやってみる。わかりやすかったです。
- 地域を元気にするには若者の力が不可欠だと思うので、大学生や小学生向けプログラムのお話を聞けて良かったです。

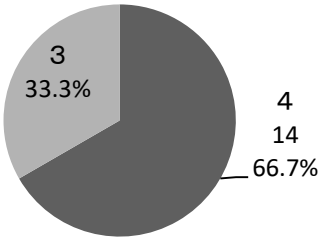
◎活用度２

- 学生の協力が大きな動力となる。どう育て、利用していくかという話になった。
- 直接対話とはいえ、直接的ヒントが出るわけではないですね。試行錯誤していきたいと思います。

【講師との直接対話（富永講師）】

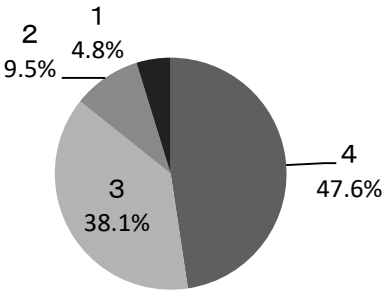
N=21

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	14	66.7%
	3	7	33.3%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	21	100.0%



N=21

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	10	47.6%
	3	8	38.1%
	2	2	9.5%
	1	1	4.8%
	無回答	0	0.0%
	合計	21	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

・　理解できましたし、熱意を感じました。
・　高齢者３人で若者１人を育てる地域づくり参考にします。
・　良い人には良い人が集まる。人財づくりに地域で取り組みます。
・　できないことに目を向けるのではなく、今からでもできることに目を向け、危機感を持って生きていきます。
・　行政に対する厳しいお言葉もありましたが、現場におられる方にはこう思われているんだと知れて、良い経験だったと思います。
・　行政、特に県の役割が将来なくなるという話は衝撃だった。
・　地域活動での「プランの、各住民からの意見、落とし込み」が大変役に立ちました。今後も講師からお知恵をいただきたいと思います。
・　組織や団体、人との関わり方、考え方などが参考になった。
・　情報発信、困りごとも、という点ではぜひ実践したいと思います。自治会後継者問題については植え替え方式、目からウロコでした。
・　どうしたら、担い手が集まってくれるのか、ということを聞き、地域の方の需要を聞いて、探すのをお手伝いする、ということまで踏み込んでいい、ということを学べた。

◎活用度３

・　情報収集の大切さを学びました。フェイスブック始めたいと思います。ありがとうございました。
・　人間力や１人の力が地域を変えていくことの考え方が腑に落ちた。

・　行政の存在意義、また、地域に関わっていく上で我が事として考えることの大切さを学べました。
・　直接対話とはいえ、直接的ヒントが出るわけではないですね。試行錯誤していきたいと思います。
・　自分は仕事でやっているくせに、人にはボランティアを求めるのはおかしいと気づきました。
・　質問の回答が切り替わる。

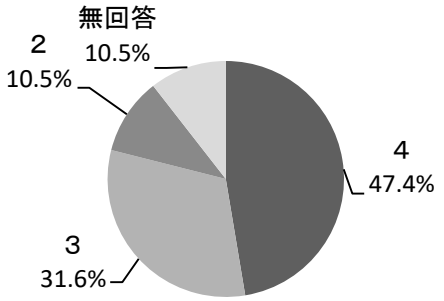
◎活用度１

・　個々に自分勝手に自分の言い分を話す場になっていた。講師の先生の自分の積み上げてきた経験での受け答えは良かった。

【講師との直接対話（豊重講師）】

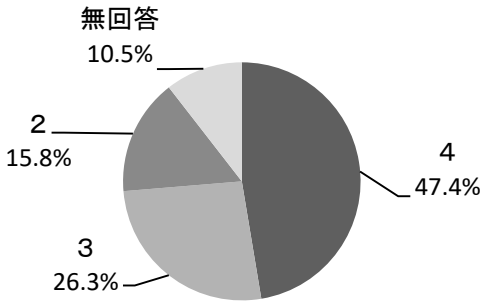
N=19

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	9	47.4%
	3	6	31.6%
	2	2	10.5%
	1	0	0.0%
	無回答	2	10.5%
	合計	19	100.0%



N=19

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	9	47.4%
	3	5	26.3%
	2	3	15.8%
	1	0	0.0%
	無回答	2	10.5%
	合計	19	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

・　“EDUCE”人から引き出せる能力を身につけたいと思った。
・　気迫に押されっぱなしで、理解が追いつきませんでしたが、EDUCE する工夫が大事だと気づきました。
・　まさに、これだという人間力と哲学の話を聞けました。何時間でも聞いていたいです！
・　発想力と想定力が重要であるということを感じた。今後の仕事にも大変参考になる話だった。
・　「人を動かす」ことのコツがわかっているようでわかっていなかったという認識が持てて良かった。リーダーとして働けるよう心掛けていきたい。
・　本気を感じました。ありがとうございます。
・　一度訪れて、一度自分の目で見てみたいと思う。
・　熱意、行動力、全てに感動し、対話中も涙が出そうになりました。ありがとうございました。
・　相手がわかりやすいように、納得できるように説明。負ける方法を考えて、対策等、熱い思いに感動。

◎活用度３

・　地域が違うと同じようにいくのかなぁという不安は拭えない。コミュニティの輪は広げていこうと思う。
・　「実演」によって伝えたいことを迫力を持って伝えようとする姿勢は今後の参考にしたいと思いました。行政との関わり方が聞ければ良かったです。
・　野菜づくりは参考になり実践してみます。

◎活用度２

・　パーソナリティが強烈で自分に活かせるかは不明だが、人間的魅力を感じた。
・　土着菌のつくり方よりも、住民自治における財源確保や地域への還元の仕方を聞きたかった。

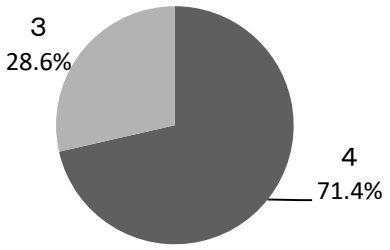
◎活用度　無回答

・　熱量がすごい。相手の力を引き出す、環境を整えるための企画力、演出力、財務力の気づきを得られた。
・　人を引きつける、参加させるために言葉１つ１つに気を配られていて、勉強になりました。

【講師との直接対話（多田講師)】

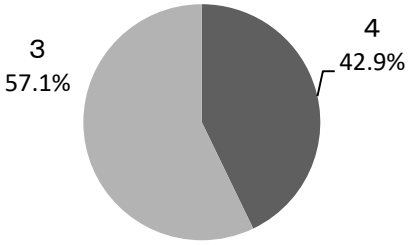
N=14

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	10	71.4%
	3	4	28.6%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	14	100.0%



N=14

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	6	42.9%
	3	8	57.1%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	14	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

・　一度訪れて、一度自分の目で見てみたいと思う。
・　地元愛ということだと思います。すばらしいリーダー、お話を聞けて良かったです。
・　前向き、プラス思考で、課題に対しどうしていくのか考えていきたい。
・　地元の住民がやりたいと思ったことを形にできるようにサポートすることが大切だと感じました。
・　地域おこしとは、その地域にリーダーがいないと成り立たないことを改めて知れました。

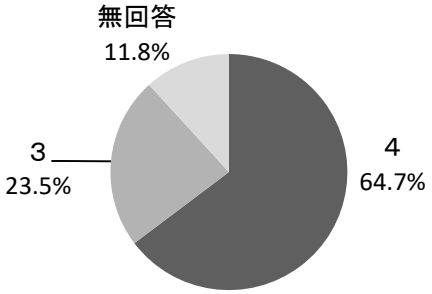
◎活用度３

・　自分のケースに合わせた話ができて良かったです。
・　具体的なことまで教えていただきためになった。
・　地域の宝を活用する。何かしらあるので最大限活用しようと思った。
・　農泊の経営の仕組みについてよくわかった。また、地域おこし協力隊と地域の人との上手な関わり方を学べたので、活かしていきたい。
・　春蘭の里設立の経緯や思いを聞けて良かったです。ありがとうございました。
・　プラス思考でとりあえずやっていくことしかないことと、きちんと稼いでいくこととおっしゃられながら、温かい想いがあるのが伝わりました。地域に視察や人が来る際の地域還元についても勉強になりました。
・　わかりやすいコンセプトをもって、地域をまとめていく、リーダーシップが重要だと感じた。

【講師との直接対話（森山講師）】

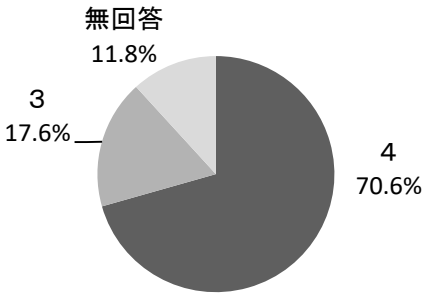
N=17

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	11	64.7%
	3	4	23.5%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	2	11.8%
	合計	17	100.0%



N=17

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	12	70.6%
	3	3	17.6%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	2	11.8%
	合計	17	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

・　関わり方を階層的に用意するという考え方が印象に残った。
・　移住者のトークイベントは地元でもやろうと思います。
・　地域課題を市民皆が取り組むことが大切ということがわかりました。
・　普段の担当している事業ではない視点での話を聞くことができて興味深かったです。
・　関わり方、視点をいろんな方向から見てみることを改めて感じました。
・　「地域のため」の建前でなく「自分のため」に地域に関われるという言葉が印象的だった。
・　自分の仕事に対しもやもやしていたので、お話しできとても良かったです。
・　芯があるので、ブレない強さを感じました。自分も「芯」を持って、ブレずに突き進んでいきたいと思います。
・　「徹底的にパクること」ということ、「自分事にすること」ということがとても印象深かった。今後の仕事にも活かしていきたい話がとても多かった。

◎活用度　無回答

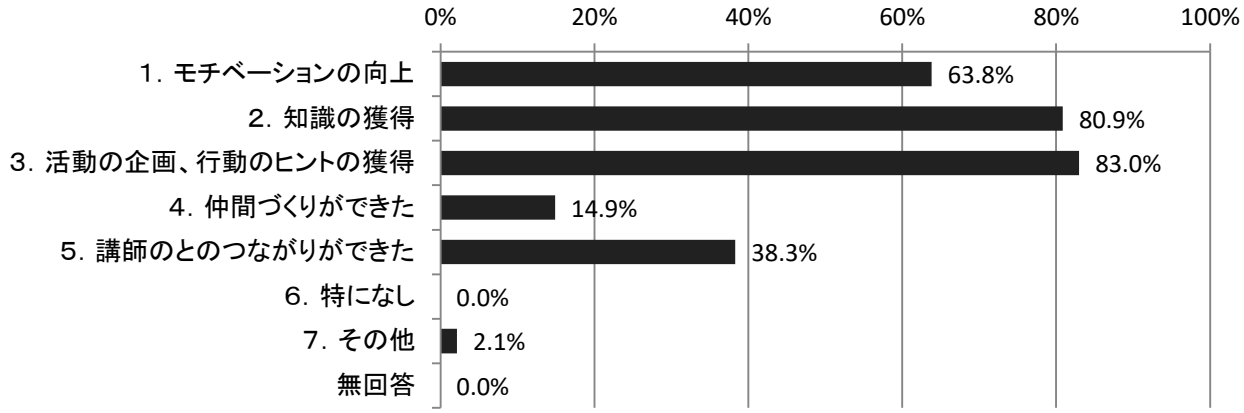
・　具体的な中間支援の事例などを聞くことができ、勉強になった。
・　具体的事例を交えながらのお話で、地域づくりは自分がやりたいことからスタートしていき、それがまちのビジョンにつながっていくと学びました。

（２）研修全体について

①人財塾の良かった点についてお伺いします。下記の選択肢から該当するもの全てに〇をつけてください。

N=47

	回答数	%
1. モチベーションの向上	30	63.8%
2. 知識の獲得	38	80.9%
3. 活動の企画、行動のヒントの獲得	39	83.0%
4. 仲間づくりができた	7	14.9%
5. 講師のとのつながりができた	18	38.3%
6. 特になし	0	0.0%
7. その他	1	2.1%
無回答	0	0.0%



＜その他＞

・　少人数制の対話で気軽に質問、やりとりができたのが良かったです。

＜感想＞

・　地域づくりには、NPO 法人のような中間支援組織や熱意あるリーダーが必要だと再認識できた。
・　あまりに盛沢山すぎて自分の中で整理ができない。質疑応答やコミュニケーションの時間がほとんど取れなくてもったいない。
・　事例を聞いたり、直接様々な方と話すことができたり、業務に役立つ発見が得られた。まちづくり初心者だったが、動いていくことに意欲が出てきて大変良い経験ができた。
・　講師が「現場」を経験している人達ばかりだったので、共感できる話がたくさん聞けました。東北地方でもぜひ開催してほしいです。
・　これまでに考えたことのなかった知見を得ることができた。一人だけが理解していても仕方ないので、庁内全体に広められるように伝えたいと思う。
・　現在の部署（福祉）は地域づくりと直接的な関わりは薄いと思っていたが、全て関わりがある気づきを得られた。また、異動先でも役立つ知識、モチベーションが得られた。
・　様々なベクトルから地域づくりに何が必要かについて話を聞くことで、普段の業務や自分の考

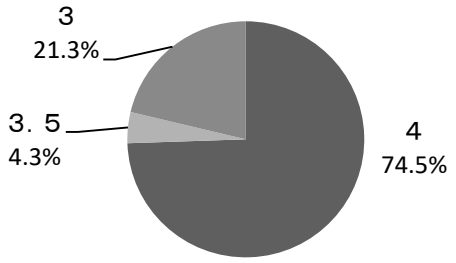
えを見つめ直すきっかけになった。現在取り組もう・支援したいと考えている分野の方との面識ができた。

- 1級の講師の話はどれも素晴らしく、また、その人間性も同様に素晴らしかった。考える力、行動する力、巻き込む力、突破する力、あるべき姿と覚悟など、非常に勉強になった。
- 直接対話で、出席者の自己紹介。質問等を聞いて連帯意識が生まれた。参考になった。久留米市や岡山市、奈良県、岐阜県、栃木県等からも来られているので驚いた。全国的な問題なのだと実感した。方法を公開して、日本全国が喜べるように、ネット等で見れるようにして欲しい。
- 機会があればまた参加したいです。
- 講師の方々との直接対話では、今後の仕事に活かしたい点などでとても参考になることが多かったです。今、入庁3年目ですが、この時期に聞くことができて良かったと思える学びがたくさんできました。
- 現場で活動される方の考えを知れた。

②人財塾を受講したことにより、今後、業務又は業務外で地域づくりに関する活動を新たに又は、継続して行っていきたいと思うようになりましたか？

N=47

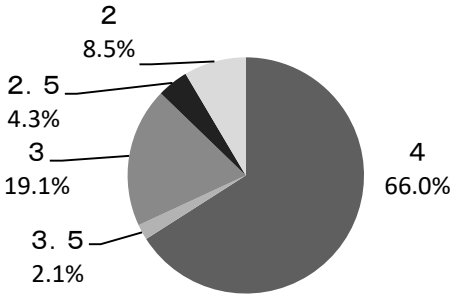
＜活用度＞		回答数	%
↑ 思った 思わない ↓	4	35	74.5%
	3．5	2	4.3%
	3	10	21.3%
	2．5	0	0.0%
	2	0	0.0%
	1．5	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	47	100.0%



③研修全体の進め方・運営についてどのようにお感じになられましたか？

N=47

＜活用度＞		回答数	%
↑ 良かった 良くなかった ↓	4	31	66.0%
	3．5	1	2.1%
	3	9	19.1%
	2．5	2	4.3%
	2	4	8.5%
	1．5	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	47	100.0%



④その他研修に関して改善点・お気づきの点をお聞かせください。

［プログラム、講義形式］

・　内容は充実していましたが、昼休み含め休憩時間にあまり余裕がなかったように思います。
・　研修を伺って、一つ自分の中で新しい思いつきが生まれました。集落支援員の任期後どうやって定住するかのヒントをたくさん得ることができたのが良かったです。直接対話の時間（2 コマ）を設けてもらったのは、非常に効果的でした。10 年間続いているということなので、また課題を見つけて参加します。
・　（参加者が選ぶ）テーマ別、課題別に、グループワークしたら良いと思いました。講師との直接対話方式を、少し変更したらどうでしょうか。
・　直接対話ひとつの時間を短くして、もう一人講師の方とお話しができれば良いと思いました。

［講義内容］

・　実践論を学び参考になった。今後情報交換（フェイスブック）して情報を取り入れることができ、今後の活動に実践できるのが良かった。
・　直接対話が聞く中心が多かった。もう少し意見交換ができると良い。
・　意識が高く行動力のある講師の方々のお話は大変勉強になりました。参加者同士の交流がもっとあると良かったと思います。
・　講師の人選がバランスが良く、様々な視点からのまちづくりを考えることができとても良かった。
・　まちづくりの成功事例は多く伺えたが、失敗事例とそのプロセスも聞けると良かった。
・　講師の方々の成果の事例以外にも、失敗した事例研究もあれば、幅が広がると思いました。
・　日々の業務で、地域づくりにおける課題にぶつかっていたが、講義や、直接対話で解決策のためのヒントを得ることができたので、今後の業務に活かしていきたい。

［その他］

・　素敵な講師の方々ばかりで、対話をもっと沢山の方としたくなった。会場が寒かった。
・　行政の人向けなのか、民間の人向けなのか（両方かもしれませんが）どちらなのかという思いが若干あったところです。（周知の際、平日だと行けない、民間の方向けじゃないのでは？という指摘があったところです…。）。市町職員から話を聞いていると研修に出そうにも余裕がないところが多いのが現状です。もう少し柔軟なスケジュール、講座内容とするのも一案では？と思ったところです。あるいは金・土の開催とすることも一案ではないでしょうか。（人材育成の重要性は理解していると思いますが、業務を回すことが優先されてしまう。）
・　せっかくの講義、直接対話での記録が残せていないのでは？できれば、ビデオまたは録音していただき、内容をまとめて、ネット等で見れるようにしていただければ、理解度が進む。直接対話できなかった講師の内容も知ることができる。
・　「講師との対話」がもう少しディスカッション、有意義な場になると良かった。行政の参加の方はもう少し学びの場を経験してから、この場に出られると良いと感じる。市町村職員はこういう研修に進んで出るべきと思うが、参加募集の情報が来ていない（来たのは地域おこし協力隊

向けに総務省研修として来ただけ)。
- 今のところ input したものが多いので、どう output するかが考えられない。
- NPO と利益の関連は必要であり、地域づくりを事業と考えることは、生活するため必ず必要となると思う。
- 講師が全員参加する交流会は良かったです。たくさんしゃべることができました。
- 懇親会の参加者がもっと多いと良い。

（3）今回の研修受講生を対象としたステップアップ研修を行う場合、どのような内容を望みますか？

［フィールドワークの形式］

・　フィールドワークがあれば興味があります。
・　現地を直接見る。
・　講師の方々の現場を見に行き、学ばせていただく研修。
・　今回の講師の方の地元を、実際に訪ね、見てみたい。
・　実際にお話を伺った方々の事業等、見学してみたい。
・　講師として来て下さった方々のもとで働く方々のお話を伺ってみたい。
・　現場での講義など体験型の学習をしてみたいです。時間が足りなすぎたので合宿でも良いと思います。最高なのは、講師の方に、来てもらうことです。

［研修後の活動内容の報告・確認等］

・　実際にどのように活動をしたのか、報告的なもの。
・　実践したことを確認する機会があれば参加したい。
・　この研修を受けて、何かしてみたという事例を、どなたか講師の方と検討してみたい。

［その他の研修］

・　ハンドブックの資料をいただいたが、実践することが必要。やってみる事の研修ができれば良い。
・　テーマ、取組別の分科会
　ex.　・古民家再生・民泊等
　　・商品作り
　　・農業
　　・結婚支援
　　・福祉
　　・子ども　といった感じ。
・　他の自治体での取組事例について紹介いただきたい。
・　今回の研修でさらに聞きたいことなどを、後でネット等で拾い上げていただきたい。講師から回答が得られるようなら、ネット等で見れるようにしていただければと思う。次年度にリストアップして、参考資料として提示しても良いのでは。
・　NPO、一般社団法人、株式会社などまちづくりに関わる組織について、もっと学びたい。ひとつのプロジェクトに対して、それぞれの立場の方が講演するような場があったら参加してみたい。

［その他］

・　本市での取組に参考としたいです。
・　実際の事例を検討して、議論をしていく中で、自分の地域の解決のヒントとしていきたい。
・　できればフォローアップ研修に参加して、今後もモチベーションを持続させたいです。自身の職場で、若い職員が地域づくりに参加できる環境づくりに努めたいと思います。（まずは伝達研

修から手掛けたいと思います。）

- 実現するまでに時間がかかることを承知で、2 日間で聞いた内容について取り組むことができるよう、少しずつ実践していきたい。
- すぐに、地元の移住者を集め、トークなどから始めたいと思います。
- 自分のやりたいことをよく落とし込みたい。
- 民生児童委員をしており、高齢者の人間力を活かした地域づくり活動を実践します。
- 地域を超えるコラボやコミュニケーションが自治体同士、自治体と団体（組合）でできると良い。他を見ることで自分の地域を外からの目で見て、外からの力を借りることは大事にしたい。行政の方に民間の地域づくりを理解していただける場があると良いと考える。
- 具体的に県職員が地域おこしにどのようにかかわっていくか、市町は地元住民と直接関わるが、県は特に関わりがない場合があるので、県としてのあり方に疑問を感じた。

■リーフレット

全国地域づくり人財塾

IN 金沢

主催：総務省　共催:石川県　後援：金沢市

行ってみたい、住んでみたいと思うような地域づくりに向け、地域独自の価値や魅力を高める創造的な人材が求められています。

そうした地域づくり活動を自らの手で企画し実践する「地域づくり人」を育成するため、「全国地域づくり人財塾」を、石川県金沢市において開催します。

開催日　2019年7月18日（木）・19日（金）・20日（土）

※お泊りの場所は各自でご用意ください。

開催概要

7/18(木)	13:00～17:40	講義
	18:00～19:30	講師との交流会
7/19(金)	9:00～11:35	講義
	12:30～17:00	講師との直接対話（分科会形式）
7/20(土)	8:30～17:00	フィールドワーク（自由参加）

対象
- 地域づくりに関心のある行政職員・地域づくり団体・NPO関係者の方
- フィールドワークを除く全課目を受講いただける方(途中参加・退席は、不可)

定員　80名<フィールドワーク20名>

受講料　無料
（1日目の交流会費は別途必要です。
2日目の昼食は各自ご用意ください。
3日目のフィールドワークは参加料が必要です。）

会場　金沢市文化ホール（石川県金沢市高岡15番1号）

【受講生の声】～全国地域づくり人財塾in札幌(H30)　アンケートより　～
- 情熱的ですが、理知的でもあり、自分の目指すところであると感じる講義でした。
- 本気になって、地域づくりに取り組むことの大切さが理解できました。
- 何度でも聞きたい話でした。熱い思いや具体的な対策など勉強になりました。
- 具体的な手法とヒントがたくさんあり、勉強になりました。
- とても刺激的でした。自分の仕事と業界は違いますが、地域づくりにとても参考になりました。
- 豊富な事例を紹介していただき、大変参考となりました。
- 北海道の皆さんと交流することができて良かった。今の自分にヒントになるような講義も多く、すぐに実践していきたいと思いました。

お問い合わせ先

【主催】総務省 地域力創造グループ 人材力活性化・連携交流室
担当：目貫、千葉　Tel.03-5253-5392
申込書にご記入の上 E-mail：[redacted] までお送りください。

プログラム詳細

※プログラムについては現在の予定です。

■7月18日(木)

※1日目の昼食は済ませて、ご参加ください

12:00-12:45 受付　12:45-13:00 開講・オリエンテーション

13:00-13:15 【導入講義】
『人材力の活性化について』　総務省地域力創造グループ人材力活性化・連携交流室

13:20-14:30 【講義】
『人が育つ、人間里山主義』　一社スマート代表理事（NPOフュージョン長池創業者）　富永 一夫 氏

14:45-15:55 【講義】
『地域再生～行政に頼らない地域づくり～』　柳谷自治公民館館長　豊重 哲郎 氏

16:10-17:20 【講義】
『農林漁家で始めよう～魅力ある暮らしと地域おこし～』　春蘭の里代表理事　多田　喜一郎 氏

17:25-17:40 【振り返り・閉講】

18:00-19:30 【交流会】金沢市文化ホール

■7月19日(金)

9:00-10:10 【講義】
『地域づくりのマネジメント－つながりをつくり創発を生む仕組みづくり－』
慶應義塾大学総合政策学部 教授(学部長補佐)　飯盛 義徳 氏

10:25-11:35 【講義】
『御祓川がつなぐ、まち、みせ、ひと～民間まちづくり会社の20年』
株式会社　御祓川代表取締役　森山　奈美 氏

11:35-12:30【昼食・休憩】

12:30-14:00 【直接対話Ⅰ】
※ 直接対話は、講師の話を聞くだけではなく、他の受講者の意見を聞きながら、「みんなで学び合う場」です。
※ 以下の5名の講師から2名を受講します。希望する講師を申込時に伺います。
①飯盛講師 ②富永講師 ③豊重講師 ④多田講師 ⑤森山講師

14:15-15:45 【直接対話Ⅱ】

16:00-17:00 【振り返り・閉講】フォローアップ研修の紹介など

■7月20日(土)

【フィールドワーク】（株）御祓川の取組を視察（参加料：2,000円）

8:30 集合→出発（車内でアイスブレイク、能登の観光ガイド）
10:00 七尾着 能登食祭市場からbancolにて 七尾のまちづくりの流れを紹介
12:00 昼食
13:00 失敗事例の駅前再開発ビルを視察
13:30 一本杉通り
14:30 ふりかえりワーク
15:30 七尾発
17:00 金沢着・解散

講 師 紹 介 （講義順）

※令和元年5月24日現在の役職

■一般社団法人スマート代表理事　（NPOフュージョン長池創業者）　富永 一夫 氏

東京多摩ニュータウンに暮らす普通のサラリーマンだった講師が、47歳で会社を辞めて地域に戻り、暮らしを支援するNPO法人を設立。住宅管理支援事業、高度情報化支援事業等々の事業を立ち上げ、八王子市都市公園の指定管理者として地域課題の解決に取り組んでこられました。後継者育成にも専心し、2016年に全ての経営権を30代と20代に移譲。2019年6月に理事も退任し一会員に。

2012年度には、緑の都市賞（国土交通大臣賞）、2016年度には、ふるさとづくり大賞（総務大臣表彰）を受賞。2017年8月には、DVDで教材を開発し、「公園経営学校」を主宰。2019年5月人間里山主義を出版したのを契機に「NPO経営学校」も創業。

“都市郊外”の新興住宅地で、既存の住民と新住民との間で地域づくりの活動を実践されてきた講師の御経験をもとに、どのような点に留意して地域活動を展開すべきか、その要諦を講義いただきます。

【参考HP：NPOフュージョン長池（http://www.pompoco.or.jp/）】

■柳谷自治公民館館長　豊重 哲郎 氏

柳谷は、鹿児島県肝属平野に位置し、集落ぐるみで豊かな生き方を目指す小さな「むら」です。土着菌を活用した環境保全型農業や生きた福祉活動が高く評価され、第8回日本計画行政学会「計画賞」の最優秀賞受賞。

また、「むらづくり日本一」も受賞、平成30年度ふるさとづくり大賞、内閣総理大臣賞受賞。行政に頼らない住民自治を基本に、自主財源確保活動にオリジナル焼酎開発販売。各地のリーダー養成の故郷創世塾開講等23年間継続中。

リーダーは企画力、演出力、財務力の学びを高め地域創生で社会に貢献して欲しいとの熱意を持って、全住民参加型の感動の地域づくりを実践している豊重自治公民館長の御経験をもとに、行政に頼らない自立した地域づくりのポイントと、地域人材の力を引き出し、活動に巻き込むためのポイントを講義いただきます。

【参考HP：やねだん（http://www.yanedan.com/）】

■慶應義塾大学総合政策学部教授（学部長補佐）　飯盛　義徳 氏

地域づくりの第一人者である慶應義塾大学飯盛義徳教授は、実際に学生と一緒に各地を訪問して、地域の人々とともに課題解決につながる研究プロジェクトを立ち上げ、理論と実践の相乗効果を目指しておられます。

その御経験から、数々の先進的取り組み事例の分析に基づき、プラットフォームの観点から、どのようにすると多様な人たちが集まり、相互作用が活発になり、新しい主体的な活動が生まれて賑わい創出につながっていくのかなど、これからの地域づくりに役立つ本質について人材力の観点から講義いただきます。

【参考HP：慶應義塾大学飯盛義徳研究室（http://isagai.sfc.keio.ac.jp/）】

■春蘭の里　代表理事　多田喜一郎　氏

農家民宿「春蘭の宿」主人。1996年能登町宮地地区の有志7名で「春蘭の里実行委員会」を結成し、「春蘭の里構想」に基づき、観光森林、観光農業等地域全体を農事公園とした地域づくりに取り組む。1997年自宅で農家民宿第一号「春蘭の宿」開業。現在40数軒の農家民宿が地域で営業している。若者が戻ってこられる農村の再生を目指し、地域の活性化に尽力しているご経験をもとに、講義いただきます。

■株式会社御祓川代表取締役　森山　奈美 氏

石川県七尾市生まれ。いしかわ地域づくり協会専任コーディネーター。ふるさとのまちづくりに取り組む父の姿を見て、将来はまちづくりを仕事にしたいと考え、横浜国立大学で都市計画を専攻。

1995年、株式会社計画情報研究所に入社。都市計画コンサルタントとして、地域振興計画、道路計画等を担当した。民間まちづくり会社、株式会社御祓川の設立に携わり、1999年より同社チーフマネージャーを兼務。

2007年より現職。同年に起きた能登半島地震を機に、能登一円の中間支援機能として「能登スタイルストア」や「能登の人事部」を事業化し、サポートの拠点として市民大学「御祓川大学」を設立。様々な主体が関わるまちづくりのつなぎ役として、能登の元気を発信し「小さな世界都市・七尾」の実現を目指して日々、挑戦中。まちづくりに関われているご経験をもとに、講義いただきます。

【参考ＨＰ：株式会社 御祓川 （https://www.misogigawa.com）】

令和元年度全国地域づくり人財塾 in 金沢　受講申込書

下記の申込書にご記入の上　E-mail：jinzai.renkei@soumu.go.jp　までお送りください。

受講申込書（申込期限：令和元年７月５日（金）17：００まで）

お名前 （ふりがな）					
E-mail					
電話番号					
ご所属	（所属・団体名）				
	（部署・役職名）				
交流会 （会費：3，500円）	参　加　　・　　不参加				
フィールドワーク(3日目) （参加料：2，000円）	参　加　　・　　不参加				
講師との直接対話	第1希望	第2希望	第3希望	第4希望	第5希望
	コース①：飯盛講師 コース②：富永講師 コース③：豊重講師 コース④：多田講師 コース⑤：森山講師	※上記欄に御希望のコースを第5希望まで記入してください。 ※会場の都合により、第3希望以降になる場合も ります。 ※受講コースは、当日発表いたしま す。受講コースの変更はできま せん。 ※直接対話は、講師の話を聞くだけではなく、**他の受講者の意見を聞きながら、「みんなで学び合う場」**です。			

事前記入欄（できるだけ簡潔に、箇条書きでご記入ください）

人財塾受講の動機についてご記入ください。また、この研修で学びたいことをご記入ください。(100字以内)	
選択講義で講師に聞きたいこと（それぞれ30文字以内）	
第1希望	
第2希望	
第3希望	
第4希望	
第5希望	

３．市町村職員中央研修所（JAMP）編

［令和元年 9 月 18 日～20 日］

■受講者アンケート

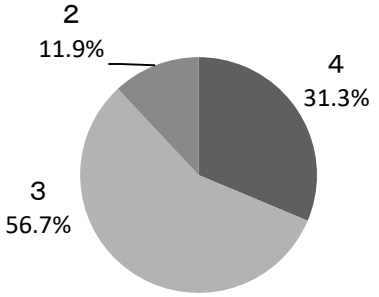
（１）各プログラムに対する評価

【講義１：導入】「人材力の活性化について」

総務省地域力創造グループ地域自立応援課人材力活性化・連携交流室　地域支援専門官　目貫　誠

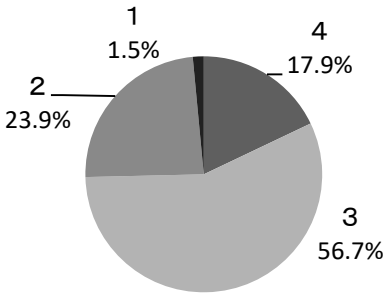
N=67

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	21	31.3%
	3	38	56.7%
	2	8	11.9%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	67	100.0%



N=67

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	12	17.9%
	3	38	56.7%
	2	16	23.9%
	1	1	1.5%
	無回答	0	0.0%
	合計	67	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

・　以前、地域おこし協力隊に関する研修で聞いたことがある制度や初めて聞いたものもあったので、勉強になった。
・　様々な制度があることを知ることができました。有効に活用していきたいと思います。
・　地域づくり人財塾がこれまでにどのように行われてきているのかを知ることができた。個人的には、「集落支援員」と「生活支援コーディネーター」の連携を考えていきたい。
・　これからの学び＋αで今後に活かせる制度のお話ありがとうございました。
・　素晴らしい先生方のお話が無料でいつでも受講できる機会があり有効に活用させていただきます。
・　自分の制度の理解につながるように頑張りたいと思います。
・　地域おこし企業人は知らない制度だったので参考になりました。
・　地域おこし協力隊について知りたかったので参考になりました。

◎活用度３

・　地方創生のためには人財の育成が必要だと改めて感じた。

- 地方創生カレッジのｅラーニングを活用しています。ログイン画面がわかりづらいです。
- これまでの地域づくり人財塾、多様な人材の活躍に向けての総務省の取組を学ぶことができた。
- 「地域づくり」や「人材育成」はあくまで市町村が独自で進めていくべきものだと思い込んでいたが、総務省（国）としても様々な施策を整備しているのだということに気づけた。
- 今日のこの研修が、とても貴重な機会であることに改めて気づき、気が引き締まる想いです。
- 総務省が実施している様々な取組を知ることができました。何か実施できることがないか、検討していきたいと思います。
- 念願叶って全国地域づくり人財塾を受講することができました。全国の熱意ある仲間、素晴らしい講師とつながる場に感謝します。
- 本講座を通じて、地域における人材の育成には様々な制度があり、外部から様々な人材の招へいを積極的に行うことで、地域力を高める必要があると感じた。
- 地方創生カレッジについて、今後利用してみたいと思う。
- 常にモチベーションを上げるために外からの刺激が必要と思うので、フォローアップ研修は良いと思う。
- 様々なメニューが用意されていることは理解できたが、東京都の自治体が活用できるものが少ない。
- 地域力創造アドバイザーの制度は、講演会の講師を探すのに役立ちそうだと思いました。
- 人材育成の重要さを知りました。
- 研修の背景にある施策がわかり、今回の研修が非常に貴重なものであると感じました。
- 支援メニューがたくさんあって、市にマッチすることがあれば是非とも活用したい。
- 地域人材ネットを活用してみたいと思います。
- 地方創生、地域づくり人財塾の歴史や展開を知ることができて参考になった。
- 地域の行政を任される人材として、自身を高めることの重要性を再認識した。
- 地域人材ネットを活用し、市民の方々が求めている講義があれば案内をしたいと思いました。
- 地方への支援（地方創生版・三本の矢）について説明のあった内容について、興味があり、中でも地方創生人材支援制度（地域おこし協力隊・企業人）について大変参考になった。
- 急激な経済成長が期待できない今後は、行政においては人材活用が大きなキーワードになると思う。その点では地域おこし協力隊など総務省が主導する施策は、本当に的を得ていると思う。我々、現場での活用にもっと工夫が必要だと思った。
- ノウハウを持っている人を頼る制度・機会があることを知って良かったです。
- H21 年度では 89 人、31 団体だった地域おこし協力隊が、H30 年度では 5530 人、1061 団体まで増加していること、約 6 割の方が同じ地域に定住していることを聞いて、とても驚きました。
- 地域人材ネットの活用はしてみたい。当課でも同類の方法があるので取り組みたい。
- 地域おこし企業人や、人材ネットの活用方法について理解できた。ぜひ活用につなげたいと思う。
- これまでに地域おこし協力隊について大学等で研究していたので、担当となって応援していきたいと考えています。
- 当該事業の主担当ではないものの、業務目的達成のための手段（引き出し）を増やすことができ

た。

◎活用度２

・　総務省で実施している地域づくり事業の概要を知る良い機会となりました。
・　国の支援が多くあることを知らなかったので、勉強になりました。
・　地域おこし企業人については初めて知りました。活用できないか、帰ってからもう少し調べてみようと思います。
・　活用できる制度をうまく活用していきたい。
・　制度について理解できた。活用例等あるともっと身近に感じることができそう。
・　人材力活性化・連携交流室で行っている施策がコンパクトにまとめられていてわかりやすかった。
・　地域おこし協力隊・集落支援員以外にも、町おこしのシステムがある事がわかり参考になった。

◎活用度１

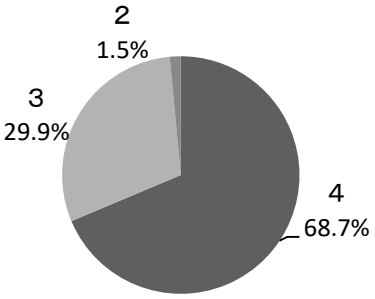
・　どのように人材を活用し、かつ新たに人材を育成しているのか把握できた。

【講義２：実践事例】「人が育つ、人間里山主義」

一般社団法人スマート　代表理事　富永　一夫　講師

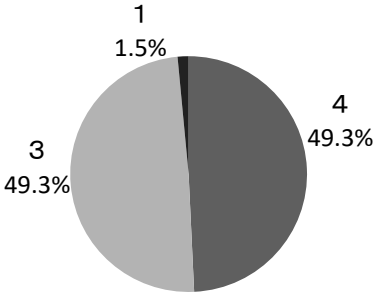
N=67

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	46	68.7%
	3	20	29.9%
	2	1	1.5%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	67	100.0%



N=67

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	33	49.3%
	3	33	49.3%
	2	0	0.0%
	1	1	1.5%
	無回答	0	0.0%
	合計	67	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 場の提供、黒子に徹する姿勢、求められているものを認識する重要性など、タメになりました。
- 行政についてわかった上で、市民との上手な付き合い方を学ばせていただいた。どうしても、行政側の事情を押し付けがちだったことに気づかされた。
- 市民の「やってみたい」を支援することで、満足度が 10 倍も変わるというお話が印象に残った。「市民ファースト」の重要性に気づけた。
- 「場の提供」→「人材育成」、「人の力」。地域の課題として担い手不足をあげている所が多いので非常に参考になりました。
- 市民や地域のやる気を出させて、あくまでも応援という形での支援に共感。行政の押し付けでなく、地域の発想と気持ちを大切にしたい。
- 場の提供が大事という言葉が印象的であった。
- 自分も指定管理制度を利用した施設を所管しているので、今日得た知識を指定管理団体に伝えていきたいと思った。
- 場を提供することが人財育成になるという点が大変参考になりました。自分の活動や仕事の中で活用したいと思います。
- マーケティングや経営のノウハウだけでなく人と人とのつながりを大切に、戦略的かつあたたかな人材育成に人生を賭けており素晴らしいと思いました！
- 情熱で動かないものはないと感じた。
- 独りよがりな行政運営ではなく、市民がどんなニーズを持っているのかしっかりととらえながら、行政は場の提供を行うことの大切さを学ぶことができた。
- 自分が前面に出てがむしゃらに頑張るのではなく、誰かのやりたいことを応援する、というシ

ンプルでとても大切な事に気づけました。
- 地域として自立をしたまちづくりのあり方を学ぶことができました。地域満足度をどうしたら上げられるかなど、学びました。
- 市民協働のイベントの事務局をやっているので、どうやって市民主体で作っていくかのヒントになりました。
- もうけにこだわる、持続可能にこだわる、をしたい。
- 話の１つ１つが、全て参考にしたいものばかりでした。場の大切さ、人材育成の実践の仕方など、とても感銘を受けました。
- 一人一人が主役になれる場を設けることが重要だと感じた。
- 場づくり、人づくりの大切さを学びました。行政がすべきことを代わりにやってもらっているので理想的な指定管理者だと感じました。
- 本市も大きな公園があり、色々な活動をしている団体があります。もっと広報でスポットライトを当てて紹介したいと思いました。
- 「場をつくる」ということの重要性を感じた。また、「人」と「場所」の関係性を改めて見つめ直し、「場所が人を育てる」という視点が大切だと学んだ。
- 富永さんの周囲の人を自然と巻き込んで「やりたいことをやってもらう」姿勢は真似したいと思いました。
- 人の巻き込み方など多くの気づき、学びがありました。また、富永さんの下で働ける人達がうらやましかったです。
- 今後は、これまで都市部で働いていた人々が UJI ターンで地方に戻ってくることも多い。知識や技術、経験を持った人材の活用が税収減による行政サービス低下による市民満足度の低下を抑制し、また住民総参加の仕組みづくりのキーとなると思う。
- 「ビジネス力」は、公務員をしていて、いつも欲しいと思うものです。欲しがってても仕方ないので、そうした人に場を提供したり関わって自分の成長にもつなげたいです。
- 話がとてもおもしろく、あっという間に時間が過ぎてしまいました。できればまたお話を聞きたかったです。“市民主導のまちづくり”を目指して頑張りたいと思いました。
- 公共施設を管理ではなく活用の視点で考え、そこを活動したい人の「場」にし、たくさんの人との交流の場にする手法を、ぜひ取り入れたいと思いました。
- 富永さんが強調されていた「場の提供」がとても印象に残った。貴重な学びの場を提供いただいていることを痛感した。
- 行政は黒子であり、主役は地域の方々ということに改めて気づかされた。
- 公務員として住民への「場の提供」を行うことが住民自治につながるとわかりました。
- 行政の「場づくり」というキーワードは非常に心にひびきました。住民の方と共に成長できる環境を整えていくことを今後の課題にしていきます。
- “人”としてどうあるべきかと戦略・工夫・方法は別々のように見えて表裏一体であることは、公務員像と共通すると感じた。

◎活用度３

- 場の提供により人は育つという話にとても感銘を受けた。成長のため様々な「場」に向かっていきたいと思った。
- 「場を提供することが人材育成」という言葉が印象的だった。住民ファーストで市民の意見を聞き、融合させることが大切であると感じた。
- 住民のやりたいを実現できるような行政の仕組み改革に取り組もうとしているところだったので、NPO と行政という立場の違いはあっても、考え方に共感できたので、とても参考になりました。
- 公園の管理に住民の参画はとても難しいことが多いと思いますが、その中で富永さんたちがどのように行動したのかがわかり、とても参考になりました。
- 指定管理者制度の成功事例としてとても参考になった。
- 悩みや希望をもった目の前の相手のために、全力で「何ができるか」を考え、優しく接することの重要性を感じた。
- やらせるよりも、やりたいことをできるようにしてあげる、支援するという言葉が印象に残った。様々な課題に当たる中でも、楽しむことを忘れず事に当たりたい。
- 実体験をもとに、わかりやすかった。
- 何冊か先生の本を読んではきたが、実際ご本人の講演は、実体験のお話で、机上の話ではなかったので良かった。私も NPO を立ち上げたい。
- 人材育成に場の提供が大事であることを再認識できた。富永さんは八王子の宝である。
- 次世代のバトンを渡すなど、「場をつくる」ことの大切さを学んだ。
- 特に人材育成という分野で、場を提供する大切さを感じた。また、自分の土地をより深く知る必要性を感じた。
- 場を提供することの大切さ、人間関係の大切さを知ることができた。
- 若い人を巻き込むには背中を見せて仕事をする必要があると思いました。
- 人材を育てるところはよく理解できたが、育てる人材をどう見つけるのかが知りたい！
- 「場」を提供する。やりたいと思う人に、その「場」でやってもらう。という言葉が印象に残りました！
- 公務員は黒子になり、住民主体でしていることに見せることの必要性や重要性を学べました。
- 「場を与える」公務員は、地域の人や若い人が活動できるよう黒子になる。「いきがい就労」という言葉が、素直にいい言葉だと感じた。
- 今後の業務の中で、できるところから取り入れて、実践していきたい。もし、不明な事案が出た場合は、またいろいろとお教えください。
- 場の提供について、やりたい人を応援する、事務局が手を出しすぎないなど現在の業務にも通ずるものが多くお話をきけて良かったと思います。
- どんな黒子になれるか。実際に視察して体験したい。講師の場の提供方法に圧倒されました。
- 「自分のやりたいことをやれた人は喜びが大きい」等、住民を引き付けるヒントが沢山あった。
- 目からウロコの講義でした。
- 土台を作ることが大切だと感じました。

・　若い人財と人生経験豊かな高齢者でチームを組み、高齢者 3 人で若者 1 名を育てる考え方が使える考えだと思いました。

◎活用度 1

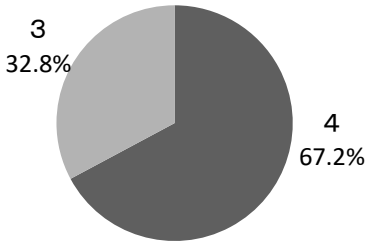
・　住民が主体となって動くことができる場の重要性を理解した。しかし田舎では、公園が機能しないため、このように集まれるような場はどのように形成すべきか悩んだ。

【講義３：事例報告】「修了生の報告」

公益財団法人小平市文化振興財団　事業課長　神山　伸一　講師

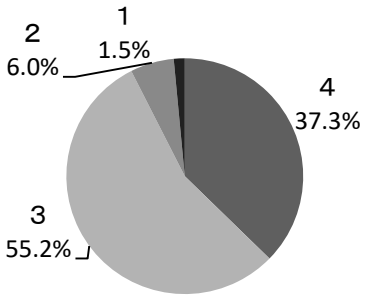
N=67

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	45	67.2%
	3	22	32.8%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	67	100.0%



N=67

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	25	37.3%
	3	37	55.2%
	2	4	6.0%
	1	1	1.5%
	無回答	0	0.0%
	合計	67	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- この人財塾の OB でかつ市役所職員ということで、行政の実情に沿ったお話を伺えたため、非常にためになった。
- 「企てる力」の重要性、「互学互習」。同じ行政としてとても参考になりました。
- 検討のプロセスを公開していく手法を取り入れていきたいと思った。何が課題となっていて、どうすれば解決できるかを一緒に考えていきたい。
- メーリングリストに情報発信し続けることで、市民の信頼を得て、色々なアイデアを引き出したのは素晴らしいです。
- 行政でもできることはたくさんあると感じた。
- 目の前の住民だけではなく、将来の住民のため日々少しずつでも自身を 1%でも進化させ続けることでより良い仕事が可能になると感じた。
- 自分のやりたい事を実現するための準備、仲間作り、企画立案、実行力を学びました。情熱を忘れない公務員でいます！！
- 行動に移すことについて、モチベーションを落とさず取り組むことについて学びました。
- 地元を次世代のためによくしていきたいという想いに感銘を受けた。
- 実際に現場で道を切り拓いてきた方の生の声が聞くことができ、とても参考になりました。
- 自治体の具体的な課題解決手法が聞けてすごく共感できました。
- 良いと思ったことを最後までやりきることは大切だと思いました。
- 「ないなら創る」連携モデルの構築。このフレーズ（「ないなら創る」）は私自身もとても気に入っている言葉です！「直球を投げる」←これを帰ったら実践します！
- 身動きがにぶい行政を動かすために「市民を味方にする」というのは新しい気づきだった。その

手段として、情報発信・公開、情報共有が有効だというのも大きな学びだった。

- 私は毎年、今年の目標を決めていますが、昨年は「繋ぐ」、今年は「結」なので、全く一致していて驚きました。
- ルーティーンの法則は自分にもよく当てはまることなので、熱が冷めないようにモチベーションをどうにか維持していきたいです。
- 小平市をはじめ東京都内の自治体には行政課題などないと思っていた(笑)。我々と同じ立場の方なので、その活躍や取組の苦労などとても理解できた。行動力や意識の高さは見習うべき所が多かった。
- 困ったとき、考え方を変えて市民と一緒に創る。情報の見える化を行う。今の自分の業務課題解決の糸口になりそうです。
- 「やらない理由がない」この方の行動力を見習おうと思いました。机にずっと向かってもダメで、どんどん周りの方に相談して巻き込んでいこうと思います。
- 前回、参加された全国地域づくり人財塾の経験を話していただいたことが、とても参考になり、勉強になりました。“トレンドでなくトラッドを考えた”、“情報は発信するところに集まる”という言葉が印象に残りました。
- 行動力にビックリしました。私もトライしたいと思いました。できれば、ブルーベリーの消費や観光客数など、成果を数字的に知りたかったです。
- 目からウロコの講義でした。
- 行政職員の実践者の方の事例は非常に参考になった。
- 人とのつながり、キッカケを大事にすることは、人間性を高める上でも大事だなと再認識しました。信頼を確かにして、事業を進めていきたいです。

◎活用度３

- 地域の魅力を探し、高める活動を積極的にされており、参考になります。
- 信頼を得ることで色々な顔が出てくる。個人の顔が出てくることで本気のアイデアが出てくることを学んだ。
- 「町を良くして後世に伝えたい」という言葉が強く残った。自分の町を知ってつなげたいと思った。
- 我が町もずっと行政主導で「企て」が展開されてきたが、持続できないものも多い。あくまで、パートナーとして、悩みも喜びも共有しながらという視点が、とても参考になりました。
- 本研修で学んだことが、どのように業務にいかされたのか、お話ししていただき、とても参考になりました。
- 行政側として、成功事例、事業の進め方などが参考になった。
- 神山さんの熱量を強く感じた事例報告であった。
- 人財塾で得た知識を実際の業務でどのように活かしているか知ることができた。
- 同じ市町村の職員なのに、ここで学ばれた他の方の「企てる人であれ」を着実に取り組まれていて憧れます。
- 一人ではできないこと、困ったことは、周りを巻き込んで取り組むこと、それ以前に人間力が重

要と感じた。
・ 行動力がすごい。こんな上司がいたら良いと思った。
・ こんなに楽しみながら仕事している公務員がいるのであろうか。仲間を持ち、何かあってもやってのけるのはすごい。
・ やりきる力、やりぬく力を非常に強く感じた。
・ 市役所の中で起こっていることを、メーリングリストで発信するというやり方が面白いと思いました。
・ 自分のやりたいことは、これからも貫いていこうと思った。
・ 楽しく仕事をできることが一番だと感じました。
・ バイタリティとタイミングが重要だと思いました。
・ あらゆるものに対して、様々な着眼点を持っていくことが新たなまちづくり・地域づくりにつながると感じました。
・ 市民協働の実例を挙げながらの説明でわかりやすかった。
・ 人財塾で得たことを実際に活用しているところが素晴らしいと思った。
・ 行政の観点から、物事の進め方についてお教えいただき大変参考になりました。今後の業務に活かして頑張りたいと思います。
・ 型破りなことをしているようで、実は地道に足を運び、顔をつないでいるのが伝わってきた。目指す職員像だと思った。
・ 人財塾で学んだことが、講師の小平市をどうにかしたい情熱とリンクして大変参考になりました。資源として「人」を見つけたい。
・ 過去に受けた研修に感銘を受け、そのエッセンスを、その後の活動に活かされているのが素晴らしいと思った。
・ 同じ公務員の立場から、ご本人の取組を振り返ったお話で理解しやすかった。最後に「生き残る者は変化する者」という言葉が刺激になった。
・ 突破力・行動力が大切だと感じました。
・ 予算を取るために財政課をとばして副市長に直談判した話は印象的でした。たしかに周りから反感を買うとは思いますが、時にはこういった思い切った行動が必要だと感じました。
・ 同じ地方公務員としての事例をご教示いただき参考になった。
・ この人財塾の OB でかつ市役所職員ということで、行政の実情に沿ったお話を伺えたため、非常にためになった。人財塾で過去に学ばれた 3 つ「強弱の関係性・企てる力・直球を投げる」の 3 つの考え方で、上手に人を動かしていくやり方は使えると思いました。

◎活用度２
・ 非常に熱量の高い話だった。よりまちをよくしたいという気持ちを感じとても刺激を受けた。
・ どうにかして小平市を良い町にしたいという思いがとても伝わってきました。自分の考えがしっかりあり、とてもリーダーシップのある方だと思いました。
・ すごく刺激的な内容でおもしろかったです。ただ神山さんのように正面切って向かっていく根性はまだないので、いずれできるように…。

◎活用度１

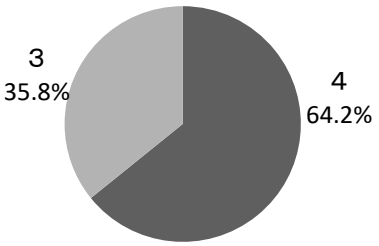
・　都会の都市は人とものがありきで話が進むが、過疎地域は都会より良いものがあろうが人がおらず、また別のアプローチを考えなければならないため参考にはなったが、実践はできない。

【講義４：事例報告】「「ツナガル。」から生まれる図書館の可能性」

千葉県山武市成東図書館　主査　豊山　希巳江　講師

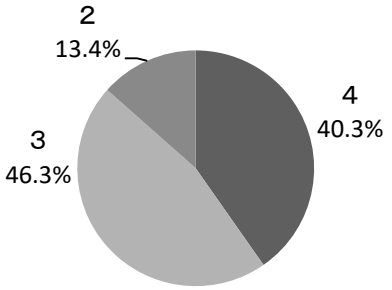
N=67

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	43	64.2%
	3	24	35.8%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	67	100.0%



N=67

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	27	40.3%
	3	31	46.3%
	2	9	13.4%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	67	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 図書館の新たな可能性に気づくきっかけになった。図書館に限らず、様々な施設で応用できる手法と思う。
- 「ツナガル。」の意味がわかる講義でした。庁内の連携で悩むことがあるが、すり寄ってつながれる部分を見つけていきたい。
- 図書館司書という専門職として自分にできることを考えて、行政部局などに突撃していく行動力を見習いたいと思います。
- 専門と役職の越境の必要性を強く思った。
- 業種は異なっていてもアイデアは非常に参考となった。
- どんな職種であっても、相手の立場をしっかりと理解し、日々準備を怠らないことで様々な好機を得ることができると感じた。これからはもっと図書館に行きたいと思った。
- 既成の考え方に捉われず地域と人を結びつける場として公共施設を有効に使う視点を忘れず、企画を提案していきます。
- 図書館の利用可能性について、参考事例をもとに学ぶことができて良かった。
- 図書館の役割はハード面だと思っていましたが、ソフト面としても使うことができると思いました。
- 社会教育施設である図書館で、自由かつ幅広い活動をされていて、視点等を変えることでポテンシャルが広がることを感じた。
- ポジションで、できる、できないは決定しないのだと思った。
- 私自身も施設（博物館）で勤務しているので、とても身近で自分のことのように聞くことがで

き、良かったです。
- 図書館の無限の可能性を知ることができました。熱意に感動しました。
- 具体的な事例を用いながらでわかりやすかった。市民の力を積極的に活用していきたい。
- 図書館は市民の中で一番近い公共施設だと感じました。
- 人や知識が「ツナガル場所をつくる」というのが大切だという意識はあったものの、先生の活動を聞くとまだまだ自分は、工夫とトライが足りていなかったと気づいた。
- 積極的に様々な取組をされておられて勉強になりました。図書館と連携をとっていければと思いました。
- 図書館司書という専門職でありながら、本という枠にとらわれない動きが印象的だった。
- ご本人の意図通り、私の図書館及び司書に対して持つイメージが 180 度変わった。本市の図書館もそうなのか早速確かめたいと思った。神山氏と同様、行動力や意識の高さは本当に見習うべき所が多かった。
- 豊山さんがこの塾を受けて「動こう」と思われたように、自庁職員にこの塾を宣伝して参加してほしいと思いました。
- 公共施設の活用について、新たな可能性を感じました。
- 図書館は多くの可能性を秘めた場所だと感じた。
- 地方公務員のうち専門職域の方々のことが理解できた。
- 豊山さんの企てる力が素晴らしいと感じた。明日からでも取り組めるあいさつや声がけなどをご教示いただいたので早速取り組みたい。
- 図書館を見直す良い機会となりました！ここでもキーワードは「人」であり、失敗を恐れない姿勢が大事だと感じました。

◎活用度３
- 本・図書館には非日常を体験させてくれる力があると思っている。うちのまちでも様々なことに取り組んでいきたいと思った。
- 地方創生に図書館として何ができるか、と向き合っていた姿が特に印象的でした。
- 図書館に対する固定概念にとらわれず様々な人とつながることで可能性が広がると感じた。
- 図書館という枠組みをとって町の一部で動いているように感じた。私としても図書館が好きなのを思い出した。
- 図書館のイメージが変わりました。点と点が「ツナガル。」と色々な可能性が広がると感じました。
- ポテンシャルの高さに脱帽…。人ありきではなく、仕組みとして継続できれば、新しいタイプの拠点となり得る「場としての魅力」に気づくことができました。
- 図書館で様々な活動をしているとのことで、参考になりました。失敗談などもう少し聞けたらと思った。
- 役所の横の連携、連携による施設の有効的な利用の在り方などが参考になった。
- 人とつながることで可能性が広がっていく感じがした。
- 図書館の新たな取組について知ることができた。

- 借出されていない本は意味ない、ないのと同じ、もっと図書館に足をはこんでほしいという熱い思いと行動力で企画されている姿、素晴らしく見習いたいと思いました。
- これまでの図書館のイメージが変わった。こんなにも幅広に取り組めること、それに取り組もうとする姿勢を学べた。
- 図書館の印象が変わった。
- 図書館と行政部門はまさに離れている。これを合体させることで市民のうねりをつくれている。ボランティア、参加者、すごい。行政部門も頑張らないとと思った。
- 人とのつながりを活かし、事業の活性化に取り組んでいる。相手を巻き込む手法は参考になった。
- 図書館・司書のイメージがよりポジティブになりました。豊山さんはキラキラしていました。
- 図書館のポテンシャルを知りました。
- 他部署にスリスリ…これは絶妙な間合いが大切なのではないかと思いました。段取り、下準備、根回し、企画を実行するには、とても大切なことですね！
- 図書館で色々されてる事例を自分の市役所では何ができるか置き換えて考えてみようと思いました。
- 図書館のポテンシャルの高さを思い知らされた。クレームは、職員と同時に、いち市民として考えるという観点には感銘を受けた。
- 他課の課題を図書館で解決する。図書館の枠にとらわれない活動でマチがツナガルのだなと思いました。
- 事例報告を聞き、豊山先生がいかに全国地域づくり人財塾をいかして、図書館の運営に携わっていかれたのかがわかりました。私は、図書館の管理も担当の業務であるので、参考になりました。
- 目からウロコの講義でした。
- 物静かな図書館の印象が大きく変わりました。このような図書館が全国に増えていけば、地域活性化の一助になると思います。

◎活用度２

- 人へのものの依頼の仕方は参考になった。公共施設は地方に行けば行くほど、貧困層。家に居られない者が行く最後の場になりがちなので、彼らの場を奪わないようにしつつ、利用法を模索したい。
- 市の規模からすると図書館数が多いと感じた。また、利用の仕方には考え方 1 つで色々な可能性があると感じた。
- 本来の目的以外にも、色々な可能性が施設には秘められていると感じました。
- 講義の中でもあったようにイメージが大きく変わりました。図書館は地域のコーディネーターにもなり得るんだと気づかされました。
- 既成概念にとらわれず、新しい発想で地域の中に生きる公共施設のあり方について学ぶことができて大変良かったです。
- 当町は図書館がありません、「室」です。交流の場を作るための人脈づくりを参考にしたい。

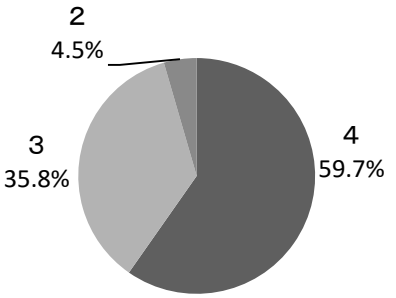
- ふだんはあまり注目されない図書館でも、やり方次第では人を引き付ける様々な取組ができるのだということが認識できた。
- 図書の司書に対するイメージはあまり変わらなかった。理由としては豊山さんのような人間力・行動力のある職員でないと人を巻き込んだ事はできないが、そういった方が多くいるのかが疑問だ。

【講義５：実践事例】「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～」

柳谷自治公民館　館長　豊重　哲郎　講師

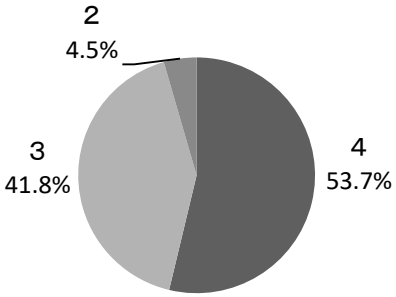
N=67

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	40	59.7%
	3	24	35.8%
	2	3	4.5%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	67	100.0%



N=67

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	36	53.7%
	3	28	41.8%
	2	3	4.5%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	67	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 地域づくりは人海戦術。仲間を増やし、課題解決に取り組みたいと思った。また、行政の質の向上のための環境づくりが重要だと感じた。
- 自分で考えて行動しなければならないと思わせる講義。「義理と人情」は私も重きを置いているので、共感した。
- まさに理想です…。数字を見せていくことが重要だということを改めて認識できたので、今後の業務に自信を持ってあたっていけそうな気持になりました。DVD…泣きました。
- 人海戦術・筋書きのないドラマ・バラエティーショーという要素のわかるとても心が動かされる講義でありさっそく実践していきたい。
- お元気そうでなによりでした。安心いたしました。
- どんなに良いアイデアがあっても財源がなかったら実現できない。地域づくりは企画力、財務力、アドリブ（演出）が必要だと実感しました。
- 熱い気持ちや本気度が伝わった。一度訪れてみたい。
- 行政人として生きていく上で、数字で語れる人間になること、恐れずに勇気を持って進んでいくこと、持続性を持った仕組みを作ることといった基礎となるものを学ばせていただいた。
- 相手を思いやり、粘り強く本気で向き合えば、いつか分かり合えると信じ、逃げずに信念と愛を持って行動しようと決意を新たにしました。
- 地域自立型の良い参考例だと思った。考え方や、モチベーションの維持について、大変参考になった。
- 名前で人を呼ぶ基本ができてなかった。勇気と度胸、頑張ります。

・　自治の取組が素晴らしいと思いました。成功のカギは「人」であると感じました。
・　地域づくりだけでなく、経済や福祉も“サステナブル”なスキームの構築が大切だと感じました。
・　講師の熱量に驚いたのと同時に、住民立の公民館であっても、住民の学習と地域づくりに大きく寄与できることを再確認できた。
・　とても熱い講義に胸が熱くなりました。
・　魂の講義でした！人への接し方、また熱意や想いだけでなく、相手を納得させるために数字にこだわるという視点を教わりました。
・　地域を数字で語るという視点は、これまでの自分の意識になかったので、大きな学びになった。また、地域づくりで重要な意識として、「永遠の文化向上」という言葉が印象的だった。
・　豊重先生の圧倒的なパワーに驚きました。「自分たちでやる」ということが伝わってきました。
・　とても熱い講義ありがとうございました。論理的な内容でありながら、実践されている方なので、言葉の１つ１つに納得感があり、すごく腑に落ちました。
・　まずは私も住民の方々の名前を覚えるところから始めようと思いました。
・　何事もあきらめず、一度始めたら辞めることはせず信念を持って物事に接する事で、地域の未来を守ることができることをお教えいただき、ありがとうございました。
・　豊重さんが努力を重ねてきたのはもちろんわかるが、周囲の人たちも素敵なんだろうなと感じた。
・　説得ではなく、納得させること、自発的な取組へ持っていくことが重要だとわかった。
・　熱い語りに胸打たれました。
・　全てが感動しました。
・　本気の地域づくりを学ばせていただきました。高齢者だけに目が行っていたが、子ども達に目を向けないと人は動かない。GO！EDUCE。
・　目からウロコの講義でした。
・　地域づくりの実践者として取り組まれたこと、その心や想いについて伺えた。同じくらいの地域への熱量を自分が持てているか、考えさせられた。
・　黒子として場をつくり、住民に役割を与えたり、良さを引き出すことが大事だと学んだ。
・　地域づくりは住民を「説得」するのではなく、「納得」してもらって能動的に動いてもらうことが成功のカギだとわかりました。
・　講義を通じて私自身“感動”しました。地域づくりとは、本当にドラマであると共に、ここでも“人”がキーポイントになることを実感しました。
・　“人徳”等人財について、求められている地方公務員像と共通することを確信でき、まい進していきたいと思った。

◎活用度３

・　地域づくりに対する熱い想いが伝わってきました。
・　人のアイデア、才能を引き出す、出番を引き出す力が必要。公務員は地域を数字で語り、現状を知ってもらう役目が大切であると学んだ。

- 感情論かと思いきや全て論理的だった。人はお金にならなければ基本動かないので、上手くお金がまわる仕組みを考えたい。
- 非常に熱のこもった講義で、インパクトが大きかった。自主財源の創出のみならず、医療費の削減にも寄与しているという点は衝撃的だった。
- 4割の乗り気でない人たちを説得するのではなく、納得されるためのスキル・手法等、参考にします。「民ありて己あり」。
- 行政が何とかしてくれると考える町内会が多い中、行政に頼らず地域づくりを進められた点が凄いと思った。手法や、苦労話など、もう少し時間があったら聞きたかった。
- 自治会の成功事例、行政の自治会との関わり方などが参考になった。
- 地域づくりにはリーダーが必要でリーダーにはどんな能力が必要か理解できた。
- 自治会を所管している部署にいるため大変参考になった。自治会に今日講演していただいたことをいかに伝えていくか検討していきたい。
- 人をひきつける人を探し、適切な場に適切な人を配置することを覚えた。
- 熱いお話で涙が出そうでした。ご自身の熱い思いや人を動かす力、賢さ、いたく感動しました。こういう方と一緒にまちづくりしたいと思いました。
- 素晴らしい取組だと思った。EDUCEという言葉が印象に残った。
- 説明いただいた内容は概ね理解できたが、持続可能性を考えた時、豊重講師の人柄によって成立しているように感じた。
- とてもすごい熱量で感動しました。自分にもできたら良いなと思いました。
- 地域づくりには人海戦術、筋書きのないドラマ、バラエティショー（楽しさ）に企画力を投じることだという、経験からわかる1つの答えを熱く語っていただきとても刺激的でした。
- 地域活動に補欠はいないということを知れた。
- 稼ぐという考えが基本になっているところが素晴らしいと感じました。やり遂げる行動力もすごいと思いました。
- 地域づくりは人づくりであり、そのためには一人一人と向き合うことが大切であるということがよくわかった。
- 地域再生で必要なことが学べました。とても苦労があったのだなと感じました。
- “行政に頼らない”という点でとてもロマンを感じる。地域で稼ぐという発想は、全国の自治体をはじめ、地域組織が見習うべきだと思う。とても素晴らしい実績に感銘を受けた。
- 「地域創生は文化向上」「リーダーは一人ひとりのアイデアを出せる思考力を演出」という言葉が印象に残りました。豊重先生のお話は迫力もあり、惹きこまれていきました。
- 地域づくりは、それを主導する人の生き方が反映されるのだと感じた。講師の人と向き合う姿勢がとても真摯で非常に感銘を受けた。
- 説得ではなく納得してもらうという考えに感動しました。どうすれば納得してもらえるのか考えていきたいです。
- 「人海戦術」「義理・人情」を大切にするために、例えば0～7才のギャング世代の頃から地域愛を考える教育は大切な事だとわかり、これは自分の地域にも活用できると思いました。

◎活用度２

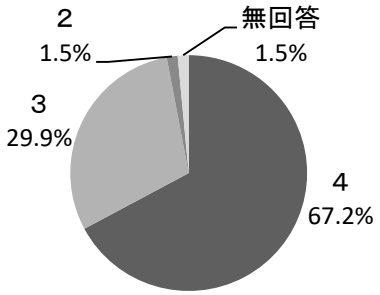
・　誰一人補欠にしないまちづくり、その人に訴えかける姿勢の重要性を改めて再認識できた。
・　熱い想いを感じました。その中に理論や哲学があることが素晴らしいと思いました。
・　「企画力」「財務力」「演出」など、地域づくりのキーワードとなる言葉をたくさんいただけた。名前を覚えるという簡単なところからも地域づくりが始まるんだなと感じた。

【講義６：実践事例】「地域づくりのマネジメント―つながりをつくり創発を生む仕組みづくり―」

慶應義塾大学総合政策学部　教授（学部長補佐）　飯盛　義徳　講師

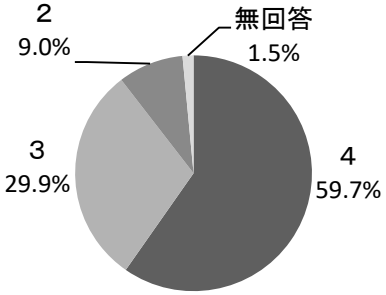
N=67

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	45	67.2%
	3	20	29.9%
	2	1	1.5%
	1	0	0.0%
	無回答	1	1.5%
	合計	67	100.0%



N=67

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	40	59.7%
	3	20	29.9%
	2	6	9.0%
	1	0	0.0%
	無回答	1	1.5%
	合計	67	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 学術的な観点から、地域づくりに必要なフレーム、ファクトなど分析され、わかりやすかったです。
- 強いつながりだけでも新しいことは生まれない。弱いつながりから新しい情報が入ってくることで変化が生じるという言葉が印象的だった。
- 想いがあるから実践するのではなく、実践してみて想いが生まれることの方が多いと思った。
- 強いつながりに頼ってきた地域の人口が減少し、つながっていることすらできなくなってくる将来に向け、住民が主体的に活動できる誘導、見守り、支援が必要だと改めて思いました。
- 資源持ち寄り（ポトラック型）が自然と地域で実際に起き、実践していることがわかり、疑問が解消する内容でとても参考になった。
- 学生と一緒に行うまちづくりに新たな可能性を見出すことができた。
- これからの地域づくりには、土台づくり、場づくりのできる人が必要であり、信頼やネットワークを持つ公務員の存在意義が高いというお話に勇気をいただきました。
- 官学連携と呼ばれて久しいが、上尾市では活発には行われていない。私自身がそもそも知識の集約する場をどう利用するのか、手助けしていただくことしか頭になかった。
- ゴールの共有、大学連携に個人的なつながりが不可欠というお話や、契約書をしっかり結んでやられているのも驚きでした。
- 若者の意識を知れて参考となった。官学連携を進めていきたい。
- まちづくり、地域再生に興味を持つ方が増えていること、自治体はプラットフォーム作りの第一人者となり得ることをチャンスと捉えて今後業務に当たりたい。

- 地域づくりは人だけではなくプラットフォーム（場）作りが大切であること、子どもと老人の関わりを踏まえながらもまずは一歩を踏み出す勇気が大事であることを感じた。
- 大学と連携することで、新たな視点が見え、若い力を巻き込んで活動することの可能性を感じました。
- 「地域の交流の場」について大変勉強になった。まちづくりしていくにあたり活用していきたい。
- 地域づくりにおけるプラットフォームの重要性や、内部でもなく外部でもない境界域という考え方は共感をもてた。
- 地域づくりは経営の視点が必要である、コーディネーターになりたいと思いました。
- 強い関係性と弱い関係性の融合を常に意識することを心掛けます。また、大学連携のあり方もよりよいものとなるよう研究していきます。
- 弱い関係性と強い関係性の融合など、地域づくりの根幹となる考え方を学べた。また、多様なステークホルダーが参画し、その中にビジネスという視点が入ってきても問題ないという考え方は、とても印象的だった。
- 地域づくりの理論的なコツについて聞くことができて参考になりました。
- これからは、一人のリーダーが引っ張っていくのではなく、「土台」づくりをしていくことが大切だと感じました。
- 学術的な観点からの地域づくりの話が聞けて、参考になりました。
- 行政職員にとって、どのようなものを目標としていけば良いかわかりやすかった。
- プラットフォームの土台を支えるのが行政職員！という図や説明が印象に残りました！地域でそういった役割を果たせるよう頑張っていきたいです。
- 強い関係性の中に弱い関係性の人を入れるポイントとして、境界域を作るというのは新しい学びだった。また、住民に主体性を持たせるポトラック方式は非常に参考になった。
- 飯盛先生のプラットフォームの考え方はとてもわかりやすく、伝わってくるものがあると感じました。是非本町でもお話しいただける機会があればと思いました。
- 土台作りの必要性や、弱い関係・強い関係の話など、納得がいくものばかりで早く実践したいと思いました。
- 農家レストランまめやや、わいわい！！コンテナであったように、地域の方がいかに「自分のもの感」をもって取り組めるかが重要であるとわかった。また、地域づくりに興味のある学生が多いというのは嬉しく感じた。
- ロジカルな話が聞けて安心した。さらに、実践に基づいているのがより勉強になった。
- 地域づくり学というか、学術的な視点から地域づくりを説明してもらい、自身の理解度が上昇したのを実感できた。また多くの取組をされており、その事例についても参考になった。“地域づくり”とガシガシせず、好きなことをストレスなく取り組んでいることが地域づくりとなっているようなデータは発見だった。
- 強い関係と弱い関係性を活かすということと、プラットフォーム化することを目指す。
- 学術的な視点には新鮮でした。
- 現在、取り組んでいるプラットフォームづくりの良いヒントになりました。

・　「場を作る」「強いつながりと弱いつながりを混ぜることでイノベーションが生まれる」など、多くのヒントをいただいた。早速仕事や地域づくり活動に取り入れてみたい。
・　地方、そしてまちづくりに興味のある若者が都会にはたくさんいることを知れて、今後どう関係をつくっていくか考えたい。
・　地域おこしに意欲的な高校生・大学生が増えていることは素晴らしいことなので、行政としてその受け皿をつくらないといけないと感じました。
・　場づくりと教育、そしてまずは実践してみることの大切さを痛感しました。様々なところでつながりをつくり、信頼を得ていきたいと思います。

◎活用度３

・　地域づくりには何をするにも立派な土台が必要だと感じた。また、その土台作りをするのが行政の役割だと思った。
・　昨日、神山講師が事前に話されていたことで、よりわかりやすいと感じた。強い関係性と弱い関係性の融合が印象深かった。
・　これまでの「地域づくり」の背景を踏まえ、これからの「地域づくり」をロジカルに、わかりやすく説明していただき、非常に説得力のある講義だった。
・　プラットフォームや境界線のお話など、大変参考になりました。今後、まちづくりの事業にいかしていきたいと思います。
・　高校、大学との連携の有効性がとても参考になった。
・　地域の資源（観光や特産品等）がない場合でも何かを資源にしていく姿勢が大切だと感じた。
・　専門的、学術的な観点からの講座は他になく、とてもためになった。
・　「白井工業団地」にもビジネス校の分校をつくってほしいくらいでした。
・　大学との連携が大切だと更に感じました。実践したいです。
・　プラットフォーム作りは大変重要だと感じました。
・　経営の観点から、地域づくりを学べました。特に事例は参考になりました。
・　高校生、大学生と一緒に地域で活動する機会が近年増えてきており、そういった部分でいくつかヒントになる学びがあった。
・　地域づくりは地域の自発的な活動から生まれるもので、現代のつながりの希薄化によりなかなか物事が進まないため、地域住民に声かけを行い、少しからでも地域づくりに貢献したいと思いました。
・　学究的かつ理論的で、とてもわかりやすい内容だった。
・　目からウロコの講義でした。
・　地元外の者の活動に大学生のカードもあることがわかった。業務目的達成のための手段（引き出し）を増やすことができた。

◎活用度２

・　首都圏と地方の大学で学生の意識にも大きく差があるので、そこをどう解釈するかが課題と感じた。

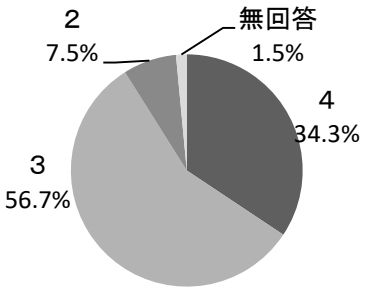
- 地域にあった方法で活動の場をつくるのは難しいと思った。
- 経営学の観点からご教示いただきました。その中で何らかの実践によって地域への思いがわく、という発想もあるのだと気づき、まずはやってみることが大切だと知りました。
- 地域課題を克服するには異種な人々とアイデアを出すことが重要…そんな資源を見つけたい。
- 「資源が無ければ、資源を無理にでも作っていく考えが大事」「境界域の考え」という、中間の立ち位置にいるという考えが参考になりました。

【講義７：実践事例】「地域力の創生と人材力の活性化について」

総務省地域力創造グループ地域自立応援課　人材力活性化・連携交流室長　畑山　栄介

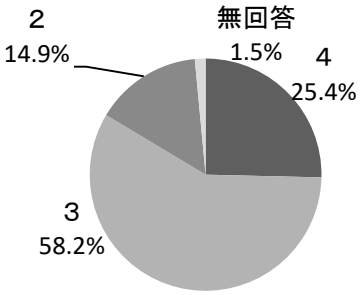
N=67

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	23	34.3%
	3	38	56.7%
	2	5	7.5%
	1	0	0.0%
	無回答	1	1.5%
	合計	67	100.0%



N=67

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	17	25.4%
	3	39	58.2%
	2	10	14.9%
	1	0	0.0%
	無回答	1	1.5%
	合計	67	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 総務省事業について詳しくわかった。すでに活用している事業も多くあるが、改めて見直したいと思った。
- 国の施策や事業等について学ぶことができたので今後の業務の参考にしたいと思った。
- 様々な事例を通して、補助等について教えていただき、自身の自治体で使えるものを知ることができた。
- 国が行っている地域に対する補助を知ることができた。常に国の対地方の施策をチェックし、必要な支援を上手に使っていきたい。
- 地域づくりに活用できる国の施策についてご紹介いただき、ありがとうございました。講師の個人としての思いも伝わりました。自分の自治体での活用を検討していきたいです。
- 補助金制度を自分で探すのはなかなか大変だったので、まとめていただきとてもわかりやすく説明していただきありがたいです。
- 様々な事業について、制度を紹介してもらい勉強になった。
- 政策等改めて見返し、理解をしたうえで、是非当市でも使えるものを探していきたい。
- 様々なメニューがあることを知り、活用したいです。
- 今まで知らなかった補助金等の話が聞けて、とても参考になりました。さっそく適用できるものがないか検討したいです。
- 畑山先生の独自な視点でのコメントが大変おもしろかったです。ローカル 10,000 プロジェクトは知らなかったのでためになりました。
- いろんな事業の紹介があって、魅力的なものもあって、やりたいと思いました。財政係から、こ

ういう情報回ってこないので…。←グチです。すみません。
・ 活用したい交付金や事例がたくさんあって参考になりました。
・ 庁舎内で情報発信されていないなあと実感しました。いくつか使える事業もありそうだ。
・ これまで知らなかった国の事業を知ることができ、今後いかしていきたい。
・ 講義の話を伺いながら様々なイメージを思い浮かべることができました。ローカル 10,000 プロジェクトなども自分の町で活用できるところはないか探ってみたいと思います。

◎活用度３
・ 所管業務等についてよくわかりました。活用できないか検討を進めます。
・ 総務省で行っている事業や政策は、なかなか簡単に行えるものではないけども、関係人口が増えるようにしていきたいと思った。
・ 「ローカル 10,000 プロジェクト」のスキームが非常に画期的であると感じた。地域活性化のため、国も様々な施策を講じているのだということを改めて認識できた。
・ 国では様々な支援策を用意してもらっていることを実感しました。有効に活用できるよう、こちらもアンテナを高くしていこうと思います。
・ 知らなかった事業もあったので、とても勉強になりました。地域の資源を最大限に活用できるツールとして、常に情報収集を心掛けていく必要があると痛感しました。早速検討してみたいものもあったので、職場に戻ったら財政と話をしてみます！！
・ 全国の各自治体が交付金などを活用し、様々な取組をしていることがわかりました。本市で何か活用できないか、参考にしたいと思います。
・ 今後、活用できそうな制度について知ることができた。仕方ないかもしれないが、時間の割には内容が多いと感じた。
・ 総務省の様々な制度を理解することができたと共に、うまく活用できるかは自治体の力に委ねられていることから日々研究をしていきたいと考える。
・ 様々な国の制度を聞けて良かった。
・ 地域活性化に関する多くのメニューを紹介していただいたが、東京の自治体で活用できるものが少ない中で、何ができるか検討したい。
・ 国と地方が連携し、お互いにトライ&エラーをしながら学び合って地域づくりをしていく必要があると思いました。
・ 種々のメニューについて検討（活用）していきたいと思います。
・ いろんなメニューがあることを知ることができ、当市で活用できそうなものは検討していきたい。
・ まちづくりに関係する様々な制度のことがわかった。
・ 総務省が行っている制度がたくさんあるのが知れました。
・ 様々な制度、仕組み、事例の紹介があり参考になった。地域の状況、課題を把握し、活用できるものはしていきたい。
・ シェアリングエコノミー活用推進事業のようにうちの自治体でも十分利用する価値がある事業の存在も知ることができて、有意義な講義だった。

- 知らなかった施策もあり、いくつか活用したいものもあり、帰ってから他の職員にも共有したい。
- ワーキングホリデーや子どもの農山漁村体験など、やってみたいことが見つかりました。
- 自治体は、try&error がある程度、許されるので、どんどん活用して取り組んでいきたいと思う。
- 地域力を力強く後支えしていただく事業各種を知ることができてとても知識が広がった。また、本市にて利用できる新たな事業は無いか考えてみたいと思います。
- 将来を見据えた様々な施策を展開されており、一国民として本当に頼もしいと思う一方で、我々の地域では国の施策に対応できる地域の基礎（人材、組織、取組）の構築が十分でないことを痛感する。今後、オリジナリティを忘れず、地域の基盤整備の一役を担いたいと思った。
- トライアンドエラーで社会課題を解決できるよう制度を利用したい。
- 地域力の創生と人材力の活性化について、色々な角度から学ぶことができたので、勉強になりました。
- 講義 1 をさらに充実・補完した内容となっており、理解が深まった。
- 地域づくりに関わる様々な補助事業や取組を知ることができた。
- 総務省が推進している施策について、派遣元でも活用できるものがあるのに、ここに来るまで施策そのものを知らずに過ごしていました。今知ることができたことをプラスにとらえ、これから何らかの形で活用していきたいです。
- ローカル 10,000 プロジェクトは初めて聞いた施策でしたので勉強になりました。
- 当該事業の主担当ではないものの、業務目的達成のための手段（引き出し）を増やすことができた。

◎活用度２

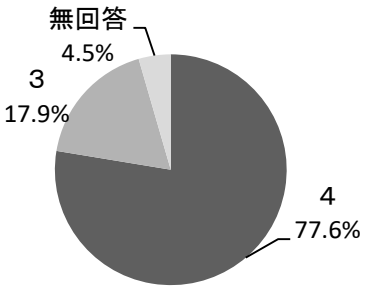
- どのように地域力を創生していくのか理解した。
- 地域活性に向けた各種国の支援について学ぶことができた。本市として活用できる施策の導入について研究していきたい。
- 5 年前に主管課長としてまちひとの計画を立てたことを思いながら聞きました。副大臣にとりあげていただく説明に行ったことも思い出しました。
- 現在の配属での業務で活用できるメニューはないが、庁内で共有するとともに、今後、異動した際には積極的な活用を図っていきたい。
- 総務省で実施している地域づくり事業の概要を知る良い機会となりました。
- 総務省の政策などを学び、理解を深めることができました。
- 説明だった。講義 1 と 7 どちらかでいい。
- ローカル 10,000 プロジェクトの活用事例は資料に入れた方が良い（この事例を元にして地元に帰った時の企画・立案をするため）。

【講義８：実践事例】「人口減少時代における、公民連携都市再生戦略のつくりかた」

株式会社ワークヴィジョンズ　代表取締役　西村　浩　講師

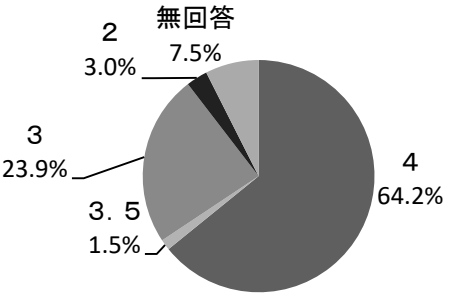
N=67

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	52	77.6%
	3	12	17.9%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	3	4.5%
	合計	67	100.0%



N=67

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	43	64.2%
	3．5	1	1.5%
	3	16	23.9%
	2	2	3.0%
	1	0	0.0%
	無回答	5	7.5%
	合計	67	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 強いメッセージで変化の必要性を考えさせられました。周囲にも伝えたいと思います。
- 目からウロコな話ばかりでした。変化を恐れず、当市でも実践できることから着手していきたい。
- 町がやたらハコモノを建てて運営できなくなる現象と、現存する建物をどんどん市民に渡して、稼ぐことが必要である点が強く印象に残った。
- 盛岡バスセンターの件で、お世話になっているかと思います。また機会があれば、ゆっくりお話を伺えたらと思います。
- 考え方を変えなければいけない時代だということを改めて実感しました。
- とてもおもしろかった。ぜひ当町の中心市街地活性化委員会のメンバーにも聞いてほしい内容でした。行政と民間…寄りかかりすぎない関係がパートナーシップなんだと思いました。
- 今まで、ものに目を向けたことがなかったが、ものとひととの場に目を向け、消費者から当事者という意識をもって業務に取り掛かりたい。
- 地方に共通の課題を解決してきた第一人者の話を聞くことができて参考になった。
- 講師のお話に引き込まれました。公共空間の使い方について、行政は規制や禁止ばかりしてしまうが、市民や民間事業者に開放して、まちづくりの当事者にしていくことが重要だとわかりました。
- 点ではなく面を、今ではなく未来を見据える視点の変換を覚える必要があると感じた。
- 熱い！！かっこいいです。ここにしかない地域の価値をみつけていかないといけないと感じました。ムリのない、というのも自分にはすごく刺さりました。

- 超人口減少時代において時代の変化やニーズをきちんと感じ取り、自分がその変化に応じて臨機応変に対応していかなければならないこと、まず前例がなくてもチャレンジすることの大切さを学んだ。
- 目からウロコ、衝撃的、焦燥感、進むべき方向が見えた安堵感、街の人も含めた、意識改革の後のワクワクする計画作りの期待で、頭がいっぱいです。
- 熱意のある講義で気持ちが熱くなりました。
- 衝撃的な講演でした。あまり語られない部分をえぐりとってくださいました。市長、議員、管理職に聞いてもらいたい。
- どこの部署であっても人口減少社会への対策を行わなくてはいけないことを再認識できた。また、当事者になるという視点はまちづくり以外でも重要と感じた。
- 自治体は作る仕事だと思っていましたが、つなげて生み出す仕事なんだと思いました。
- 公務員にカツ！面白かったです。
- 正に自分のまちの話を聞いているようで大変勉強になりました。
- 圧倒的なパワーをいただきました。私も子育て中なので非常に共感しました。また利益の出る仕組み作り、最後は「金」、その通りだけど難しい問題です。
- 一番有意義な講義でした。これから市町村はどういう方針で動けば良いか学べました。
- 社会の変化についていけない行政をしみじみと実感しました。デザインが人を魅了し、人をひきつけるのだと感じ、トータルでまちづくりをする必要性を学びました。
- 官民の役割分担、補助金のメリット・デメリットが明快にわかりました。大変楽しい講義でした。
- 土地を活用し、もうかる仕組みをつくる、価値をつくるということは本当に心を動かされた。「まずこれをしよう」というものが見えた。
- 西村先生のお話はひきこまれるようでとてもおもしろかったです。特に、公共施設の活用を積極的に民間にゆだねることは今後においても必要であると感じました。
- 自分たちも当事者を増やすまちづくりをして、その地域だからできることを見つけていきたいと思います。
- 前例がないから、やってみるしかないという言葉に背中を押された。「金」ということで、ビジネスモデルを行政もしっかりと立てないといけないと感じた。
- 熱いようで、分析や理論に裏付けられた緻密な内容で、あっという間だった。
- とても耳が痛い話もあったが、フットワークが軽く、わかりやすい説明でとても有意義だった。実際に仕事に取り組まれて、それが地域づくりにつながっている、逆に地域づくりを考えないと仕事にならない、という点が非常に興味がおきた点だった。
- 「楽しいことからやれば良いです」と言われたので、アフター5 に取り組みます！
- “消費者から当事者に”、“地域再生のために循環をつくる”この言葉が印象に残りました。
- 霧島リノベーションまちづくり成功させます！！
- 豊重さん同様の熱意でありがとうございます。やはり人であり財をつくるですね。考えを改めます。
- とても刺激的な講義だった。民間の視点から行政の動くべき、あるべき姿をお話しいただき、励

まされた。
・　行政ではなく、ひとりの町民として行動を起こす。その背中を押された。
・　民間とうまく連携して稼げる公共空間をつくることの重要性がよくわかりました。
・　当事者になるということと、アフターファイブを大事にするということを肝に銘じていきたいと思いました。非常に熱がこもって心にひびきました。

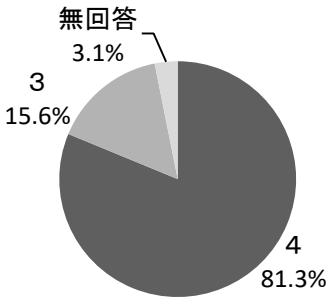
◎活用度３
・　職員の閃きが大切だと感じた。また「金」の重要性を認識した。「人」と「金」のつながりをもっと考えていきたい。
・　まちづくりはエリアで考える、子ども達世代を呼ばないとまちは元気になれないなど“質”と“密度”を濃くしたまちづくりの大切さを学んだ。
・　駐車場や空き地の話を中心にきくことができて、何か事業をやる際には、目的等をしっかりと考えて実施しないといけないと認識しました。
・　とてもわかりやすい講義だった。行政のこれからの在り方、住民の考え方、色々な面を変えていかなければいけないと思った。
・　これまで自分にはなかった角度からまちづくりを考えていた。右脳を使って発想を生み出せたらなと感じた。
・　素晴らしい考えを聞けて良かった。
・　サステナブルな社会の構築のため組織や制度等のあり方を根幹から見直すべきと感じた。右脳を使います！
・　本市も同じような町の状況であるため、とても共感できるものがあり、課題解決へのヒントをいただけてとても参考になった。
・　まちづくりのあり方を根本から考え、改めないといけないことがよくわかった。
・　人口減少した時代の町づくりの価値観が変わりました。
・　非常に耳の痛い話が多くあったが、講師がおっしゃていた通りです。ただ仕事上「稼ぐ」ということをしたことがないので、これから「稼ぐ」という視点を持って業務にあたりたい。
・　民間の力強さに感動しました。公の場に置かれている自分が今後大きく考え方を変える機会になるように思えました。
・　自ら実証実験に携わられているということで、とても説明力があり、引き付けられる内容だった。聞いて良かったと思える話ばかりだった。
・　目からウロコの講義でした。

◎活用度２
・　行政という立場が息苦しく感じられるほど為になった。お話された内容は正におっしゃる通りと感じた。

【講師との直接対話（飯盛講師）】

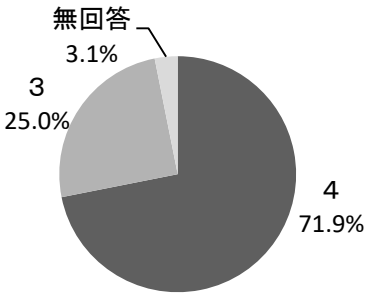
N=32

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	26	81.3%
	3	5	15.6%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	1	3.1%
	合計	32	100.0%



N=32

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	23	71.9%
	3	8	25.0%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	1	3.1%
	合計	32	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 学生を地域の担い手として位置付けることで、郷土愛の醸成につながると思った。地域活動、仕組みにきちんと役割分担をし、その「できること」を存分に発揮できる仕組みをつくりたい。
- 大学や高校との連携は個人的に今後取り組んでいきたいと思っていたので、大変参考になった。
- 大学連携についての疑問を親切にお応えいただいて良かったです。
- 教育機関との連携をする上では地域と大学でゴールを定めることがとても大切であることや、つながりの中での強弱のバランスをうまく取ることの必要性を大いに学ぶことができた。
- より具体的にフォローしていただきありがたく、学びが多かったです。
- 様々な事例から、多くの学びを得ることができた。参考にしたいというエッセンスも多かった。
- 大学と地域の連携など具体的な事例を交えてお話しして下さったので、とても参考になりました。
- 大学の先生ということで講義の内容のわかりやすさや対話の進め方など学生時代のゼミを思い出した。多くの他都市事例も説明していただき、とても参考になった。“地域づくり”に対して理解できない部分もスッキリと理解できるような点もあり、有意義だった。
- 現在の業務に関わる域学連携について、質問に丁寧にお答えいただき、とても参考になった。直接対話でとても良い時間となった。
- 大学と地域との連携事業について事例を多数ご教示いただき勉強になりました。
- 地域と大学がゴールを明確にしないと連携は失敗するという言葉が印象的であった。あいまいになりがちなところは確実に共通理解をもっていきたい。
- 時間がなく、あり余る思いを書ききれないが、このような場に参加し、同じ課題と希望をもつ人達に出会えたことは私にとって大きな財産である。また機会があれば是非参加したい。

・　今後の官民連携の参考となり、活用したい。
・　大学との連携時に最初に共有すべき事、ゴールをどこにするかをはっきりさせる話は全てにおいて当てはまるので、常に念頭において仕事に取り組みます。
・　大学と地域連携が八王子市で十分でない現状について、地域と大学がゴールを共有、主役の明確化の必要性など、大変参考になった。
・　高校や大学との連携をより深めていくためにもアプローチを変えていこうと思います。
・　官学連携について考えていきたいと思います。
・　学生とのつながり方など参考になりました。
・　域学連携も主体となるべきは大学ではなく地域である。地域おこしの手段は様々ですが、どんな手段をとっても主役となるべきは地域だと思いました。

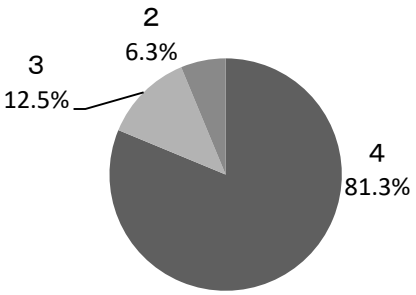
◎活用度３

・　外部から意見を取り入れる大切さを知った。しかし、基本的には行政担当の明確なゴールがなければ、うまく活かすことができないと感じた。
・　実例をもとに課題等々をご教示いただけたり、市町村から大学へのアプローチのヒントをいただくことができた。
・　高校連携により地元地域のまちづくりの継続性を確保することの重要性を感じることができた。
・　大学との連携で想像以上に多くのことができること、その際の問題点・注意点を聞けて良かった。
・　大学生との連携について学べました。今後も学生連携について積極的に行っていきたいです。
・　域学連携について、苦労話など表向きではない話も聞けたのが良かった。
・　行政の役割、域学連携を行うなかで変化があった事例をもとに教えていただいた。

【講師との直接対話（富永講師）】

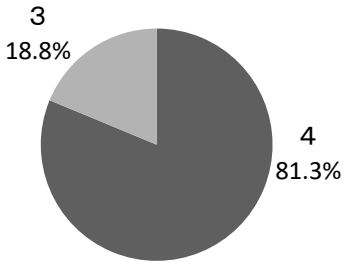
N=16

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	13	81.3%
	3	2	12.5%
	2	1	6.3%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	16	100.0%



N=16

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	13	81.3%
	3	3	18.8%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	16	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

・　自分自身の質問に対して直接答えていただく貴重な機会だった。
・　2 千人相手でも 1 対 1 に持ち込めば、必ず相手に伝わる。「土の人」「風の人」の話、自動車教習所の話、参考になりました。
・　プライベート面で大変参考となりました。
・　指定管理者と行政の役割について事業者側からの意見が聞くことができて参考になりました。
・　一人一人の疑問に対し、答えていただけて良かった。内容も実践に移せそうであった。
・　先輩と後輩、上司と部下というつながりの中で、互いの夢の共有や、やりがいを導き出す方法について教えていただきました。
・　「花畑（市民）」「指（NPO）」「岩（行政）」の例えにより、NPO が中間に入り市民と行政の要望の調整役になるという考えが印象に残りました。
・　研修生からどんな質問がきても適切にアドバイスができる先生の引き出しの多さに感動しました。自分自身の地域活動にも有益な情報をいただくことができ感謝しています。
・　実際に悩んでいるまちづくりの課題について、目からウロコのアイデアとノウハウをいただいたことも、来てあげる、と言ってくれた熱さ、やさしさにも感動です。
・　7 名がじっくり、先生から今のなやみの解決等の糸口をもらった。濃～い時間だった。
・　みんなのためにえこひいきすることは必要というのが印象に残りました。
・　1 人 1 人の悩みに徹底的に真剣に向き合っていただき感動しました。ここで出会えたことがとても幸運でした。
・　皆々もっている課題等について自らの実例、経験をもとに、アドバイスや心構えをいただくことができた。

◎活用度３

・　先日の講義に加え、より深く地域づくりのコツについてご教示いただいた。

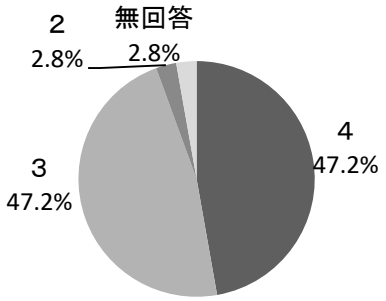
・　人を育てるためのヒントをいただけた気がしました。

・　覚悟を決めて、黒子になる。説得ではなく、納得してもらう。残りの行政人生はこうしていきたい。

【講師との直接対話（豊重講師）】

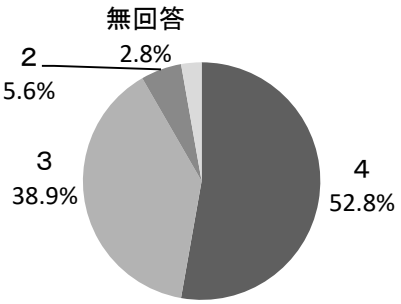
N=36

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	17	47.2%
	3	17	47.2%
	2	1	2.8%
	1	0	0.0%
	無回答	1	2.8%
	合計	36	100.0%



N=36

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	19	52.8%
	3	14	38.9%
	2	2	5.6%
	1	0	0.0%
	無回答	1	2.8%
	合計	36	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 地域づくりへの熱意、本気さが伝わってくる内容で、とても充実した時間を過ごすことができた。EDUCE を実践したい。
- 1 人 1 人の名前をフルネームで覚える。利己的ではなく、利他的に、相手の才能等を引き出す仕掛けをつくることの大切さを学びました。
- 全員の名前を憶えていて衝撃を受けた。
- 本気で人と向き合う覚悟を感じる事ができました。口で夢を語るだけでなく、実践できる人間になります。EDUCE 心掛けます。
- 初めてだったのでもっと語りたかった。
- 人と対話する時に名前を覚えるということ、優しさを持って本気で接することが大切だと感じました。
- AM の授業の勢いそのままでした！全員の名前をすぐに覚える集中力がすごいと思いました。
- 人との接し方、その気にさせるための情熱など、自分に足りない部分を再認識しました。
- 利他的に行動できるか改めて行政の関わり方を見直したい。1 人ではなく全体で！これが今までなかった。
- まずは名前で呼んであげる。当たり前のようなことですが、意識して行ってはいなかったため実行したいと思いました。
- 自主財源で運営するための仕組みづくりについて詳細まで知ることができた。
- 「数字で語る」ことの重要性、先々を読んで、2 の矢、3 の矢を射ること、企画力を磨きたいと思います。
- 先生の熱い想いが伝わってくる対話だった。数字で語ることの強さを学べたと思う。

・　午前中の講義より、さらに踏み込んで「そこが知りたい」という部分も含めて、多くの学びがあった。住民に対して何かお願いをするときも、必ず代替案（「その代わり～」）を常に考えていて「企画力」のすごさを感じた。
・　地元の民に対しては、数字で言って数字で語ることによって、近くの出来事であることを簡潔に知らせることができることが身に沁みてわかりました。
・　講義に続いて熱い想いを伺いましたが、コミュニティビジネスやコミュニティスクールの重要性を再認識しました。
・　「3、3、3、1=10 の方程式」の話や「人材育成ではなく人財育成」の考え方が印象に残りました。あと自主財源の捻出は、考え方次第で、生み出せるという話が印象に残り、実践できたら大きな効果がでそうです。

◎活用度３

・　話やすい雰囲気でしたが人数が多かったです。
・　とても情熱をもって、指導いただいた。自治会の在り方だけでなく、行政職員としてどうあるべきかなど、自治会側の成功事例を参考にたくさんアドバイスをいただけた。
・　不満ばかり述べてしまったが、自分の力を引き出す余力がまだあると感じた。非常に励みになった。
・　人を名前で呼びかけることの大事さ、話を聞いてもらうこと、補欠を作らない重要性を強く感じた。
・　周りの 10 人を大切にすること、10 人に伝われば、100 人→1000 人と広がっていく。そのために、才能をいかに「利他的」に引き出すか、これが重要と感じた。
・　地域づくりは、それを主導する人の生き方が反映されるのだと感じた。講師の人と向き合う姿勢がとても真摯で非常に感銘を受けた。
・　休憩時間がないくらいの熱烈な講義であった。講師の方の話を自分なりに解釈して理解するのに時間がかかってしまうぐらいボリュームがあった。
・　「行政に頼らない」ということは、行政が一切介入しない訳ではなく、黒子、コーディネーターとして活躍する必要性があるのだということを改めて考えさせられた。
・　やねだんの活用内容を具体的にきけて良かったです。パートナーのお話など、豊重さんの行動力の裏側を知れたような気がしました。
・　やねだんの活動についてはある程度見聞きしていたが、豊重氏個人を知ることができ改めてその魅力がわかった。
・　熱い思いが伝わりました。当市の地域でも豊重先生のような熱意のある人を見つけて取り組みたいと思います。

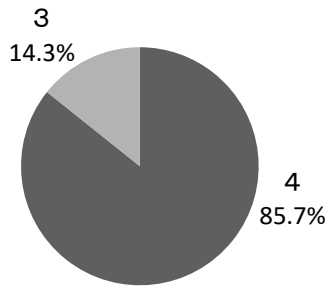
◎活用度２

・　自己紹介が長く、対話できず…。
・　数字で人は動く…にとても共感しました。現況をきちんと伝え、全住民が主役の地域活動が実現できるよう、様々な可能性をつなげて考える力をつけたいと思った。

【講師との直接対話（神山講師）】

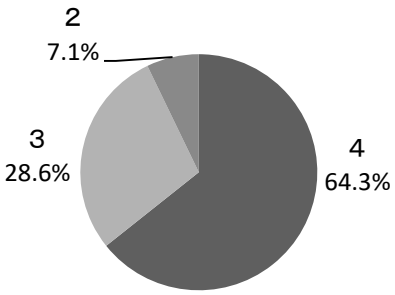
N=14

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	12	85.7%
	3	2	14.3%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	14	100.0%



N=14

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	9	64.3%
	3	4	28.6%
	2	1	7.1%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	14	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 「つながる」とは？の議題に対し社会情勢が急激に変化している中、常識や考え方を実例を使って説明いただいた。
- 神山先生の考え方と一致するところがありとても共感しました。WHO 憲章で健康とは何かについて腑に落ちました。
- 身近に居る人の様に話をしていただき、大変、内容がよくわかりました。今後は、「仕掛けの必要性や身の丈にあった計画」を行うよう心掛けたいと思います。
- 「つながり」について考えを深める時間だった。参加者と先生と対話をしながら導き出せたので、自分のものになった気がする。
- 「つながりとはどんな関係性か、自分たちの目指すものとは」対話の中でディスカッションでき、自分の中でモチベーションがあがったと思う。
- 1 人 1 人の人の関係が能力を足し算以上に発揮されるようになるという、「創発」というつながりの重要性を学べた。また、3 の法則などの各種法則などを学べたことで、自分自身も一歩飛び出す勇気を持つことが大切だと感じた。
- 地域の活性化を考えるにあたって、コミュニティ活動の活性化や住民満足度など、大切なことを見落としていることに気づき、反省しました。
- 同じ市職員のため、視点が近く、講義の内容がとてもわかりやすかった。バイタリティあふれる人物で、話し方なども含めて見習う点がとても多かった。“地域づくり”に対しモヤモヤしていた部分もあったが、スッキリ理解できた点もあり有意義な時間だった。
- 肩の力を抜いて、対話ができるように環境づくりをしていただいたのでとても話をしやすかったです。地域活性化の図が参考になりました。

・　目からウロコの講義でした。

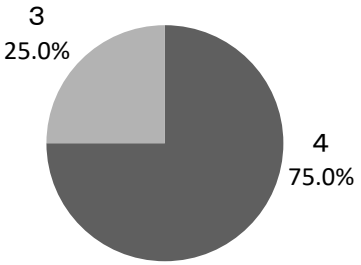
◎活用度２

・　私自身の理解が不足しているため、もっと勉強していきたい。

【講師との直接対話（小澤講師）】

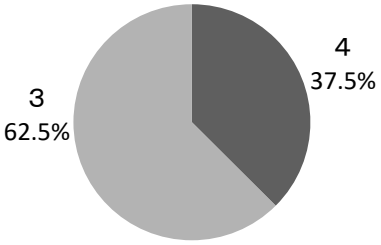
N=8

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	6	75.0%
	3	2	25.0%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	8	100.0%



N=8

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	3	37.5%
	3	5	62.5%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	8	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

・　消防団について学ぶことができてとても良かったです。

・　もともと知識もなかった消防団や、安全安心なまちづくりについて、大変勉強になった。率直な疑問などいろいろぶつけられて良い時間となった。

◎活用度３

・　少人数だったこともありとても濃い時間になりました。消防団が抱えている課題は自分が普段接しているNPOなどにも通じる課題であり、それに対して多くのヒントをもらいました。

・　ふだんあまり意識することのない消防団の実態について知り、深く考えるきっかけとなった。

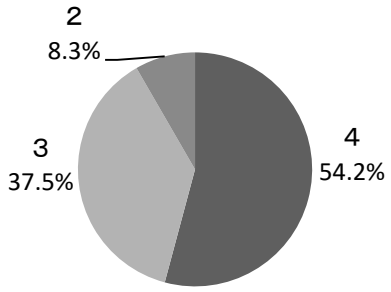
◎活用度２

・　消防団についての知識があまりなかったので、とても参考になりました。

【講師との直接対話（玉沖講師）】

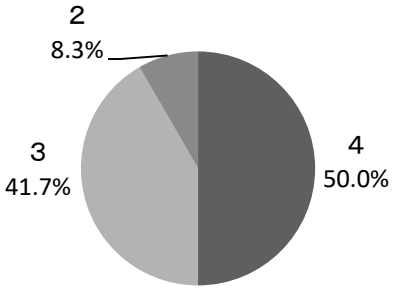
N=24

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	13	162.5%
	3	9	112.5%
	2	2	25.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	24	300.0%



N=24

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	12	150.0%
	3	10	125.0%
	2	2	25.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	24	300.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 優先順位をつけて仕事をすること、自分の中で仕事とプライベートのシェアを考えることが印象的だった。
- 身近な悩みを出し合ってそれぞれディスカッションし、玉沖氏ならではの視点から解決策を示していただき参考になった。
- ワークライフバランスのため優先順位の付け方を、助言を参考にして考えていきます。
- ゴールの共有をしていきたいと思います。
- 仕事の話のみならず、そのバックグラウンドとなるプライベートやワークライフバランスの話までしていただき、すごく嬉しかったです。
- 相談に乗っていただけて助かりました。
- 目からウロコの講義でした。
- 課題解決のためのディスカッションの進め方や考え方、非常にわかりやすく、普段の公務に取り入れたいと思った。
- 現状からゴールをきちんと定めて、どのような軌跡を描けるかが大事で、ゴール（ターゲット）は中心になる実際に働く人が決めるべきという話が心に残った。
- 個別レッスン的だったので、ありがたく、また、他の方の悩みも深くケーススタディできて良かったです。
- 住民が主体性を持ちにくいのは、NEED と WANT が違うのでは？というのは新しい気づきだった。
- コミュニティビジネスで、悩んでいたが、相談させていただき、納得できた。地域の人に「どうなりたいか」というゴールを明確に設けてもらい、それに向けたサポートを市はしていく必要があるとわかった。

◎活用度３

- 受講生の持つ様々な疑問や課題について、的確なアドバイスをしてくださり、感銘を受けた。もう少し長い時間をかけ、深くお話をしたいと感じた。
- プライベートのことについてや、住民が必要としているイベント等をやることの重要性について学べました。
- 仕事とプライベートの両立の話が聞けて良かったです。
- ものごとを進めていく際に、ゴールから逆算して考えていく。この考え方を聞き、今後はこのやり方で進めていこうと思っています。
- 問題・課題・解決策をロジックに、説明いただきとてもわかりやすかった。
- 1 人の質問に対し、丁寧に対応されていて、わかりやすかった。
- 初めてお話を聞きましたが、色々刺激があり良かった。
- 参加者の具体的な課題をきき出し、それに対して具体的な回答があって良かったです。
- 玉沖先生のヒアリングから解決まで導くアプローチは活用してみたいと思いました。

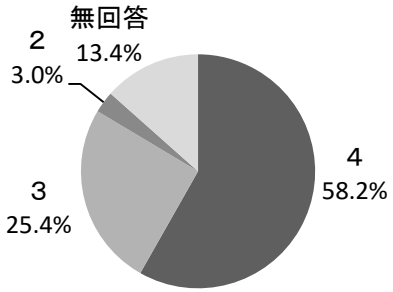
◎活用度２

- 自分の理解が追いつかず、もっと自己研鑽を行っていく必要があると思った。

【成果発表と振り返り】

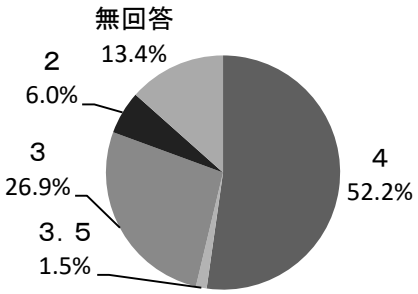
N=67

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	39	58.2%
	3	17	25.4%
	2	2	3.0%
	1	0	0.0%
	無回答	9	13.4%
	合計	67	100.0%



N=67

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	35	52.2%
	3．5	1	1.5%
	3	18	26.9%
	2	4	6.0%
	1	0	0.0%
	無回答	9	13.4%
	合計	67	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 全員、目標を持って素晴らしいと思った。自分も「宣言」の通り行動していきたい。
- 知行合一、自分自身でできるよう心掛けていきたいです。
- 発表することで退路を断てた気がします。ありがとうございます。
- 今回学んだことを活かし小さなことでも行動につなげていきたいと思う。
- 3 日間の講義を総括し、自分なりにかみ砕くことができた。行動宣言に沿って、意識しながら普段の業務に臨みたいと思う。
- 発表者の今後の行動宣言をきいて、自分もやれることからやっていこうという気持ちになりました。
- 様々な人のやりたいことを聞いて刺激を受けた。
- 自分の行動宣言をまとめることで、研修内容を振り返り、次の一歩につなげる自信を持つことができました。発表者 5 人の宣言も参考になりました。
- 皆様の熱量がすごくていい刺激になりました。ありがとうございます。
- どんなことでもまずはやってみることの大事さを強く感じた。今の自分がやれることを実行に移したい。
- 3 日間で受けた研修を振り返って行動宣言としてまとめることは自分の想いを整理する上でとても役に立った。また、様々な発表を聞いてとても有意義な時間となりました。
- 皆さんの熱い想いを共有することができ、仲間作りができ、この講習に参加できたことに感謝しています。
- 自分の意見を言えたと思う。
- 刺激を受けました。

- たくさんのことを学んでも、アウトプットしなければ仕事では意味がないので、そのための第1歩の行動宣言、有言実行目指します。
- 全体を通して、まちづくりに対しての考え方や解決方法などを学ぶことができました。
- それぞれの方が感じたこと、思ったことは自分も同じだと感じた。これからもこの仲間を大切にしていきたい。
- スタートは小さく、ただ一歩を踏み出す。行動が先、オモシロイことをしよう→地域づくりへとつながる。
- 地域に帰ってからまず行うアクションが明確になった。
- 畑山先生がおっしゃったようにとても濃縮した発表でした。一つ一つできることから実行していきます。
- どの講義も、とても魅力的な講師から楽しく、わかりやすく説明をいただき、気づきの多い内容だった。それぞれの講義の内容には、多くの共通点があると思う。
- 改めて4名の先生より激励していただき、振り返りができました。
- もう少し共有できる時間がほしかった。全体の思いが確認できた。
- 自分が明日からでもできることを具体的に考えられた。時間はないが全員話せるとよかったのかとも思った（グループ単位とかでも）。
- 今回の研修で学ばせていただいたことはたくさんありましたので、今後どう行動するか頭の整理をすることができました。
- 一緒に学んだ方々の話を伺って非常に感化されました。最後に先生方からのお言葉も心に刻んで、これからの仕事に活かしていきたいです。
- 職場に戻ってやることが明確になった。

◎活用度３

- すぐ行動すること、想定外のことを想定すること、人間力を養うこと、大切なことに気づかせていただいた。
- 色々な感じ方があるということを改めて認識しました。
- 自分自身もやれることをやろうと思う。最後の最後まで、参考になる、心に響く講師の皆様のお話、参考になりました！！
- やれることを少しずつでも良いから行動していきたい。最後まで濃密な話が聞けて充実した時間だった。
- 今後の活動の支えにしたい。
- 要点をまとめ、しっかり、発表の技術・話術の向上が必要と思った。
- 一緒に研修を受講した方々のお話をきくことができて良かったです。
- きた時よりも意識がだいぶ変わったと思います。
- 宣言したことを、忘れずに行動していきたい。
- 講師の方々の話が聞けて良かったです。
- 最後の講評でも多くの学びがありました。ありがとうございました。
- それぞれの立場で、しっかりと考えられているなと、負けていられないなと思った。

・　反省会として考えられ、自分の考え（学習）の振り返りができて良かった。
・　発表者の行動宣言は現実味と真剣味のある内容で共感できるものだった。講師の講評もとても励みになった。
・　まずは半径 100m 以内の人と、そして等身大の目標から始める事が大事だとわかりました。

◎活用度２

・　行動宣言については、名刺と同じようにコピーして共有ができたら良いと思う。

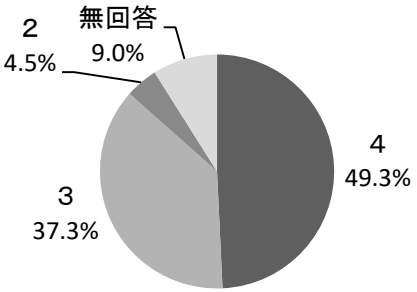
◎活用度　無回答

・　熱い思いを共有することができた。言葉だけでなく、実践していきたいと思った。

【グループトーク】

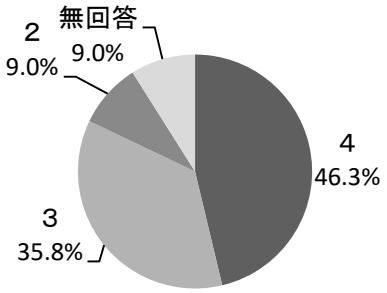
N=67

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	33	49.3%
	3	25	37.3%
	2	3	4.5%
	1	0	0.0%
	無回答	6	9.0%
	合計	67	100.0%



N=67

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	31	46.3%
	3	24	35.8%
	2	6	9.0%
	1	0	0.0%
	無回答	6	9.0%
	合計	67	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

・　様々な人たちの話を聞いて自分では気づかない部分など多くありとても楽しかった。
・　外の参加者の様々な視点から意見を聞くことができた。
・　一度、前で発表させていただきましたが、とても下手で、自分自身にショックを受けた。もっと、コミュニケーションがうまくなれたら良いのにと改めて感じました。
・　もっと時間が欲しいと思いました。
・　他の自治体の方と意見交換や振り返りを行えたことで刺激になり意欲が高まった。
・　みなさん同じような思いをもっていることを共有できて良かったです。とてもモチベーションが向上しました。
・　自分では気づかなかった意見を聞くことができた。
・　グループ内での話し合いを通して、研修内容を再確認できました。他のグループ発表からは新しい気づきが得られました。
・　様々なグループの方々の意見を聞くことで色々な角度から改めて研修を見直して再確認することができて有意義な時間でした。
・　学んだ事を互いに共有する事でより深く理解でき、新たな気づきも得られました。仲間作りにとても役立ちました。
・　多くの人との交流が自分の財産になりました。
・　各地域で様々な問題を抱えており、様々な考えを持っていることを知れて、良い刺激となりました。
・　一日の振り返りや、自分の考えのまとめになった。
・　3 日間違うメンバーとたくさん話ができてとても楽しかったです。

- 自分とはまた違った気づきや、共感する部分を把握でき有意義だった。
- 短時間だったので、もう少し時間があると親密になり、意見も出たのではないでしょうか。
- 参加できなかった講師の話も共有できて 1 日の振り返りもできて良い時間でした。
- 楽しく会話できて心休まりました。
- 聞けなかったコマの内容が聞けて安心した。講師の熱量に感謝したい。
- それぞれの視点で学びや気づきも違い良い共有の時間となった。
- 熱い想いをもつみなさんと情報交換ができて本当に良かった。
- 短い時間の中で話し合い、考えをまとめることでより理解が深まったことが多かったです。
- 多くの人と学んだことを共有できましたので、頭の整理になりましたし、違う視点から考えるいい時間になりました。
- 持ち帰ってどう活用するかといった方向を数多く学ぶことができた。

◎活用度３

- グループトークの時間はもっと長くて良いと思う。振り返りの時間が短く、情報共有をもっとしたかった。
- 普段関わることのない、様々な自治体の方々と交流することができ、非常に有意義な時間を過ごすことができた。
- 規模や想いも違うと、視点が違うということで、とても参考になるトークができました。でも、みなさん楽しくいい人でした。もう少し時間があれば良かったです。
- 同じ講義を受講していても立場によって捉え方が違い、他の方の話を聞くことで視野が広くなった気がした。
- 日替わりで一人ずつあいさつできる良い機会となった。
- 色々な人の意見が聞けて良かった。
- 会話を楽しむ。背景や立ち位置が異なった方々との話は良かった。
- その日に聞いたことをグループの皆さんと共有することで、理解を深めることができました。
- もっと時間があって、一緒に課題解決するなど、できたら良いと思いました。
- 時間とともにコミュニケーションがよくとれるようになりました。
- 他のメンバと一緒に口に出して話し合うことで、頭の中で整理ができ、腹に落とし込むことができました。
- 人それぞれ感じ方は異なるが、課題や目的、問題意識は共通点がないと感じた。
- 多くの人の話が聞けて良かったです。
- 自分とは違う視点を持っていたり、または印象に残ったことが同じだったりと皆さんの考えを共有することで、新たな発見がありました。
- 自分が気づかなかった部分に気づかせてくれたので、グループトークは有意義だった。
- それぞれが感じた感想を聞くことで、十人十色で感じ方が違うことを感じた。
- 都市部や地方など様々な自治体の様々な職種の職員間のグループトークは、多様な意見がありおもしろかった。プログラムの都合上、やむを得ないとは思うが、もう少し時間があっても良かったのではないかと思った。

・　皆が真剣に参加し、活発に議論しており、とても有意義な内容になっていたと思う。
・　それぞれの立場からの話を伺えることは、講義の振り返りとなると共に別の視点から理解を深めることもできました。

◎活用度２

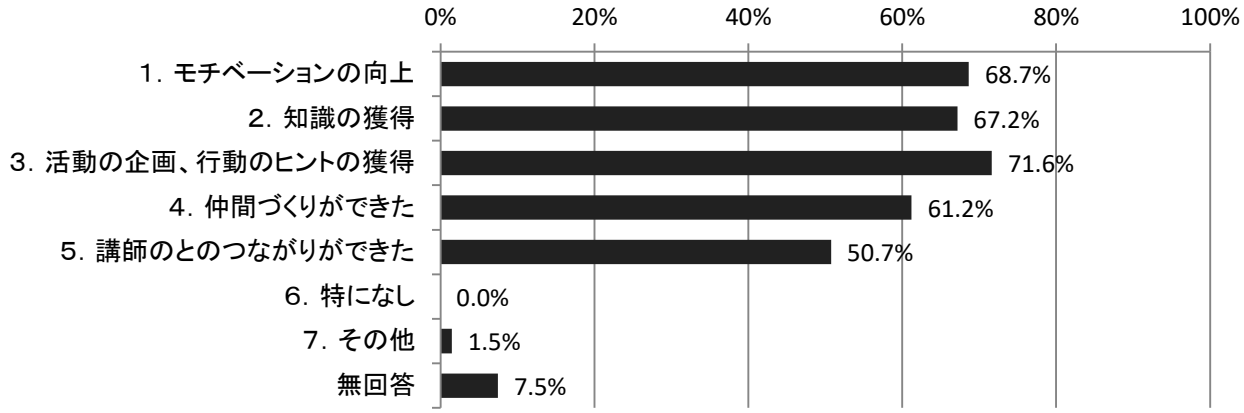
・　毎回人が変わり、時間も短く、深い議論はできませんでした。
・　時間も短く十分な意見交換もできず、物足りなさを感じた。
・　発表は次の日の朝するよりも遅くなってもいいので当日中にした方がいいような気がした。
・　グループトークの時間が押し気味で、しっかり話をする時間が取れなかったのが、少し残念だった。グループトークの中身自体は良かった。

（２）研修全体について

①人財塾の良かった点についてお伺いします。下記の選択肢から該当するもの全てに〇をつけてください（〇はいくつでも）

N=67

	回答数	%
1. モチベーションの向上	46	68.7%
2. 知識の獲得	45	67.2%
3. 活動の企画、行動のヒントの獲得	48	71.6%
4. 仲間づくりができた	41	61.2%
5. 講師のとのつながりができた	34	50.7%
6. 特になし	0	0.0%
7. その他	1	1.5%
無回答	5	7.5%



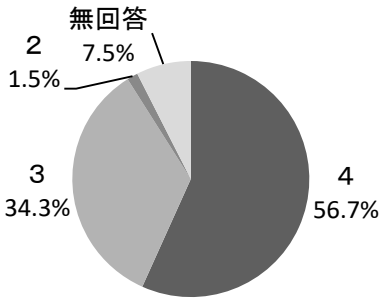
- 大小関係なくどこの自治体も同様の課題があり立ち位置がはっきりしていたのが良かった。
- 様々な自治体の方々と情報共有することができたこともとても有意義な研修だった。
- 全国の市町村だけでなく各団体の方、こんなに多くの方と出逢うことがないので、大変刺激になった。有意義であった。
- 熱い方々のお話を伺うことができ、非常に刺激を受けた。
- この研修に参加することができたことが私にとって、今後の公務員の業務に大きな影響があると実感できる内容であり、すぐに実践していきたいことばかりでした。このような場を提供していただいたことに感謝したい。
- 公務員同士、同じ悩みを持っている仲間として、公務の参考となる話を伺えた事で、たくさんの気づきと解決のための方向性を示していただきモチベーションの up につながりました。職場の仲間にも、受講を勧めます！
- 今後、行政が立ち向かっていかなければならない困難に対して解決のヒントを得られました。
- 時代や社会が変わっても人を動かすことのできる力はやっぱり「人」なのだと改めて実感しました。
- 地域づくりとは何なのか、といった基本的な事を模索していたが、本当に納得できる研修内容で理解度がとても上昇した。モヤモヤが解消したので、今後の業務にとても役に立つ研修だっ

た。
- 参加者がみな真剣に考え、取り組んでいたため、議論も活発であり、大変有意義な内容であったと思う。
- 非常にモチベーションが高まりました！知識はもちろんですが、考え方・企画の仕方なども学べて、さらには、様々な市町村と知り合うことができ充実した3日間でした。

②人財塾を受講したことにより、今後、業務又は業務外で地域づくりに関する活動を新たに又は、継続して行っていきたいと思うようになりましたか？

N=62

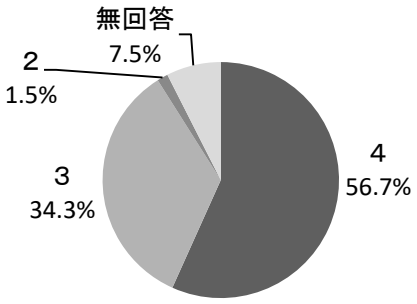
＜活用度＞		回答数	%
↑ 思った 思わない ↓	4	38	56.7%
	3	23	34.3%
	2	1	1.5%
	1	0	0.0%
	無回答	5	7.5%
	合計	67	100.0%



③研修全体の進め方・運営についてどのようにお感じになられましたか？

N=62

＜活用度＞		回答数	%
↑ 良かった 良くなかった ↓	4	38	56.7%
	3	23	34.3%
	2	1	1.5%
	1	0	0.0%
	無回答	5	7.5%
	合計	67	100.0%



④その他研修に関して改善点・お気づきの点をお聞かせください。

［講義形式］
- 夜の懇談会の際、様々な講師と交流がもう少し図れるようにした方が良いと思った（30分で講師は座席を移動するなど)。
- グループワークをメンバー変更せずに行ったほうが良いのではないか。ワークの時間が少ない。講師との対話について事前選択の情報が少なかった。プロジェクタの投影サイズが合っていなくて見づらかった。
- １度は全体で１人１人が自己紹介をする機会があっても良いのかなと感じた。
- グループを毎日変えないで、固定してもらいたかった。仲間づくりがスムーズにいくのではないかと思う。
- 研修生同士の意見交換を期待していたが、参加者が多すぎて誰と話をして良いのか苦労した。グループ分けをするなど深い議論ができたら良かった。
- ワークショップのような事もできると良かったです。

- 課題に対して、具体的に考える機会があっても良いのではと思いました。
- 講師との直接対話で、自分が受けた以外の部屋では、どのような話をされたのか気になりました。全体にフィードバック（話の内容など）されると良かったなと思いました。
- 講師との直接対話では、もう少し別の講師の方の話を伺えれば良かったなと思いましたが、大変満足した時間でした。
- オリエンテーションを 1 番最初にやっていただきたかった。勝手がわからない点が少なからずありました。

[講義時間]

- グループトークの時間をもう少し確保して欲しい。
- 最終日はお昼休みをはさんで、昼からの講義が 1 時間程のみなので、昼休みはなくても良いので、そのまま連続してやっていただき、終了時間が早い方がありがたいです。
- 2 日目がかなり長かったです…。
- グループトークの時間がもう少しあれば良かった。
- 直接対話の時間が足りない（講師は大変ですが…）。2 講師との対話ができなかった。
- 内容が濃密であったので、3 日間ではやや短いと感じた。5 日間のコースでも良かったと思う。
- 2 泊 3 日ではなく、3 泊 4 日にしてもよいのでは？その上で課題演習を入れてもいいのでは？
- ファシリテータのような方がいた方が、各講師や受講者（自己紹介）の時間配分がうまくできて良かったかなと思います。…昼食時間が短めになる事があったので、ゆっくり時間が取れなかったから。

[その他]

- とても勉強になりました。ありがとうございました。
- 今まで受けた研修で一番学べ、仲間ができました。ありがとうございました！
- 本研修の開催にあたり、総務省、地域活性化センター、市町村アカデミーのご担当の方々には色々な準備を含めて有意義な研修生活が送れたことに感謝しております。この研修を地域に戻って活かしていけるように努力したいと思います。
- 講師、受講生の皆さまの熱意、やる気が伝わる充実した 3 日間でした。
- 初めての研修であったので、どの講義も新鮮で大変良かったです。
- 講義から懇親会までお世話いただきありがとうございました。
- 貴重な機会をいただきありがとうございました。
- 内容が濃く、勉強になりました。お腹いっぱいです。色々と吸収できたと思います。今後どのように活かせるか広く考えます。ありがとうございました。
- 直接対話の部屋は寒かった…。
- 服装について迷ってしまったので、もう少し具体的に書いていただきたい。夕食の時間が短く感じた。
- スクリーンを利用する際に、前列をもう少し暗くしても良いと思いました。

（3）今回の研修受講生を対象としたステップアップ研修を行う場合、どのような内容を望みますか？

［実践的な研修］

- 今回の講義を踏まえた実践的なディスカッション。また、本研修受講後、仕事への取組方が変化したかどうかなど交流の場があれば良いと思った。
- 実践できる機会があれば是非取り組みたいです。
- 実際の課題、問題点を取り上げ、みんなで一緒に解決に向かう方法を考えたい。
- 実例を参考とした、更なる取組を実践できる研修があれば良いと思います。実例は 2～3 パターンあると良いのでは？
- 各地域における特色のある問題に対する解決策をみんなで考えたい。
- 実際の課題、問題点を取り上げ、みんなで一緒に解決に向かう方法を考えたい。
- ワークショップ形式で地域づくりの施策立案の演習を行ってみたい。

［実践した取組について発表等する研修］

- 公務員として、住民として、実践できる取組の紹介。
- 研修後に各自が行った活動の報告と指摘をいただく場。
- 各自治体の職員の活躍を語ってもらう。
- 成果発表の場、研修、現場視察。
- 実践した事例の情報交換・共有。
- 研修受講生が今度は講師となり、自身の実践例を発表する場がほしいです。
- 行動宣言の振り返りと活動してできた事、できなかった事の共有が図られたら良い。研修に来れない塾生へのフォロー（メール・HP）をお願いしたい。

［フィールドワークの形式］

- 現地研修。
- 現地視察などの実踏的なことを取り組みたいです。
- フィールドワークを含めた研修、修了生のその後の活動状況を共有など。
- 今回は、研修所内での研修でしたので、フィールドワークなど外に出て活動する取組があっても良いと思いました。

［卒業生との交流等］

- この研修の OB 達を集め、意見交換会や情報交換会が開催できればと思う。
- これまでの人財塾を含めた OB の交流などができればと考えます。
- 身近なところから始められている、過去の卒業生の事例紹介を聞きたいです。
- フォロアップ研修に参加します。人財塾を卒業した先輩とコンタクトを取り、市役所内での仲間作りをしていきたいです。地方創生カレッジも、今後活用させていただきます。

［その他］

- 事例研修や政策形成。

- 地方創生と共生社会に向けた取組について学びたい。
- 誰かの話をきくことが中心だったので、それをアウトプットするようなことに取り組みたいと思います。
- 事前に提出した質問事項を活用し、個別案件に対するアドバイスが受けられる研修プログラムがあっても良いのではないか。
- 今回の各先生のお話を、自分の地域でどうあてはめるか検討し、それぞれの地域でどう応用させるのかについて発表し合いながら、より知識を深められる場を作りたい。
- 資料の見返し、行動宣言を定期的に確認。地方創生カレッジの受講。
- 今回の研修で講師をして下さった方々の別のお話も聞きたいと思いました。
- ステップアップ研修も良いが、各地で色々やっている活動、セミナー等の情報が集約されたHPやメール等の仕組みがあれば良いのではないか？
- 研修で学んだことのモチベーションを回復させる内容。
- 今回の研修内容を早く地元での活動に活かしたいと思う。まずは地元の活動を進めていくことが重要であると考えており、ステップアップ研修は、その後でないとそのニーズなどがわからない。
- フォローアップ研修に是非行きたいですが、遠いです。ネットラーニングをしっかりしようと思います。

■リーフレット

令和元年度

全国地域づくり人財塾

主催：総務省、市町村職員中央研修所

日　　程：令和元年9月18日（水）～20日（金）（2泊3日）
会　　場：市町村職員中央研修所（市町村アカデミー）千葉県千葉市
対　　象：市区町村職員、地域づくりに取り組むNPO関係者及び地方創生カレッジ受講中又は受講済みの方等で、全日程を受講できる者（※申込書の一時場所はできませんので、御注意ください。）
定　　員：80人
宿　　泊：研修所宿泊棟（宿泊型研修）
　　※外出・外泊はできません。
経　　費：5,850円（食事含む。）
申込期限：令和元年7月31日（水）まで
　　※申込期限前に定員に達した場合は、募集を締め切らせていただきます。
申込方法：受講申込書により、FAXでお申し込みください。
　（申込様式はホームページよりダウンロード可：http://www.jammi.go.jp/ ）
　※経費納入方法等につきましては、別途受講決定通知書によりお知らせいたします。
　受講の可否については、開講日の約1か月前までに通知をお送りします。
　研修受講にあたって、事前アンケートに取り組んでいただきます。詳細は受講決定通知書送付時にお知らせします。

開催の御案内

地域活性化は、様々な知識・経験を持った人が、その能力とアイデアを活かしながら地域づくりに取り組み、様々な活動が展開されることが大切です。こうした地域づくり活動を自らの手で企画し、実践できる人材（人財）、すなわち「地域づくり人」を育成するため、本講座を開催いたします。地域づくりに熱い志を持つ皆様の御参加をお待ちしております！

地域づくりに実績がある豪華な講師陣、そして熱い志を持つ全国からの参加者と熱い議論をしてみませんか？

問い合わせ先

【研修内容について】
総務省 地域力創造グループ 人材力活性化・連携交流室
担当：目貫、千葉　TEL 03-5253-5392

【申し込み先】※申し込みは、受講申込書のFAXのみとなります。
市町村職員中央研修所　研修部　担当：高橋、小木
〒261-0025 千葉市美浜区浜田1丁目1番地
（ホームページ）http://www.jammi.go.jp
TEL 043-276-3126　FAX 043-276-8484（FAXによる申込みはこちら）

令和元年 9月18日（水）

11:00- **受付**　　11:30- **昼食**　　12:30- **開講・オリエンテーション**

12:40-12:55【講義1：導入】

「人材力の活性化について」　　総務省地域力創造グループ人材力活性化・連携交流室

「地域力の人材力」向上の必要性とこれまでの総務省の取組、参加者への期待についてお話しいたします。

13:00-14:10【講義2：実践事例】

「人が育つ、人間里山主義」　　一般社団法人スマート代表理事（NPOフュージョン長池創業者）富永 一夫 氏

東京多摩ニュータウンに暮らす普通のサラリーマンだった講師が、47歳で会社を辞めて地域に戻り暮らしを支援するNPO法人を設立。住宅管理支援事業、高度情報化支援事業等々の事業を立ち上げ、八王子市都市公園の指定管理者として地域課題の解決に取り組んでこられました。後継者育成にも専心し、2016年に全ての経営権を30代と20代に移譲。2019年6月に理事も退任し一会員に。
2012年度には、緑の都市賞（国土交通大臣賞）、2016年度には、ふるさとづくり大賞（総務大臣表彰）を受賞。2017年8月には、DVDで教材を開発し、「公園経営学校」を主宰。2019年5月『人間里山主義』を出版したのを契機に「NPO経営学校」も創業。
“都市郊外”の新興住宅地で、既存の住民と新住民との間で地域づくりの活動を実践されてきた講師の御経験をもとに、どのような点に留意して地域活動を展開すべきか、その要諦を講義いただきます。
【参考HP：NPOフュージョン長池（http://www.pompoco.or.jp/）】【地方創生カレッジ（https://chihousousei-college.jp/）講座No.80】

14:25-15:35【講義3：実践事例】　　東京都小平市　小平市文化振興財団事業課長　神山　伸一 氏

15:50-17:00【講義4：実践事例】　　千葉県山武市　成東図書館主査　豊山　希巳江 氏

「全国地域づくり人財塾」の既受講生から、人財塾受講後の現在の地域での取組についての報告を行っていただきます。

17:00-17:30【グループ・トーク】 本日の研修の振り返り

17:30-17:45【説明】「地方創生カレッジ」について

18:15- 【情報・意見交換会】 夕食を兼ねて、共に学ぶ受講者同士の親睦（情報交換・交流）を深めます。

令和元年 9月19日（木）

8:45- 9:25【グループ・トーク】 全体での共有

9:25- 10:35【講義5：実践事例】

「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～」　　柳谷自治公民館　館長　豊重　哲郎 氏

柳谷は、鹿児島県肝属平野に位置し、集落ぐるみで豊かな生き方を目指す小さな「むら」です。土着菌を活用した環境保全型農業や生きた福祉活動が高く評価され、第8回日本計画行政学会「計画賞」の最優秀賞受賞。また、「むらづくり日本一」も受賞、平成30年度ふるさとづくり大賞、内閣総理大臣賞受賞。行政に頼らない住民自治を基本に、自主財源確保活動にオリジナル焼酎開発販売。各地のリーダー養成の故郷創世塾開講等23年間継続中。リーダーは企画力、演出力、財務力の学びを高め地域創生で社会に貢献して欲しいとの熱意を持って、全住民参加型の感動の地域づくりを実践している豊重自治公民館長の御経験をもとに、行政に頼らない自立した地域づくりのポイントと、地域人材の力を引き出し、活動に巻き込むためのポイントを講義いただきます。【参考HP：やねだん（http://www.yanedan.com/）】【地方創生カレッジ（https://chihousousei-college.jp/）講座No.081、No.095】

10:50-12:00【講義6：実践事例】

「地域づくりのマネジメント－つながりをつくり創発を生む仕組みづくり－」

慶應義塾大学総合政策学部　教授（学部長補佐）飯盛　義徳 氏

地域づくりの第一人者である慶應義塾大学飯盛義徳教授は、実際に学生と一緒に各地を訪問して、地域の人々とともに課題解決につながる研究プロジェクトを立ち上げ、理論と実践の相乗効果を目指しておられます。その御経験から、数々の先進的取り組み事例の分析に基づき、プラットフォームの観点から、どのようにすると多様な人たちが集まり相互作用が活発になり新しい主体的な活動が生まれて賑わい創出につながっていくのかなど、これからの地域づくりに役立つ本質について人材力の観点から講義いただきます。
【参考HP：慶應義塾大学飯盛義徳研究室（http://isagai.sfc.keio.ac.jp/）】【地方創生カレッジ（https://chihousousei-college.jp/）講座No.57】

13:00-14:10【講師との直接対話】Ⅰ －前半

受講決定通知後の事前アンケートの希望に沿ってグループに分けられ、講師が受講者からの質問に応える形式で直接対話を行います。**直接対話は、講師の話を聞くだけではなく、他の受講者の意見を聞きながら、「みんなで学び合う場」です。**

講師1　慶應義塾大学総合政策学部　教授（学部長補佐）　飯盛　義徳講師
講師2　一般社団法人スマート　代表理事　富永　一夫講師
講師3　柳谷自治公民館　館長　豊重　哲郎講師
講師4　東京都小平市　小平市文化振興財団事業課長　神山　伸一講師
講師5　赤羽消防団　副団長、消防大学校　客員教授　小澤　浩子講師
近年、防災、応急だけでなく、有事における国民保護、災害学習や地域行事等を通じた地域の未来を担う人材の育成、様々な組織や人との連携等においても、消防団への期待はますます高まっています。
消防団が安全を守ることで、まちが育つ、そして、そのまちとともに消防団や地域を担う人材を育てていくという観点からお話しいただきます。
※参考ＨＰ:【女性消防国際会議資料（http://www.womenforsafety.org/assets/files/Ms_Ozawa_Presentation.pdf）】
講師6　株式会社紡　代表取締役　玉沖　仁美講師
株式会社リクルート地域活性部の配属を機に、日本各地のモノづくり観光事業・人材育成事業等、地域コンサル事業に携わった後独立し、引き続き地域振興に従事されています。
現在は、過疎地の振興について離島に現地法人を設立し、社会実験などを実践されている御経験をもとに、プロジェクトマネジメント、人材育成、自分で自分の能力を磨くにはどうすればよいか、という観点からお話しいただきます。
※参考ＨＰ:【株式会社紡（http://t-tsumugi.co.jp/）】

14:25-15:35【講師との直接対話】Ⅰ －後半

受講決定通知後の事前アンケートの希望に沿ってグループに分けられ、講師が受講者からの質問に応える形式で直接対話を行います。

15:50-17:00【講師との直接対話】Ⅱ －前半

受講決定通知後の事前アンケートの希望に沿ってグループに分けられ、講師が参加者からの質問に応える形式で直接対話を行います。

17:15-18:25【講師との直接対話】Ⅱ －後半

受講決定通知後の事前アンケートの希望に沿ってグループに分けられ、講師が参加者からの質問に応える形式で直接対話を行います。

18:30-19:00【グループ・トーク】　本日の研修の振り返り

令和元年 9月20日（金）

8:45- 9:25【グループ・トーク】　全体での共有

9:25-10:35【実践講義7】　総務省地域力創造グループ人材力活性化・連携交流室長　畑山　栄介

「地域力の創造」と「人材力の活性化」について、総務省の取組を交えながら、お話しいたします。

10:50-12:00【実践講義8】
「人口減少時代における、公民連携都市再生戦略のつくりかた」

建築家／クリエイティブディレクター／株式会社 ワークヴィジョンズ 代表取締役　西村　浩 氏

1967年佐賀県生まれ。東京大学工学部土木工学科卒業、東京大学大学院工学系研究科修士課程修了後、1999年にワークヴィジョンズ一級建築士事務所を設立。土木出身ながら建築の世界で独立し、現在は、都市再生戦略の立案からはじまり、建築・リノベーション・土木分野の企画・設計に加えて、まちづくりのディレクションからコワーキングスペースの運営までを意欲的に実践されています。
2009年に竣工した「岩見沢複合駅舎」は、2009年度グッドデザイン賞大賞ほか、日本建築学会賞（作品）、土木学会デザイン賞、BCS賞、ブルネル賞、アルカシア建築賞、公共建築賞 他多数受賞。2015年には「函館市電函館駅前停留所」でグッドデザイン賞受賞。
様々な、まちづくりに関わられている御経験をもとに、講義いただきます。
【参考ＨＰ:株式会社ワークヴィジョンズ（http://www.workvisions.co.jp/）】

13:00-14:10【成果発表と振り返り】

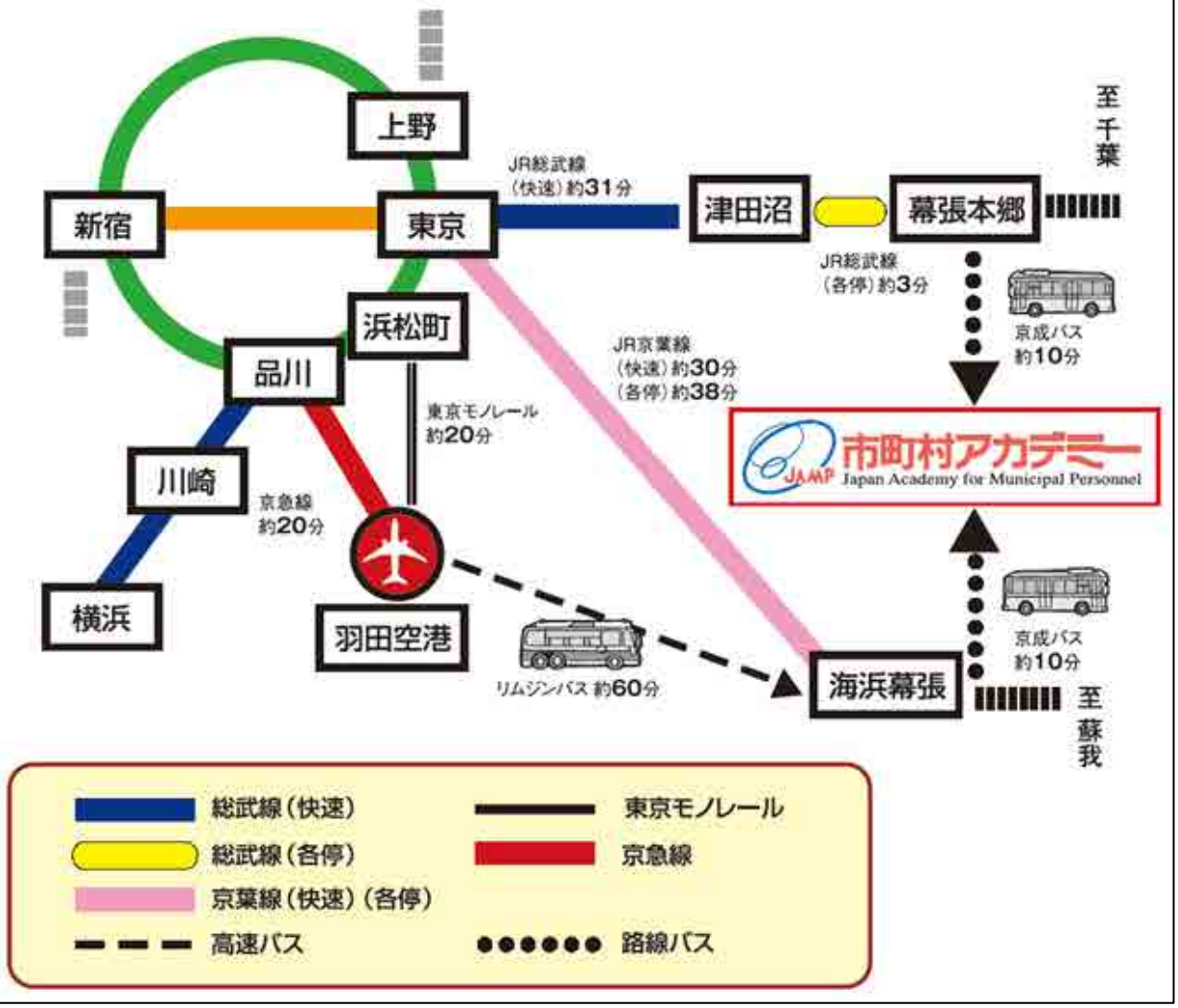
3日間の研修での体験を踏まえて、「自分が現場で取り組むべき具体的な行動」をまとめ、行動宣言を行います。

14:10　**閉講**

※　各講師が講義を行っている一般財団法人地域活性化センター等が提供する「地方創生カレッジ」の講座を受講したり、関係HPを参照してから、当人財塾に臨むことにより、講義への理解がさらに深まることが期待できます。

研修所までの交通のご案内

■市町村アカデミーは、「幕張メッセ」がある千葉市の
幕張新都心の隣接地にあります。
■東京駅や羽田空港からおよそ1時間の位置です。
■JRで来所される方は、「幕張本郷駅(総武線)」または
「海浜幕張駅(京葉線)」が最寄り駅です。
■詳細は次のアクセス表を参照してください。
http://www.jamp.gr.jp/access/index.html/
■研修生の方は、必ず公共交通機関でお越しください。



４．自治大学校編

［令和２年１月17日～22日］

■受講者アンケート

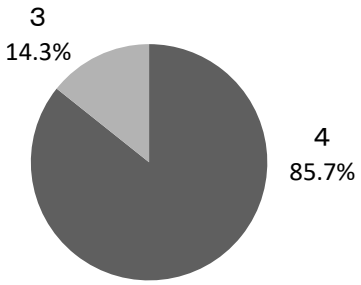
（１）各プログラムに対する評価

【合同講義１】「地域の誇りを活用した稼げるまちづくり」

株式会社地域ブランディング研究所　代表取締役　吉田　博詞　講師

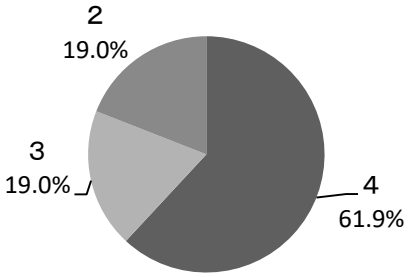
N=21

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	18	85.7%
	3	3	14.3%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	21	100.0%



N=21

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	13	61.9%
	3	4	19.0%
	2	4	19.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	21	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

・　今後の人口減少を考えたときに、インバウンドは必ず、求められるテーマだと思っていましたが、活用の仕方によっては、これほど稼ぐものはないと思いました。

・　「地域の資源の磨きあげ、世界をターゲットにした稼げる事業」と一見自身の地域とは関係ないことのように思っていたが、紹介いただいた実例、モノコト消費、体験型事業のメニュー化が観光分野だけでなく、他業種でもできることや、国内とは異なったマーケット、ニーズの掘り起こしにより消費拡大につながり、ブランディングが可能であるという部分が大変参考になりました。

・　地域の魅力＝ブランド力の意見としてインバウンド対策だけでなく様々な地域づくりに活用できると考える。

・　価値が無いと思ってたことが、視点を変えるだけで価値あるものに生まれ変わるインバウンド対策の重要な考え方がわかった。

・　日本人の価値観にとらわれず、地域の魅力を分析し、世界をターゲットに外貨を獲得すること

は大変参考になりました。
・ 今後のまちづくりを進める上でのインバウンドを意識した外貨獲得の重要性を客観的なデータに基づき知ることができた。
・ 域内市場の拡大のためには外貨獲得が必要であるが、交流人口の増加を目指すことが効果的であるということがよくわかった。その中でもSDGsが必要ということを改めて認識させられた。
・ マーケティングにおいて、日本人と外国人を分けて考え、例えば言語や時間帯、季節等で価格帯を変える等、大変参考になりました。
・ 特に、消費のトレンドが、「モノ」→「コト」→「イギ」へ変わってきているということが新たな発見でした。今後、地域づくりにおいても、インバウンドを意識した「イギ消費」のサービスの視点を取り入れて積極的に外貨を獲得していく必要性があると思いました。
・ 同じ商品を同じ価格で提供しなくてはいけないと思いこんでいないか？移動距離や体験について、グローバルな視点でダイナミックに考える大切さを知った。VFR（海外で働く友人をたずねる旅行）について個人的にもっと知ろうと思った。
・ 外貨獲得の重要性と、その手法について学ぶ事ができた。国内と国外で需要が異なることなど、地元でもさらに検討を重ねる必要があると感じた。
・ 自分が海外旅行に行ったらたくさんお金を落とすということは、訪日外国人にも同じことが言えるというような、今まで気づかなかった視点からのインバウンド論は大変興味深かった。

◎活用度３
・ 地域ブランディングについて“稼げる”という視点から御講義いただきました。ブレずにイメージを定着させることが大切であると感じました。
・ 富山市内においてもインバウンド需要は伸び続けており、外貨の獲得には必要不可欠であると考えております。着地型商品の造成の必要性を改めて認識しました。

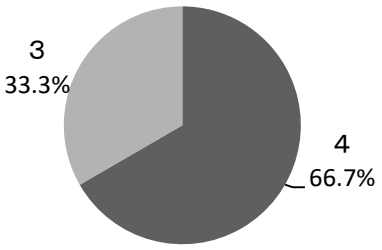
◎活用度２
・ これからは、行政も稼ぐ時代ですから、その一例としての外貨獲得の話を伺えたのはよかったです。できたら2コマがよかったようにも感じました。
・ 海外からの旅行者、それも比較的裕福な人をターゲットにするという戦略の重要性は理解できたが、一方で、その観光資源が日本人にとって逆に疎遠なものになる可能性もあるのではないかと思った。
・ 訪日外国人の消費傾向や、情報を得るチャンネルを使うことで、元々あった観光資源の価値を高めることができるということが新鮮でした。
・ 4年前に同様のテーマの研修をJIAMで3日間受講したので、概念部分だけで少し淋しかったですが、あらためてインバウンド観光の重要性や旅行商品開発、PR手法等について、大変勉強になりました。

【合同講義２】「地域おこし協力隊を活用した地域の活性化について」

特定非営利活動法人山村エンタープライズ　代表　藤井　裕也　講師

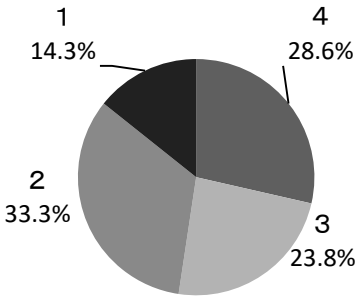
N=21

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	14	66.7%
	3	7	33.3%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	21	100.0%



N=21

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	6	28.6%
	3	5	23.8%
	2	7	33.3%
	1	3	14.3%
	無回答	0	0.0%
	合計	21	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

・　みどり市では現在隊員 10 名が着任し、令和 8 年までに 20 名の隊員を募集、定住につなげていきたいと計画している。着任から任期後の仕事の方向性について、事前にどれだけの準備をし、最終的にどのようにしようとするかの「制度設計」が重要であるという事を、実際に協力隊として活動した実績と失敗した実例なども踏まえて紹介していただき、大変参考になりました。

・　地域おこし協力隊の成功事例と失敗事例の両方を知ることで、今後の制度活用のヒントと行政の役割を知ることができた。

・　本市では地域おこし協力隊の制度を導入しておりませんが、地域おこし隊としては地域に主体・仕組みを作り、また、地域のスピード感に合わせた取組が必要との内容が大変参考になりました。

・　次年度新たに桜島に地域おこし協力隊を導入するために、現在その予算化や地域へのヒアリングを進めているところで、大変参考になりました。

・　地域おこし協力隊の役割や活動内容を実例をもってお話いただき、大変分かりやすかったです。また、地域と行政間の課題のミスマッチにより、隊員が苦しむことを知り、活用の際には気をつけなければならないと感じました。

・　非常にたくさんの事例を紹介いただいた中で、「協力隊の活動にトレンドがある」という話が大変興味深かった。三者による事前の打ち合わせを密にし、ミスマッチがないように気を付けたい。

◎活用度３

・　当市では過疎地域がないため、活用することはできませんが、これほど自由度の高いコンテンツとは思いませんでした。地域とのすり合わせも十分にしなければならないのは、今度、どの政策でも必要になってくると思いました。
・　地域おこし協力隊について、具体的に御自身の経験をまじえて御講義いただきました。地域との信頼関係を築くことの大切さを学びました。
・　地域おこし協力隊について、人数が年々増えており、大成功しているといったあいまいな印象しかなかったが、先生から成功例だけでなく、失敗例も聞くことによって、すりあわせ、意思を聞く場がいかに大切かわかった。
・　総務省が大きく関わっている協力隊について、経験者の話が聞けたのは大きかった。

◎活用度２

・　協力隊がうまく機能しなかったケースも隠さず紹介頂いたことで、決められた期間内で結果を出すことの難しさや、受け入れる自治体側にも相応の覚悟が求められるというメッセージがより明確に伝わってきた。
・　協力隊の活用を考えていないので活用は難しいが概念として理解した。
・　地域おこし協力隊に何を望んでいるのか、自治体のニーズをしっかり伝えることで、ミスマッチがなくなり活性化に繋がる。
・　私の居住地域の地域おこし協力隊員は、皆さん純朴な方ばかりで、3/4 程度はその後も定住されております。成功事例は素晴らしいですが、過度に地域おこし協力隊員に期待し成功を求めることは、酷であると思います。
・　地域おこし協力隊という制度をはじめてしりました。参考になりました。
・　曖昧になりがちな協力隊制度の位置づけや事業評価の視点を分類して整理されていたことは、今後必要に応じて検討する際には、重要な手がかりになると感じた。自分の知る協力隊員を講師が知っているのか、知っているならどう評価しているのか聞いてみたかった。

◎活用度１

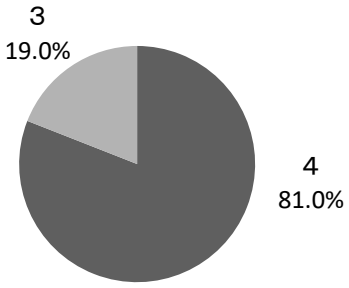
・　協力隊の基礎的知識や仕組み、成功事例から失敗例まで伺えたので参考になりました。
・　地域おこし協力隊を上手く活用し、地域と本人が相互に利益を享受できるモデルがよくわかりました。

【合同講義３】「地域づくりのマネジメント―つながりをつくり創発を生む仕組みづくり―」

慶應義塾大学総合政策学部　教授　飯盛　義徳　講師

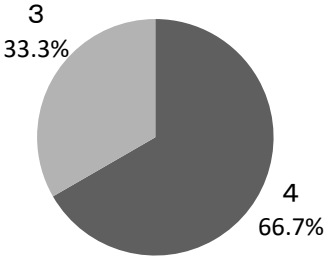
N=21

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	17	81.0%
	3	4	19.0%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	21	100.0%



N=21

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	14	66.7%
	3	7	33.3%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	21	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 空間の境界、資源のもちより、プラットフォーム設計。教えていただいた視点がすべて新鮮でした。とくに空間の境界については業務でも意識していきたいと思います。
- 実例をもとに、「地域づくりにおいては「プラットフォーム」＝多様な主体の協働を促進するコミュニケーション基盤、道具、仕組み、空間」の効果的な設計が地域の課題の解決につながること、色々な人が相乗りし参加することができる土台づくりとその担い手の確保、育成のための場づくり＋教育機関との連携などが重要であるとともに、その下支えに行政の信頼とネットワークが必要という点が印象に残りました。
- 地域づくりについて“プラットフォーム”という言葉から御講義いただきました。多様な主体の協働には紹介させるための基盤が必要であると思いました。
- 人のつながり、土台づくりについて強く共感できた。
- 誰もが参加できるプラットフォームを作ることが、地域の再生には必要である。参加しやすい環境を整えること。
- 地域づくりのために必要不可欠なプラットフォームづくりには、参加者が主体となる（消費者にならない）仕組みづくりが必要で、行政はそれを支えることが必要であると知ることができた。
- 地域づくりという曖昧な言葉を、プラットフォーム設計と言い換えることで、何をすべきなのか明確になっていた。その中での教育機関の重要性も改めて認識させられた。ただ一つ、指針にある「規範をつくる」ことの説明が不足していて残念だった。

・　今後の地域づくりのキーワードは「効果的なプラットフォーム設計」であり、それぞれの主体が資源を持ち寄ること（ポトラック型）が重要と内容が大変参考になりました。
・　東京の大学生が地方の地域づくりに興味関心を持って積極的に取り組んでいる事例に驚きました。遠慮せずに大学との連携を進めていきたいです。
・　「地域づくりは、住民がやるものであり、行政はそのプラットフォームを作る・支える」ということに共感を憶えるとともに、地域住民の主体性を育むための「ポトラック」という手法は、今後の地域づくりにおいてぜひ活用してみたいと思いました。
・　他の多くの先生方がお話されていたことだが「まずは小さいことからやってみる」を数多く実践し成功されている方だなと思った。話の中でも市民がお客様視点ではなくなるような、主体性をもたせるしくみ（ポトラック）については、活用できることが多いと思った。
・　学生時代、官学の連携に参加したことが市職員を目指すきっかけになったが、飯盛先生の講義から、改めて学生の必要性を学んだ。今度は自分が上手く学生の力を引き出す存在になりたい。
・　地域づくりに興味を持つ若者、学生が増えているということを、新採職員としてこの研修で学んで感じたことを忘れないことが重要だと思った。

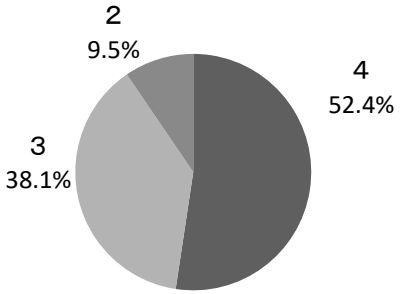
◎活用度３

・　様々な施策でプラットフォームの文言が使われていますが、地域づくりにおいても土台づくり（設計）が大事なんだということがわかり、大変参考となりました。
・　「まずやってみる」というのは、自治体があまり得意でない手法の一つだが、その先にもたらされる（かもしれない）成果のイメージを共有し、何かしらの行動を起こすことの重要性を感じた。
・　佐賀市での取組事例については、学ぶべき点が多くあり、大変参考になりました。
・　目ざす姿は自発的な活動が広がることや、社会の役に立ちたいという意志を持った人を受け入れる空間づくりのポイントのようなものがよくわかる講義でした。

【合同講義４】「人が育つ、人間里山主義」　一般社団法人スマート　代表理事　富永　一夫　講師

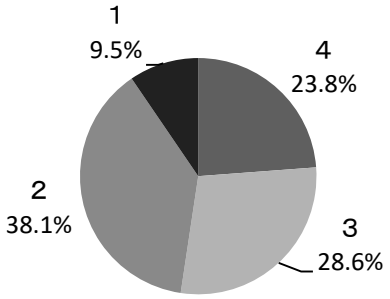
N=21

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	11	52.4%
	3	8	38.1%
	2	2	9.5%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	21	100.0%



N=21

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	5	23.8%
	3	6	28.6%
	2	8	38.1%
	1	2	9.5%
	無回答	0	0.0%
	合計	21	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

・　「持続可能性」の重要性。マネジメントの大切さを学んだ。行政、第 3 セクターの役割と効果の最大化について勉強になりました。

・　行政は地盤、運営者が表土であり、その表土の上で、様々な主体が花畑を形成することが重要で、行政としては、その多様性を認め、協働することが重要であると知ることができた。

・　地域資源融合型公園経営として、財産所有者の行政が「岩盤」とした場合、指定管理者が「表土」の役割を果たすことによって、上手く回っていくということが大変分かり易い説明でした。

・　「行政に頼ることを考えなかった」という強い当事者意識こそが、富永先生の公園運営における成功の秘訣だと感じました。「地域住民がやりたいことをやり、フュージョンはそれを応援する」という言葉は、行政においてもお手本とするべき姿勢だと思いました。

・　地域に果たす NPO の役割、組織の運営について整理することができた。人や情報（ノウハウ）が蓄積する民間組織を大いに活用できるよう、今後考えていきたい。

◎活用度３

・　行政を岩盤とみたて、表土を管理者とみたて、その上に各利用者がいる。非常にわかりやすい例えでした。現場の視点ということについて大変参考になりました。

・　地域活性化の草の根創業期から、経営の「人、モノ、金、情報」の 4 資源のマネジメント（経営学）、協働や必要な人材、基盤整備など、公園経営に至る活動とその土台を後継していく設計図的な考え方が参考になりました。

・　長池公園の管理という具体例から経営の視点から御講義いただきました。地域に根づき地道に

活動することが大切であると思いました。
・ 東京に来てから、あまり身近な公園について考えたことや訪れたことはなかったが、公園にも経営学的な人、物、金、情報が大切だとお話しされており、公務員でもビジネス的観点が必要ではないかと改めて考える機会になった。
・ 「人間里山主義」という言葉は何度も耳にしたことがあったが、ご本人のお話が聞けてよかった。

◎活用度２
・ 昨年度まで、都市公園の管理（行政として）携わっていたため、住民等を巻き込んだ実例が伺えたので参考になりました。もっと早くに出会っておきたかったです。
・ NPO 法人の活動を軌道に乗せるために、明確な目的をもって様々な仕掛けを行っていたことに感心した。
・ 指定管理の立場からの地域づくりについて、新たな発想として理解した。
・ 公園の指定管理者として、行政に求める立ち位置や地域の企業との関わりがわかった。後継についてもどうやってバトンの受け渡しをしていくかなど、参考になりました。
・ 行政を岩盤と位置づけ柔らかくない方がいいという視点等、他の講師とは一線を画すところもあり、この講師をこの研修で設定しているところが興味深かった。個人的には、NPO を立ち上げるまでの話をもう少し詳しく聞きたかった。

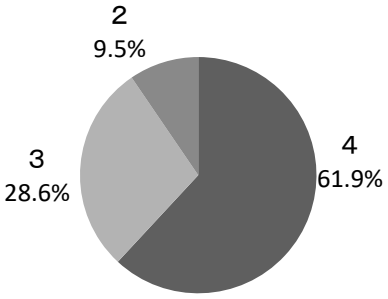
◎活用度１
・ 都市における自立した運営の事例であると思いますが、指定管理事業者でありマネタイズに成功した事例とは言いがたいのではないかと思いました。地域ではあまり参考にならないのかなと感じました。
・ 一般的な NPO、一般的な指定管理者との違いがあまりわかりませんでした。八王子市の意見も聞いてみたいです。

【合同講義５】「クリエイティブな地域づくり～課題解決思考から価値創造思考へ～」

一般財団法人地域活性化センター　人材育成プロデューサー　前神　有里　講師

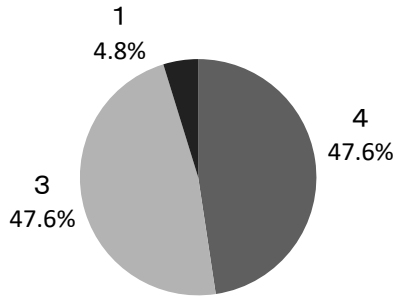
N=21

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	13	61.9%
	3	6	28.6%
	2	2	9.5%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	21	100.0%



N=21

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	10	47.6%
	3	10	47.6%
	2	0	0.0%
	1	1	4.8%
	無回答	0	0.0%
	合計	21	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 地域づくり＝つながり、ネットワーク、巻き込む横展開といったキーワードが多様されるが、その言葉の概念を問い直すことの必要性（巻き込む＝自発的ではない）（縦割りから模索、横断的な結びつきは様々な価値感）（多様性）や、プラスの新たな価値の創造といった考え方、課題解決型から価値創造型思考の地域づくりといった考え方が印象に残りました。
- 自治体職員の経験から価値創造の地域づくりについて御講義いただきました。日本全国の事例について学ぶことができました。
- 小さいことから始めてみることの大切さを学びました。資源はたくさんありどう活用するかが鍵だと思った。
- 講習時間が短く核心部までお聞きできなかったため理解度 2 としましたが、直接対話で続きをお聞き出来ました。横展開の考え方は活用出来そうです。
- 国全体の流れを教えていただくとともに、まちづくりは小さな社会実験から始めて、多様な主体を認め活躍できる場づくり「ゆるふわ」が重要であると知ることができた。
- 第 2 期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」でも「関係人口」に力を入れる方向性が出されており、地域づくりの広がり方を「ゆるふわ」のように横との連携を模索していくことが重要であると認識しました。
- これまで、普通の業務では、課題が何かという視点からつい物事を考えていたので、「私を活かして地域を活かす」という価値創造型の視点は新たな発見でした。
- 「人口が減少し町に住む人がいない！どうする！？」ではなく、「では第一に空き家を貸し家に

するためには何をすべきか？」というかみくだいて解決可能そうな課題から話すという考えは、私自身も問題を大きくとらえすぎてしまうので参考にしたい。

・ 前神先生の話を聞いて、後ろ向きに前に進むのは難しいということを改めて学んだ。地元地域においても、価値創造思考による地域づくりを心がけたい。

・ 先入観にとらわれず、思い込みに目を曇らせないよう、常に新しいことを吸収し続けながら業務に励みたいと感じた。

◎活用度３

・ 見方を変えてみたり、異質同士の連携など、これまで既成概念で考えないこと、小さなことからまずはやってみることは、まず自身の考え方、モチベーションを変える必要があることを学びました。

・ 講義時間に対してボリュームがありすぎたためか早口で少しわかりにくかった感じがしました。もう少しじっくりとお話を伺いたかったです。

・ 事例紹介と国の制度に関する話がバランスよく入っており、聞きやすかった。多数の事例を軽く紹介するよりも、本講義のように、数を絞って詳しく説明する方がよいと思った。

・ 内容は魅力的だったが、時間が足らなかった。

・ 地域づくりを考える時に、この地域でどのように生きていきたいのかという言葉が印象的でした。

・ 第 2 期の国の総合戦略は未確認であったため、第 1 期の目標から修正がなされていることを知ることができたのは良かった。また、これまでの講師が話してきた、担い手やつながり、ネットワーク等の既成概念を疑わせるというこれまでの講義内容をひっくり返してくる講師選定も面白いと思った。

◎活用度１

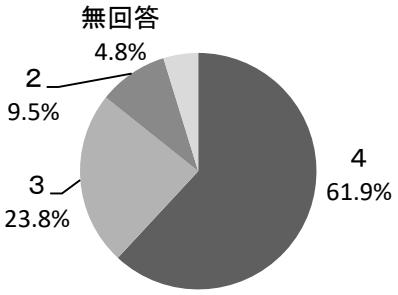
・ 行政は何に取り組むべきか、自分にはあまり見えてきませんでした。

【合同講義６】「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～」

柳谷自治公民館　館長　豊重　哲郎　講師

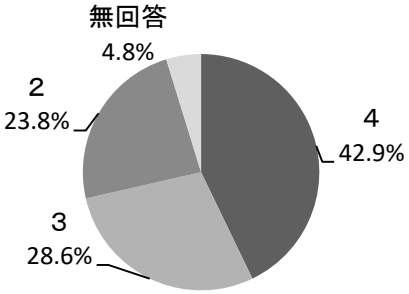
N=21

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	13	61.9%
	3	5	23.8%
	2	2	9.5%
	1	0	0.0%
	無回答	1	4.8%
	合計	21	100.0%



N=21

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	9	42.9%
	3	6	28.6%
	2	5	23.8%
	1	0	0.0%
	無回答	1	4.8%
	合計	21	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 地域の自主運営、斬新でした。行政としての参考というよりは、むしろ自身が住んでいる地域で、自治会で活用していきたいと思いました。
- 地域（やねだん）の再生について御自身の経験を厚く御講義いただきました。地域の自治会活動に有効な手法を学ぶことができました。
- 住民をいかにまとめあげるか、地域づくりの 3 要素、EDUCE 力が必要と感じた。
- 地域づくりのリーダーに必要なことは、企画力、演出力、財務力であり、地域住民（得に反目層）を味方に付けて、人海戦術、筋書きのないドラマを演出していくことが重要であると知ることができた。
- 行政に頼らない感動の地域づくりとして、企画力・演出力・財務力の 3 点と、またリーダーとしての心構えが大変参考になりました。
- EDUCE という理念のもと、地域住民ひとりひとりの個性を引き出す豊重先生の地域づくりは、加えて「金」という視点を取り入れ、自主財源を生み出す仕組みを実際に作り出し、地域に還元しているところが、特筆すべきところだと思いました。
- 反目者を味方につけた方法や、地域づくりは筋書きのないドラマであるというお話から、豊重先生の熱意を大いに感じることができた。昨今、子供対象、高齢者対象のように対象を分けた取組が多いが、2 者を組み合わせないといつも同じ人で終わる、というお話が特に共感した。（やねだんおいしかったです。）
- 3・3・3・1 の方程式、「感動の地域づくり」の話に得心ができた。地域づくり活動の参加者が固

定化することに悩んでいたので、是非参考にしたい。
・ どのようにして一地域が行政に頼らず成功できたのか、という疑問に気配りや心配りが重要だという答えは印象的だった。

◎活用度３

・ 一町内会の活動「行政に頼らない地域づくり」として紹介をしていただきましたが、国の行政に頼らないばかりか、地元産品の商品開発、6 次産業化の取組、収益事業として成功させ地域に還元させるまでの企画力、組織づくりは行政が参考とさせていただくようなすばらしい活動であると感じました。
・ 前神講師と同様に時間がたらなかった。
・ 講習時間が短く核心部までお聞きできなかったため理解度は 2 としました。講師との直接対話で続きを少しお聞きし、後半部に興味深い話が多かったため、残念です。
・ 地域づくりを財源確保から行うのは、公金にしばられない、住民の求めるものを得られ、共同心を養うのにも良いと思いました。
・ 町内会を超越した、企業のようで自治体のような、まさに住民自治の手本でした。1,000 人を超える塾生がいるにも関わらず、第二のやねだんが生まれないのは、やはり真似できないからでしょうか。

◎活用度２

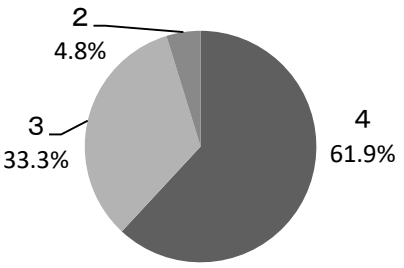
・ このように自走できていることに驚きました。講師のようなリーダー（人材）が、やねだん成功の全てですね。
・ 地域再生に必要な財源の確保及びその使い方、また、地域内の全ての人に同じ方向を向いてもらうための工夫は、大いに参考になった。
・ 地域のみでたいへん素晴らしい活動を行っていることがわかり勉強になりました。
・ やねだんについては同じ九州ということもあり、ある程度認識があったが、今回直接話を聞いてみて、行政に頼らないという視点等大体想像していたとおりだった。

【合同講義７】「地域力の創生と人材力の活性化について」

総務省大臣官房　地域力創造審議官　境　勉　講師

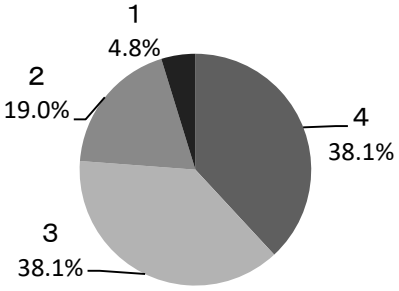
N=21

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	13	61.9%
	3	7	33.3%
	2	1	4.8%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	21	100.0%



N=21

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	8	38.1%
	3	8	38.1%
	2	4	19.0%
	1	1	4.8%
	無回答	0	0.0%
	合計	21	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 本講義の内容については、日頃から業務の中で通知等で目にする施策であったが、今回の地域づくりセミナー、地域づくり人財塾の様々な講義で紹介のあった実例と合わせて確認することで、より自分の自治体で取り組む地域づくり活動などへのイメージがしやすくなったと感じました。
- 地域力創造と人材力の活性化について施策の全体が見えました。
- 総務省が今後行う施策や考え方について勉強になりました。
- 国の人口減少に関する捉え方、地域づくりに関する課題認識、それを支える支援策について知ることができた。
- 地域力を高めるために総務省も様々な施策を展開しており、新しい概念である「関係人口」や特定地域づくり事業推進法など、大変参考になりました。
- 地域づくりの新しい取組が生まれていたことを知り、審議官のこれからのふるさとづくりは地方公務員こそ大切という言葉と同時に、他の方から制度を利用したときの気になった点等をヒアリングできたので、今後もっと生の声を聞き、すりあわせることについて気をつけて業務にあたりたいと思った。
- これまで聞いてきた話を国の政策レベルで、頭の中で再整理することができた。非常に有効なタイミングでの講義だったと考える。
- 総務省の研修でも聞いていた内容ではあったが、改めて復習することができた。

◎活用度３

・　国の動きの概要が伺えたのでよかったですが、個人的には、自治大主催研修も含め、初めの方での受講がよかったように感じました。
・　地域力創造と人材力の活性化の総務省の政策について参考になりました。国の考え方をかみ砕きながら、当市の政策にもとり入れていきたいと思います。
・　時間の関係で、制度の概略説明のみであったため、参考資料を含め、改めて詳細を確認するようにしたい。
・　事例を中心に内容としては知っているものも多かったが再度認識ができた。
・　総務省の地域づくり事業について包括的に知ることができたが、それだけだった。
・　総務省の地域づくりにおける今後の取組について、人口減少時代を踏まえた国民の生活の質及び自己実現を求める背景を説明されていた点がとても分かりやすかったです。「地域行政はコーディネート役」という言葉を念頭に、今後の業務にあたりたいと思いました。

◎活用度２

・　今回の研修での核心部分ではなかったかと感じました。そのため、研修初日にお聞き出来たら、なお身になったのかなと感じました。
・　マイナンバーからの情報の利活用について。自治体では活用よりも保護して触れないという状態なので、先進的な取組など目に見える形で情報が欲しいと思いました。

◎活用度１

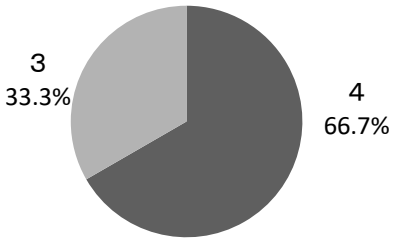
・　仕事柄、既に十分理解している内容でした。

【合同講義８】「関係人口のつくり方～わたしたちは地方で幸せを見つける～」

月刊「ソトコト」　編集長　指出　一正　講師

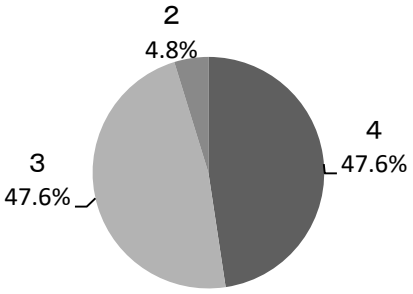
N=21

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	14	66.7%
	3	7	33.3%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	21	100.0%



N=21

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	10	47.6%
	3	10	47.6%
	2	1	4.8%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	21	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 関係人口という内容で様々な事例から興味深く拝聴させていただきました。ちょっとしたつながりが、若者が入るだけでこれだけ作られるものなのかとおどろきました。
- 関係人口については本市でも重要課題であり、大変意義のあるものでした。
- 関係人口は決して図ることができないが、有効な手段である。
- 地域の方にもわかり易い事例ではないかと思います。月間ソトコトを購読してみたいと感じました。
- 関係人口は、移住しなくても、地域について学びたい、関わりたいということで、移住がゴールではないということを、実例を基に知ることができた。
- 「関係人口のゴールは移住・安定ではなく、関わりを持ってもらえる人をいかに増やしていくか」ということや、いろんな媒体を通じて接触率・接触点を増やすことの重要性を認識しました。
- 関係人口について、「イワナとカワゴ」という魚に例えてお話されていた点が非常に分かりやすかったです。また、「関係人口のゴールは段階的に地域と交流を深めていくこと」という点も、今後地域づくりを推進していく上で大変参考になりました。
- 地元自治体においても関係人口の獲得・創出が課題に挙げられているので、今回紹介いただいた事例を参考に取組を再考したい。
- 関係人口という概念は理解していたが、どう実践していくのかという一例を聞くことができてよかった。

◎活用度３

・　関係人口の理解が進みました。事例が村レベルだったので、市レベルでの事例もほしかったです。
・　地域づくりというと、とかくその地域の住民を主体に考えてしまうが、ふるさとを持つ持たないにかかわらず地域に関わりたいという人が存在し、地域に住む人の視度、尺度と異なる目で地域の魅力や弱みに気づくことができ、また定住、移住をゴールとしない遠くからでもその地域との関わりを深めていく関係人口の存在は、全国的に人口が減少していく社会において重要となると感じました。
・　関係人口のつくり方について事例を交えて御講義いただきました。関係人口の大切さを改めて感じました。
・　若い世代の可能性を信じ、彼らがやりたいこと、得意なことを通じて、地域における人の交流を活発化させる手法は、今後も様々な地域で行われていくのではないか。
・　関係人口の考え方は、地域に関わろうとする人の生活を大きく変えなくても可能なので、さらに発展ができそうだと思いました。
・　私自身は大変興味深く話を聞くことができました。ただし、事業化に係る成果指標の設定や議会等への説明が難しいのではないか、という不安も感じたところです。
・　“今の地域づくりにおいて、人をよびたいときに、地域の魅力を宣伝しすぎている”といった言葉がとても心にのこった。自分で自分だけの町の魅力を見つけることの方がはるかに楽しいといったことは、今の地域づくりにおいて参考にしても良いことだと思った。

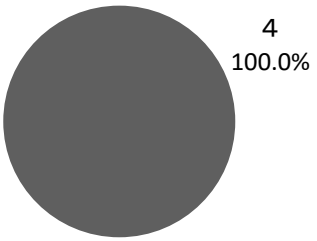
◎活用度２

・　具体例を通して、関係人口についてはある程度理解したと思うが、その作り方についてはイメージでしかとらえきれていないと思う。ただ、スタジオＬとは仕事をしようとしたこともあり、また熊本市においてもソトコトで取り上げていただいたのは仲間の取組なので、関係人口に対する知識は高いと思っている。

【講師との直接対話（富永講師）】

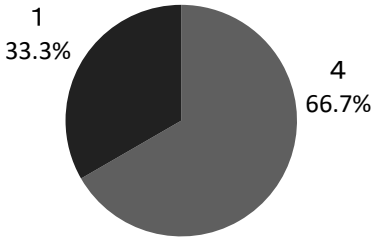
N=3

＜理解度＞		回答数	%
↑ 高 低 ↓	4	3	100.0%
	3	0	0.0%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	3	100.0%



N=3

＜活用度＞		回答数	%
↑ 高 低 ↓	4	2	66.7%
	3	0	0.0%
	2	0	0.0%
	1	1	33.3%
	無回答	0	0.0%
	合計	3	100.0%



＜感想＞

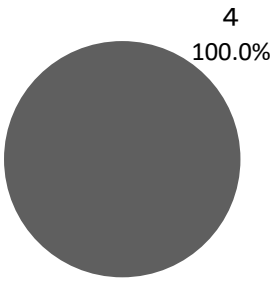
◎活用度４

・　個別対話という少人数な状況でありましたので、富永講師におきましては、NPO 開設時の話から指定管理のこと、特にフュージョン長池様が指定管理の先達で国の制度設計の参考となったというお話まで多種多様な内容をお聞きして、大変参考になりました。

【講師との直接対話（豊重講師）】

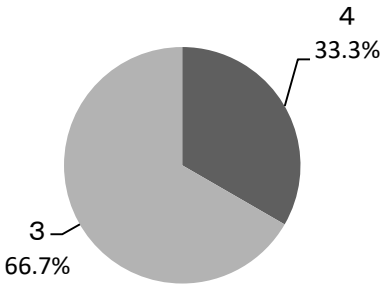
N=3

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	3	100.0%
	3	0	0.0%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	3	100.0%



N=3

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	1	33.3%
	3	2	66.7%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	3	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

・　研修生 3 人を相手に、非常に細かいところまで大変丁寧に説明いただいた。この研修に参加するに当たって聞きたかった特産品開発や地域づくり活動の担い手について、直接お話を伺うことができ、とても有意義であった。

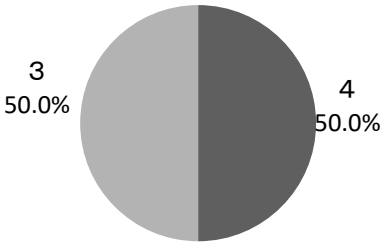
◎活用度３

・　住民全体を動かすうえで、反対意見のある人をどう懐柔していくのかよくわかった。メディアで紹介している以外の様々な資金作りもとても参考になった。
・　やねだんの取組は、行政が願う理想的な地域活動であると感じましたが、このような活動を行わず、課題を自ら解決せず、行政に依存しながら普通に暮らしている住民もたくさんいることをあらためて実感してしまうきっかけにもなりました。

【講師との直接対話（前神講師）】

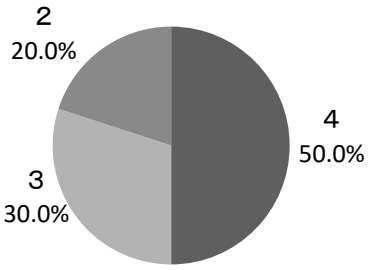
N=10

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	5	50.0%
	3	5	50.0%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	10	100.0%



N=10

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	5	50.0%
	3	3	30.0%
	2	2	20.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	10	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

・ 講義では伝えきれなかった点でご指摘をいただきましたが、異なるものと異なるものの組み合わせは新しいものの創発につながるという点は、今後の業務に大きく活かしていきたいと思いました。

・ 市の課題として取り組んでいる、本市と東京都墨田区や台東区との都市間交流の取組について、山形県の置賜地方と港区の遠隔地連携の実例によりアドバイスをいただいた。特に現状の市の取組の交流センターツアーや物産販売などは狭い視野の取組であり、双方が、こうなったら良い、遠隔地とつながるメリットを見出し、既存の事業や総合計画を結び付けて実施していくといった視点を持った方が良いとのアドバイスをいただき参考となりました。

・ 各自治体の課題などについていろいろな視点からアドバイスいただきました。ちょっとした演習もよかったです。

・ ソーシャルインパクトボンドという仕組みを紹介いただくとともに、協働とは違うもの同士を掛け合わせることが重要だということを知ることができた。ひとづくり 10 年、まちづくり 30 年で無理をせず長期的な視野で進めていくことが重要だと感じた。

・ 参加者 10 名それぞれに事前課題を発表させた上で、各地域の課題に関するコメントをその都度言っていただいた手法は、自分の地域だけでなく、他地域の課題とその解決策も聞くことが出来、地域づくりの現状を知る上で、とても参考になりました。

◎活用度３

・ SIB の考え方や実際の運用事例などについて、もう少し調べてみようと思った。また、新たな事

業を検討する際、「人口規模が近い自治体の事例に引っ張られすぎない方がよい」との指摘は、特に先行事例が多い事業の場合に注意すべき点であると感じた。

・ 親しみ易い雰囲気づくりを心掛けておられ、非常に好感がもてました。内容もわかり易く、事前講義の取りこぼしも理解することが出来ました。

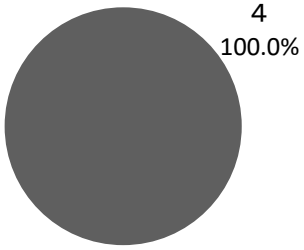
◎活用度２

・ 短い時間の中だったので、自分の課題解決とはなりませんでしたが事例の提示やヒント等の他、他自治体の課題等への対応策（案）など、今後の参考となりました。（本班は人数が多すぎたように感じました）

【講師との直接対話（吉田講師)】

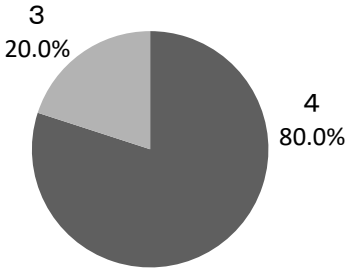
N=5

＜理解度＞		回答数	%
↑ 高 低 ↓	4	5	100.0%
	3	0	0.0%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	5	100.0%



N=5

＜活用度＞		回答数	%
↑ 高 低 ↓	4	4	80.0%
	3	1	20.0%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	5	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

・　講義では聞けない内容を自分の地域に関した話を聞けて大変参考になった。

・　インバウンド材料も「はやり」や「地域資源以外」で PR するのは危険だと感じた。人間関係の重要性を感じた。

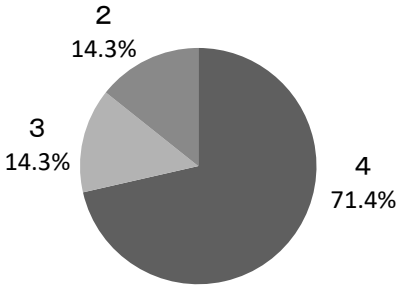
・　地域づくりにおいて、「ボランティアこそ美しい論」になりがちだが、いやらしくなくビジネスの視点を取り入れることが持続するポイントといったこと、「べき論」でやらないこと、「ゴールを明確にもち根回しするか、中立的に動くこと」等のお話はどれも魅力的だった。最後には地方に異動になった際、公務員に求めること、エールをいただき大変貴重な経験だった。

・　地域づくりに絡めたインバウンド戦略だけでなく、オリンピックや万博、IR といったトレンドに関する考えも伺うことができ、大変有意義な時間となった。

【演習１～４】

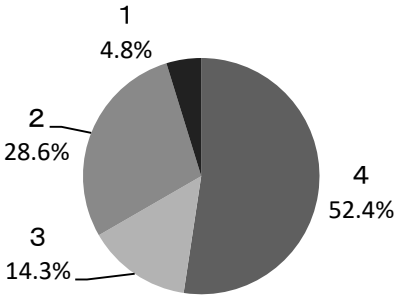
N=21

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	15	71.4%
	3	3	14.3%
	2	3	14.3%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	21	100.0%



N=21

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	11	52.4%
	3	3	14.3%
	2	6	28.6%
	1	1	4.8%
	無回答	0	0.0%
	合計	21	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- 各団体の課題から、テーマを決めるまで十分に話し合うことにより、理解を深められたと思います。話し合うことは本当に勉強になります。正解はないのでしょうが考えることが楽しく、また共通した意識をグループでもち合うことができ、ここが大きな成果だったと思います。
- 課題に対して、今研修で学んだことを基に解決策を考えることができたと思います。講師の方のアドバイスもとても有効でした。
- 子どもの貧国対策というテーマについて「地域づくり」という視点で考えることが初めてだったので、色々な物事との関わりを深く考える必要があり大変勉強になりました。
- 事前に手書き資料での発表へ変更されたことは、効率化につながり議論を深めることにつながったと思います。パワーポイント作成の場合、作り込み（見え方）に注力し、余分な作業と時間が必要であっただろうと推測しています。
- 子どもの貧困対策をテーマとして、様々な人口規模の職員の皆さんと意見交換を行う中で、子ども食堂を中心として、多様な主体が自然と参加でき、継続的に活動できる仕組みを検討することができた。
- 演習 1 において事前にそれぞれの自治体の課題を発表しましたが、人口減少という共通の課題と独自の個別課題も聞けて参考になりました。また、班別課題については、宿泊室で一人で考えている時は浮かばなかったアイデアが、全員で話し合う中で様々に生まれてきたので、大変有意義な演習でした。
- グループワークを通して、まず各地域の地域づくりに関する現状と課題を発表した上で、あるテーマについて深堀りしていく過程は、地域づくりについてより多角的にみることに繋がると

感じました。また、講師陣が都度各グループのところへ回ってきてヒントをくれたのも、発表を作り上げる上で大変参考になりました。

- テーマ４つの中から１つ選ぶ際に、どれが考えやすいか悩んでいたところ、前神先生から、「どれもつながっている、関連させて考えるアプローチは？」というアドバイスをいただきどれも切りはなしてとらえようとしていた自分に気づき、新たな視野をいただけた。１人で考えるのでは、自分の地元か東京かの２つの地域しか頭になかったが、同じグループの他の人の意見を聞き、「あ！こんなこともあったな。聞いたことあったな！」という自分の中に眠っていた考えが呼びおこせ、とても考えを深められた。
- 講義で聞いてインプットしてきたことを中心に、班員や巡回の講師先生と一緒に試行錯誤する作業がとても充実した時間であった。願わくば【演習１】の各自治体の事例を全員分聞いてみたかった。
- 行政の最前線で働いて来られた他研修生の方々、また、地域づくりの第一人者である講師の方のお話には、多少置いて行かれる部分はあったが、様々なことを勉強させていただく機会となった。

◎活用度３

- 演習 3 からの課題解決方法を議論するにあたり、どういったことをするのかがわかりづらかったです。

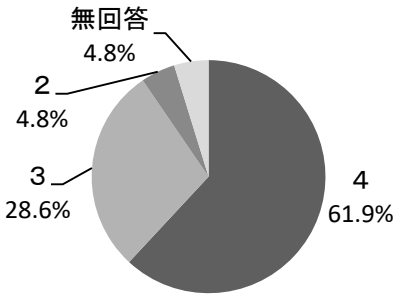
◎活用度２

- 他自治体と協働できたことはよい経験となりました。もう少し講師の方が来てくださるとよかったなと思いました。
- 「演習 1、2」においては事前課題として自分の地域の課題について、「演習 3」以降は、各自治体において地域の課題となる防災災害のソフト面対策を主に、子どもの貧困や独居老人対策も関連付け地域の人づくりからのアプローチについて班別検討を行った。講義内容を踏まえて、地域の人やその地域に関心を持つ人、関係人口を含めて地域に関心を持ち活動する人々、人づくりがキーになる点から、どのようにすれば人々が関わりを持つことができるか考えを出し合った。今後の課題解決に取り組む際、こうした知識を活かしていければと思います。
- 前半（2 まで）は、事前課題の内容をもとにした班分けにした方が、議論がより深まったように思う。また、後半（3 以降）についても、検討対象のモデル自治体を設定するなどして、各班の検討結果を比較しやすくすると、より議論が深まったと思う。
- 班を分けてからテーマを決めるか、テーマで班を分けるか良し悪しがあると思うが、今回の時間であれば、テーマで班を分けた方が活発な演習になると思いました。
- 各受講者が考える地域づくりの定義が、まちづくり全般であったり、住民自治であったり、観光施策であったりとバラバラで、深い議論になりませんでした。また、与えられたテーマに対して、参加者全員が危機感や不安を共有できず、薄い議論で終わってしまいました。

【成果発表と振り返り】

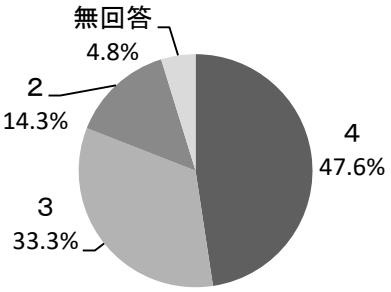
N=21

＜理解度＞		回答数	%
↑高低↓	4	13	61.9%
	3	6	28.6%
	2	1	4.8%
	1	0	0.0%
	無回答	1	4.8%
	合計	21	100.0%



N=21

＜活用度＞		回答数	%
↑高低↓	4	10	47.6%
	3	7	33.3%
	2	3	14.3%
	1	0	0.0%
	無回答	1	4.8%
	合計	21	100.0%



＜感想＞

◎活用度４

- プレゼンの展開について、十分に検討したかいがありました。良い経験になりました。ありがとうございました。
- 自分たちのグループで考えた事が発表できたと思います。他グループの考えも大変参考になりました。
- 地域づくりには、地域に暮らす人のみならず多様な個々人材がやりがいを感じながら楽しみながら活動することが必要だと思いました。
- 各班の発表は自分が考えていたものとは異なった視点のものが多く、得られたものがありました。
- これまでの研修で得た知識を基に、多様な主体が関わりながら、継続的に取り組むための稼ぐ仕組みを意識して発表することができた。
- どの班も選択したテーマは違っても、“場”をいかに作っていくかという部分は、共通の認識であると感じました。D 班のメンバー全員でプレゼンの方法をいろいろ考えながら、自己満足ですが、良い発表ができて、大変貴重な経験でした。
- 成果発表では、各グループがそれぞれのテーマについて出し合った意見を自由形式で発表しており、その内容やプレゼンの手法の違いに新たな気づきをもらいました。最後の講師陣からの講評の中でも、特に「経営の四資源」や「自主財源」のご指摘は、今後の業務でぜひとり入れたい視点だと思いました。
- 発表の際は、発表方法や中身、比較的良い評価をいただけたが、具体的には行政の役割は何かの質問等、考えがおよばなかったところもあったと改めて気づいた。②の独居老人についてのテ

ーマは、選びにくいということもあり、どの班も選択していなかったが個人的に自分の親もそんな状況になる危険性もないこともないかと思い考えてみようと思った。
・　各先生方のコメント・講評が非常に参考になった。

◎活用度３
・　成果発表については班ごとにテーマや発表方法が異なっていたが、各班の発表の着眼点や課題整理の仕方、手法などそれぞれ参考となる部分があった。研修全体を振り返ってみると、各講師それぞれ先進的、実践的な取組をしている方で、内容が非常に参考となるものでした。
・　発表終了後に各講師からいただいた講評の中に、講義で出てきたキーワードが繰り返し出てきていた。改めてそれらのキーワードを確認し、研修内容のおさらいをしようと思う。
・　あえて、テーマ、成果をかっちりしたものにしなかったことにより、班によって多様な答えを出した点はよかった。全体的な時間の使い方は改善の余地があると感じる。
・　同じテーマの発表も自分が選択しなかったテーマについても、とても参考になった。
・　発表内容や発表方法に各グループの工夫があり、大変参考になりました。

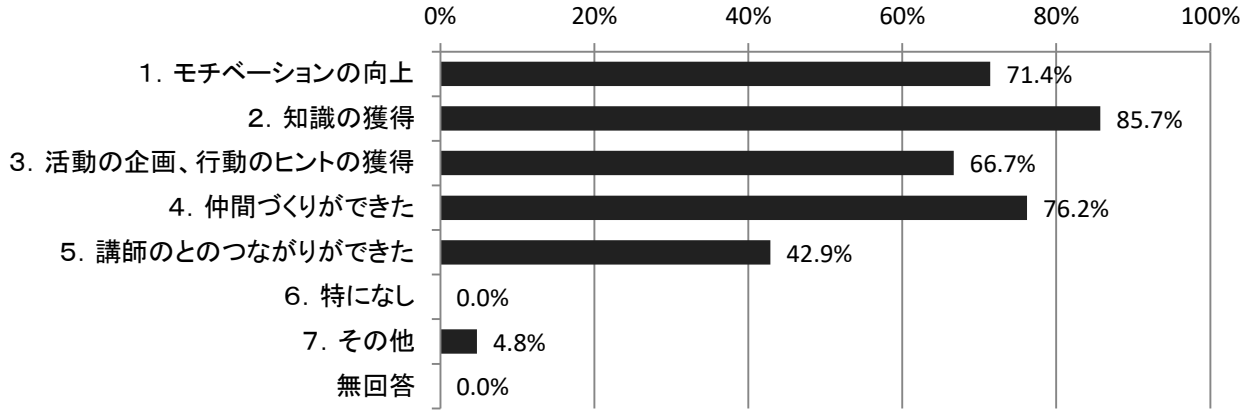
◎活用度２
・　もう少し掘り下げと、多角的な視点での案出しや、構築ができれば良かったなとの反省と、新たな取組の考え方などが実践でき、良い機会でした。

（２）研修全体について

①人財塾の良かった点についてお伺いします。下記の選択肢から該当するもの全てに〇をつけてください。

N=21

	回答数	%
1. モチベーションの向上	15	71.4%
2. 知識の獲得	18	85.7%
3. 活動の企画、行動のヒントの獲得	14	66.7%
4. 仲間づくりができた	16	76.2%
5. 講師のとのつながりができた	9	42.9%
6. 特になし	0	0.0%
7. その他	1	4.8%
無回答	0	0.0%

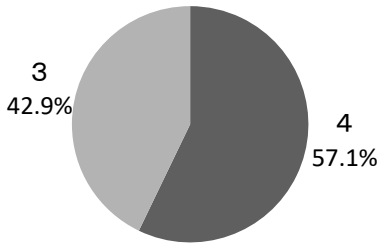


- 地域づくり関連部署となって日が浅い私にとって、全国市町村、各講師、そして各課題や、地域づくりの実例が伺えたことは、大変勉強になり、貴重な経験となりました。
- 期間が短い中でも密度の高い内容から自己のモチベーションの向上につながった。
- 地域づくりについて大切なことを学ぶことができました。
- 総務省の審議官から、直接施策の内容を学ぶ機会があったことについて、有意義であったと思います。
- 民間の講師の方々の様々な活動、そのモチベーションや熱量に感動しました。公務員としての仕事も大変重要ですが、地域の様々な方々とつながっていくことの重要性を改めて認識しました。
- 特に講義内容のレベルの高さとグループワークや交流会等による受講生間の交流の多い形式が良かったです。
- 普段自治大学校で勤務しているが、庶務業務を担当している為、全国からの研修生は構内にはいても、あまり交流する機会がなかった。しかし今回、グループワークや談話室での交流を通し、行ったことのない自治体の産業、最近の困ったこと等、生の声を聞くことができ、自治大の魅力を体験できたかなと思う。

②人財塾を受講したことにより、今後、業務又は業務外で地域づくりに関する活動を新たに又は、継続して行っていきたいと思うようになりましたか？

N=21

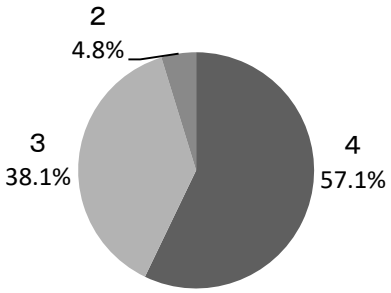
＜活用度＞		回答数	%
↑ 思った 思わない ↓	4	12	57.1%
	3	9	42.9%
	2	0	0.0%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	21	100.0%



③研修全体の進め方・運営についてどのようにお感じになられましたか？

N=21

＜活用度＞		回答数	%
↑ 良かった 良くなかった ↓	4	12	57.1%
	3	8	38.1%
	2	1	4.8%
	1	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
	合計	21	100.0%



④その他研修に関して改善点・お気づきの点をお聞かせください。

［講義形式・内容］

- 演習時間中の講師の立位置がよくわからなかった（必要だった？）。講師で若い年代の人の話を聞いてみたい。もっと近しい市町の事例が聞けたらよかった（だいたいかなり地方の事例だったため）。
- 今回の地域づくりセミナー演習である課題解決に向けた班別行動では、班の考え方（解決策等）を模造紙での記入で良いとの事で、班の中でじっくり考え方を練ることができました。最近の他の研修では、パワーポイントでのプレゼンをしないといけない事が多く、資料の作り込みに時間をかけてしまいがちな研修もあったことから、次年度以降も同じように続けて欲しいと感じています。
- 参加している自治体の規模や特性がバラバラで、地域おこし協力隊という言葉を聞いたこともないという方が複数参加していました。定員 80 名に対して 21 名の参加ということもあり、自治大学校の研修テーマとして取り扱うのは難しいのではないかと感じました。総務省と自治大とで調整して 1 部・2 部課程に組み込んでみたらいいと思います。
- 直接対話について、どの先生ともお話ししてみたいなと思ったため、1 コマ目と 2 コマ目で異なる先生のお話を聞けるようにするのも良いなと思った。
- 1 コマの講義では講師の伝えたい内容が充分に出せないと思いました。演習は個人課題と班で選択した課題 2 つあるが、全体に発表する班別課題の解決のみでいいと思います。班別検討は具体的イメージがしづらかったので、セミナー参加者の課題をピックアップしたほうが良いと思いました。

［講義時間］

- 講師との対話や課題解決に向けたアプローチ方法などにもう少し時間が取れると良かったと感じました。
- １つのテーマについてじっくりと話し合うという点では、もう少し演習の時間をいただきたかったように思います。
- グループワークの時間が短かかったため、十分な作業時間が取れるよう、研修期間を 1 日延ばした方がいいのではないか。また、事前課題資料のうち、PowerPoint で制作されたものについては、紙資源節約及びハンドリングの観点から、2 アップにした方がよいと感じた。
- 講師によって、1 コマでおさまらない内容が多々あった。
- 遠方から来ている自治体職員にとって、最終日の研修が長すぎて、余裕がなさすぎる。
- 演習時の講師のアドバイスは簡潔に頂きたかった。グループで話を深堀りしている際に時間を講師に取られることで、時間内にまとめることができなくなった。地域づくりは、仲間づくりが基本で出来ることが大切と思います。今回の研修は、期間が短かったにも関わらず、みんなが仲良くなることができた。ありがとうございました。

［その他］

- 講師の方の人選が素晴らしかった。とても有意義な研修を受けることができました。ありがと

うございました。
- 講師の先生から多くの知識を学べて良かったです。講義、直接対話、演習といろいろな視点から深く学ぶことができました。短い期間でしたが、大変お世話になりました。
- 地域づくり人財塾を受講して、知識の獲得や自身のモチベーションアップにつながったと強く感じます。本当にありがとうございました。長池公園のフィールドワークについて事前に案内をいただけていたらありがたかったです。
- 宿泊させていただいた部屋がきれいで、一週間きもちよくすごすことができました。ありがとうございます。
- 都道府県の参加が１人だったので、できれば複数の参加者がいるとよかったです。
- 強いて挙げるなら、最後の講評は、発表コメントと総評をまとめても良かったかなと思いました。短期間でしたが、楽しく学ばせていただきました。ありがとうございました。
- 「地域」の位置づけが少しあいまいであると感じました。また、研修に参加するにあたり、事例への向き合い方が「行政」としてなのか「住民」としてなのか悩ましい場面がかなりありました。研修の目的を明示していただければ、事前に理解がしやすいのかなと感じました。

（3）今回の研修受講生を対象としたステップアップ研修として、どのようなことに取り組みたいですか？

［人財塾受講後の取組についての発表等］

・ 研修の後に実際の取組事例や活用内容などが各研修生の地域で有効に活かされていれば紹介していただきたいです。（新しく取り組んだことなど）
・ 学んだことが活かせているかの事例発表会。視察。
・ 職場に戻った後、仕事の内外問わず、はじめの一歩としてどんな取組からはじまったか、意見や事例を持ちよってもらえると、まだ手つかずの受講生のフォローやステップアップにつながると思います。
・ 今回は受け身が多かったので、次は受講生自身が講師となって話をする場を設ける。

［フィールドワーク、視察］

・ 自治大学校内にとどまらないということであれば、フィールドワークをしてみたいと思ってます。
・ 地域づくりの先進地でのフィールドワークを実際にしてみたいと思いました。
・ 現場研修（視察等）ができたら良いと思います。又は、振り返り（フォローアップ）研修をしていただけたら良いと思います。
・ 実際活動している地域の視察と活動者の生の声を聴きたい。

［実践的な研修］

・ 実践をまじえたものがあるとより能力の向上につながる。
・ 今回のグループ発表の際では、どの班もイベントの案を何個ずつか提案するといった広く浅く方式だったと思うが、具体的に案を数個にしぼりこんで、実際実践すると想定したシミュレーションなど考えてもおもしろいと思う。

［その他］

・ 一公務員としてではなく、個人としては地域活動（ボランティア含む）は、学生時代に行っていたバレーボールの、協会の大会運営の手伝い程度しか行えていなかったのですが、個別対話において富永講師がまずは自分の好きな事での活動を続けることと、無理をしても長続きしないとのご意見を受け、少し心が軽くなりました。今後もまずは好きな事を続ける、好きな事を見つけていくことが、結果、地域に還元できるのではないかと思いましたので、アンテナを高くしながら、様々なことを吸収したいと思います。また、行政の立場としては、これからはコーディネート力の重要性を認識しましたので、意識をその部分にも向けながら取り組んでいきたいと思います。
・ 地域づくりについて基本的な部分は学ぶことができたと思います。今後は現場に戻り活かして行きたいと思います。また業務外でも活かせればと考えています。ありがとうございました。
・ 講師の方々の研修もとても勉強になりましたが、人口規模や地理的条件などが全く違う自治体の職員の方々と意見交換をする場を持てたことが貴重な財産となりました。ステップアップ研

修でも、講義以外でも研修生が相互に意見交換できる場があると良いと感じました。

・ 地域づくりに携わっている行政職員（スーパー公務員）の話も聞いてみたい。

・ 自治大職員として参加させていただき、今回の研修では地方公務員の方々と同じ視点で考えることが難しい部分もあった。もし機会があれば、さらに経験を積んだ上で演習重視の研修に参加したいと考える。

■リーフレット（研修日程）

月日	時限		区分	内　容
1/14 （火）	2	10:50～12:00	自治大学校　研修	11:00～11:45　入寮受付
	3	13:00～14:10		13:00～13:10　開講挨拶（自治大学校長） 13:10～13:35　入寮オリエンテーション（自治大学校庶務課） 13:40～13:55　研修オリエンテーション（自治大学校教務部） 13:55～14:10　「全国地域づくり人人財塾」導入講義（総務省人材力活性化・連携交流室）
	4	14:25～15:35		【講義1】 「地域福祉の課題と展望」 講師：小林　雅彦　／　国際医療福祉大学　教授
	5	15:50～17:00		
1/15 （水）	1	9:25～10:35	自治大学校　研修	【講義2】 「地方による、地方のための、地方のプロデュースのはじめ方」 講師：小谷　直正　／　特定非営利活動法人府中ノアンテナ　理事
	2	10:50～12:00		
	3	13:00～14:10		【講義3】 「地域発の生きた政策－市民力を軸として－」 講師：森　民夫　／　元長岡市長
	4	14:25～15:35		【講義4】 「事例に学ぶ地域ビジネスの支援手法」 講師：今若　明　／　株式会社地域事業再生パートナーズ　代表取締役
	5	15:50～17:00		
1/16 （木）	1	9:25～10:35	自治大学校　研修	【講義5（2時限）】 「AIの普及・進展とその課題」 講師：大屋　雄裕　／　慶應義塾大学　教授
	2	10:50～12:00		
	3	13:00～14:10		【講義6】 「地域と合意形成」 講師：佐々木　浩　／　自治大学校長
	4	14:25～15:35		【講義7】 「市民が動き、行政が支える －これからのまちづくり論－」 講師：西村　浩　／　株式会社ワークヴィジョンズ　代表取締役
	5	15:50～17:00		
1/17 （金）	1	9:25～10:35	全国地域づくり人財塾	【演習1】 班別で事前課題の発表等
	2	10:50～12:00		【合同講義1】 「地域の誇りを活用した稼げるまちづくり」 講師：吉田　博詞　／　地域ブランディング研究所　代表取締役
	3	13:00～14:10		【合同講義2】 「地域おこし協力隊を活用した地域の活性化について」 講師：藤井　裕也　／　NPO法人山村エンタープライズ　代表
	4	14:25～15:35		【合同講義3】 「地域づくりのマネジメント－つながりをつくり創発を生む仕組みづくり－」 講師：飯盛　義徳　／　慶應義塾大学総合政策学部　教授
	5	15:50～17:00		【合同講義4】 「人が育つ、人間里山主義」 講師：富永　一夫　／　一般社団法人スマート　代表理事（NPOフュージョン長池　創業者）

月日	時限		区分	内　容
1/20 （月）	1	9:25～10:35	全国地域づくり人財塾	【合同講義5】 「クリエイティブな地域づくり～課題解決思考から価値創造思考へ～」 講師：前神　有里　／　一般財団法人地域活性化センター人材育成プロデューサー
	2	10:50～12:00		【合同講義6】 「地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～」 講師：豊重　哲郎　／　柳谷自治公民館　館長
	3	13:00～14:10		【直接対話1】 豊重講師、富永講師、前神講師、吉田講師
	4	14:25～15:35		【直接対話2】 豊重講師、富永講師、前神講師、吉田講師
	5	15:50～17:00		【演習2】 課題解決に向けた班別検討 アドバイザー：富永講師、豊重講師、前神講師、吉田講師
1/21 （火）	1	9:25～10:35	全国地域づくり人財塾	【演習3】 課題解決に向けた班別検討
	2	10:50～12:00		【合同講義7】 「地域力の創造と人材力の活性化について」 講師：境　勉　／　総務省地域力創造審議官
	3	13:00～14:10		【合同講義8】 「関係人口のつくり方～わたしたちは地方で幸せを見つける～」 講師：指出　一正　／　月刊「ソトコト」編集長
	4	14:25～15:35		【演習4】 課題解決に向けた班別検討
	5	15:50～17:00		【演習5】 課題解決に向けた班別検討
1/22 （水）	1	9:25～10:35	全国地域づくり人財塾	【演習6】 課題解決の発表に向けた準備（30分） 課題解決の発表＋質疑(30分)×５班（150分） （入替・準備・予備20分）
	2	10:50～12:00		
	3	13:00～14:10		
	4	14:25～15:35		講師からの講評、ふりかえり、閉講 アドバイザー：富永講師、豊重講師、前神講師

参考資料２．全国地域づくり人財塾　フォローアップ研修

１．これまで開催されたフォローアップ研修の活動概要

年度		日時	場所	テーマ
東日本支部	25	平成 25 年 4 月 17 日	長池公園自然館	あったらいいな、こんな○○（市）
		平成 25 年 7 月 19 日		
		平成 25 年 10 月 3 日		
		平成 26 年 1 月 29 日		
	26	平成 26 年 4 月 23 日	長池公園自然館	あったらいいな、こんな○○（市）
		平成 26 年 7 月 9 日	地域活性化センター	あったらいいな、こんな○○（市）
		平成 26 年 10 月 8 日		よりよいコーディネーターとは？
		平成 27 年 1 月 7 日		人財塾での行動宣言の実践状況の報告、抱負
	27	平成 27 年 4 月 15 日	地域活性化センター	今、これから
		平成 27 年 7 月 29 日	長池公園自然館	指定管理者制度の 10 年を検証する
		平成 27 年 10 月 21 日	ルネこだいら	“みんなが集まる場”とは？
		平成 28 年 1 月 21 日	フォーシーズンズ志木ふれあいプラザ	地域とかかわる“楽しさ”と“難しさ”
	28	平成 28 年 4 月 28 日	千葉市生涯学習センター	地域の未来イメージをつくる～千葉市の新たな取り組みをケースに～
		平成 28 年 7 月 28 日	山武市ふれあいセンター	図書館が発信する山武市の魅力！
		平成 28 年 11 月 7 日	首都大学東京	学生との交流で、新たな創発を！
		平成 29 年 1 月 20 日	地域活性化センター	人財力とは何か・・・いま再び考える
	29	平成 29 年 4 月 13 日	長池公園自然館	魅力的な公園づくり
		平成 29 年 7 月 19 日	白鳳大学	市民協働とは何かを考える
		平成 29 年 10 月 17 日	移住・交流ガーデン	関東圏の移住を考える
		平成 30 年 1 月 16 日	首都大学東京	若者参加

東日本支部	30	平成 30 年 4 月 27 日	BIC ライブラリ（機械振興会館）	フォローアップ研修のこれから
		平成 30 年 7 月 25 日	地球環境パートナーシップオフィス	SDGs と自分のつながりとは？
		平成 31 年 2 月 21 日	up Tsukuba	人財育成
	R1	平成 31 年 4 月 14 日	館山市	選ばれるためのブランディング活動
		令和元年 7 月 10 日	長池公園自然館	人間里山主義読書会
		令和元年 10 月 4 日	BIC ライブラリ（機械振興会館）	フォローアップ研修のこれからを考える
西日本	25	平成 26 年 2 月 23 日～25 日	愛媛県松山市ほか	移住対策
	26	平成 26 年 10 月 11 日～12 日	山口県周南市	若手による地域づくり
	27	平成 27 年 9 月 26 日～27 日	大阪府河内長野市	開催地における地域づくり（中山間地の活動拠点整備・運用、地区まちづくり会の活動）
	29	平成 29 年 8 月 5 日～6 日	愛媛県西予市	茶堂について
	R1	令和元年 9 月 7 日～8 日	大阪府吹田市、大阪市	パークマネジメントや Park-PFI・都市型公園の防災拠点・環境教育を学ぶ
北海道	30	平成 30 年 12 月 1 日～2 日	北海道岩見沢市	岩見沢市の取組について考える
	R1	令和元年 10 月 13 日～14 日	北海道旭川市・鷹栖町	旭川公園ゲストハウス、パレットヒルズ視察を通じた協働のまちづくりの実践を学ぶ
東北	28	平成 28 年 8 月 2 日	宮城県仙台市	地域と関わる中であなたが大切にしたいことは？
九州	29	平成 30 年 1 月 27 日	宮崎県三股町	地域住民に喜ばれる公園とは。人の交流の起点となる公園活用方法
	30	平成 30 年 7 月 7 日	宮崎県都城市	外国人と地域の共生について考える
		平成 31 年 1 月 26 日	鹿児島県志布志市	「商店街」のこれかまでとこれから～街の賑わいを考える～
北陸	R1	令和元年 11 月 3 日	石川県金沢市	都市公園の現地視察を通して、指定管理や Park-PFI など公民連携のあり方を学ぶ
中部	R1	令和元年 10 月 4 日～5 日	愛知県津島市	地域資源の発見から地域の可能性を考える

２．北海道フォローアップ研修しおり

全国地域づくり人材塾・
北海道フォローアップ研修
in 鷹栖

と　き　令和元年１０月１３日（日）～１４日（月・祝）

ところ　１日目：旭川公園ゲストハウス（旭川市）

２日目：パレットヒルズ（鷹栖町）

全国地域づくり人材塾・北海道フォローアップ研修 in 鷹栖

参加者名簿

NO.	氏名	所属等	1日目	2日目
1	富永　一夫	講師	○	○
2	目黒　義和	価値総合研究所	○	○
3	沼田　雄一	北海道空知総合振興局森林室	○	○
4	三石　浩司	有限会社　コテージガーデン	○	○
5	小山田　健	小樽商科大学	○	○
6	大熊　勲	帯広市	○	○
7	鷲野　紘弥	岩見沢市	○	○
8	高瀬　浩樹	岩見沢市	○	○
9	上仙　純也	岩見沢市	○	○
10	相澤　智生	岩見沢市	○	○
11	山原　章由	鷹栖町	－	○
12	加藤　進冴	鷹栖町	○	○
13	菅野　智史	鷹栖町（地域おこし協力隊）	○	－
14	山内　岳男	鷹栖町	○	○

＜日程＞

■１０月１３日（日）

16：00　JR 永山駅集合

16：15　視察①「旭川公園ゲストハウス」

開設者の松本浩司さんによるコンセプト等説明

17：45　視察終了　富永講師からひとこと

17：55　２日目について事務連絡

18：00　交流会（同所）

■１０月１４日（月・祝）

8：15　（公共交通の方）JR 旭川駅または JR 永山駅集合・出発

（自家用車の方）研修開始までに現地集合

9：00　視察②「パレットヒルズ」

・基本構想等の紹介

9：10　公園内視察

9：40　ワークショップ

・前日の視察の振り返り

・皆さんの地域活動内容、フィールド

・２か所の視察を経て感じた両公園の共通点、差異

・地域に必要とされる人材、活動の場とは

10：40　講評　富永講師

11：20　その他（次回開催地確認、集合写真）

11：30　解散

３．北陸フォローアップ研修リーフレット

金沢市の都市公園
公民連携勉強会

金沢の都市公園と周辺エリアを巡り、公園の利活用について学びませんか？

内閣府地域活性化伝道師、総務省地域力創造アドバイザーの富永一夫さんを講師にお招きし、公園の利活用の観点から金沢市内の都市公園を現地視察して、公民連携のあり方について学びます。

1　日　時　令和元年１１月３日（日・祝）
　　１０：００～１６：００
2　場　所　金沢市近江町交流プラザ　４階　まなびぃ広場　和室
　　（金沢市青草町８８番地　０７６－２６０－６７２２）
3　参加費　１，０００円

卯辰山公園

大乗寺丘陵公園

4　プログラム
（1）座学
　講師より、公民連携による公園の利活用について講義
（2）現地視察
　①　卯辰山公園及び周辺エリア（ひがし茶屋街など）
　②　大乗寺丘陵公園及び周辺エリア
（3）意見交換
　「都市公園の利活用や魅力向上のアイデア」について
（4）講評

ひがし茶屋街

参加者同士で自由に意見交換をします！

○　参加を希望される場合は、下記までご連絡をお願いします

全国地域づくり人財塾　フォローアップ研修北陸支部　相澤
電話：０９０－４３２１－７４２４　メール：kombai-21@outlook.jp

４．中部フォローアップ研修リーフレット

～その後から始まる物語～
トークセッション

より良い地域づくりを行うために不可欠な「人財力の強化」を図るため、
総務省では「全国地域づくり人財塾」を開催しています。
全国津々浦々から集結し「人財塾」を受講した修了生。
それぞれの地域に戻り「人財」として体験した冒険の物語を語り合います。
物語には、ピンチやチャンス、賢者やドラゴン…様々な出会いが付き物！
今回は「翻訳こんにゃく」のスキルを持つ前神有里氏をゲストにお迎えし
「人財塾」を受講した「その後から始まる物語」を語り合います。
トークセッションに参加して、あなたの物語に１ページを加えてみませんか？

日 時
１０月４日（金）
午後７時から

場 所
末廣寿司
（愛知県津島市本町１丁目６６番地）

会 費
５千円（食事・飲み物付）

ゲストスピーカープロフィール
（一財）地域活性化センター
人材育成プロデューサー
前神 有里（まえがみ ゆり）氏

29年間県職員時代に、地域包括ケア・虐待防止を担当したことをきっかけに地域に深く関わるようになり、その後地域担当職員として市町・地域おこし協力隊・地域の人とともに地域づくり取り組んでこられました。2018年4月から現職。

県職員経験をもとに、公務員が「職務経験を地域で生かす」「地域での経験を職務で生かす」ためのポイントを、また、地域活性化センターでのご経験をもとに、課題解決から入らない新しい価値創造型の地域づくり・人材づくりの事例についてお話いただきます。

定員 ２０名
（先着順）

お申込み・お問合せ
愛知県津島市役所 市民協働課 植木
TEL 0567-55-9298 E-mail community@city.tsushima.lg.jp

地域資源の発見から地域の可能性を考える

参加費無料
定員70名

全国地域づくり人財塾～東海地域フォローアップ研修～

より良い地域づくりを行うために不可欠な「人財力の強化」を図るため、総務省の「全国地域づくり人財塾」を受講した修了生を中心に、フォローアップ研修を開催します。

人財塾受講修了生に限らず、**地域づくりを実践する方、これから始めようとする方と共に学ぶ**ことにより、それぞれのスキルアップを図りたいと思いますので、ぜひ、気軽にご参加ください！！

また、同日午前中には、まち歩き意見交換を開催します。津島の街並みを歩きながら、それぞれの気づきを交換してみませんか？

日 時
１０月５日（土）
午後１時30分～４時
（会場：午後１時１５分）

場 所
津島市文化会館
２階 視聴覚室
（愛知県津島市藤浪町
3-89-10）

講師プロフィール
（一財）地域活性化センター
人材育成プロデューサー
前神 有里（まえがみ ゆり）氏

29年間県職員時代に、地域包括ケア・虐待防止を担当したことをきっかけに地域に深く関わるようになり、その後地域担当職員として市町・地域おこし協力隊・地域の人とともに地域づくり取り組んでこられました。2018年4月から現職。

県職員経験をもとに、公務員が「職務経験を地域で生かす」「地域での経験を職務で生かす」ためのポイントを、また、地域活性化センターでのご経験をもとに、課題解決から入らない新しい価値創造型の地域づくり・人材づくりの事例についてお話いただきます。

【オプション】
～まち歩き意見交換～
集合時間
午前 9時30分（雨天中止）
集合場所
津島市観光交流センター
（愛知県津島市
本町1-52-1）

申込み・お問合せ ： 愛知県津島市役所 市民協働課 植木
TEL：0567-55-9298　E-mail community@city.tsushima.lg.jp

５．西日本フォローアップ研修リーフレット

地域版人財塾

フォローアップ研修

都市型公園でのＰＡＲＫ-ＰＦＩを学ぶ

in 関西

令和元年９月７日（土）　１２：００～１９：００
万博記念公園＆千里南公園

９月８日（日）　１０：００～１２：００
大阪城公園

参加費各日　￥１，０００円（懇親会費　別途￥５，５００円）

総務省が主催する「全国地域づくり人財塾」のフォローアップ研修を関西で開催します。
内閣府地域活性化伝導師 富永一夫さんをお招きし、都市型公園でのパークマネージメント・ＰＡＲＫ-ＰＦＩ・都市型公園の防災拠点・環境教育・シルバー人材の活用方法などについて学びます。

スケジュール

９月７日（土）

１２：００　万博記念公園　自然文化園　中央口前　集合
　　万博記念公園を視察見学
１５：００　参加者同士の地域づくりの意見交換会
１７：００　千里南公園を視察見学
１７：３０　千里南公園内レストラン Bird Tree にて懇親会
　　※懇親会費は別途￥５，５００円必要となります
１９：００　一日目プログラム終了

９月８日（日）

１０：００　大阪城公園駅前　集合
　　大阪城公園内を視察見学
１２：００　二日目プログラム終了

どなたでも参加可能です！

問い合わせ先＆申込み先

ＮＰＯ法人すまいるセンター　西上宛
携　帯：０９０-３９２６-５７２４
ＦＡＸ：０７２－２９９－２８０３　or　E-mail：671002yn@iris.eonet.ne.jp

氏名　　連絡先

住所

団体名

連絡先（E - mail）

参考資料３．全国地域づくり人財塾修了生地域づくり活動調査

１．全国地域づくり人財塾修了生地域づくり活動調査アンケート票

全国地域づくり人財塾修了生　地域づくり活動調査

○回答方法

青色セル　回答選択式です。あてはまるものに「○」、または「はい」・「いいえ」等を選択してください。（プルダウンリストから選択）
「その他」を選択した場合は、緑色のセルに具体的な内容をご記入ください。

緑色セル　文字、数字を直接記入してください

※ご回答いただいた内容は、データとして集計・処理しますので、記入した文字がセル内に入りきらない（隠れてしまう）場合でも、当該セル内にデータが入力されていれば、特にセルの拡大等はしなくて構いません。

人財塾で得られた成果についておうかがいします。

問1　最初に貴方ご自身のことについてお伺いします。下記欄にご記入ください。

お名前	
年齢	
性別	
自治体名	
現在のご所属	
現在のお役職	
電話番号	
e-mail	

※民間企業、NPO等の方は、「自治体名」の欄に企業名、団体名をご記入ください。

問2　全国地域づくり人財塾（以下、「人財塾」という。）を**受講した理由**についてお伺いします。
下記の選択肢から該当するもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）

	回答欄（あてはまるもの全てに「○」）	
1 人事担当部署からの要請・命令		
2 当時の上長からの要請・命令		
3 庁内の地域づくり関係者からの紹介		
4 地域づくり団体やNPOからの紹介		
5 募集要項（MLを含む）を見て		
6 人財塾の修了生からの紹介		
7 従前から受講してみたいと思っていた		
8 その他		具体的な内容：

問3　人財塾の受講により、貴方の**意識**は変化しましたか。
「はい」、「いいえ」のどちらでお答えください。

回答欄	
はい	「いいえ」とご回答の方は、問5にお進みください。

問4　人財塾の受講により、貴方の**意識**は何が変化しましたか。
下記の選択肢から該当するもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）

	回答欄（あてはまるもの全てに「○」）	
1 地域の見方・考え方が変わった		
2 やる気、元気が出た		
3 活動の企画、行動のヒント・アイデアが生まれた		
4 改めて地域のことを学ぶ気持ちが生まれた		
5 地域の人とのコミュニケーションに対する意識・認識が変わった		
6 人的ネットワークの大切さを感じた		
7 これからも「地域活動」にかかわり続けたいと思った		
8 その他		具体的な内容：

（注）「地域活動」…ここでいう「地域活動」とは、産品開発やまちづくりなど地域の活性化に係る直接的な活動のほか、子ども会や自治会活動の手伝い、バザーや募金への協力など間接的・個人レベルの活動も含みます（ただし、自身が趣味を楽しむ活動は除く）（以下、同様）

問5　人財塾の受講により、貴方の**行動**は変化しましたか。
「はい」、「いいえ」のどちらでお答えください。

回答欄	
	「いいえ」とご回答の方は、問7にお進みください。

問6　人財塾の受講により、貴方のどのような**行動**をとっていますか。
下記の選択肢から該当するもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）

	回答欄（あてはまるもの全てに「○」）	
1 新たな「地域活動」を計画している		
2 新たな「地域活動」を始めた		
3 従来から行っている「地域活動」の見直し等を行った		
4 人財塾で得た知見を同僚・部下、関係者に教えている		
5 「地域活動」に関する勉強会に参加している		
6 「行動宣言」を実践している		
7 自分の知見やネットワークを後任者に引き継いだ		
8 その他		具体的な内容：

（注）「行動宣言」…研修最後の振り返りで発表もしくは整理した、自分が現場で取り組むべき具体的な行動

問7　どのような仕組みが人財塾にあると、**受講意欲が高まる**と思いますか。下記の選択肢から該当するもの全てに○をつけてください。
（○はいくつでも）

	回答欄（あてはまるもの全てに「○」）	
1 修了証発行の事前周知		
2 修了生ネットワークの周知		
3 ステップアップ研修の周知		
4 自主勉強会（フォローアップ研修）の周知		
5 修了生からの受講の呼びかけ		
6 自治体職員による多彩な活動紹介		
7 修了生に対する資格制度・段位制の導入		
8 その他		具体的な内容：

問8　人財塾受講の成果を活かして**取組を改善した、あるいは新たに計画した、もしくは新たに取り組んだ「地域活動」**についてお伺いします。
その事業概要について下記にご記入ください。
無い場合は、「事業の名称」の欄に「なし」とご記入ください。

事業名称			
活動の分野			具体的な分野：
活動エリア			
事業主体の属性			具体的な属性：
活動概要 記載例のように、活動概要と経緯がわかるよう箇条書でご記入ください。	記載例： ●NPO法人と大学との連携により、地域力・市民力向上のための研修及び実践事業を平成◆年度からスタートさせた。 ●初年度はワークショップやまち探検、座学により地域づくり手法の学習と地域課題の把握を行う。研修は月1回、休日午後に行う。 ●2ヶ年度は、前年度に明らかにした地域課題等を解決する地域協働の組織と活動を検討するとともに、実際に組織を立ち上げ、地域課題を解決する具体の事業を開始した。 ●3ヶ年度も引き続き住民協働事業の活動を行いつつ、地域の要望を踏まえて地域や組織の枠を超えた交流会をスタートさせた。 ●4ヶ年度に、人事異動のため業務外となったが、住民同士の交流会に参加しながら引き続き「地域活動」に従事している。		
活動実績 定量的な指標を箇条書きにご記入ください。	記載例 ●実施：イベント等実施数、開発品数、製造数、提供したサービス数、販売数・額、利用者（来場者）数、整備面積…etc ●協力：ボランティア数、ボランティア時間数、寄付者数・寄付金額、後援・協賛者数、提供された物品数…etc ●反響：問合せ数、新聞・媒体等への掲載数、講演依頼数、視察者数…etc		
関係者の規模（スタッフ等の数）		人	団体
参加者の規模（集客・参加者等）		人	団体
人財塾の成果を活かした点			

問9　問8で記載された「地域活動」を人財塾で**報告（または発表）**していただくことは可能ですか。
（○は一つ）

	回答欄（あてはまるもの**一つ**に「○」）		
1 発表したい			
2 いずれ発表したい		発表できる時期：	年度以降
3 発表したくない			

※ 1または2と回答された方の「地域活動」につきましては、修了生の取組事例として、報告書にて紹介させていただきます。

現在行っている「地域活動」の課題についてお伺いします。

問10　貴方は現在、「地域活動」を行っていますか。
「はい」、「いいえ」のどちらからでお答えください。

回答欄	
	「いいえ」とご回答の方は、問15にお進みください。

（注）「地域活動」…ここでいう「地域活動」とは、産品開発やまちづくりなど地域の活性化に係る直接的な活動のほか、子ども会や自治会活動の手伝い、バザーや募金への協力など間接的・個人レベルの活動も含みます（ただし、自身が趣味を楽しむ活動は除く）

問11　貴方が現在、行っている「地域活動」で感じているご自身の**問題意識・課題**についてお伺いします。下記の選択肢の中から該当するもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）

	回答欄（あてはまるもの全てに「○」）	
1 「地域活動」の理論や哲学が脆弱		
2 計画作成や効果測定などマネジメント知識・経験の不足		
3 熱意や意欲の低下		
4 行っている「地域活動」の専門知識・経験の不足		
5 六次産業化や福祉等の専門情報の入手先が不明		
6 相談相手やサポート体制がない		
7 一緒に活動してくれる人がいない		
8 問題意識や課題は特にない		
9 その他		具体的な内容：活動してくれる人の減少

問12　問11でお答えになられた問題意識や課題の**解消の方法**についてお伺いします。下記の選択肢の中から該当するもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）

	回答欄（あてはまるもの全てに「○」）	
1 参考文献を読むなどの独学		
2 先輩や地元関係者への相談		
3 自主勉強会の開催		
4 人財塾講師の招聘		
5 人的ネットワークを使った応援依頼		
6 アドバイザー等専門家の招聘		
7 研修会への参加（■■セミナー、●●塾など）		
8 先輩修了生との意見交換・情報交換		
9 その他		具体的な内容：問題は解決していません。

問13　問12で「7. 研修会への参加」とお答えの方にお伺いします。**受講された研修**の名称、学習内容について具体的にご記入ください。

1 名称	
2 学習内容	

問14　貴方ご自身、あるいは、地域の「地域活動」に対するモチベーション維持に向け、**人財塾の場の活用**についてお伺いします。
下記の選択肢の中から該当するもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）

	回答欄（あてはまるもの全てに「○」）
1 人財塾の場で自らの活動を発表すること	
2 近隣地域の修了生有志等が集まった勉強会で自らの活動を発表すること	
3 SNSやホームページ、人財塾教材等で自らの活動が紹介されること	
4 人財塾講師等に自らの活動地域を訪問してもらうこと	
5 人財塾（フィールドワーク型）の訪問地として自らの活動地が選ばれること	
6 SNSやホームページで他の修了生の活動状況を知ること	
7 メーリングリスト等で定期的な情報提供を受けること	

貴方が今後、受講したいと考える研修についてお伺いします。

問15　全ての方にお伺いします。貴方が今後受講したいと考える**研修内容**についてお伺いします。
下記の選択肢の中から該当するもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）

	回答欄（あてはまるもの全てに「○」）
1 地域住民のモチベーションの上げ方や合意形成手法など住民協働に関する知識や技法を学ぶ研修	
2 事業計画づくりや効果測定などマネジメントに関する知識や技法を学ぶ研修	
3 地域コーディネートに関する知識や技法を学ぶ研修	
4 それぞれの「地域活動」の課題を取り上げ、その解決法を探求する研修	
5 先進的な事例のケーススタディからハウツーを学ぶ研修	

問16　貴方が今後受講したいと考える**研修のスタイル**についてお伺いします。下記の選択肢の中から該当するもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）。

	回答欄（あてはまるもの全てに「○」）	
1 講義を中心とした研修		
2 講師との対話やディスカッションを中心とした研修		
3 ワークショップや演習を中心とした研修		
4 フィールドワークを中心とした研修		
5 人財塾修了生等による定期的な勉強会的な研修		
6 講師から個別指導が受けられる研修		
7 その他		具体的な内容：

問17　問16で「5. 人財塾修了生等による定期的な勉強会的な研修」とお答えの方にお伺いします。どのような**スタイル**が良いですか。
下記の選択肢の中から該当するもの全てに○をつけてください。（○はいくつでも）

	回答欄（あてはまるもの全てに「○」）
1 同じ問題意識/課題を有した修了生有志等が集まった勉強会	
2 近隣地域の修了生有志等が集まった勉強会	
3 SNSを通じた修了生有志等による勉強会	
4 人財塾の講師がいる勉強会	
5 参加者が互いの活動報告をして相互に学び合う勉強会	
6 新たな「地域活動」を立ち上げることを目的とした勉強会	

問18　貴方が人財塾の受講後に、さらに受講したいと考える研修や人財塾に求めるサポート等についてご自由にご記入ください。

調査事項は以上です。
ご回答いただいたファイルは、ファイル名＋お名前（例：人財塾アンケート（初級編）_名前）で保存し、**9月27日（金）まで**に、**zinzai@vmi.co.jp**　宛に添付ファイルにてお送りください。

２．修了生が人財塾の成果を活かして取り組む地域活動（問８、問９）

※問８（地域活動）の回答者のうち、問９で「発表したい」、「いずれ発表したい」との回答者の取組事例を掲載

名前	滝澤　清	自治体名	一関市	
事業名称	KMY(狐禅寺・みんなして・やっぺし)プロジェクト			
活動の分野	地域経営、協働、自治			
具体的な分野				
活動エリア	集落エリア			
事業主体の属性	行政			
具体的な属性				
活動概要	●平成29年度に狐禅寺市民センターに異動。 ●ごみ焼却場建設計画で住民運動が起こり、分断された地域コミュニティの再生に取り組んでいる。地域協働体の設立が最終目標。 ●平成30年度には、ワークショップを開催し、地域を元気にする事業の提案を取りまとめ、提案実施団体の実行委員会を設立して提案のあった3事業を実施。 ●今年度も継続実施となったものを含め5事業を実施予定。			
活動実績	●実施：H30 3事業(子どもｱﾝｹｰﾄ・サケの稚魚放流・交通安全ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ)。 ●反響：新聞掲載6回、予想を超える参加申込があった。 （予定）R01：5事業(川遊びまつり・サケの遡上観察会・サケの稚魚放流・地域PR動画作成・子どもとの対話ｲﾍﾞﾝﾄ)。			
関係者の規模	87 人	4 団体		
参加者の規模	280 人	団体		
人財塾の成果を活かした点	地域・住民との関わり方や、講義で学んだ成功事例等を参考にさせていただきました。			

名前	古山裕二	自治体名	岩手県雫石町	
事業名称	出張足湯			
活動の分野	起業、産業振興			
具体的な分野	観光振興			
活動エリア	市町村エリア			
事業主体の属性	住民グループ			
具体的な属性				
活動概要	温泉源泉を汲み、まちなかへ提供する「出張足湯」事業を開始した。			
活動実績	●実施：年10回程度、各回10名程度の参加。 ●協力：岩手大学町づくり研究会、鶯宿温泉観光協会との協働。 ●反響：テレビ、新聞等への掲載、他団体イベントからの出張要請。			
関係者の規模	5 人	3 団体		
参加者の規模	100 人	団体		
人財塾の成果を活かした点	地域資源と地域課題を組み合わせて解決する手法を学んだこと。			

名前	寶　鈴子	自治体名	宮城県石巻市	
事業名称	日和なごみ会と放課後こどもクラブBremenの関係づくり			
活動の分野	高齢者福祉、生活支援			
具体的な分野				
活動エリア	市町村エリア			
事業主体の属性	NPO法人			
具体的な属性				
活動概要	高齢者のサロン活動と放課後児童健全育成事業で預かっているお子様との交流を始めた。			
活動実績	●年間10回の地域のサロン活動。 ●年間250日の放課後児童健全育成活動。 ●文部省提唱の年間30回の「放課後子ども教室」。 ●以上をを融合させるべく様々なイベントを実施したほかに地域の中での自然な交流を図った。 ●地域の学童保育についての問題解決のための講演会を行った。			
関係者の規模	13 人	団体		
参加者の規模	2200 人	団体		
人財塾の成果を活かした点	「石巻市の学童保育を考える会」の活動を組織し、講演会を行い成果を上げることができた。			

名前	渡部　博之	自治体名	福島県会津若松市	
事業名称	中山間地域における地域運営組織づくり事業・ICTを活用した永続的な支え合いの中山間地域づくり事業			
活動の分野	地域経営、協働、自治			
具体的な分野				
活動エリア	中学校区エリア			
事業主体の属性	住民グループ			
具体的な属性				
活動概要	会津若松市内の中山間地域である湊地区において、住民・大学・行政の協働によりH 27～行っていた地域運営組織づくりの活動について、様々な分野でのイベントや取り組みの開催、地区計画の策定等、継続しながら深化することができた。 また、地域運営組織づくりと合わせて、地域課題の解決を図るため、地方創生推進交付金を活用し、地域内の情報共有と、地域内交通の取組を、地域住民と行政、事業者との協働により実行した（H28～H30の三ヶ年）。			
活動実績	●第2次湊地区地域づくりビジョンの作成。 ●生活支援システム（テレビと連動した情報配信システム）設置数　401世帯（H3O.3.31時点）。 ●中山間地域内交通利用者数　1，348人（H30年度）。 ●2019年5月　地域内交通（みなとバス）、生活支援システム（みなとチャンネル）の取組が第10回EST交通環境大賞の大賞（環境大臣賞）を受賞。			
関係者の規模	60 人	1 団体		
参加者の規模	人	団体		
人財塾の成果を活かした点	地域住民と目的意識を共有し、役割分担をしながら取組を進めていく点で、人材塾で学んだことが非常に役に立った。			

名前	大石　秀敏	自治体名	福島県白河市	
事業名称	カフェ「さんぽみち」			
活動の分野	その他			
具体的な分野	飲食業。所属する組織がない住民の憩いの場。地方でも、国の縦割り行政通りの組織となっており、団			
活動エリア	都道府県をまたぐエリア			
事業主体の属性	その他			
具体的な属性	個人経営であるが、関係者（友人、賛同者）は地域にも都会にもいる。			
活動概要	平成28年度（地域おこし協力隊活動2年目）の4月から始めた。初めは、地域の草刈から始めた。昔は栄えた陣屋通りを人が往来できるよう、庭の剪定、空き家の草刈、耕作放棄地の開墾をした。埋もれていた蔵カフェを掃除して利用可能にした。地域の若い人に使って欲しかったが、誰もいなかったので、自ら経営することにした。			
活動実績	イベントは、一過性で手伝いをする人は、代わりが効く人ばかりであった。自ら積極的に「次は何をしよう」と言って手伝うイベントは、伝統的な行事（盆祭り、奉納相撲）だけのように感じた。 地域を活性化しようと活動している人の数は、家族も含め地域全体人口の10%でしかないことに気づいた。残り90%は、どう考えているのか声が聞こえなかった。反響（メディア：テレビ3社、新聞2社）はあったが、3カ月しか人は来なかった。閑古鳥が鳴き、経営は苦しくなった。 1．SNS、メディアを頼らぬ方法を模索した。2．地域住民の協力を要請しないことにした。理由は、地域独特の関係性があり、固定したグループと良好な関係でも他のグループからは疎外されると気づいたから。 3．口コミのみを頼りにした。4．マーケッティング（来訪者の地域、属性）をして、地域に特化した活動（昼はカフェ、夜は予約一組へおまかせ料理を提供）をした。一年目は、1500人/年、二年目は2000人/年と増えてきた。地域の利用率は、1年目50%から二年目80%と増えた。3年目（今年は3000人/年目標）はさらに増えると考える。 5．料金設定を地域では安い方にランクされる。ルームレンタル料はいただき、持ち込み（飲食共）可能とした。年間を通して、2500時間働いているが、利益は出ない。 6．お会いした人の似顔絵を描き顔を覚える活動をした。500枚描いた。似顔絵を描いた人との関係は良好となり、6000枚を目指している。 7．注文生産に特化した。メニュー（お好み焼き、ピザ、コーヒー/紅茶など）は注文を受けてから作るものにした。8．夜は、予約一組のみの宴会を始めた。これも注文生産の考えの延長である。			
関係者の規模	2 人	家族　　団体		
参加者の規模	2000 人	無限　　団体		
人財塾の成果を活かした点	あるイベント（例えばマンション主催の祭り）に参加した人が、地域のイベント（祭り、広域の清掃活動）に巻き込まれることを嫌がる。さらに、全国規模となるとさらにその傾向は強くなる。巻き込むことをやめて、「分ける」ことを活動の基本理念とした。横浜や鹿児島の活動が参考になった。八戸市役所が、みずからリスク（一般会計1．5億円赤字）をとった活動が参考になった。補助金のばらまきではなく、市役所の職員が進退をかけた活動をしていた。そこまでやると、住民も地元企業（バス、観光会社＆進出企業）も応援するとわかった。地元に恩返しをしたい人の無償の応援も理解できた。			

名前	福田　英臣	自治体名	栃木県栃木市	
事業名称	「とちのきオフサイトミーティング（とちのきOM）」の立ち上げと運営			
活動の分野	地域経営、協働、自治			
具体的な分野	人的交流、勉強会			
活動エリア	都道府県エリア			
事業主体の属性	行政			
具体的な属性	県庁職員、市町村職員			
活動概要	●2017年10月に、県内5市の若手職員を中心に、県内の自治体職員がネットワーク（横のつながり）を作りながら、「とちぎ」の明日を考え、学ぶプラットフォームとして、「とちのきOM」を立ち上げた。 ●県内の25市町で順に勉強会を開催予定。勉強会は半年に1回を目安に、休日に開催している。 ●各回とも、地域づくりや参加者のスキルアップに役立つようなテーマを設定している。 ●勉強会から派生する形で、有志による研究グループができている（自治体広報、職員研修の2グループ）。 ●各回とも、参加者を自治体職員に限定せず、オープンな勉強会としていることから、大学生や民間企業の官民連携担当者も参加して一緒に学んでいる。アンケートによると、「行政側の行動論理が理解できた」などと概ね好評である。			
活動実績	●実施：勉強会を5回開催（宇都宮市、足利市、栃木市、日光市、下野市で開催）。 ●協力：開催地の市民協働推進センター、宇都宮大学、宇都宮共和大学。 ●反響：下野新聞に掲載（5回）、㈱ぎょうせい『月刊ガバナンス』2019年6月号に活動紹介記事掲載。 ●効果：県内の複数の自治体の職員研修メニューが、勉強会の内容を組み入れる形で変更された。			
関係者の規模	8 人	6 団体		
参加者の規模	50 人	25 団体		
人財塾の成果を活かした点	●人財塾で学んだ「人的ネットワークの大切さ」を形にしたいとの思いから立ち上げた。 ●活動の継続には、「参加者が楽しめたうえで、参加してよかったと思える内容」とすることが重要であると学んだことから、勉強会のテーマは必ず参加者のアンケートから採用している。 ●活動の負担が一人に偏ることのないよう複数幹事制をとって、幅広く協力を得られる体制にしている。			

名前	進野　裕規	自治体名	千葉市	
事業名称	Brew at the Zooの企画、勉強会の企画			
活動の分野	地域経営、協働、自治			
具体的な分野				
活動エリア	市町村エリア			
事業主体の属性	行政			
具体的な属性				
活動概要	■Brew at the Zooの企画 千葉市動物公園でクラフトビールと音楽の祭典、Brew at the Zooを初開催しました。 会場の装飾を千葉大学生と市内小学校と共同で制作したほか、市内企業であるZOZOと連携し、千葉大学生がデザインしたTシャツをインターネット上で販売しました。 ■勉強会の企画 動物園が抱える課題や動物園の活かし方を考えるサロンを市内のカフェで自主的に開催しました。 全国の動物園の有志との協働により「動物園ランドスケープの会」を立ち上げました。			
活動実績	■Brew at the Zooの企画 ●イベント開催期間　平成30年10月20日、21日。 ●開催期間中の来園者数　1日目　7,171人　2日目　9,299人。 ■サロンの企画 ●平成31年3月、4月、5月の計3回開催（参加者のべ60人程度）。 ■動物園ランドスケープの会 ●令和元年11月にシンポジウムを開催（参加者130名程度）。			
関係者の規模	100 人	10 団体		
参加者の規模	約1万6千　人	団体		
人財塾の成果を活かした点	地域の多様な人財をうまく結びつけることを意識してイベントを企画しました。			

名前	松戸　繁和	自治体名	千葉県松戸市	
事業名称	一般社団法人の立ち上げ（任意団体である松戸市観光協会の法人化、運営）			
活動の分野	起業、産業振興			
具体的な分野	観光振興			
活動エリア	市町村をまたぐエリア			
事業主体の属性	その他			
具体的な属性	一般社団法人			
活動概要	●昭和30年に発足した松戸市観光協会の法人化については、平成28年から事務を開始。 ●初年度は、許認可手続き、法人の立ち上げ、既存会員への法人意向の説明、事業計画の作成、行政への説明、予算要求 など。 ●2ヶ年度は、事務所の開設、運営スタッフの確保、県や近隣市の観光協会との連携の模索（近隣市との連携によるバスツアーの開設など）。 ●3ヶ年度は、財源の確保に向けた大型イベントの企画立案（松戸市初となる高速道路開通前のイベントや中心市街地でのホコテンを含めた大型イベントの企画実施など）。 ●4ヶ年度に、人事異動のため農政課に移ったが、現在「全国ねぎサミット」の企画運営について、観光協会をパートナーとし実施中。			
活動実績	●イベント等実施数（来場者数、中心市街地でのイベント開催においては経済効果等）。 ●観光協会等への来館者数。 ●SNSなどでの反響　など。			
関係者の規模	人	団体		
参加者の規模	人	団体		
人財塾の成果を活かした点	特に近隣や民間事業者の連携については、外に出てセールスを実施したことにより、認知度が高まった。			

名前	佐久間　治行	自治体名	東金市	
事業名称	九十九里地域観光推進			
活動の分野	地域経営、協働、自治			
具体的な分野				
活動エリア	市町村をまたぐエリア			
事業主体の属性	住民グループ			
具体的な属性				
活動概要	東金と九十九里の有志と城西国際大学観光学部との連携により、観光推進につながる観光ルートの開発を行おうとするものです。			
活動実績	観光学部生徒3名が、東金・九十九里の観光スポットを回り、その感想及び各施設の改善策等についてレポートしてもらった。			
関係者の規模	7 人	団体		
参加者の規模	人	団体		
人財塾の成果を活かした点	参加者へのモチベーションのもち方について。			

名前	小田　滋朗	自治体名	箱根町	
事業名称	仙石原交差点周辺まちづくり事業			
活動の分野	まちなか再生、集落再生			
具体的な分野				
活動エリア	集落エリア			
事業主体の属性	その他			
具体的な属性	住民グループ・地域企業・行政			
活動概要	●交通事業者から提案のあったバスターミナル計画をきっかけとして、周辺の道路改良計画や都市公園や空き店舗の利活用等について、地域住民や各種事業者、行政との協議を開始した。 ●平成30年度に協議の場として「仙石原まちづくりプラットフォーム」及びその分科会である「ワーキンググループ」を創設し、具体的な協議を進めている。 ●本年9月、地域の目指すべき将来像として「仙石原交差点周辺まちづくりのテーマ」を取りまとめ、テーマに掲げた各事業の実施及び実施に向けた調整を続けている。			
活動実績	●平成30年度から現在までの間、プラットフォーム全体会議を3回、ワーキンググループ会議を7回開催した。 ●まちづくり事業の第1弾として、本年6月にワーキンググループの参加者がマルシェを開催し、約500名の来場者があった。本イベントに際し、町は後援や広報等で協力した。			
関係者の規模	10 人	団体		
参加者の規模	50 人	団体		
人財塾の成果を活かした点	地域がまちづくりへ主体的に関わる動機付け及び関われる状況を作ることの重要性。			

名前	小島　達也	自治体名	糸魚川市	
事業名称	磯部地区地域づくり活動（磯6クラブ）との協働			
活動の分野	少子化対策、子ども福祉			
具体的な分野	こども達への郷土愛醸成ほか			
活動エリア	小学校区エリア			
事業主体の属性	住民グループ			
具体的な属性				
活動概要	●H27から磯部地区で始めた地域づくり活動は、当方が仕掛けてきた事業である。 ●メイン活動が、地区内（6集落）の交流と若者のUターン促進であり、その具体的事業として、毎年8月12日のお盆に開催する地区夏祭りである。 ●過去2回の開催で、そのプレーヤーのほとんどは、40歳未満の若者を巻き込んだが、行事の人足に留まり、主体性に欠ける。 ●夏祭り以外の若者が主体的に取り組む展開が彼らの発案で実施することが望ましく、そこにアプローチした。			
活動実績	●今一度、若者の中で対話してもらい、「地域課題」と「自分たちが得意としていること」「楽しい事」を掛け合わせたワークショップを重ねた。 ●結果、小学校の水泳授業問題（教える先生不足、泳力低下）と若者達（親世代）は泳ぎが得意を掛け合わせて、地元若者たちによる「課外水泳教室」を開催するに至った。 ●わずか、40名弱の全校児童の内、4年生以上16名が参加。若者9名参画。 ●こども達の泳力向上、水泳大会好成績の成果に留まらず、若者が「地域に貢献している」モチベーションUPにつながった。 ●新聞地元紙への掲載があり、同組織内（磯6クラブ）の役員（60歳代）も若者に負けていられないと、地区内アンケートをとって、地域課題解決につながる事業展開を模索中。			
関係者の規模	28 人	1 団体		
参加者の規模	16 人	1 団体		
人財塾の成果を活かした点	それは「やねだん」講師との対話の際に感じたことが発端。やねだんの活動は素晴らしいが、彼とのやり取りの中で、「次のリーダー」と「地域の若者、プレーヤー」の存在が見えなかった。地域づくりの真に重要なことは、“持続可能”かどうかだ。強力なリーダーの元で事業展開できても、その後にどう続くか。それは事業が続くことではなく、ヒトがどう続くかだ。 今回の若者達との対話の根は、そこにある。今必要なのは、強力なリーダーではなく、地域のことを自分事でとらえ、地域と共に活動できる若者であり、その活動の対象は「こども達」である。			

名前	阪野真人	自治体名	若狭町	
事業名称	きやまっこ農園			
活動の分野	社会教育、生涯教育			
具体的な分野				
活動エリア	集落エリア			
事業主体の属性	住民グループ			
具体的な属性				
活動概要	耕作放棄地を活用し、小学校区単位の自治組織が主体となってサツマイモ畑を作り、保育所に呼びかけ、園児や保護者と一緒に苗植えや収穫、食べるイベントを行っている。 収穫したサツマイモは、一部保育所に有償で提供し、集まったお金で絵本や落ち葉を集める熊手などを保育所に寄附している。			
活動実績	●毎年の参加人数：自治組織：延25人／一年、園児：延32名。 ●寄付内容：絵本5冊、熊手2本。			
関係者の規模	人	団体		
参加者の規模	人	団体		
人財塾の成果を活かした点				

名前	池田　剛	自治体名	木島平村	
事業名称	むらびとサロン			
活動の分野	地域経営、協働、自治			
具体的な分野				
活動エリア	市町村エリア			
事業主体の属性	NPO法人			
具体的な属性				
活動概要	空き店舗をリノベーション。地域住民や村外者が集えるサロンを毎月開催。日中は高齢者のサロンや駄菓子屋、学習スペース、イベント会場、カフェ、チャレンジショップ等開催予定。アイデアを引き出し、形にしていく場づくりを実践中。			
活動実績	●むらびと酒場：年12回。 ●オープンミーティング：年12回。 ●こどもカフェ：10回予定。 ●リノベーション工事：参加大学生のべ40人。			
関係者の規模	10 人	団体		
参加者の規模	20 人	団体		
人財塾の成果を活かした点	声をひろう仕掛け、希望を育てる実践的姿勢・実践研究など。			

名前	江上昇	自治体名	尼崎市	
事業名称	①「公務員と語る、公務員を語るKANSAI」主催 ②「お笑い行政講座」の運営			
活動の分野				
具体的な分野				
活動エリア				
事業主体の属性				
具体的な属性				
活動概要	①公務員と公務員志望の学生との対話イベント「公務員と語るKANSAI」を自主研修グループの主催で実施。 ●市、大学の協力を取り付けて連携して開催。 ②お笑い行政講座の運営 ●堅苦しい行政課題について、漫才でわかりやすく説明するなどの事業を実施。			
活動実績	①120人参加。その後、地方公務員になる学生や自治体のインターンになる学生も。 ②現在、年間50公演ほど。町会や商店街、大学等の学校、公務員を対象とした講演など。 ●月刊ガバナンスにて「誌上版！お笑い行政講座」連載中。 ●公務員のイメージを変える、公務員の価値観を変える、公務員の行動を変える、をミッションに活動。			
関係者の規模	20 人	3 団体		
参加者の規模	120 人	3 団体		
人財塾の成果を活かした点	講師の行動力、突き抜ける力、やり抜く力、人の巻き込み方、人の動かし方、受け入れられる価値観やエッジの立て方などを参考に。			

名前	田中博之	自治体名	奈良市	
事業名称	「さとやま民泊」事業			
活動の分野	起業、産業振興			
具体的な分野				
活動エリア	市町村をまたぐエリア			
事業主体の属性	地域企業			
具体的な属性				
活動概要	住宅宿泊事業を活かした地域振興事業を奈良市の中山間地において推進している。 その中で、地域の旅行会社と連携協定を結び、従来のPRだけではなく、消費者から問合せがあった場合や募集型の企画旅行として販売していく仕組みを構築している。			
活動実績	●実施：奈良市東部地域ポータルサイト「ならのはるをめざして。」の開設 https://naranoharu.jp/ コンテンツ提供者約50件。 ●反響：メディア掲載5誌、募集型企画ツアー1件（催行率100%）。			
関係者の規模	人	団体		
参加者の規模	人	団体		
人財塾の成果を活かした点				

名前	黒瀬国之	自治体名	岡山県美咲町	
事業名称	芝ふぇすin美咲町芝生広場			
活動の分野	社会教育、生涯教育			
具体的な分野				
活動エリア	市町村エリア			
事業主体の属性	その他			
具体的な属性	有志の実行委員会			
活動概要	●遊休化していた、公共の広場を活用し、子供がフリーマーケットメインとしたイベント「芝ふぇす」を2018年12月16日開催した。 ●メンバーは、役場の後輩や、若手の農家、移住者など様々な業種の方と実行員会を立ち上げた。 ●子供フリマ、大人フリマと地元のパン屋さんなんど１８店舗ほどの出店を募ることができた。			
活動実績	第2回を企画中。			
関係者の規模	8 人	1 団体		
参加者の規模	100 人	団体		
人財塾の成果を活かした点	申請など行政が得意な部分をフォローした。			

名前	橋本英一	自治体名	松山市	
事業名称	五明の里活性化プロジェクト			
活動の分野	まちなか再生、集落再生			
具体的な分野				
活動エリア	集落エリア			
事業主体の属性	その他			
具体的な属性				
活動概要	●地域の魅力発信拠点の整備～古民家「ふれ愛の舘」の環境整備し、陶芸など地元作家の拠点を確保。 ●高齢者の買い物・通院支援～2020年3月までの「おためし事業」として、送迎支援を実施中。 ●五明の里生活博物館構想の推進～地域ブランディングとしての展示会開催と、地域の観光整備中。 ●「ものづくりの里」ブランド創出～地元作家の指導と、イベントを週3回実施中。陶芸の里山を目指す。 ●ご当地まかない料理の創作～地域の根菜類や果実を使用した名産メニューを現在開発中。			
活動実績	●実施済み：坂の上の雲ミュージアムにおける地域アピールの展示会開催。その他、週3回のモノづくり。イベント随時。病院・買い物への送迎支援、地域名産メニュー開発中。 ●実施主体を五明地区まちづくり協議会とし、地域住民の皆様に協力依頼。 ●新聞、ラジオなどのメディアでも掲載され、シルバー人材センターや各種団体からも問い合わせ多数。			
関係者の規模	10 人	1 団体		
参加者の規模	40 人	1 団体		
人財塾の成果を活かした点	公民館行事のようなトップダウンの地域づくりではなく、住民自らの意思で積極的参加のボトムアップの地域づくりを意識いたしました。			

名前	松尾秀平	自治体名		
事業名称	アジフライサンドイッチの開発			
活動の分野	地域経営、協働、自治			
具体的な分野				
活動エリア	市町村エリア			
事業主体の属性	地域企業			
具体的な属性				
活動概要	●アジフライサンドイッチを2019年10月に開始。アジフライの聖地として2019年に宣言を行った松浦市。しかし、マップに乗っているお店は半分くらいは夜営業のみ。また昼も14時にはランチが終わっている。選択肢もほとんどは定食で持ち帰りができない。 ●そのため14時～18時の時間帯をカバーし、また選択肢の幅ができるようにアジフライサンドイッチを開発した。			
活動実績	平日1日20～30個。休日は50個を目標とする。			
関係者の規模	3 人	団体		
参加者の規模	人	団体		
人財塾の成果を活かした点				

名前	金田　博	自治体名	上天草市	
事業名称	IoT農業			
活動の分野	起業、産業振興			
具体的な分野				
活動エリア	集落エリア			
事業主体の属性	その他			
具体的な属性				
活動概要	●農業担い手不足補完、軽農作業化、食の安全性向上、高収益性達成に寄与するコンピュータシステム開発・構築と実証実験に基ずくその証明。			
活動実績	●コンピュータハードウェアは低価格ボード（約5,000円）コンピュータを使用。ソフトウェアは自前で開発（ほとんど0円）。			
関係者の規模	1 人	団体		
参加者の規模	1 人	団体		
人財塾の成果を活かした点	●継続できるやる気の発揮。			

名前	米川博子	自治体名	熊本県和水町	
事業名称	新商品開発（既存のNagomi大豆Coffeeを使った新商品）			
活動の分野	起業、産業振興			
具体的な分野	6次産業化、商品開発			
活動エリア	市町村エリア			
事業主体の属性	住民グループ			
具体的な属性	地域づくり団体			
活動概要	●町内の住民グループが自主財源確保、雇用創出、休耕地活用を目的に6次産業化を企画。 ●商品開発担当として上記グループと一緒に活動、H29に商品化。 ●現在は自主財源で運営できるまでになっている。 ●新商品を出すべく、町内の女性酪農家とタッグを組み、現在試作している。			
活動実績	●H30年度優良新商品表彰事業で『優良新商品賞』受賞（熊本県物産振興協会）。 ●BSフジ『世田谷ベース』に少しだけ取り上げられる。 ●『九州ローカルハッピーアワード2018』団体部門グランプリ受賞。 ●H31．3～5月、国内大手航空会社国際線FC機内食の材料に。 ●2年目の売上高は前年比195%を記録。			
関係者の規模	8 人	1 団体		
参加者の規模	人	団体		
人財塾の成果を活かした点	●活動している地域住民が誇りを持てるよう、アワード等の具体的に目に見えるフィードバックを心掛けた。 ●他の地区の人材、地域づくり団体とも積極的に情報交換、交流するようになった。			

名前	古閑　裕子	自治体名	甲佐町	
事業名称	地域のつどい			
活動の分野	高齢者福祉、生活支援			
具体的な分野				
活動エリア	市町村エリア			
事業主体の属性	住民グループ			
具体的な属性				
活動概要	住民主体での介護予防活動。			
活動実績	●地域のつどいの開催数。 ●介護予防サポーター数。			
関係者の規模	人	団体		
参加者の規模	人	団体		
人財塾の成果を活かした点	住民主体での活動の視点。			

名前	鈴嶋　孝将	自治体名	熊本県氷川町	
事業名称	地域の歴史文化の教育・啓発活動（氷川町歴史研究会）			
活動の分野	社会教育、生涯教育			
具体的な分野	歴史文化			
活動エリア	市町村エリア			
事業主体の属性	住民グループ			
具体的な属性				
活動概要	町内の歴史愛好家により4年前に「歴史研究会」を発足した。 地域づくりには、地域固有の歴史や文化への理解が不可欠であるとの考えのもと、文化財行政への協力や歴史文化への理解促進を目的に活動している。 私以外の会員は大学等で専門的に学んだわけではなく、これまでは、会員だけの視察研修や勉強会が活動の中心であった。 今年度以降は冊子の発行や講座など対外的な活動を積極的に行っていく計画である。			
活動実績	●氷川町文化祭での「まが玉づくりコーナー」の実施：過去3年で延べ100人程度の参加。 ●学校行事での史跡巡り：毎年30人ほど参加。保護者も含めて地域の歴史を知らない人が多く、好評を得ている。 ●地域イベントでの史跡ツアー：不定期だが昨年度2回実施し、町内外から20名ほど参加。熊本市から参加の夫婦には、「小さいけど、魅力あふれる町ですね」と好評をいただいた。			
関係者の規模	人	団体		
参加者の規模	人	団体		
人財塾の成果を活かした点	講師の一人、森山奈美さんがおっしゃった「地元の『青柏祭』を残すためにまちづくりをやっている」というような言葉が印象に残っていて、いくら医療や利便性が良くても条件が同じなら、結局は歴史文化や思い出の風景などをしっかり守ることが住む人の心を豊かにすると思います。そのような思いで歴史文化を守り伝えていく活動を続けていきたいと思っています。			

名前	足立　達哉	自治体名	大分県　竹田市	
事業名称	限界集落の地域づくり			
活動の分野	社会教育、生涯教育			
具体的な分野				
活動エリア	都道府県をまたぐエリア			
事業主体の属性	その他			
具体的な属性	自治会			
活動概要	●H28年度より集落内にある集会施設を地域間交流が出来る合宿施設として開放した。 ●H30年度全国高校駅伝優勝校が夏合宿を15日間実施。集落の応援体制も出来てきた。			
活動実績	●H29年度：延施設整備。 ●H30年度：延視察受入、冬のイルミネーション。 ●R1年度：チェーンソーアート。			
関係者の規模	10 人	1 団体		
参加者の規模	0 人	0 団体		
人財塾の成果を活かした点	行政に頼りきりにならない地域づくりの実践。			

参考資料４．人材力活性化研究会

１．第 24 回人材力活性化研究会

第２４回　人材力活性化研究会

議事次第

○　開催日時：書面開催

令和２年３月２日（月）～９日（月）までの間にご確認をいただき、ご意見等をいただきたいと存じます。

○　開催場所：書面開催

○　議事

１.「全国地域づくり人財塾」実績報告について
２.「全国地域づくり人財塾」修了者の地域づくり活動調査について
３．令和２年度「全国地域づくり人財塾」実施計画及びカリキュラムについて
４．人材力活性化研究会の休止について
５.「人材力活性化に関する調査研究事業」報告書骨子（案）について
６．その他

○　配付資料

・ 資料１－１　「全国地域づくり人財塾」（＠ＪＩＡＭ）
・ 資料１－２　「全国地域づくり人財塾」（地方開催 in 金沢）
・ 資料１－３　「全国地域づくり人財塾」（＠ＪＡＭＰ）
・ 資料１－４　「地域づくりセミナー」（＠自治大学校）
・ 資料２　「全国地域づくり人財塾」フォローアップ研修について
・ 資料３　「全国地域づくり人財塾」事例報告者の地域づくり活動事例調査報告
・ 資料４　「全国地域づくり人財塾」修了者の地域づくり活動調査報告
・ 資料５　令和元年度の課題と令和２年度の展開について
・ 資料６　令和２年度における人財塾の展開（案）
・ 資料７－１　令和２年度政策・実務研修「全国地域づくり人財塾」（＠JIAM）の時間割
・ 資料７－２　令和２年度「全国地域づくり人財塾（自治大学校）」（案）
・ 資料７－３　令和２年度「全国地域づくり人財塾」（＠JAMP）のカリキュラム（案）
・ 資料８　人材力活性化研究会の休止について
・ 資料９　「人材力活性化に関する調査研究事業」報告書骨子（案）
・ （参考１）　「全国地域づくり人財塾」開催状況
・ （参考２）　令和元年度「全国地域づくり人財塾」（＠JAMP）のカリキュラム

「全国地域づくり人財塾」@JIAM

資料1－1

開催日時・会場

令和元年5月8（水）～10日（金） 全国市町村国際文化研修所

参加者の状況

参加者数 37名（自治体職員29名、その他8名） 定員：50名

研修概要

○ 人材力活性化研究会構成員が実践事例を基に研修及び直接対話を実施
○ 外部講師 齋藤 潤一氏（一般財団法人こゆ地域づくり推進機構代表理事）
高橋 邦男氏（一般社団法人こゆ地域づくり推進機構事務局長）
○ 事例報告者 高橋 浩樹氏（北海道岩見沢市）
伏喜 マリエ氏（富山県氷見市）

受講生の声（アンケートより抜粋）

●グループ分けが毎日異なりほぼ全員と話ができて良かった。既受講者からの報告が具体性が表れていて非常に良かった。
●グループトークについて。その日に学んだことはその日のうちに発表できると更に深まって良いと思った。グループで話し合う時間を設けていただいたことで、いろんな方と話すことができました。ありがとうございました。
●3日間という期間はあまりに短く、せめて5日間ぐらいはほしかったです。また、ワークショップなどで受講生間のコミュニケーションを取れる仕掛けもほしかったです。
●振り返りのグループトークの時間をもう少し取っていただけたら良かったと思います。
●グループワークの時間がもう少しあってほしいです。（その日の振り返りにも＋受講生の話を聴く時間にもなるので。）講師の先生方のパワフルさに圧倒されながらも、皆様に共通することは場づくりであると知ることができました。3日間ありがとうございました。
●施策に反映させるためには理論の裏付けが必要。行政側の視点も踏まえた事例紹介は参考になりました。行動宣言は、全体発表より、グループ内で発表した方が良いように思いました。
●講師の方たち、参加者も大変素晴らしく、これからの自分の考えに対して大変刺激を受けた。もう少し講師や参加者と意見交換したかった。研修内容に対して日程が短いと感じた。このような研修を継続してほしい。

「全国地域づくり人財塾」in金沢

資料1－2

開催日時・会場

令和元年7月18（木）～19日（金） 金沢市文化ホール （石川県金沢市）
7月20（土） フィールドワーク（石川県七尾市）

参加者の状況

セミナー参加者数 47名（自治体職員27名、その他20名） 定員：70名
フィールドワーク参加者数 10名（自治体職員4名、その他6名） 定員：20名

研修概要

○ 人材力活性化研究会構成員が実践事例を基に研修及び直接対話を実施
○ 外部講師 多田 喜一郎氏（春蘭の里代表理事）
森山 奈美氏（株式会社御祓川代表取締役）

受講生の声（アンケートより抜粋）

●研修を伺って、一つ自分の中で新しい思いつきが生まれました。集落支援員の任期後どうやって定住するかのヒントをたくさん得ることができたのが良かったです。直接対話の時間（2コマ）を設けてもらったのは、非常に効果的でした。10年間続いているということなので、また課題を見つけて参加します。
●直接対話の時間を短くして、他の講師の方とお話しができれば良いと思いました。
●実践論を学び参考になった。今後情報交換（フェイスブック）して情報を取り入れることができ、今後の活動に実践できるのが良かった。
●意識が高く行動力のある講師の方々のお話は大変勉強になりました。参加者同士の交流がもっとあると良かったと思います。
●日々の業務で、地域づくりにおける課題にぶつかっていたので、講義や、直接対話で解決策のためのヒントを得ることができたので、今後の業務に活かしていきたい。
●講師が全員参加する交流会は良かったです。たくさんしゃべることができました。
●せっかくの講義、直接対話での記録が残せていないのでは？できれば、ビデオまたは録音していただき、内容をまとめて、ネット等で見れるようにしていただければ、理解度が進む。直接対話できなかった講師の内容も知ることができる。

「全国地域づくり人財塾」in金沢（フィールドワーク）

開催日時・会場　令和元年7月20（土） フィールドワーク（石川県七尾市）

参加者の状況　フィールドワーク参加者数　10名（自治体職員4名、地域おこし協力隊等5名、その他1名）

研修概要
- ○ 受講者有志（事前申込）により株式会社御祓川の取組を視察。
  御祓川の活動の舞台となった能登食祭市場、一本杉通り商店街を視察。
- ○ 外部講師　森山　奈美氏（株式会社御祓川代表取締役）

時間	内容
8:00～8:30	JR金沢駅集合・出発
10:00～12:00	能登食祭市場視察
12:00～13:00	昼食
13:00～14:30	一本杉通り視察（各店舗における取組視察）
14:30～15:30	株式会社御祓川におけるグループワーク（ふりかえりワーク）
15:30～17:00	移動・JR金沢駅解散

一本杉通り視察

一本杉通り視察（各店舗におねる取組視察）

御祓川におけるグループワーク（ふりかえりワーク）

「全国地域づくり人財塾」@JAMP

資料1－3

開催日時・会場　令和元年9月18（水）～20日（金） 市町村職員中央研修所(市町村アカデミー)

参加者の状況　参加者数　67名（自治体職員61名、その他6名） 定員：80名

研修概要
- ○ 人材力活性化研究会構成員が実践事例を基に研修及び直接対話を実施
- ○ 外部講師　西村　浩氏（株式会社ワークヴィジョンズ代表取締役）
- ○ 事例報告者　神山　伸一氏（公益財団法人小平市文化振興財団）
  豊山　希巳江氏（千葉県山武市）

受講生の声（アンケートより抜粋）

- ●様々な自治体の方々と情報共有することができたこともとても有意義な研修だった。
- ●全国の市町村だけでなく各団体の方、こんなに多くの方と出逢うことがないので、大変刺激になった。有意義であった。
- ●熱い方々のお話を伺うことができ、非常に刺激を受けた。
- ●この研修に参加することができたことが私にとって、今後の公務員の業務に大きな影響があると実感できる内容であり、すぐに実践していきたいことばかりでした。このような場を提供していただいたことに感謝したい。
- ●公務員同士、同じ悩みを持っている仲間として、公務の参考となる話を伺えた事で、たくさんの気付きと解決のための方向性を示していただきモチベーションのupにつながりました。職場の仲間にも、受講を勧めます！
- ●地域づくりとは何なのか、といった基本的な事を模索していたが、本当に納得できる研修内容で理解度がとても上昇した。モヤモヤが解消したので、今後の業務にとても役に立つ研修だった。
- ●参加者がみな真剣に考え、取り組んでいたため、議論も活発であり、大変有意義な内容であったと思う。

「地域づくりセミナー」@自治大

資料1－4

開催日時・会場　令和2年1月17日（金）～22日（水）　自治大学校
（地域づくりセミナー　14日（月）～22日（金））

参加者の状況　参加者数　21名（自治体職員16名、その他5名）　定員：80名

研修概要
- ○ 人材力活性化研究会構成員が実践事例を基に研修及び直接対話を実施
- ○ 課題解決に向けた班別検討、発表
- ○ 外部講師　吉田　博詞 氏（株式会社地域ブランディング研究所代表取締役）
  藤井　裕也 氏（特定非営利活動法人山村エンタープライズ代表）
  指出　一正 氏（月刊「ソトコト」編集長）

受講生の声（アンケートより抜粋）

- ●今回の地域づくりセミナー演習である課題解決に向けた班別行動では、班の考え方（解決策等）を模造紙での記入で良いとの事で、班の中でじっくり考え方を練ることができました。最近の他の研修では、パワーポイントでのプレゼンをしないといけない事が多く、資料の作り込みに時間をかけてしまいがちな研修もあったことから、次年度以降も同じように続けて欲しいと感じています。
- ●強いて挙げるなら、最後の講評は、発表コメントと総評をまとめても良かったかなと思いました。短期間でしたが、楽しく学ばせていただきました。ありがとうございました。
- ●1つのテーマについてじっくりと話し合うという点では、もう少し演習の時間をいただきたかったように思います。
- ●講師の方の人選が素晴らしかった。とても有意義な研修を受けることができまた。ありがとうございました。
- ●講師の先生から多くの知識を学べて良かったです。講義、直接対話、演習といろいろな視点から深く学ぶことができました。短い期間でしたが、大変お世話になりました。
- ●地域づくり人財塾を受講して、知識の獲得や自身のモチベーションアップにつながったと強く感じます。本当にありがとうございました。長池公園のフィールドワークについて事前に案内をいただけていたらありがたかったです。

「全国地域づくり人財塾」フォローアップ研修について

資料2

全国地域づくり人財塾・東日本支部

1. 概要

人材力活性化研究会の構成員や大学講師からの講義のほか、参加者から自分の地域についてプレゼンを行い、それに対して他の参加者からフィードバックを行う形式で開催。

2. 開催状況

平成24年度の人財塾@市町村アカデミーの受講生が中心となって企画・開催。平成25年4月以降、3か月毎に開催。平日開催だが、人財塾の未受講生を含め、東京ほか近隣県の市町村職員を中心に1回あたり20名程度が参加。

【令和元年度の開催状況】

（第24回）4月14日会場：館山市
主なテーマ：選ばれるためのブランディング活動
参加者数　：19名

（第25回）7月10日会場：長池公園自然館
主なテーマ：人間里山主義読書会
参加者数　：18名

（第26回）10月4日会場：BICライブラリ（機械振興会館）
主なテーマ：フォローアップ研修のこれからを考える
参加者数　：8名

第２４回：館山市

第２５回：長池公園

第２６回：BIGライブラリ

「全国地域づくり人財塾」フォローアップ研修について

全国地域づくり人財塾 北海道フォローアップ研修

1. 開催目的

●人財塾及びフォローアップ研修において学んだことを参加者各位が地域で実践した成果等を持ち寄り、地域活動において必要な知見を深める。研修の継続的な開催により、研修の振り返りや参加者相互の情報交換を行い、研修効果の向上に寄与することを目的とする。

●地域に根差した公共施設の整備や住民と行政が一体となった管理運営、民営で公共空間を目指す公園の事例視察を通じ、共通点や差異を考え、協働のまちづくりの実践や地域において活躍する人材及びネットワークのあり方を学ぶ。

2. 開催概要

担当講師：富永一夫講師
参加人数：12名（自治体職員9名、その他3名）
修了生の数：4名
開催日　：10月13日（日）～14日（月）

3. カリキュラム

■10月13日（日）
17：00　JR永山駅集合
17：15　視察①「旭川公園ゲストハウス」視察
18：45　交流会
■10月14日（月）
09：00　視察②「パレットヒルズ」視察
09：40　ワークショップ
・前日視察の振り返り
・皆さんの地域活動内容、フィールド
・2か所の視察を経て感じた両公園の共通点、差異
・地域に必要とされる人材、活動の場とは
10：40　講師講評
11：30　終了

パレットヒルズのフィールドワーク

ワークショップ

「全国地域づくり人財塾」フォローアップ研修について

全国地域づくり人財塾 北陸フォローアップ研修

1. 開催目的

●公園の利活用の観点から、金沢市内の都市公園の現地視察を通して、指定管理やPark-PFIなど公民連携のあり方について学ぶ。

2. 開催概要

担当講師：富永一夫講師
参加人数：11名（自治体職員5名、その他6名）
修了生の数：3名
開催日　：11月3日（日）

3. カリキュラム

■11月3日（日）
10：00　近江プラザ集合
10：00　座学（講師より公民連携による公園の利活用等について講義）
11：00　視察「卯辰山公園及び周辺エリア」（ひがし茶屋街、卯辰山麓寺院群など）
14：00　ワークショップ（座学や現地視察の結果を踏まえ、テーマ別に、講師を交えて受講者で自由に意見交換）
【テーマ】
・都市公園（周辺エリアを含む）の利活用や魅力向上のアイデアについて
15：30　講師講評
16：00　終了

富永講師の講義

卯辰山公園フィールドワーク

ワークショップ

「全国地域づくり人財塾」フォローアップ研修について

全国地域づくり人財塾 中部フォローアップ研修

1. 開催目的

●人財塾後の実践状況の共有と、地域へ踏み込む第一歩を学ぶ。

●全体テーマは、「地域資源の発見から地域の可能性を考える」

2. 開催概要

担当講師：前神有里講師

参加人数：延33名（自治体職員18名、その他15名）

修了生の数：5名

開催日　：10月4日（金）～5日（土）

修了生の活動報告

エクスカーション（街探検）

ワークショップ

3. カリキュラム

■10月4日（金）

●トークセッション（参加者：自治体職員12名、その他1名）

19：00　人財塾で学んだことの振り返り
19：30　修了生の取組紹介
20：00　意見交換
21：30　閉会

■10月5日（土）

●エクスカーション（参加者：自治体職員10名）

09：30　津島市中心部のまち歩き
11：30　終了

●ワークショップ（参加者：自治体職員10名、その他15名）

13：30　集合
13：40　ワークショップ①地域資源の洗い出し
14：10　ワークショップ②こんな地域にできたらいいな
14：55　発表・共有
15：05　講師講評・事例紹介
15：50　終了

「全国地域づくり人財塾」フォローアップ研修について

全国地域づくり人財塾 西日本フォローアップ研修

1. 開催目的

●関西で地域おこし人財の発表と交流

●行政・企業・市民の連携による都市型公園の視察（パークマネジメント・Park-PFI・都市型公園の防災拠点・環境教育を学ぶ）

2. 開催概要

担当講師：富永一夫講師

参加人数：10名（自治体職員2名、その他8名）

修了生の数：4名

開催日　：9月7日（土）～8日（日）

3. カリキュラム

■9月7日（土）

13：00　万博記念公園視察
15：00　ワークショップ（関西地域おこし人財による意見交換）
17：00　千里南公園視察
18：00　交流会
19：30　終了

■9月8日（日）

10：00　大阪城公園視察
12：00　終了

万博記念公園フィールドワーク

ワークショップ（意見交換）

大阪城公園フィールドワーク

【資料 3】「全国地域づくり人財塾」事例報告者の地域づくり活動事例調査報告　略　p 40～60 と同一

【資料 4】「全国地域づくり人財塾」修了者の地域づくり活動調査報告　略　p 61～137 と同一

令和元年度の課題と令和2年度の展開について

資料5

課題

◎JIAM (2泊3日 36名受講)
◎JAMP(2泊3日 73名受講)
◆カリキュラム比率
講義4割、対話4割、報告2割
・受講者数が定員を下回っている
・能動的な活動(講師や受講者との対話、演習)が少ない
・地域活動を行う上で、多くの修了生が知識や経験の不足といった悩みを抱えている

◎自治大学校
(7日間(内人財塾4日間) 21名受講)
◆カリキュラム比率
講義4割、対話1割、演習5割
・受講生数が定員を大きく下回っている
・自治大学校から継続した実施について難色を示された
・研修期間が長く、職場の理解がないと参加しにくい

◎地方開催
(1泊2日47名受講)
◆カリキュラム比率
講義7割、対話3割
・受講生数が定員を大きく下回っている
・研修時間が少なく、受講生同士や講師との対話・交流に限りがある
・修了生の事例発表の場がない

◎フォローアップ研修
(自主開催)
・令和元年度は、北海道、東日本、北陸、東海、西日本で開催しているが、一部に継続した開催が難しい地域や未実施の地域がある

方向性

◎JIAM、JAMP
☆改善内容
①募集開始の前倒し
②「グループトーク」から「グループワーク」への変更
③地域で活動している修了生の事例発表を1コマ増加
＜開催日＞
JIAM :5月13日～15日
JAMP:9月23日～25日

◎自治大学校
自治大学校主催の研修としては廃止
☆改善内容
修了生間のネットワーク構築や修了生に発表の場を設けることに重点を置いた「地域づくり人財塾特別研修」を開催
＜開催日＞
7月10日～13日

◎地方開催
単独開催については休止し、令和3年度以降の実施方法を検討する

◎フォローアップ研修
☆改善内容
フォローアップ研修の更なる周知

令和2年度における人財塾の展開(案)

資料6

調査研究

【地方公共団体等が行う地域人材育成の取組に関する調査】

・ 地域課題の解決や活性化を目的として、地方公共団体等が実施する人材育成の取組についての調査を実施する。
・ 先進事例(10事例)に関する事例集作成　等

実践編①

全国地域づくり人財塾
【初級編】
・JIAM (5月13日～15日)
定員50名
・JAMP(9月23日～25日)
定員80名

実践編②

地域づくり人財塾特別研修
【中級編】
・自治大(7月10日～13日)
定員80名

・フォローアップ研修(自主開催)**への支援**(北海道、東日本、北陸、東海、西日本、九州)

・「全国地域づくり人財塾」事例報告者の地域づくり活動事例のHP・人財塾での紹介

【以下について今後、具体的に検討】
○ 「全国地域づくり人財塾」(@JAMP)のカリキュラム検討
○ 「全国地域づくり人財塾特別研修」(@自治大)のカリキュラム検討

令和２年度政策・実務研修「全国地域づくり人財塾」＠ＪＩＡＭ　時間割

資料7－1

（敬称略）

月日	曜日		1時限 （9：25-10：35）	2時限 （10：50-12：00）	3時限 （13：00-14：10）	4時限 （14：25-15：35）	5時限 （15：50-17：00）	（17：00～）
5/13	水			11:00-12:00 入寮受付 11:30- 昼食 12:30- 開講ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 入寮ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 12:55- 【導入講義】 人材力の活性化 について 総務省地域力創造グループ 人材力活性化・連携交流室	【事例報告】 （13:00-13:50） 元漫才師公務員が創る、 地域と公務員の新しい コミュニケーション 尼崎市こども政策課 係長　江上　昇	【事例報告】 （14:05-14:55） 「夢は2度描かれる！ありたい未来を描く地域づくりとキャリア形成」 北名古屋市市民活動推進課 課長補佐　樋口由訓	【事例報告】 （15:10-16:00） “観光6次産業化”と“地域資源への再投資”による「観光地域づくり」 特定非営利法人森のこだま 代表理事　上野　真司	【グループワーク】 （16:15-17:00） 【説明】 地方創生カレッジについて （一財）地域活性化センター 理事長　椎川　忍 （17:10-17:40） 【大教室】 18:00- 交流会
				【大教室】				【大食堂】
5/14	木	【ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ】 （9:00 -9:25）	【実践事例】 地域づくりのマネジメント－つながりをつくり創発を生む仕組みづくり－ 慶應義塾大学総合政策学部 教授　飯盛　義徳	【講師との直接対話】 １Ｒ－１	【講師との直接対話】 １Ｒ－２	【講師との直接対話】 ２Ｒ－１	【講師との直接対話】 ２Ｒ－２	【グループワーク】 （17:10～17:40）
				①　慶應義塾大学総合政策学部　教授　飯盛義徳 ②　NPO法人フュージョン長池　理事長　田所喬 一般社団法人スマート　代表理事　富永一夫 ③　一般財団法人高度映像情報センター　理事長　久保田　了司 柳谷自治公民館　館長　豊重哲郎 ④　滋賀県栗東市職員　竹山　和弘 一般財団法人地域活性化センター人材育成プロデューザー　前神有里 ⑤　株式会社御祓川　代表取締役　森山奈美 ⑥　福知山公立大学　副学長　富野　暉一郎 ※　140分（70分／コマ×２）を１ラウンドとし、２ラウンド実施				
			【大教室】	【小教室】				【大教室】
5/15	金	【ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ】 （9:00 -9:25）	【実践事例】 小さな地方公立大学からの挑戦～全国の中小都市から若者が集う地方創生人材育成の現場から 福知山公立大学 副学長　富野　暉一郎	【実践事例】 関係人口のつくり方～わたしたちは地方で幸せを見つける～ 「月刊ソトコト」編集長 指出　一正	【グループワーク発表】 （13:00～14:30） 飯盛　義徳 富永　一夫 豊重　哲郎 前神　有里	14:30-15:00 講評 ・閉講 研修アンケート記入		
			【大教室】					

資料7－2

全国地域づくり人財塾(自治大学校)

地域活性化のためには、様々な知識・経験を持った人が、その知識・経験とアイディアを活かしながら、それぞれの活動に取り組み、地域で様々な活動が展開されることが大切です。

総務省では、地域づくり活動を自らの手で企画し、実践できる人材、すなわち「地域づくり人」を育成するために「地域づくり人財塾」を開催し、これまで2,330名の修了生が地域で活躍されています。

本研修は、地域に戻り、取り組んでいる地域活動について、発表する場を設け、他の修了生とそれぞれの活動状況の共有を行うことで、修了生の地域活動におけるモチベーションの向上、地域活動を進める中で抱える課題について、講師や参加者同士の熱い議論を交わすことにより、解決するきっかけとなる場となることを目指しています。

修了生をはじめとして、これまで人財塾に参加していない方にも参加可能な内容となっています。

熱い志を持った全国からの参加者とのネットワークを築きたい方、自らの地域活動を発信したい方、事例発表から良い刺激を受けたい方、地域づくりに実績がある豪華な講師陣からのアドバイスを受けたい方、是非ご参加ください。

開催日　**2020年7月10日（金）・13日（月）**

※宿泊を希望される方は自治大学校寄宿舎を利用することができます。

開　催　日　程

7/10(金)（1日目）	11:00～	受付
	12:50～13:20	開講・オリエンテーション
	13:20～14:10	導入講義
	14:25～17:00	講義
	17:15～17:45	グループトーク
	18:00～	交流会
7/11(土) 7/12(日)	自主学習・フィールドワーク等（任意）	
7/13(月)（2日目）	9:25～15:35	事例発表
	15:40～16:40	ふりかえり・講師講評・閉講

対　象　**地域づくりに関心のある行政職員・地域おこし協力隊員**

※全課目を受講いただける方（途中参加・退席は不可）

定　員　**80名**

受講料　**無料**

（１日目の交流会参加費が別途必要です。（3,500円）
自治大学校寄宿舎の利用にかかる費用の負担が必要です。（3泊4日8,700円）
研修期間中の食事については、各自ご用意ください。）

会　場　**総務省自治大学校（東京都立川市緑町10－1）**

【アクセス】
JR東京駅から中央線快速で立川駅まで約55分
多摩モノレール立川北駅から高松駅下車　徒歩約6分

お問い合わせ先

【主催】総務省 地域力創造グループ 人材力活性化・連携交流室
担当：○○、○○　Tel.03-5253-5392
申込書にご記入の上　E-mail：jinzai.renkei@soumu.go.jp までお送りください。

プログラム詳細　※プログラムについては現在の予定であり、変更の可能性があります。

■7月10日（金）

11:00-　　受付・昼食

12:50-13:20 【開講・オリエンテーション】

13:20-14:10 【導入講義】

14:25-15:35 【講義】

『タイトル』　　○○ 氏

15:50-17:00 【講義】

『タイトル』　　○○ 氏

17:15-17:45 【グループトーク】本日の研修のふりかえり

18:00-19:30 【交流会】　講師や参加者間の交流を深める交流会を開催します（会費制）

■7月11日（土）～12日（日）

自主学習（フィールドワーク等）

■7月13日（月）

9:00- 9:15　事例発表の進め方について

9:25-10:35 【事例発表1】

受講者からの事例発表と受講者の意見交換を以下のテーマに分かれて行います。
（テーマ１）地域経営、協働、地場産品発掘・ブランド化、起業、産業振興
（テーマ２）移住・定住推進、まちなか再生、集落再生
（テーマ３）少子高齢化、育児支援、児童福祉、高齢者福祉、生活支援
（テーマ４）社会教育、生涯学習、環境保全、安心・安全なまちづくり

10:50-12:00 【事例発表2】

12:00-13:00 【昼食・休憩】

13:00-14:10 【事例発表3】 午前に引き続き、受講者からの事例発表と受講者の意見交換を行います。
14:25-15:35 【事例発表4】

15:40-16:40 【振り返り・講師講評・閉講】

講　師　紹　介

※R2年〇月〇〇日現在の役職

■　講師１

■　講師２

■　講師３

■　講師４

■　講師５

■　講師６

事例発表について

事例発表については、受講生が現在行っている地域活動について発表する場であるとともに、他の受講生が行っている地域活動を聞くことで、自らの地域活動について振り返りを行う時間です。

この時間では、各テーマに分かれて発表（20分程度）を行い、その発表内容について受講生同士での意見交換（10分程度）や講師からの講評をいただきます。

発表にあたっては、地域の紹介やこれまで実践してきた地域活動についての成果や課題について、パワーポイント資料（10枚以内）を当日準備していただき、発表を行っていただきます。

全国地域づくり人財塾特別研修　受講申込書

下記の申込書にご記入の上　E-mail：jinzai.renkei@soumu.go.jp　までお送りください。

受講申込書（申込期限：令和２年６月２６日（金）１７：００まで）

お名前 （ふりがな）	
E-mail	
電話番号	
ご所属	（所属・団体名）
	（部署・役職名）
宿泊の希望 （3泊4日 8,700円）	希望する　・　希望しない

事例発表参加希望

事例発表 希望の有無	希望する　・　希望しない			
「希望する」を選択された方については、以下にご記入願います。				
取組分野について該当するテーマを1つ選択ください。		【テーマ1】 地域経営、協働、地場産品発掘・ブランド化、起業、産業振興		【テーマ2】 移住・定住推進、まちなか再生、集落再生
		【テーマ3】 少子高齢化、育児支援、児童福祉、高齢者福祉、生活支援		【テーマ4】 社会教育、生涯学習、環境保全、安心・安全なまちづくり
事例発表タイトル				
事例発表要旨 （100字程度）				

令和２年度「全国地域づくり人財塾」＠ＪＡＭＰ カリキュラム（案）

資料7－3

月日	曜日		1時限 （9：25-10：35）	2時限 （10：50-12：00）	3時限 （13：00-14：10）	4時限 （14：25-15：35）	5時限 （15：50-17：00）	課外 （17：00～）
9/23	水			11:00-12:00 入寮受付 11:30- 昼食 12:30- 開講ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 入寮ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 12:45-【導入講義】 総務省自治行政局 人材力活性化・連携交流室	【実践事例１】 講師	【事例報告１】 修了生	【事例報告２】 修了生	【グループワーク】 （17:00-17:30） 【情報・意見交換会】 （18:15～）
9/24	木	【ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ】 （9:00-9:25）	【実践事例２】 講師	【実践事例３】 講師	【講師との直接対話】 【１Ｒ】 ※実践事例講師を含め６～７名	【講師との直接対話】	【講師との直接対話】 【２Ｒ】	【講師との直接対話】 （17:15～18:25） 【グループワーク】 （18:30～19:00）
9/25	金	【ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ】 （9:00-9:25）	【実践事例４】 外部講師	【実践事例５】 外部講師	【グループワーク発表】	14:30～15:00 閉講式 総務省自治行政局 人材力活性化・連携交流室		

資料８

人材力活性化研究会の休止について

人材力活性化研究会（以下「人材研」という。）は、地域活性化の基本的な要素である人材力の強化を図るため、平成 22 年６月に発足しました。人材研では、これまでに「人材力活性化プログラム」、「地域づくり活動のリーダー育成のためのカリキュラム」、「地域づくり人育成ハンドブック」を作成しており、これらは、人材力の強化・活性化に取り組む多くの団体や地方公共団体職員の指針として活用されてきました。

また、人材研構成員が中心的講師陣となって開催されている「全国地域づくり人財塾」では、本年度末で全国に 2,330 名の修了生を輩出し、地域づくり人材の拡大に寄与しています。

現在、少子高齢化や人口減少への対応、地域の特性を活かした地方創生の実践など、地域を取り巻く課題が一層大きくかつ多岐にわたるものとなっており、地域で活躍する人材をいかに育成・確保していくかを研究し、新たな施策の展開を検討していくことも重要となっています。

次年度以降においては「全国地域づくり人財塾」を引き続き開催する一方、人材研発足から 10 年が経過するのを機に、人材研を休止し、地域で活動する人材の育成・確保に係る課題の整理、効果的な育成手法やカリキュラム、行政や地域ＮＰＯ等の役割などについて、調査・研究することとしております。

資料９

令和元年度「人材力活性化に関する調査研究事業」報告書骨子（案）

序章　調査の目的
　１．調査の目的
　２．調査研究事業

第Ⅰ章　全国地域づくり人財塾
　１．全国地域づくり人財塾とは
　２．本年度の実施状況
　３．全国地域づくり人財塾フォローアップ研修

第Ⅱ章　全国地域づくり人財修了生地域づくり活動調査
　１．全国地域づくり人財塾修了生地域づくり活動調査
　２．全国地域づくり人財塾事例報告者の地域づくり活動事例調査報告

第Ⅲ章　人材力活性化研究会
　１．人材力活性化研究会について
　２．第２４回研究会

第Ⅳ章　本年度の調査研究事業の成果と今後の方向性
　１．本年度の調査研究事業の成果と課題
　２．次年度の展開と今後の方向性

参考資料
　参考資料１　全国地域づくり人財塾　受講者アンケート等
　　1-1. 全国市町村国際文化研修所（JIAM）
　　1-2. 地方開催（in 金沢）
　　1-3. 市町村職員中央研修所（JAMP）
　　1-4. 自治大学校
　参考資料２　全国地域づくり人財塾フォローアップ研修
　　1-1.これまで開催されたフォローアップ研修の活動概要
　　1-2.北海道フォローアップ研修しおり
　　1-3.北陸フォローアップ研修リーフレット
　　1-4.中部フォローアップ研修リーフレット
　　1-5.西日本フォローアップ研修リーフレット
　参考資料３　全国地域づくり人財塾修了生地域づくり活動調査
　　1.　全国地域づくり人財塾修了生地域づくり活動調査アンケート票
　参考資料４　人材力活性化研究会資料
　　1.　第 24 回人材力活性化研究会

全国地域づくり人財塾開催状況

（参考1）

研修名	会場	開催日	修了者数
平成23年度 地域づくり人育成講座	自治大学校	H23.8.8～9	143名
	全国市町村国際文化研修所	H23.12.13～15	56名
	市町村職員中央研修所	H24.3.12～14	125名
平成24年度 地域づくり人育成講座	自治大学校	H24.7.26～27	135名
	全国市町村国際文化研修所	H25.1.9～11	72名
	市町村職員中央研修所	H25.3.11～13	81名
平成25年度 全国地域づくり人財塾	自治大学校	H25.8.1～2	126名
	全国市町村国際文化研修所	H25.9.25～27	51名
	市町村職員中央研修所	H25.10.30～11.1	91名
平成26年度 全国地域づくり人財塾	全国市町村国際文化研修所	H26.6.18～20	55名
	自治大学校	H26.7.24～25	105名
	市町村職員中央研修所	H26.10.29～31	81名
平成27年度 全国地域づくり人財塾	全国市町村国際文化研修所	H27.5.12～14	45名
	自治大学校	H27.6.4～5	112名
	市町村職員中央研修所	H27.10.28～30	86名
平成28年度 全国地域づくり人財塾	全国市町村国際文化研修所	H28.5.11～13	36名
	自治大学校	H28.6.2～3	108名
	地方開催(仙台)	H28.8.1～2	70名
	市町村職員中央研修所	H27.10.26～28	94名
平成29年度 全国地域づくり人財塾	全国市町村国際文化研修所	H29.5.10～12	54名
	自治大学校	H29.6.1～2	97名
	地方開催(福岡)	H29.9.21～22	63名
	市町村職員中央研修所	H29.10.25～27	56名
平成30年度 全国地域づくり人財塾	全国市町村国際文化研修所	H30.5.9～11	43名
	地方開催（札幌）	H30.7.19～20	59名
	市町村職員中央研修所	H30.9.19～21	82名
	自治大学校	H30.10.17～19	32名
令和元年度 全国地域づくり人財塾	全国市町村国際文化研修所	R1.5.8～10	36名
	地方開催(金沢)	R1.7.18～19	47名
	市町村職員中央研修所	R1.9.18～20	68名
	自治大学校	R2.1.14～22	21名

計 2，330名
（※欠席者等除く）

令和元年度「全国地域づくり人財塾」＠ＪＡＭＰのカリキュラム

参考2

（敬称略）

月日	曜日		1時限 （9：25-10：35）	2時限 （10：50-12：00）	3時限 （13：00-14：10）	4時限 （14：25-15：35）	5時限 （15：50-17：00）	課外 （17：00～）
9/18	水			11:00-12:00 入寮受付 11:30- 昼食 12:30- 開講オリエンテーション 入寮オリエンテーション 12:40-55【開講あいさつ】 総務省地域力創造グループ 人材力活性化・連携交流室	【講義】 人が幸せに生きる公園づくり 一般社団法人スマート代表理事 NPOフュージョン長池創業者 富永　一夫	全国地域づくり人財塾 既受講者（2名）からの報告 1時限目及び2時限目、報告者1名ずつ 報告約40分，ｸﾞﾙｰﾌﾟﾄｰｸ約10分，質疑約20分 小平市文化振興財団 事業課長 神山伸一	山武市成東図書館 主査 豊山　希巳江	【グループトーク】 （17:00-17:30） 【説明】 「地方創生カレッジ」 について （17:30-17:45） (一財)地域活性化センター 【情報・意見交換会】 （18:15～）
9/19	木	【ｸﾞﾙｰﾌﾟﾄｰｸ】 （8:45 -9:25）	【講義】 地域再生～行政に頼らない感動の地域づくり～ 柳谷自治公民館長 豊重　哲郎	【講義】 地域づくりのマネジメント－つながりをつくり創発を生む仕組みづくり－ 慶應義塾大学総合政策学部 教授（学部長補佐） 飯盛　義徳	【講師との直接対話】 【１Ｒ】 ①　慶應義塾大学総合政策学部　教授（学部長補佐）　飯盛義徳 ②　NPOﾌｭｰｼﾞｮﾝ長池　会長　富永一夫 ③　柳谷自治公民館　館長　豊重哲郎 ④　赤羽消防団　副団長　消防大学校　客員教授　小澤　浩子 ⑤　株式会社紡　代表取締役　玉沖仁美 ⑥　公益財団法人　小平市文化振興財団事業課長　神山伸一	【講師との直接対話】	【講師との直接対話】 【２Ｒ】	【講師との直接対話】 （17:15～18:25） 【グループトーク】 （18:35～19:00）
9/20	金	【ｸﾞﾙｰﾌﾟﾄｰｸ】 （8:45 -9:25）	【講義】 地域力の創生と人材力の活性化について 総務省地域力創造グループ 人材力活性化・連携交流室長 畑山　栄介	【講義】 人口減少時代における、公民連携都市再生戦略のつくりかた 株式会社ワークヴィジョンズ 代表取締役 西村　浩	【成果発表と振り返り】 飯盛　義徳 富永　一夫 豊重　哲郎 西村　浩	14:10～14:20 閉講あいさつ 総務省地域力創造グループ 人材力活性化・連携交流室長 畑山　栄介		

令和元年度　人材力活性化に関する調査研究事業　報告書
令和 2 年 3 月

総務省　地域力創造グループ　地域自立応援課　人材力活性化・連携交流室
〒100-8926　東京都千代田区霞が関 2－1－2
電話 03-5253-5111（代）

（事業請負）株式会社価値総合研究所
〒100-0004　東京都千代田区大手町 1-9-2
電話：03-5205-7901　FAX：03-5205-7922